平成21年度文部科学省大学改革推進事業採択　看護師の人材養成システムの確立

平成26年度

看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト
報　告　書

平成27年3月

九州大学病院看護部

看護実践力ブロッサム開花プロジェクトの継続にあたって

平成21年度文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」が始まり、当院の「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト」が採択されてから5年間、保健学科看護学専攻と一緒に多くの事業を進めてきました。本プロジェクトは、病院看護部と保健学科看護学専攻が協働し、他部門との組織横断的な連携・協力を深め、教育プログラムや教育体制を開発・整備することで、看護学生から看護職員の看護実践力の質の持続的向上を図り、医療を支える看護職のキャリアパスを支援することを目的に取り組んだものです。

今、事業期間の5年が経ち、プロジェクトの事業が計画的に確実に実行され、多くの成果がみられるようになりました。実習指導者が主体的に作成した実習指導要項の開発とその活用や臨床看護研究の取り組みを通し、看護部と保健学科看護学専攻の連携がさらに強固になり、相互に補完し合った看護学生からの人材育成が意図的に構築されつつあることを実感しています。

また、ＩＶナースのプログラムやシミュレーション・トレーニング、e-ラーニングの教材開発、医療機器操作強化プログラム、それらの地域公開など本院の看護職員だけでなく、地域の看護職員に貢献できるよう意識して活動を拡大してきました。こういった教育プログラムの開発やキャリアパスの構築を基盤に、確実な実践力をもって自律的に学び続ける人材の育成は大学病院の大事な役割の一つと考えています。このプロジェクトのおかげで、地域の看護職員にも開かれた人材育成のためのさまざまなプログラムや支援がシステム的に整備され継続して活用できるようになったこともこの5年間の大きな成果で大変嬉しく思っています。このように、多くの成果が得られたのも、本事業に対し、病院他部門・大学さらに地域の方々のご理解とご支援の賜物と改めて心より御礼申し上げます。

プロジェクトの事業を通し、実践の内容や成果を可視化することで改めて自分たちの持つ力を認識し、次の自発的な取り組みに組織的に繋げていく看護職員の姿を見るにつけ、自分たちで考えて行動できる人がさらに育ってきたことを実感しています。学びをアカディミックに深めていく職員も多く見られるようになり、育っていく職員の姿は何よりの成果と思っています。

文部科学省の事業は25年度で終了しましたが、26年度からは病院独自の事業として看護部の新たな体制のもと、「看護実践力ブロッサム開花**継続**プロジェクト」として、今後も事業を継続してまいります。そのため、今年度より看護師長・副看護師長を主体にした新たなワーキンググループを設置し、保健学科とさらに連携を深め、ともに看護職員の人材育成、キャリア構築支援を図っていくための活動を進めてまいりました。特に、ＩＶナースの更新制度や実習指導及び看護研究の指導者育成に今年度は成果があったと思っています。継続した本プロジェクトの内容は、今まで同様情報発信してまいりますので、病院内外を問わず多くの皆さまにご活用いただき、さらにご支援をいただきますよう、今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月

九州大学病院
副病院長 看護部長　中畑　高子

平成 26 年度看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト

目　　次

Ⅰ　プロジェクト概要

1．看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト概要 ・・・・・・・・・・・・ 1

2．平成 26 年度継続プロジェクト概要

1）プロジェクト実施体制の変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2）取組み事業の再編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

3．平成２６年度取組みの概要

Ⅱ　各 WG 取組み

1．Ⅳ ナース育成 WG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

2．医療機器操作強化 WG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

3．新人看護職員育成 WG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

4．実習指導者育成 WG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

5．教育研究推進 WG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119

Ⅲ　学習支援

1．シミュレーション・トレーニング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131

2．ｅラーニング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136

Ⅳ　キャリア支援

キャリアステーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145

Ⅴ　広報活動

1．学会等での発表実績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149

2．「看護師の人材養成システムの確立」採択校との情報交換・交流 ・・・・・ 149

3．雑誌等への論文掲載・取組み紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149

4．平成２６年度看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト報告会開催・・・ 150

Ⅰ　プロジェクト概要

Ⅰ　プロジェクト概要

1．看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト概要

本「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」は、平成 21 年度文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」に採択された「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト」が平成 25 年度で終了した後、九州大学病院看護部として継続して「看護師の人材養成システム」を構築していくために立ち上げた自律的なプロジェクトである。

文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」概要

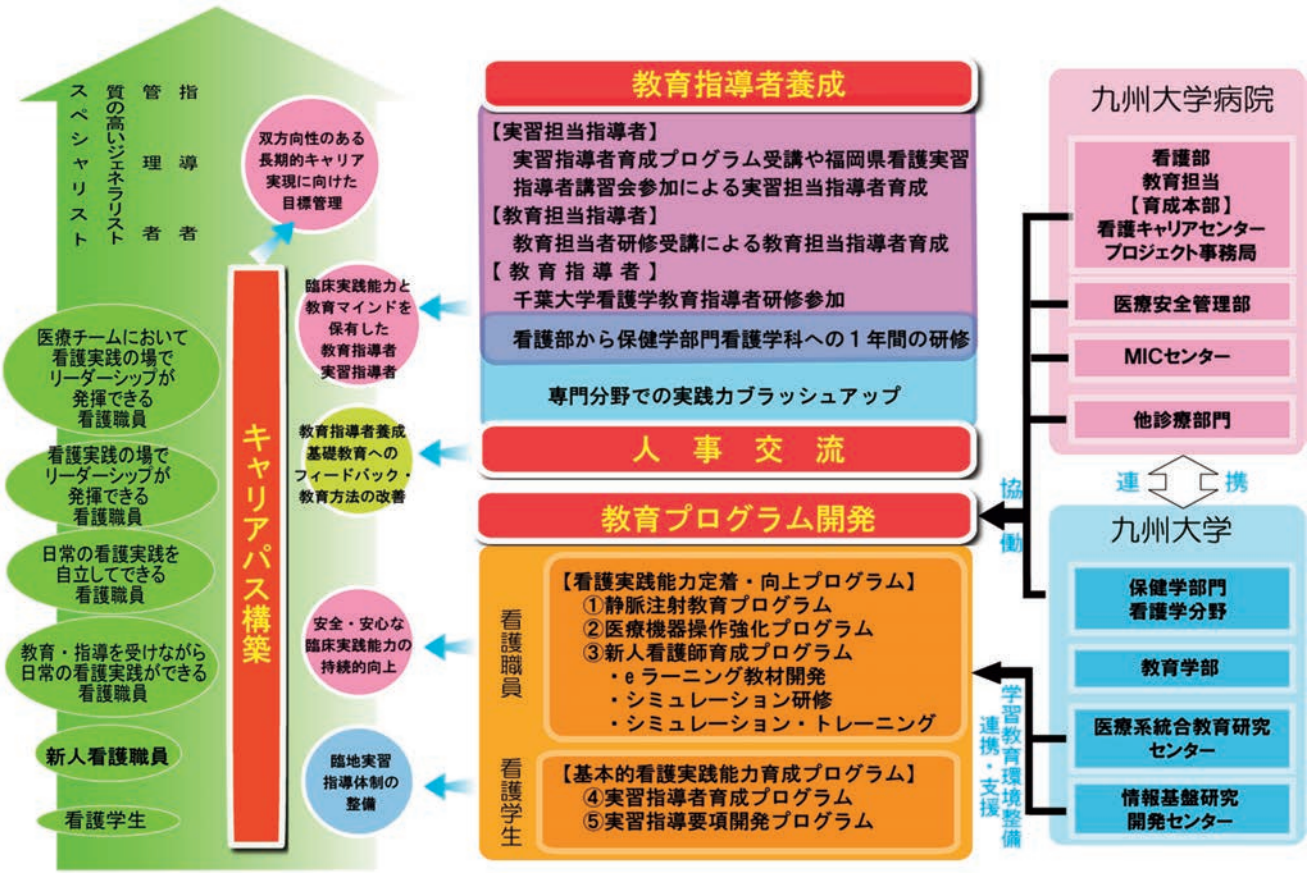
近年、我が国の医療現場においては、高度先進医療の拡大や様々な医療技術の高度化が進むとともに、在院日数の低下や、医師の過重労働などの問題に対応するための役割分担推進等が求められており、看護職の役割や能力向上に対する期待が高まっています。

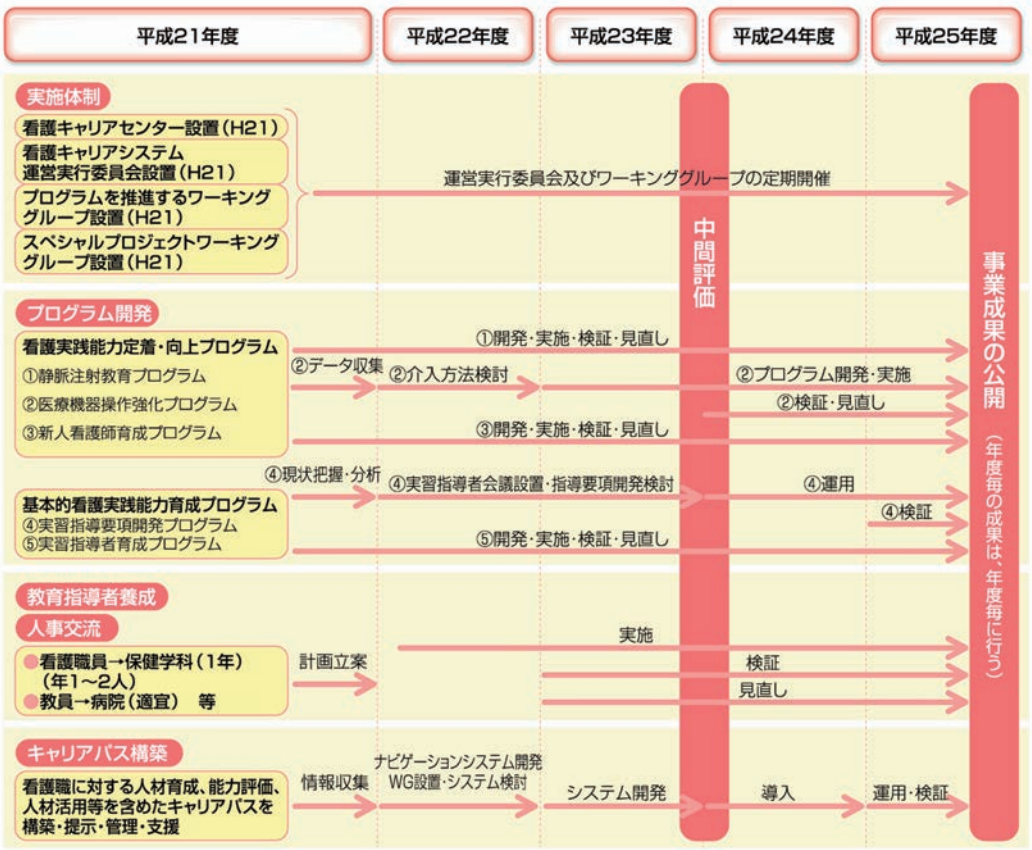
教育研究機関である大学病院においては、体系立てられた看護職の教育体制を構築することにより、看護職に対する臨床研修及び養成課程における基礎教育の質の向上を図ると同時に、高度医療に対応できる看護職の養成を効果的に行うことが期待されています。

「看護師の人材養成システムの確立」は、大学病院と自大学看護学部等が連携して臨床研修体制・方法を、学問的検討を加えながら開発することにより、看護職の効率的・継続的な専門能力の習得と向上が図られること、また生涯を通じて看護職が活躍し続けられるキャリアパスを明示すること等により、国民に対する安心・安全な医療提供体制の構築に資することを目的としています。

平成 24 年 3 月 5 日　文部科学省「『看護師の人材養成システムの確立』の中間評価結果について　報道発表」より抜粋

九州大学病院看護部「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト」





【看護実践力ブロッサム開花プロジェクト取組み事業と成果・効果】

看護実践力ブロッサム開花プロジェクト

1．教育プログラム開発

・看護職の効果的・継続的な看護実践能力の持続的質向上を図る**看護実践能力定着・向上プログラム**
・臨地実習における看護実践能力の質向上を図る**基本的看護実践能力育成プログラム**

2．教育指導者養成　3．人事交流

・看護部と保健学科の連携体制のもと、研修や人事交流で教育原理や教育技法を実践的に学び、臨床における看護学生の実習指導や看護職員の教育指導を効果的に実施する指導者を養成する。

4．キャリアパス構築

・看護職員が自らの「目標とする看護職像」を志向し、目標実現に向けて自発的に学び、その履歴を管理するナビゲーションシステムを提供し、キャリアパス構築を支援する。
・生涯を通じて看護職が活躍できるキャリアパスを明示する。
・ナビゲーションシステムを活用し、組織と個人が双方向の情報共有を行うことで、個人のキャリア構築を組織的に支援する。
・育児休業中の看護職員に対する復帰支援サポート体制を整備、提供する。

人材養成システム構築

取組みによる成果：チーム医療の一端を担う高度な技術・知識を持つ看護職員を養成
取組みによる効果：社会の期待に対応した安心・安全な質の高い看護・医療の提供

５か年の文部科学省大学改革推進事業として、プロジェクト予算を獲得したことにより、九州大学病院看護部は、従前からの体制と共同・連携を取りながら新たにプロジェクト要員を配置し、体系立てた看護職員の教育プログラムの開発やＰＤＣＡサイクルに則ったプログラムの効果測定・改革を進め、効果的プログラムの体系化を推進してきた。

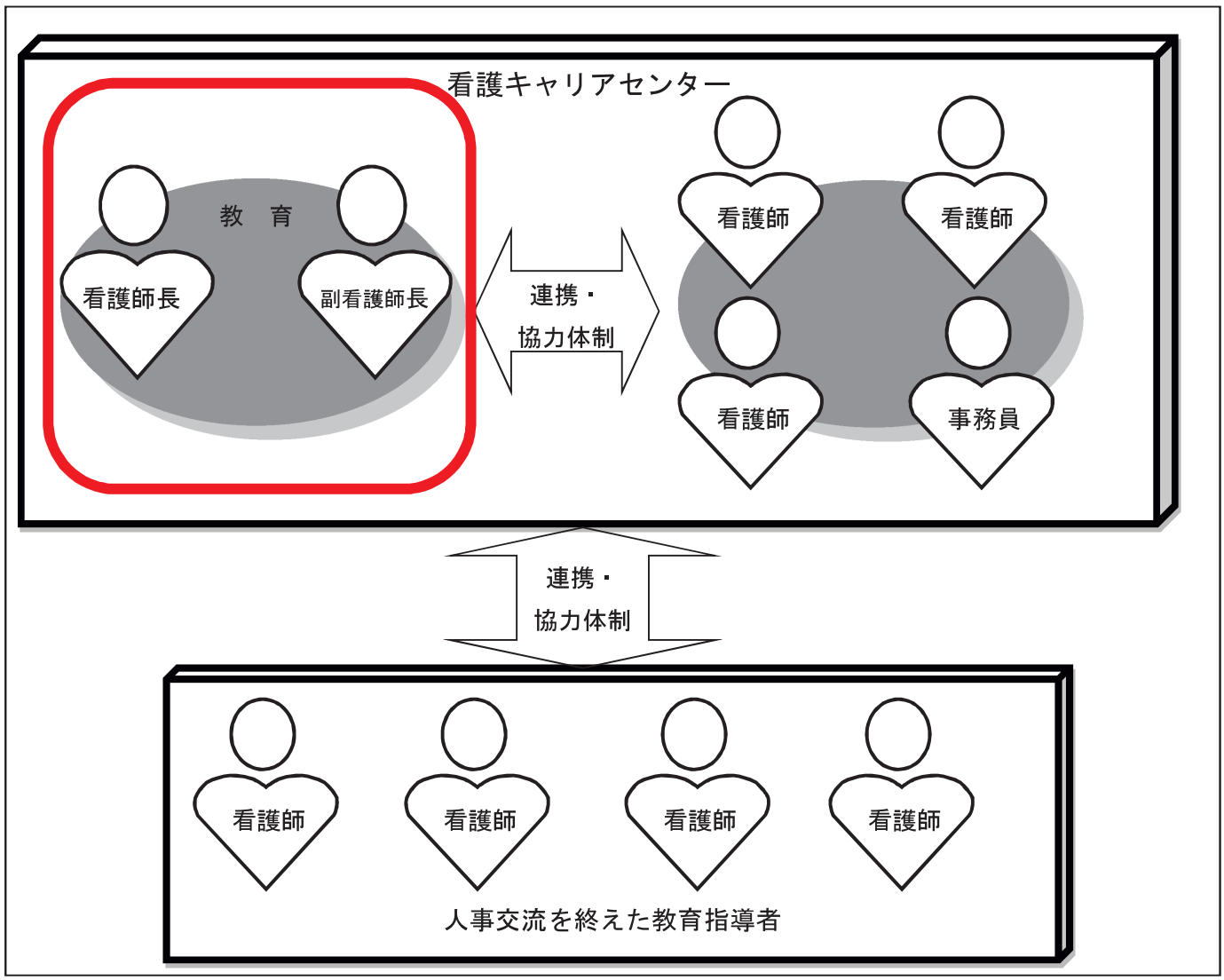
事業期間が終了した平成 26 年度からの最大の課題は、５か年に亘りサポートされてきた財源的・人的支援体制を補助金に頼らず、いかに継続させていくかであった。

そのため、「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」では、平成 25 年度の成果をまとめることと同時進行で、プロジェクト継続に向けて必要な事項を精選し、効果的プログラムの継続的実施とそれに伴う財源確保を大学病院執行部に交渉し、九州大学病院看護部として、自律してプロジェクトを継続できるよう支援体制を確立させた。

２．平成 26 年度継続プロジェクト概要

１）プロジェクト実施体制の変更

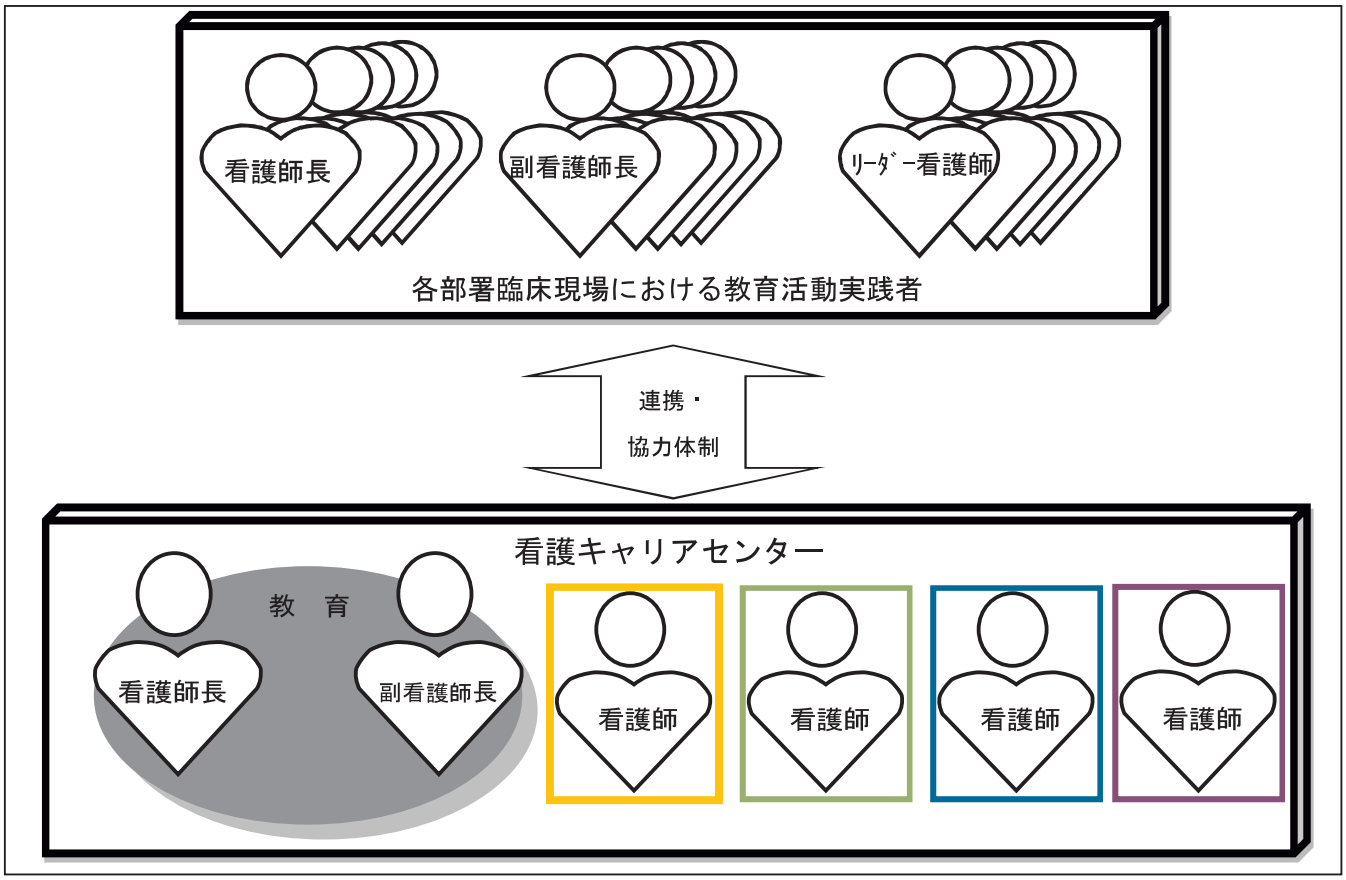
【平成 25 年度までの実施体制】



平成 25 年度までのプロジェクトでは、九州大学病院看護部専従の教育看護師長、副看護師長と事業として立ち上げたプロジェクト事務局で採用されたスタッフ（３名の看護師及び事務員）と保健学科への人事交流を終えた教育指導者（人事交流後は、部署等に配属され、看護実践者としての役割と教育指導者役割を兼任）が連携・協力し、各プログラムやＷＧを管理していた。（上記赤枠内以外は、プロジェクト予算で雇用された期限付き職員や、兼任業務であった。）

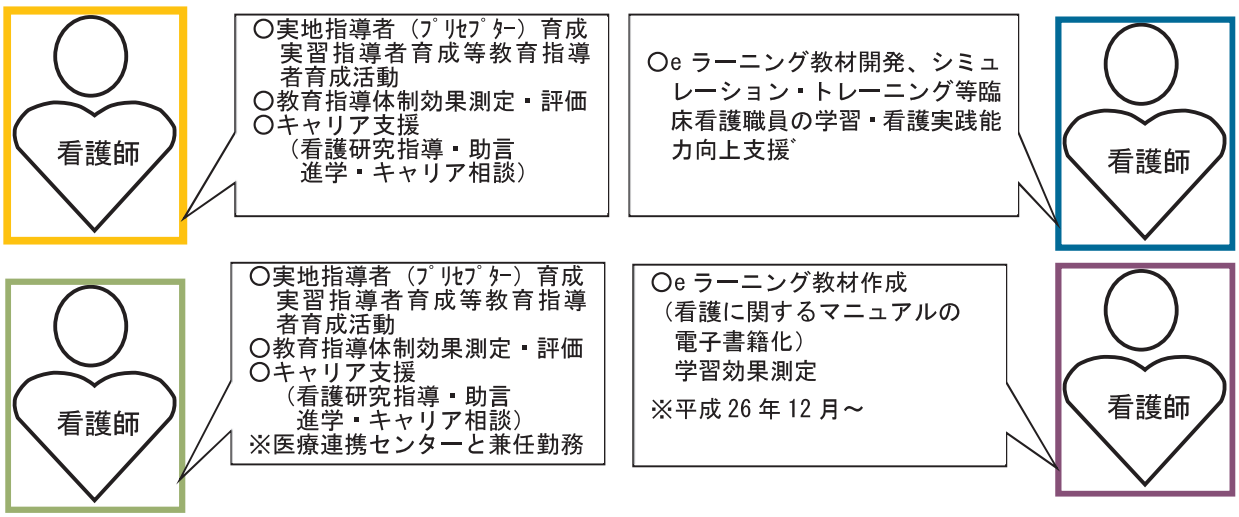
平成 26 年度からは、従前の教育看護師長・副看護師長に加え、プロジェクトを自律して継続するため、プロジェクト事務局として雇用されていた人材の役割を後継する看護職員４名を正式に配置した。

【平成 26 年度新実施体制】



継続プロジェクト内の各プログラムＷＧは、各部署の教育指導を実践している看護師長・副看護師長・リーダー役割を担う看護職員、これまでに育成された教育指導者や教育担当指導者、実習担当指導者等の教育活動実践者を中心に編成し、各プログラムの企画・運営・実施を行う。また、看護キャリアセンタースタッフが各ＷＧに所属し、部署の教育活動実践者との連携・教育を行いながらプロジェクトを推進させることにより、育成された教育指導者や臨床現場での教育活動実践者の教育マインドを組織的にも持続して育成していけるように考慮した。

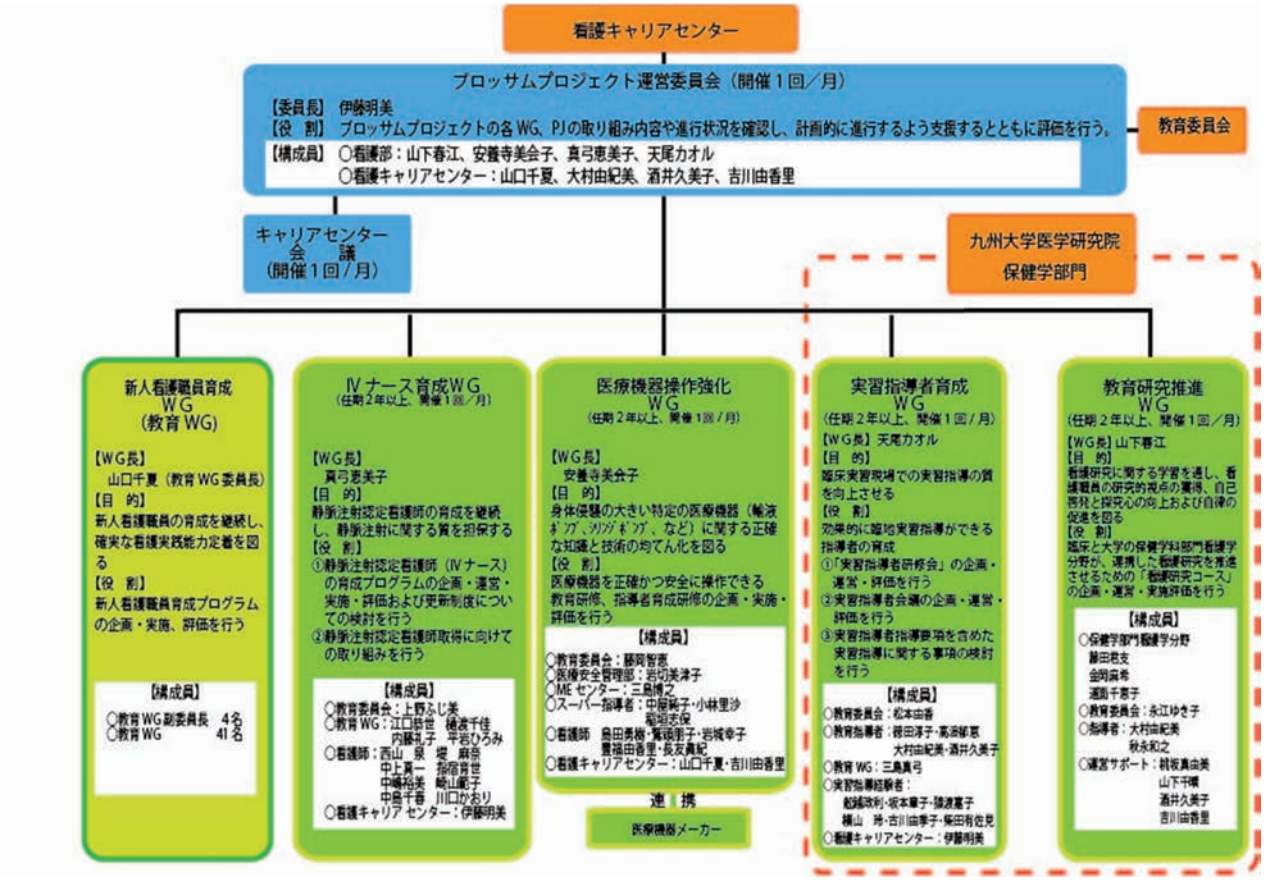
看護キャリアセンターの後継４名の看護職員には各々以下役割を中心的に担ってもらうこととした。



２）取組み事業の再編

平成 21 年度～25 年度まで「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト」では、【教育プログラム開発】【教育指導者養成】【人事交流】【キャリアパス構築】の 4 本柱で事業に取り組み、効果的な人材養成システムとして事業を推進させた。

平成 26 年度からの「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」では、5 か年間で構築した人材養成システムを持続的に継続できるよう、４本柱の取組みの継続可能な体制を再検討した。その結果、5 か年の取り組みプログラムを再編し、再分類・集約した上で、プログラム毎にワーキンググループ（以下 WG とする）を立ちあげ、取組みを推進させることとした。以下に平成 26 年度からの取組み実施体制図を示す。



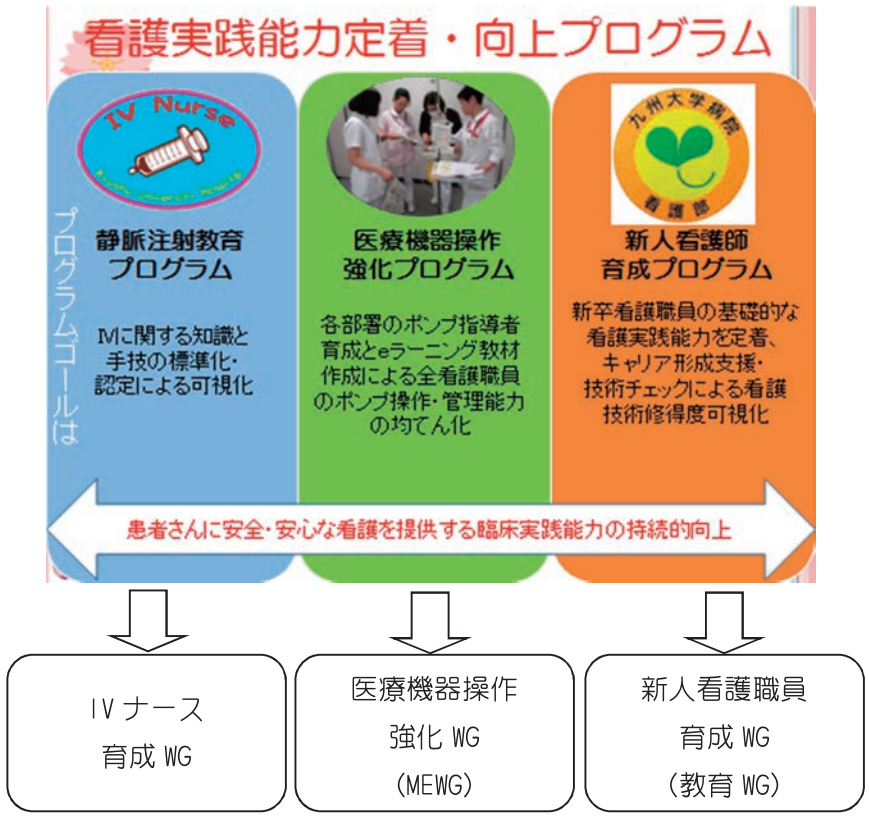
「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」は看護キャリアセンターを中核組織として位置付け、月１回開催されるブロッサムプロジェクト運営委員会で、各 WG の取組みの進捗状況を確認し、進行支援、評価を行う。また、本プロジェクトの取組みが看護部教育活動と連携するよう、委員会での確認事項や評価を看護部教育委員会と情報共有する。

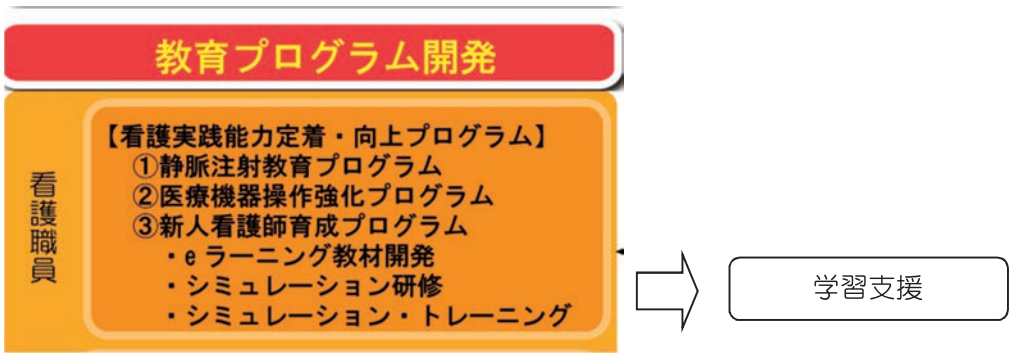
看護学生から臨床看護職員まで連続性のある臨床研修体制・方法を学術的検討を加えながら開発してきた「基本的看護実践能力育成プログラム」や「教育指導者養成」の取組みは「実習指導要項作成 WG」「教育研究推進 WG」に再編し、九州大学医学研究院保健学部門と連携して取組みを持続させる。

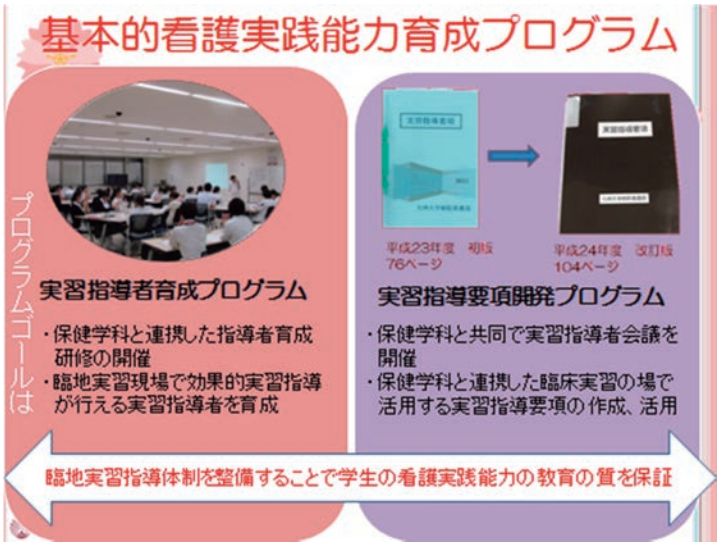
３．平成２６年度取組みの概要

平成 21 年度～25 年度まで「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト」では、【教育プログラム開発】【教育指導者養成】【人事交流】【キャリアパス構築】の４本柱で事業に取り組み、効果的な人材養成システムとして事業を推進させた。平成 26 年度からの「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」では、５か年間で構築した人材養成システムを持続的に継続できるよう、４本柱の取組みを継続プログラムとして分類・集約し、各プログラム毎にワーキンググループ（以下 WG とする）を立ちあげた。各 WG は、育成された教育指導者や各プログラムに関連性の高い部署の看護職員に中核メンバーを担ってもらい、育成された教育指導者の教育に関する看護実践能力を研鑽させ、各指導者としての資質の向上を図るとともに、九州大学病院看護部として組織としての教育実践能力の強化を図る。

平成２５年度までの各プログラムは、下記のように担当する WG で管理するよう変更している。

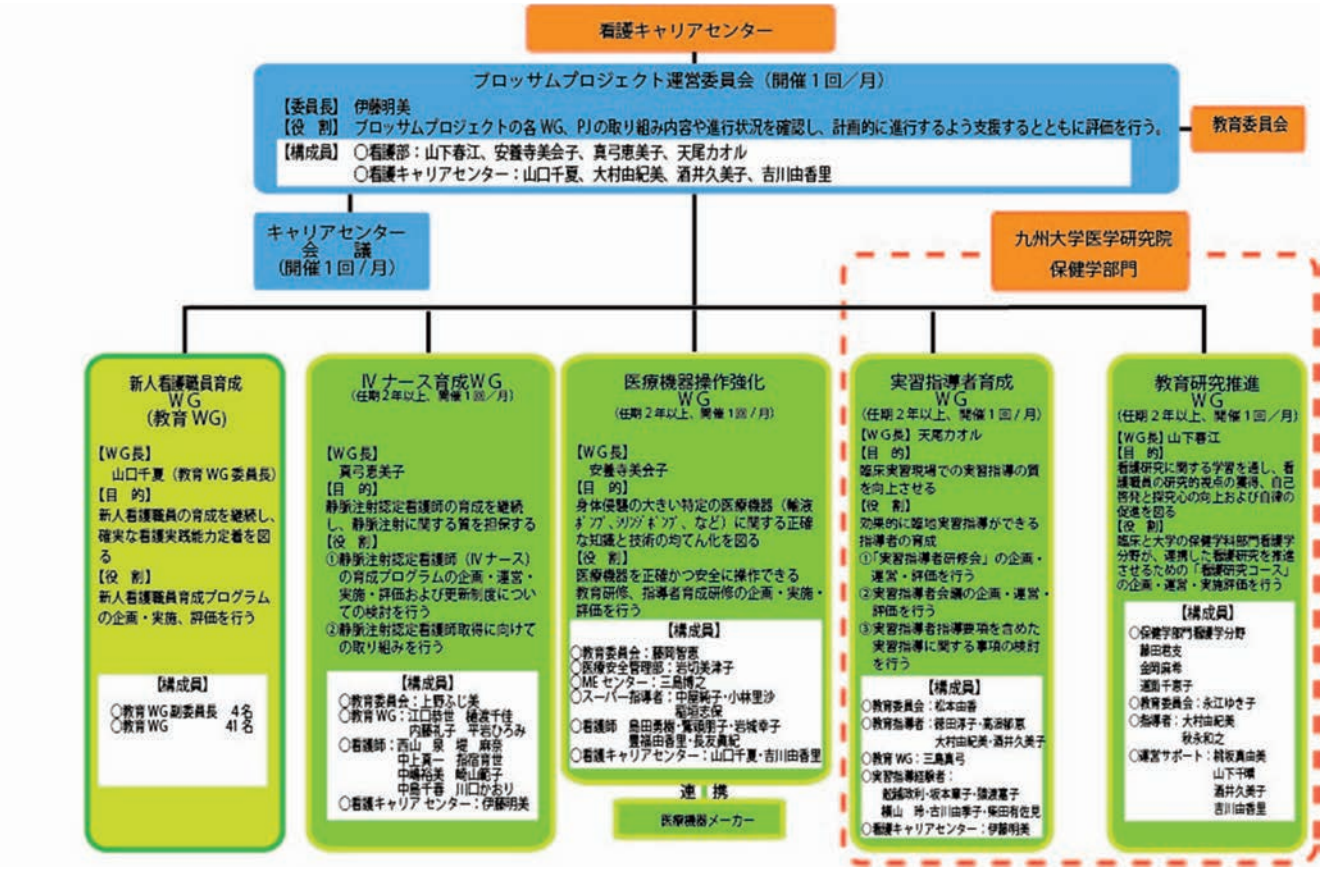






実習指導者育成 WG

２５年度まで６つの WG から構成されていた取組みを２６年度からは５つの WG に集約した。



次ページには、各 WG の年間取組みスケジュールを示す。

平成 26 年度「取組み計画とタイムスケジュール」

担当・具体的内容		時期 / 実施状況	平成26年度 4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
看護キャリアセンター	プロッサムプロジェクト運営委員会	定期開催（1回／月）							月1回定期開催																											
	キャリアセンター会議	定期開催(1回／月)							月1回定期開催																											
	IVナース育成WG	看護実践能力定着・向上プログラム																																		
		静脈注射教育プログラム（【IVナース】育成プログラム）	・IVナース育成プログラム継続実施				プログラム開催準備					第17回講義・実技演習・筆記試験・実技試験							プログラム参加者アンケート集計・分析 プログラム評価調査実施・集計・分析										プログラム開催準備			第18回講義・実技演習・筆記試験・実技試験		
		静脈注射教育プログラム（更新制度確立）	・・IVナース更新制度確立、実施				更新制度検討、準備														IVナース更新試験用eラーニング準備			第1回IVナース認定更新試験実施 更新申請受付						更新制度評価調					
		静脈注射教育プログラム（学習環境整備）	・バーチャルIVや腕モデルを活用した静脈注射トレーニング(継続) ・eラーニング教材精度向上												WebCT 公開			利用実績分析			筆記試験問題・模擬試験問題精度分析												WebCT 公開		利用実績分析
		静脈注射教育プログラム（地域医療従事者への公開）	・IVナース育成プログラム（講義・実技演習）公開 ・eラーニング教材提供																																	
			プログラムインフォメーション準備 プログラム公開参加申込受付 eラーニング提供環境整備（HP改修など）												プログラム提供 eラーニング教材提供準備			参加実績分析															次年度プログラム提供準備		
	医療機器操作強化WG（MEWG）	医療機器操作強化プログラム	・医療機器操作強化WG開催（1回／月） ・指導者育成 ・eラーニング教材開発・充実 ・インシデントレポート分析				●看護実践研修2					●第3期（25年度）各部署輸液・シリンジポンプ指導者フォローアップ研修			●第4期（26年度）スーパー指導者育成研修（テルモメディカルプラネックス主催）																●第4期（26年度）スーパー指導者育成研修（テルモメディカルプラネックス主催）		
																													●1/21 者育成研修			第4期（26年度）各部署輸液・シリンジポンプ 指導		
															看護手順基礎編改訂・チェックリスト作成																				
			インシデントレポート分析、月1回医療機器操作強化WG開催、eラーニング教材の開発																																	
	新人看護職員育成WG（教育WG）	新人看護師育成プログラム（研修会実施）	・フォローアップ研修（年4回） ・看護実践研修（年6回） ・フィジカルアセスメント(年3回) ・医療安全（年1回） ・急変時の看護	●新採用者合同研修 ●看護部新採用者入職時研修 ●看護実践研修1			●1か月フォローアップ研修 ●看護実践研修2			●医療安全1 ●看護実践研修3		●3か月フォローアップ研修 ●フィジカルアセスメント2 ●がん看護Ⅱ			●看護実践研修4			●看護実践研修5		●フィジカルアセスメント4			●6か月フォローアップ研修・看護技術習得度チェック			●看護実践研修6			●事例検討Ⅰ ●フィジカルアセスメント3			●急変時の看護			●12か月フォローアップ研修 ●IV演習	
		新人看護師育成プログラム（シミュレーション研修実施）	・【多重課題・時間切迫】				シナリオ作成・研修準備												●シミュレーション研修						研修評価（1,3か月後）・次年度の研修計画検討											
		新人看護師育成プログラム（eラーニング教材作成）	・教材コンテンツの電子書籍化				担当を決め分担して作成																													
		教育指導者養成	・院内教育担当者研修実施（右記開催回数表記）							●第1回		●第2回									●第3回			●第4回			●第5回						●第6回				
			院内外の研修参加、人事交流計画に沿った研修実施																																	
	実習指導者育成WG	基本的看護実践能力育成プログラム																																		
		実習指導者育成プログラム（実習担当指導者育成）	・実習指導者研修会（全7回） ・研修会プログラムの運営、評価								●第1回		●第2回	●第3回	●第4回		●第5回						●第6回						●第7回							
		実習指導者育成プログラム（効果測定）	実習指導者研修会参加による効果測定（教師効力尺度）								実習指導者研修会参加者の研修会参加前後の変容測定																										
		実習指導体制整備・強化	・実習指導者会議開催（月1回第4金曜日開催） ・実習指導に関する事項の検討 ・実習指導要項の見直し							●第1回		●第2回		●第3回		●第4回			●第5回		●第6回		●第7回		●第8回		●第9回			●第10回							
			・看護学生による臨地実習評価												各領域別実習での臨地実習指導に関する評価アンケート実施・集計																				
	看護研究推進WG	看護研究の推進	・看護研究コース（基礎編）の開催（9～12月）												研究コース受講者・指導者調整、コース企画準備			●講義① ●講義・演習②						●中間発表会							●成果発表会 ●コース評価		
																●第1回		●第2回		●第3回		●第4回		●第5回		●第6回		●第7回		●第8回		●第9回		
	学習支援	シミュレーション・トレーニング	・院内看護職員、九州大学看護学生へトレーニング提供 ・外部施設の医療従事者へ提供（1回/月）																																	
				トレーニングプログラム準備			シミュレーション・トレーニング実施・評価																															
		eラーニング	・eラーニングシステム運営（WEB学習システム、Handbook、九大Nursing e-room ・eラーニング教材開発、活用 ・電子書籍作成支援																																	
				システム運営（教材の撮影・編集・配信・見直し・最新化・視聴状況把握など）																																	
				看護手順・各部署での作成支援																																	
	キャリア支援	キャリアステーション	・キャリア形成に関する相談窓口の運営（大学院修了者による相談対応、随時）	相談員増員																																
				キャリア形成（教育指導・大学院進学・資格取得・看護研究）に関する相談に対応する																																	
		ナビゲーションシステム	・キャリアナビゲーションシステム運用・調査 ・育児休業復帰支援プログラム提供																																	
				キャリアナビゲーションシステムを活用したポートフォリオ作成、キャリアモデルの紹介、キャリア形成支援																																	
	広報活動	プロジェクト報告会講演会開催	成果報告会開催（同時に特別講演開催）															報告会企画・開催内容検討・講師依頼								報告会開催作成 案内送付						●報告会開催		
		年度報告書	・年度報告書																																	
				報告書用部品（研修スケジュール・実績・成果品）収集																																	
																															報告書初稿作成			校正・変更		印刷

Ⅱ　各 WG 取組み

Ⅱ　各 WG 取組み

1．IV ナース育成 WG

IV ナース育成 WG の概要・活動

静脈注射認定看護師育成ワーキング（以下ＩＶナース育成WG）では、静脈注射認定看護師の育成を継続し、静脈注射に関する看護師の質を担保することを目的とし、①静脈注射認定看護師の育成プログラムの企画・運営・実施・評価および更新制度についての検討②静脈注射認定看護師取得に向けての取り組み　を役割として１５名のメンバーで活動を行なった。

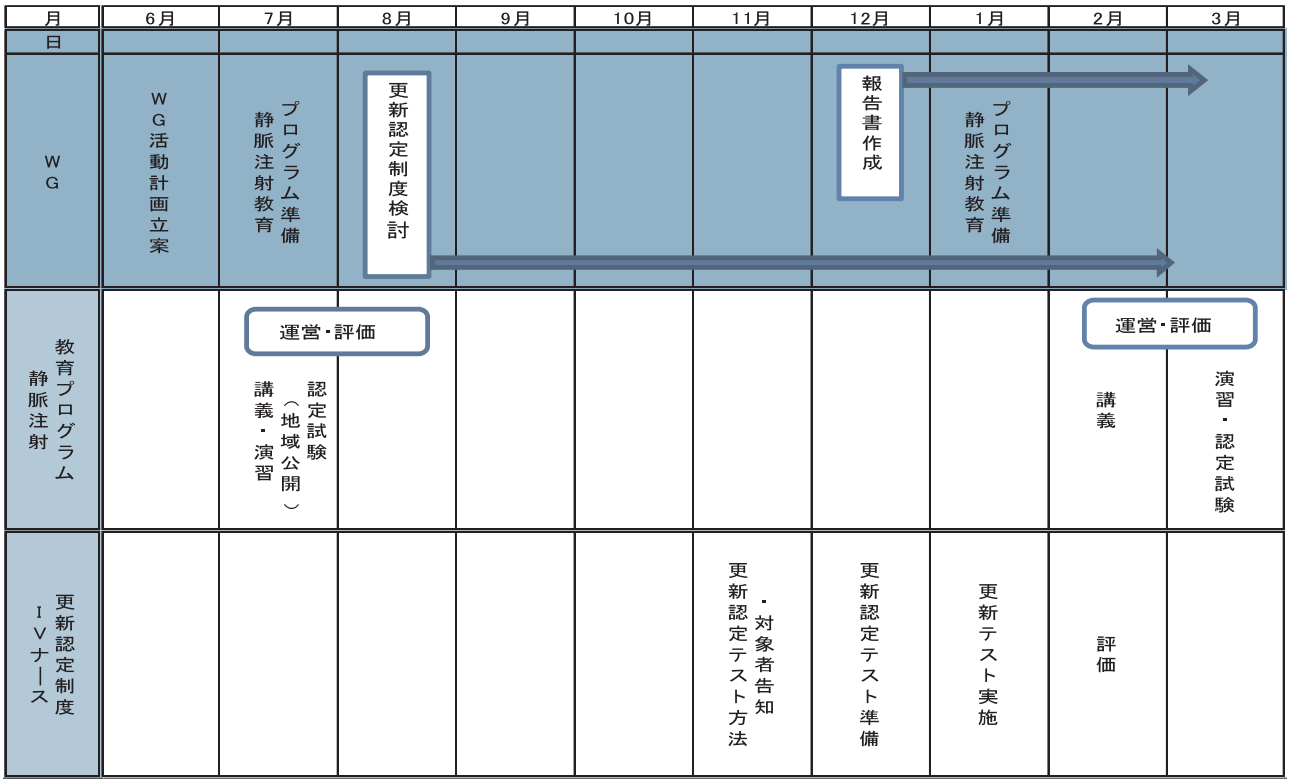
毎月第２火曜日の１時間をWG会議として、年間活動計画にそって検討を行なった。静脈注射教育プログラムでは、地域公開を含めた年２回の講義・演習の実施は担当を決めて取り組み、WG全体で一連の流れの確認や情報交換をおこなった。

平成 21 年度から５年間で実施してきた内容に加え、今年度は新たに静脈注射に関する継続的な質の維持向上を目的に更新認定制度について検討を行ない開始できたことは、安全な静脈注射の質の担保に繋がっている。

【平成２６年度IV ナース育成 WG 構成員】

所　属	職　位	氏　　名
北棟6階1病棟	看護師長	眞弓　恵美子（WG長）
南棟5階2病棟	看護師長	上野　ふじ美
南棟7階階1病棟	看護師	堤　麻奈
南棟8階	看護師	中上　真一
南棟9階	副看護師長	江口　恭世
南棟11階	副看護師長	樋渡　千佳
北棟4･5階	看護師	指宿　育世
北棟9階1病棟	看護師	中嶋　裕美
北棟10階2病棟	副看護師長	内藤　礼子
北棟11階2病棟	副看護師長	平岩　ひろみ
CCUハイケア	看護師	崎川　範子
CCUハイケア	看護師	西山　泉
放射線部･光学医療診療部	看護師	中島　千春
総合外来	看護師	川口　かおり
看護キャリアセンター	看護師長	伊藤　明美

【平成 26 年度　静脈注射認定看護師育成 WG 年間活動計画】



平成 26 年度実施計画・進捗状況

静脈注射教育プログラムでは、プログラムを提供することにより、静脈注射（IV）に関する知識と手技の標準化、認定による標準化されたレベルの可視化を目指している。

新体制でのプロジェクト継続初年度の平成 26 年度は、**静脈注射認定看護師（IV ナース）育成プログラムを継続実施**し、平成 26 年度プログラム育成対象者の累計 **IV ナース認定率 95%**を目標とした。さらに、静脈注射認定看護師（IV ナース）育成プログラム開始から 5 年が経過したため、提供する看護の質を担保する目的で **IV ナース更新制度の検討と実施**を行った。また、平成 24 年度から開始している地域で活躍する看護職員対象の静脈注射認定看護師（IV ナース）育成プログラムは IV に関する知識確認の機会や、参加者自身の施設における教育プログラム整備の情報収集の場としても役立ち、各施設においても看護師の看護実践力向上に資する教育プログラムであると高く評価されており、平成 26 年度も静脈注射認定看護師（IV ナース）育成プログラム**【講義】と【実技演習】を地域看護職員向けに公開**することとした。

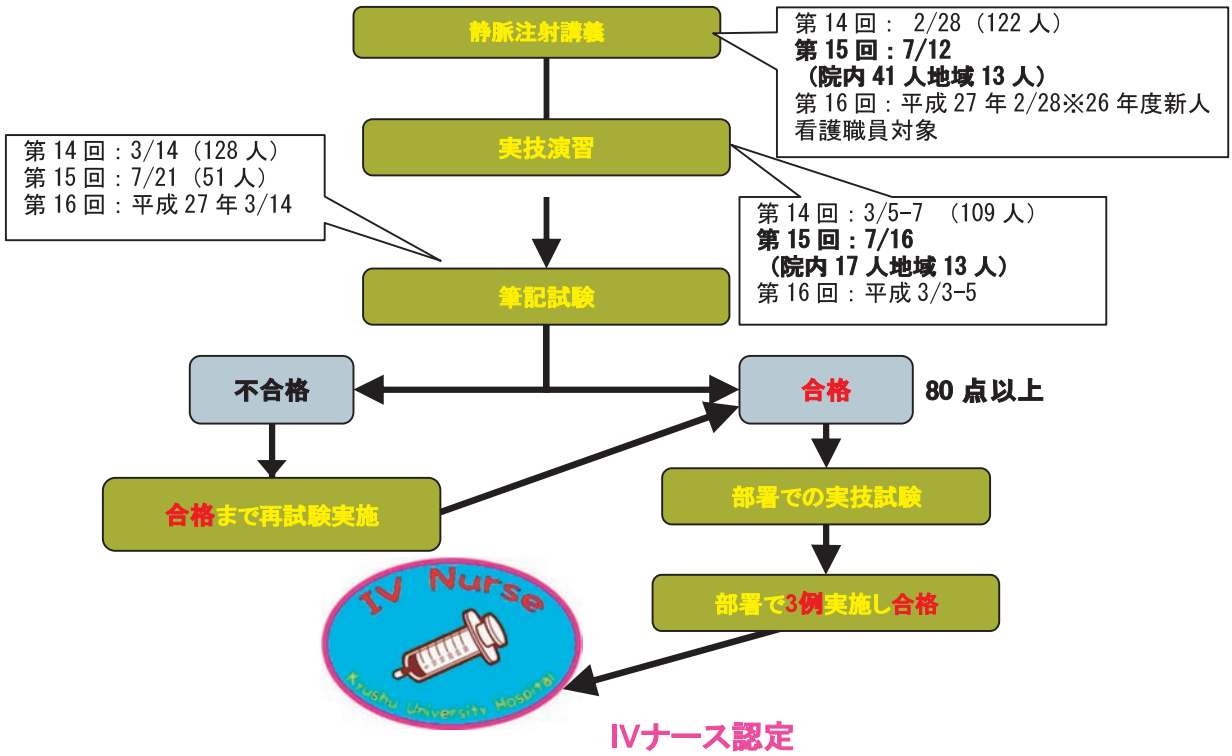
（講義公開の目的）

地域の医療施設で活躍している看護職員が静脈注射講義に参加し、静脈注射実施に関する正しい知識を学び、その知識を日常看護業務に反映させることで、看護師が実施する静脈注射の看護実践力向上に役立てる。

（実技演習公開の目的）

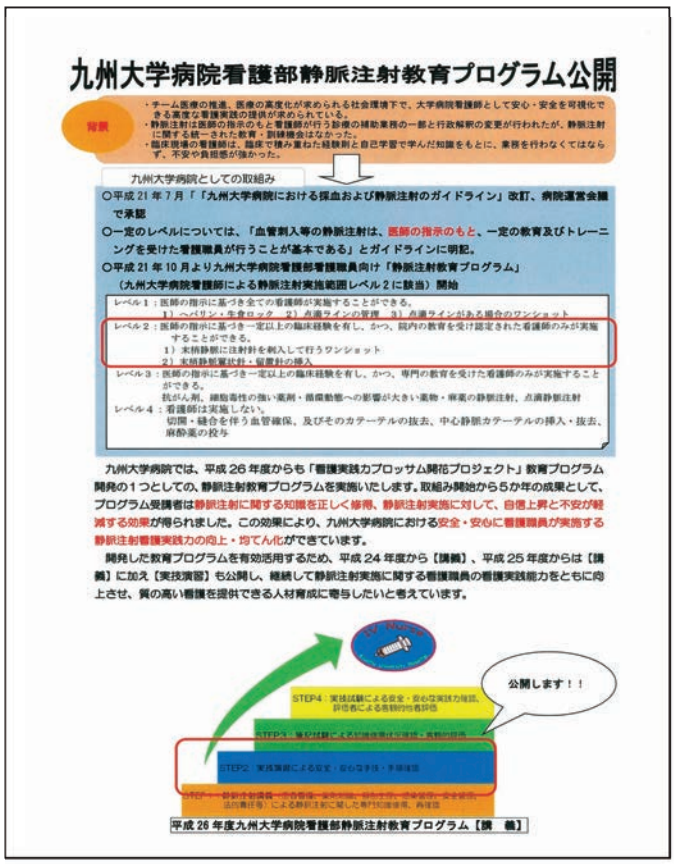
各施設での指導的役割を担う看護職員を対象に、安全安心に看護師が実施する IV の技術、看護ケアを実技演習を通じて確認してもらう。参加後は、それぞれの学習内容を活用して各施設の研修や教育計画等に役立てる。

1）平成 26 年度静脈注射認定看護師育成プログラム



2）平成 26 年度静脈注射認定看護師育成プログラム地域公開

地域公開に先駆け、プログラム公開の案内を福岡市内・近郊 200 床以下病院施設合計 116 か所に送付し、参加を募った。参加申込みの受付方法は電子メールを利用し、参加者確定連絡、開催詳細案内を行った。


九州大学病院看護部静脈注射教育プログラム公開

背景
・チーム医療の推進、医療の高度化が求められる社会環境下で、大学病院看護師として安心・安全を可視化できる高度な看護実践の提供が求められている。
・静脈注射は医師の指示のもと看護師が行う診療の補助業務の一部と行政解釈の変更が行われたが、静脈注射に関する統一された教育・訓練機会はなかった。
・臨床現場の看護師は、臨床で積み重ねた経験則と自己学習で学んだ知識をもとに、業務を行わなくてはならず、不安や負担感が強かった。

九州大学病院としての取組み

○平成 21 年 7 月「「九州大学病院における採血および静脈注射のガイドライン」改訂、病院運営会議で承認
○一定のレベルについては、「血管刺入等の静脈注射は、医師の指示のもと、一定の教育及びトレーニングを受けた看護職員が行うことが基本である」とガイドラインに明記。
○平成 21 年 10 月より九州大学病院看護部看護職員向け「静脈注射教育プログラム」
（九州大学病院看護師による静脈注射実施範囲レベル 2 に該当）開始

レベル 1：医師の指示に基づき全ての看護師が実施することができる。
1）ヘパリン・生食ロック　2）点滴ラインの管理　3）点滴ラインがある場合のワンショット
レベル 2：医師の指示に基づき一定以上の臨床経験を有し、かつ、院内の教育を受け認定された看護師のみが実施することができる。
1）末梢静脈に注射針を刺入して行うワンショット
2）末梢静脈留置針・留置針の挿入
レベル 3：医師の指示に基づき一定以上の臨床経験を有し、かつ、専門の教育を受けた看護師のみが実施することができる。
抗がん剤、細胞毒性の強い薬剤・循環動態への影響が大きい薬物・麻薬の静脈注射、点滴静脈注射
レベル 4：看護師は実施しない。
切開・縫合を伴う血管確保、及びそのカテーテルの抜去、中心静脈カテーテルの挿入・抜去、麻酔薬の投与

九州大学病院では、平成 26 年度からも「看護実践力プロサッカー開花プロジェクト」教育プログラム開発の 1 つとしての、静脈注射教育プログラムを実施いたします。取組み開始から 5 か年の成果として、プログラム受講者は静脈注射に関する知識を正しく修得、静脈注射実施に対して、自信と昇と不安が軽減する効果が得られました。この効果により、九州大学病院における安全・安心に看護職員が実施する静脈注射看護実践力の向上・均てん化ができています。

開発した教育プログラムを有効活用するため、平成 24 年度から【講義】、平成 25 年度からは【講義】に加え【実技演習】も公開し、継続して静脈注射実施に関する看護職員の看護実践能力をともに向上させ、質の高い看護を提供できる人材育成に寄与したいと考えています。

平成 26 年度九州大学病院看護部静脈注射教育プログラム【講　義】

1．開催日程：平成 26 年 7 月 12 日（土）　9：00～17：00
※8：30 から受付開始予定。

内　容
1）静脈注射に必要な解剖生理、合併症、危険性と対策
2）薬剤に対する基礎知識
3）看護業務と法的責任 医師の指示と看護行為
4）静脈注射に関する安全管理と事故防止
5）静脈注射に関する無菌的操作と感染管理
6）静脈注射を受ける患者の看護

2．開催場所：九州大学病院　ウエストウイング 4 階　臨床小講堂 1
3．募集人数：50 名程度
4．参加対象者：日常業務で静脈注射を実施する（予定）の看護職員
※准看護師免許取得者、現在休職中の看護師免許取得者、新卒看護師も参加可能
5．参加費：1,000 円（当日配布講義資料代含む）

平成 26 年度九州大学病院看護部静脈注射教育プログラム【実技演習】

1．開催日程：平成 26 年 7 月 16 日（水）午前の部（8：30～12：00）　午後の部（13：00～16：30）
2．開催場所：九州大学病院　ウエストウイング 3 階　クリニカルスキルトレーニングセンター
3．募集人数：午前の部 20 名、午後の部 20 名
※応募申込み者が多数の場合には、各施設からの参加者人数調整や受付締切をする場合もありますので、ご了承ください。
4．参加対象者：平成 25 年度公開した【講義】参加済み、または平成 26 年度公開【講義】参加者で、各施設での指導的役割を担う看護職員
5．参加費：2,000 円（※演習に使用する消耗品費用込み）

○申込み方法○

地域看護職員に公開した第 15 回静脈注射教育プログラム【講義】【実技演習】は、院内外プログラム参加者の区別をつけず、一同に集め、プログラムを提供した。

平成 26 年度は、院内 163 名、地域看護職員 13 名　合計 176 名の【講義】参加を得た。【実技演習】には、院内 126 名、地域看護職員 13 名　合計 139 名の参加を得た。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計（人）
講義参加者 （内地域看護職参加者）	335	393	315	406 （188／50 施設）	181 （17/5 施設）	176 （13/7施設	1,806 （218／62 施設）
実技演習参加者	65	125	212	163	163 （14/5 施設）	139 （13/7 施設）	704 （27/12 施設）

3）静脈注射認定看護師（IV ナース）更新認定制度

静脈注射（IV）に関する知識と手技の標準化、認定による標準化されたレベルの可視化を目指し、平成 21 年度から静脈注射教育プログラムを実施している。初年度認定から 5 年が経過し、今年度は新たに IV ナースの継続的な質の維持と向上をはかることを目的に、静脈注射認定看護師（IV ナース）更新認定制度を設けた。認定後 5 年目の職員を対象に九州大学 Web 学習システムを利用し、ｅラーニングによる自己学習と更新認定テストを実施した。開始にあたっては九州大学 Web 学習システム・ｅラーニングの利用方法についての説明、今年度の静脈注射教育プログラムの講義資料をｅラーニングのコンテンツに加え、自己学習環境を整えた。

H26 年度　静脈注射認定看護師（Ⅳナース）認定更新制度

（1）対象：ＩＶナース認定後 5 年目の職員 51 名

（2）方法：①九州大学 Web 学習システムのｅラーニングの、平成 26 年度の静脈注射教育プログラム講義資料を使った自己学習（任意）
②九州大学 Web 学習システムのｅラーニングの、「Ⅳナース認定更新テスト」を実施する。全問正解（100 点獲得）まで繰り返し自己テストを行う（必須）
【期間】平成 26 年 12 月 15 日～平成 27 年 1 月 15 日

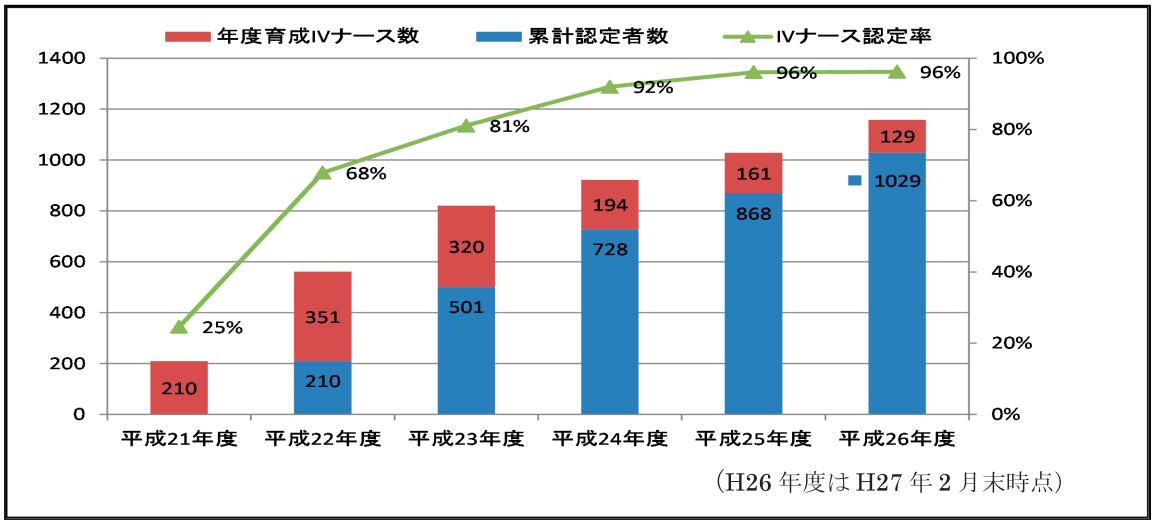
（3）更新認定：対象者が更新認定を申請した後、Ⅳナース育成ＷＧで「Ⅳナース認定更新テスト」結果を確認し、看護部で更新を認定、ＩＶナース認定更新更新証を発行する。

平成 26 年度成果

１）プログラム目標達成状況

			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度（H27年2月末時点）
A	看護師数(各年度4月1日時点)		1147	1158	1111	1120	1199	1199
A	Ⅳナース育成予定看護職員数		852	826	1012	1002	1071	1036
B	目標Ⅳナース認定者数(B=A×C)		255	495	810	902	964	985
C	目標Ⅳナース認定率		30%	60%	80%	90%	93%	95%
	Ⅳナース認定者数	前年度までの取得者数	—	210	501	728	868	958
		新規取得者数	210	351	320	194	161	129
D		累計認定者数	210	561	821	922	1029	1158
E	Ⅳナース認定率(E=D÷A)		24.6%	67.9%	81.1%	92.0%	96.1%	96.2%
	年度末退職Ⅳナース認定者数		—	60	93	54	71	—
	年度末Ⅳナース認定者数		—	501	728	868	958	—

平成 26 年度静脈注射教育プログラムを提供した結果、新規に 112 名のⅣナースが育成され、累計 1，158 名（Ⅳ認定率 96．2%）の静脈注射認定看護師が誕生し、**年度目標を達成**した。



2）平成 26 年度静脈注射教育プログラム評価（プログラム受講者アンケート結果）

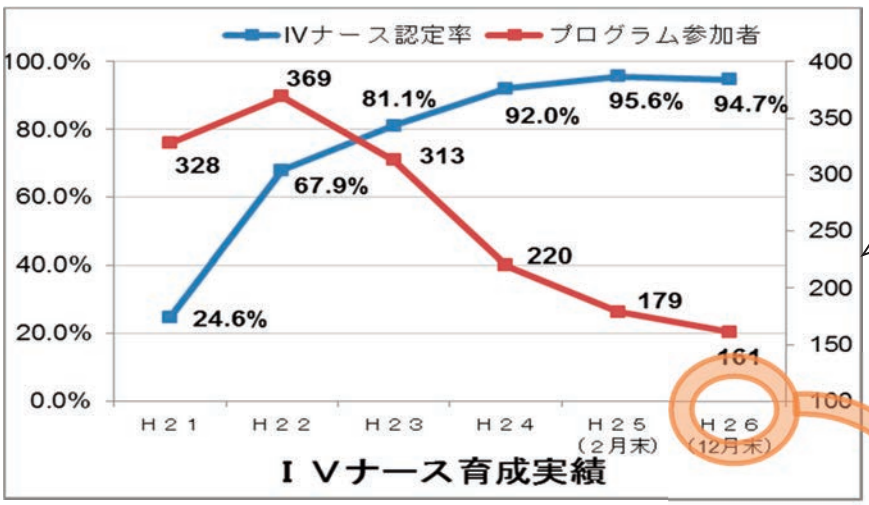
静脈注射教育プログラムでは、プログラム成果指標として下記方法で参加者によるプログラム評価を行っている。

（1）平成 26 年度静脈注射教育プログラム評価（プログラム受講者アンケート結果）
（2）公開プログラム参加者評価
（3）Ⅳナース更新認定制度評価（更新認定試験受験者アンケート結果）

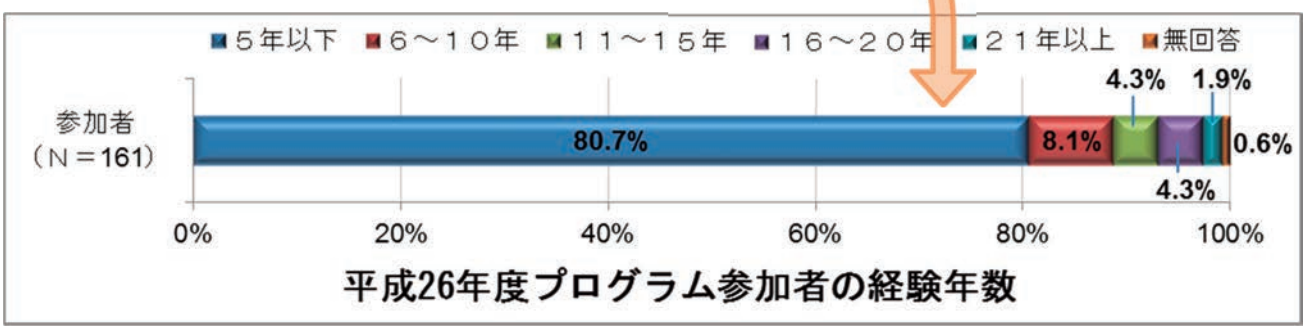
（1）平成 26 年度静脈注射教育プログラム評価（プログラム受講者アンケート結果）

静脈注射教育プログラムでは、平成 21 年度のプログラム開始時より 5ヵ年にわたり、プログラム受講者に【講義前】【講義直後】【筆記試験後】【実技試験後】のプログラムの 4 工程受講後にそれぞれ知識修得度やプログラム実施評価を行ってきた。平成 26 年度は前年度のプログラム評価と比較するため、以下では【講義直後】【実技試験後】を平成 25 年度プログラム評価と比較してまとめている。

①プログラム実績と参加者属性



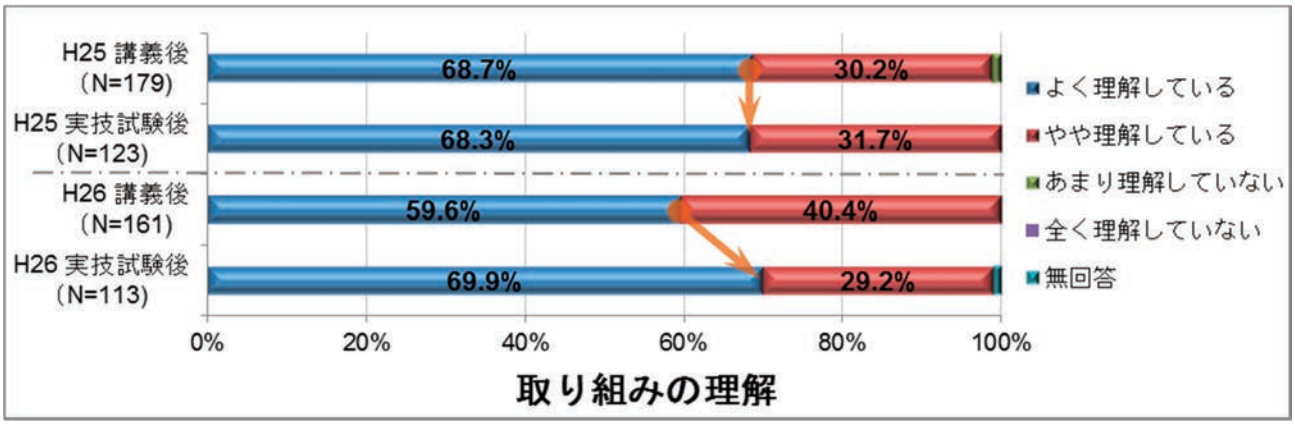
平成26年度プログラム参加者の 65.8%は、平成25年度新卒看護職員が占める。
プログラム開始以来、九州大学病院看護職員の**看護職員のほぼ全員がプログラムに参加**している。

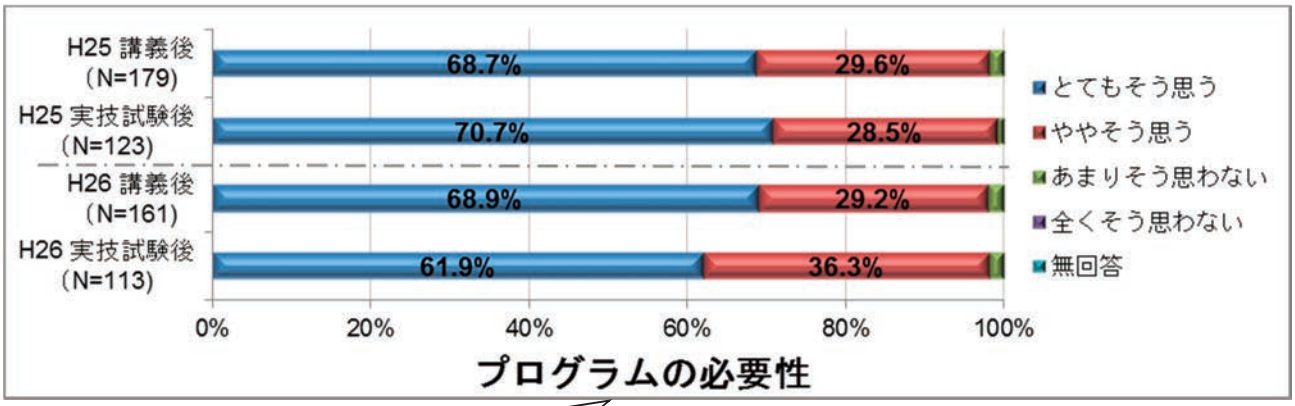


プログラムを提供開始から 25 年度までに延べ 1,449 名の院内看護職員が受講し、95%以上の認定率を達成している。認定率の上昇に伴い、プログラム対象者は減少した。その結果、プログラム参加者も同様に減少傾向であり、平成 26 年度は 161 名がプログラムに参加した。

プログラム参加者は、「新卒で入職し、次年度で経験年数２年目」になる看護職員及び既卒や中途入職者、平成 25 年度までにプログラムに参加できなかった看護職員の参加が対象となっている。そのうち、看護師経験年数 5 年以下の職員が 80%以上を占め、特に「新卒看護職員」が 161 名中 106 名（65.8%）を占めている。

②プログラム受講者プログラム取組みの必要性・理解



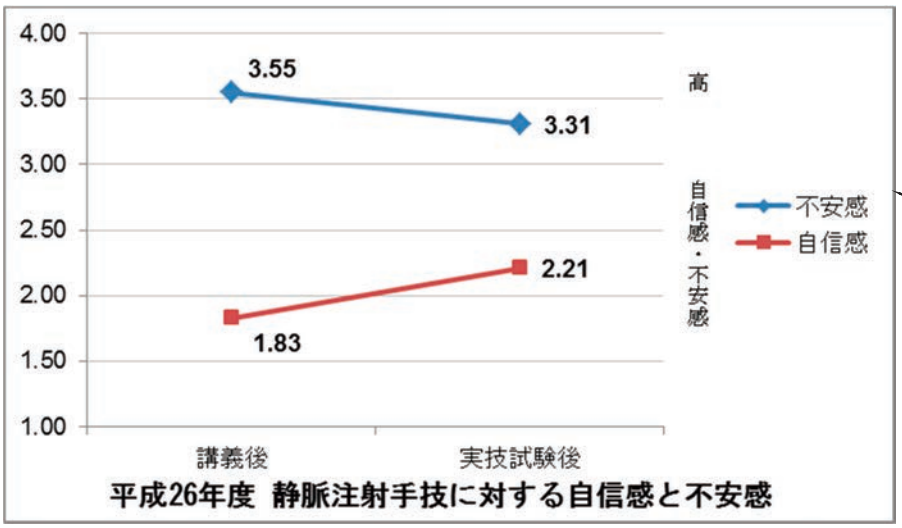


前年度に引き続き平成 26 年度も、**取組みに対する参加者の理解とプログラムを実施することの必要性はほぼ 100%肯定的な回答**を得ている。特に取り組みへの理解に関して、本年度は「やや理解できる」の割合が減り「理解できる」の割合が増加したことから、参加者はこの取り組みをより深く理解したことになる。

プログラム【講義】では、静脈注射に関する「解剖生理」「薬剤知識」「合併症とその予防対策」「安全管理」「感染防止管理」「緊急時の対応」等、**医師や薬剤師、認定看護師など各分野の専門家による講義を提供**している。また、静脈注射実施の際、「患者さんの人権の尊重、倫理観に基づいた看護を提供する」看護専門職業人として考慮すべき**看護倫理観を再認識**してもらうべく、教育プログラム整備に至るまでの経緯や「静脈注射実施者としての看護師の責任」「看護業務と法的責任」の関連性、「看護師の説明責任」「患者への説明と同意の必要性」も講義に織り込んで提供している。

安全・安心に看護職員が静脈注射を実施するために必要な実践スキルに留まらず、法的根拠を含めた看護師としての行動綱領ともなる看護倫理観についても講義で説明し、教育プログラムの目的・開催の意図を正しく理解してもらうことで、プログラムの取組みや必要性を肯定的に捉えることに繋がっている。

③静脈注射手技に対する不安感



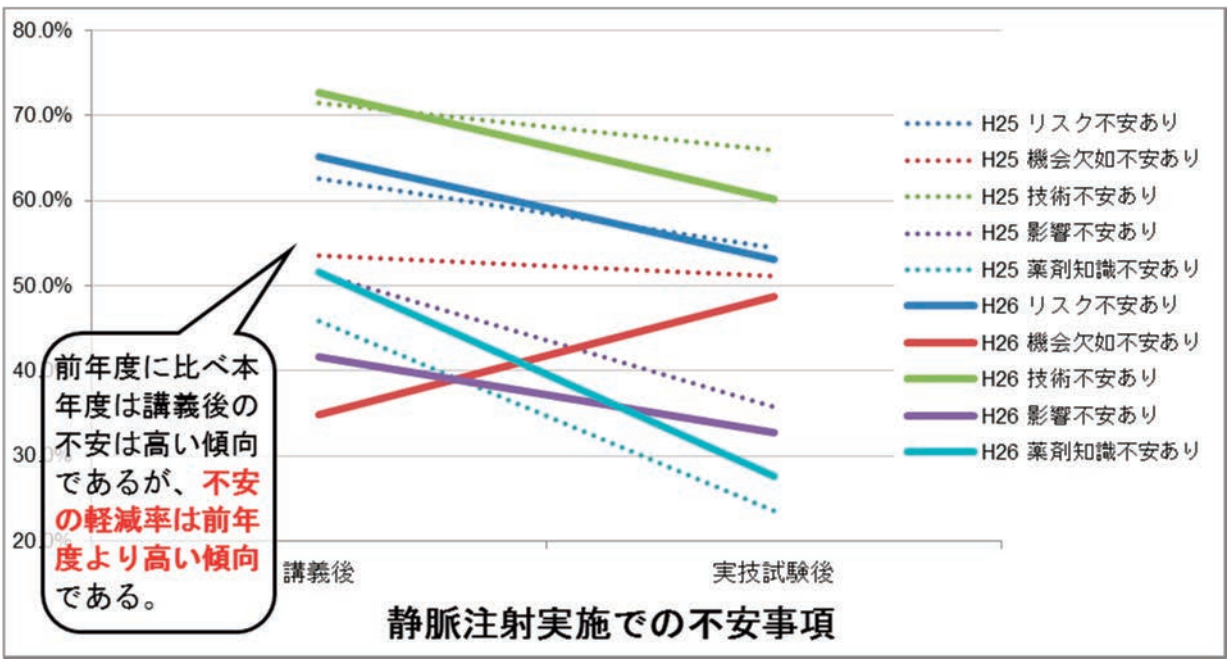
プログラム終了時には、**静脈注射に対する自信が向上し、不安感が軽減**された。

プログラム参加者には、【講義後】と【実技試験後】に静脈注射実施に対する自信感と不安感を調査した。評価は 4 件法（「1：全くない」「2：あまりない」「3：少しある」「4：ある」）で質問し、回答をスコア化した。回答者属性から、臨床現場で実践経験のない対象者が 65.8%を占めるため、自信感は低いスコアで、不安感は高いスコアで推移している。

自信感について【講義後】とプログラムを終えた【実技試験後】のスコアで比較すると、0.38 ポイントの差となり、全工程を終えた参加者の自信感は高くなっており、統計的にも有意な差がでていることが実証された（ｐ＜0.0001　Mann－Whitney 検定)。

同様に不安感についても【講義後】【実技試験後】のスコアで比較すると 0.24 ポイントの差となり、全工程を終えた参加者の不安感は軽減され、統計的にも有意な差がでていることが実証された（ｐ＜0.0001　Mann－Whitney 検定)。

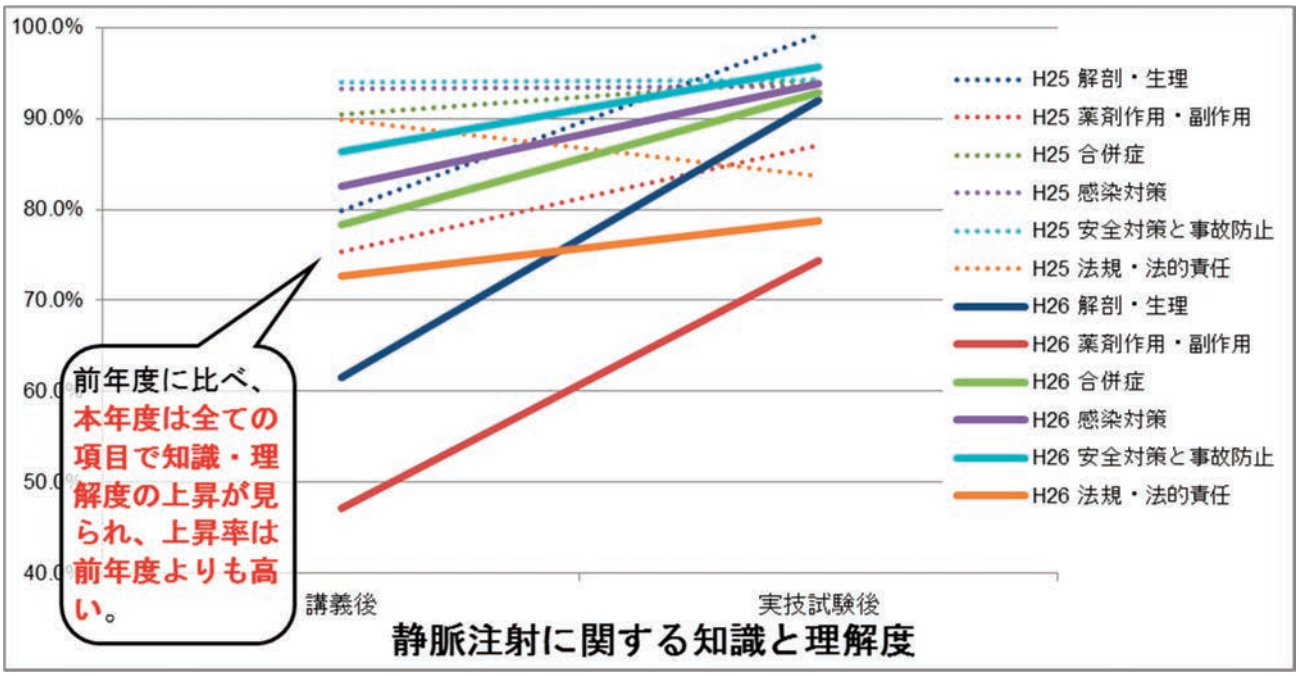
④静脈注射実施に関する不安事項



前年度に比べ本年度は講義後の不安は高い傾向であるが、**不安の軽減率は前年度より高い傾向**である。

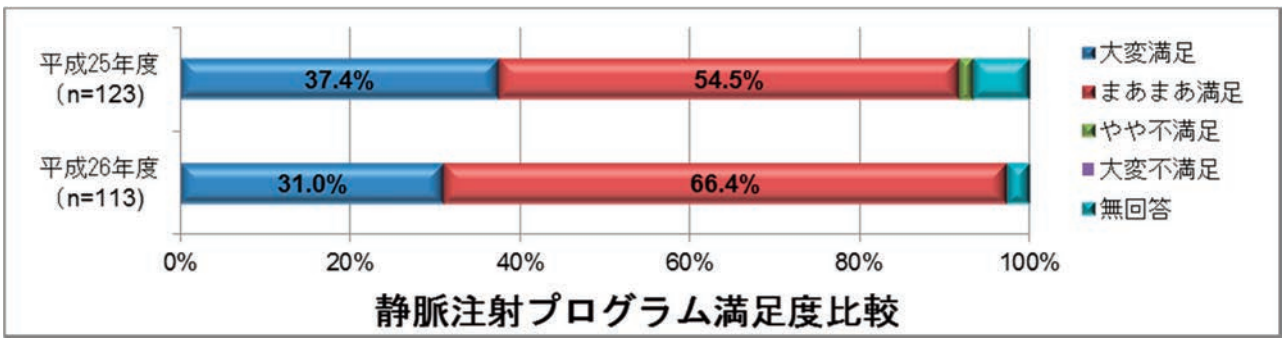
静脈注射実施に関する具体的な不安事項では、【実技試験後】に静脈注射機会の欠如に関する不安以外全ての項目で不安が軽減した。特に専門分野講師による講義で説明される**「リスク・影響」「薬剤知識や危険性」「技術・手技」に関しては不安事項に挙げる人が半数や半数以下に軽減**した。また、それらの項目では平成 25 年度に比べ、本年度は不安がより軽減している。

⑤静脈注射教育プログラム受講による知識変化



「解剖生理」「薬剤の作用・副作用」「静脈注射の合併症」「感染対策知識」「安全対策と自己防止」「法規・看護職に対する法的責任」の 6 項目についての知識・理解度の変化では、全 6 項目において知識・理解度が上昇した。前年度に比べ平成 26 年度は上昇した割合が顕著に高くなっている。平成 25 年度に唯一低下した「法規・看護職に対する法的責任」についても、本年度は上昇が見られている。

⑥静脈注射教育プログラム満足度推移



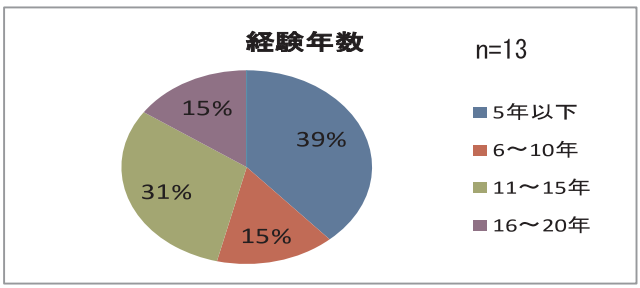
プログラムを肯定的に評価する参加者が 9 割を超えている。５か年取り組み最終年度の平成 25 年度よりも肯定的な回答が増えている。また、本年度は不満足と回答する参加者はいなかった。評価アンケートでは、自由記述欄を設け、プログラム改善要望や希望は次年度の計画の見直しや改善に繋げている。5 か年取り組み開始当初には「静脈注射実施経験者には、プログラム受講や筆記試験が不要でないか」「自部署で実技試験が出来ないため、他部署へ出向くので、部署や他スタッフに迷惑もかけるし、ストレスである」といった否定的コメントが多く見受けられた。「看護倫理観」の講義内容を増やし、部署間連携の強化、IV ナース推進者の設置などで、部署での演習や実技試験実施の体制を強化したことにより、否定的コメントが減り逆に「静脈注射の手技だけでなく、合併症や対策、薬剤についての講義もとてもありがたいと思いました」「病棟に帰ってからも、教育担当スタッフを中心に技術を学ぶことができて良かった」等、**研修プログラムと部署の OJT が連携したプログラムとして浸透していることが高い評価に繋がった**と考察される。一方で、「既卒者に対するテストはもう少し早くしてほしい」「前病院で受講した IV nurse 研修を再度受講しないといけないことに疑問がある」といった意見もわずかながら見られ、今後、少数派への対応や本プログラムの趣旨を周知させる取り組みなどが必要となる可能性があると推測される。

（2）公開プログラム参加者評価

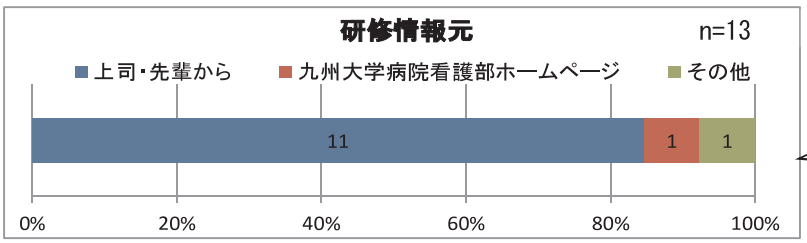
【講義】

①回答者属性

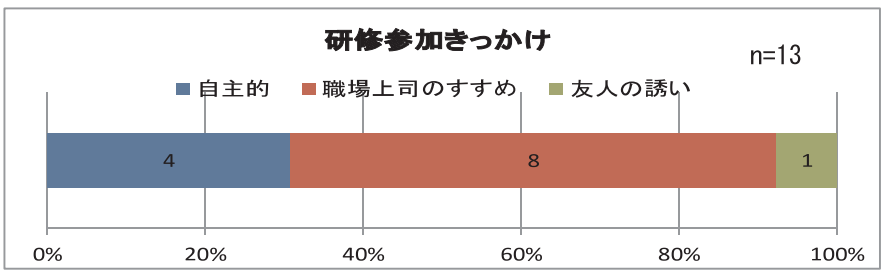
年齢：平均 35.62 歳　看護職経験年数：平均 8.8 年（平成 25 年度年齢：31.6 歳　経験：8.6 年）



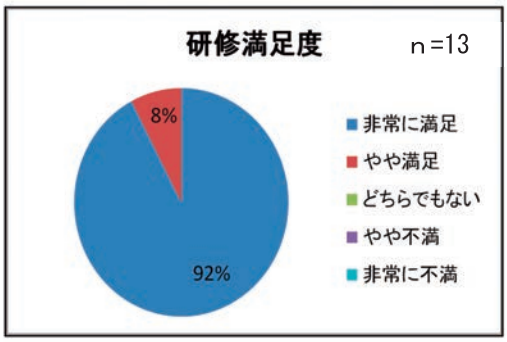
②研修情報元・研修参加きっかけ



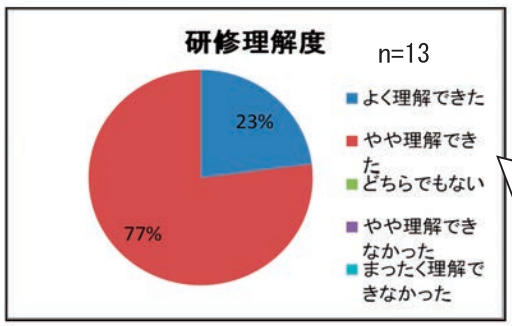
研修開催については、13 名中 11 名が九州大学病院看護部から発送した研修開催案内を見た職場上司のすすめで、参加している。



③研修満足度

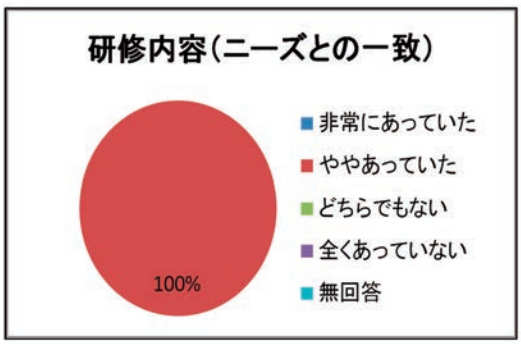


④研修理解度

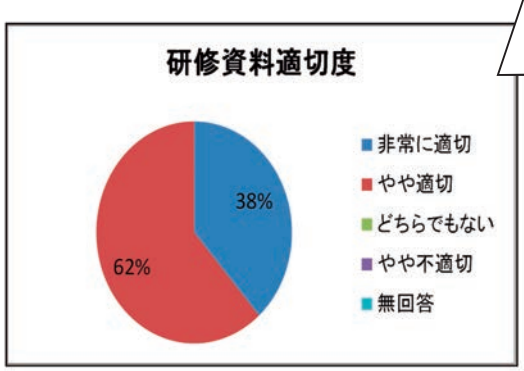


参加者全員が研修会に満足しており、研修内容も理解できたと評価している。

⑤研修評価「求めている内容にあった研修会であったか」

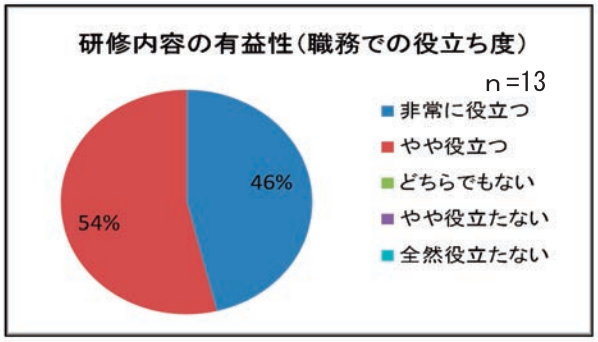


⑥研修評価「配布資料適切度」



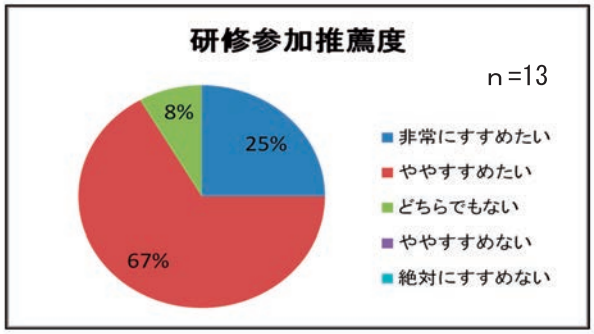
参加者全員が研修内容はニーズと一致していると評価し、資料も適切であると評価している。

⑦研修評価「今後の仕事への役立ち度」



参加者全員が研修内容は職務に有益であると評価している。

⑧研修評価「研修参加推薦度」



参加者 13 名 11 名が参加を推薦したいと評価している。

⑨研修への意見・感想（自由記載）

・新人指導に役立つのではないかと思って参加したが、自施設でも新人対象の研修としても取り入れていきたい。
・再就職したが採血、静脈注射、留置針に自信が持てず緊張してうまくいかず悩んでいたので、参加した。IVの講義を受け、改めて危険行為のひとつなのだと再認識した。その上で必要な業務として注意して実施したいと思った。
・地域へ公開していただいてありがとうございました。院内に持ち帰りまた頑張りたいと思います。もう少しマイクボリュームがほしいと思いました。
・すごく勉強になりました。とても良かったです。プリセプターをしているため講義資料は新人指導にも利用したいと思います。

【実技演習】

平成 26 年 7 月 16 日（水）に実施し、地域医療施設 6 施設 13 名（看護師 13 名）の参加があった。参加者の看護職経験平均年数は 8.9 年、経験者が大半を占めた。

（１）研修スケジュール

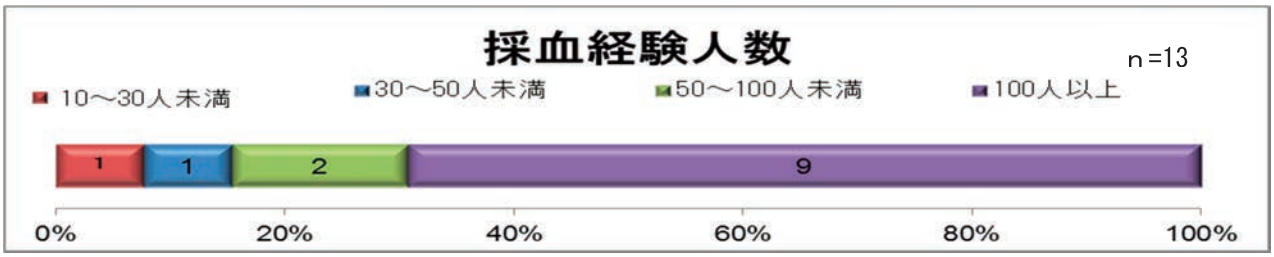
時間	内容
8:30 ～ 8:35 （13:00 ～ 13:05）	オリエンテーション
8:35 ～ 8:55 （13:05 ～ 13:25）	バーチャルIVの操作法
8:55 ～ 10:00 （13:25 ～ 14:30）	翼状針演習
10:00 ～ 10:10 （14:30 ～ 14:40）	休憩
10:10 ～ 11:35 （14:40 ～ 16:05）	静脈留置針演習
11:35 ～ 11:45 （16:05 ～ 16:15）	後片付け
11:45 ～ 12:00 （16:15 ～ 16:30	アンケート・まとめ

（２）研修評価

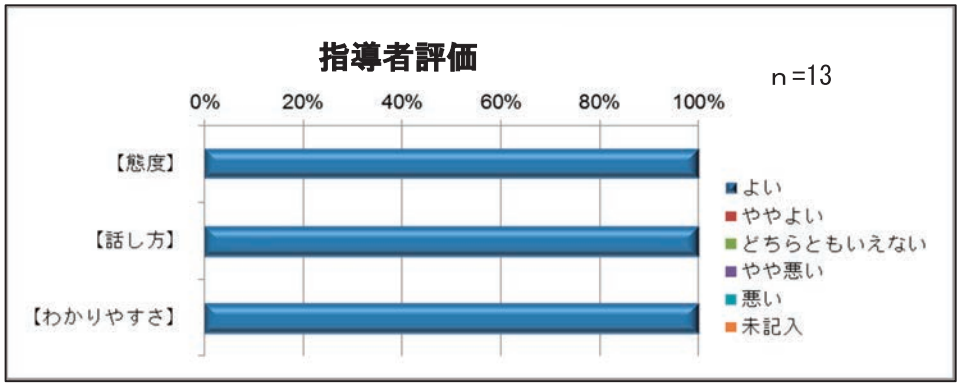
①回答者属性

年齢：平均 35.62 歳　看護職経験年数：平均 8.9 年

②採血経験人数

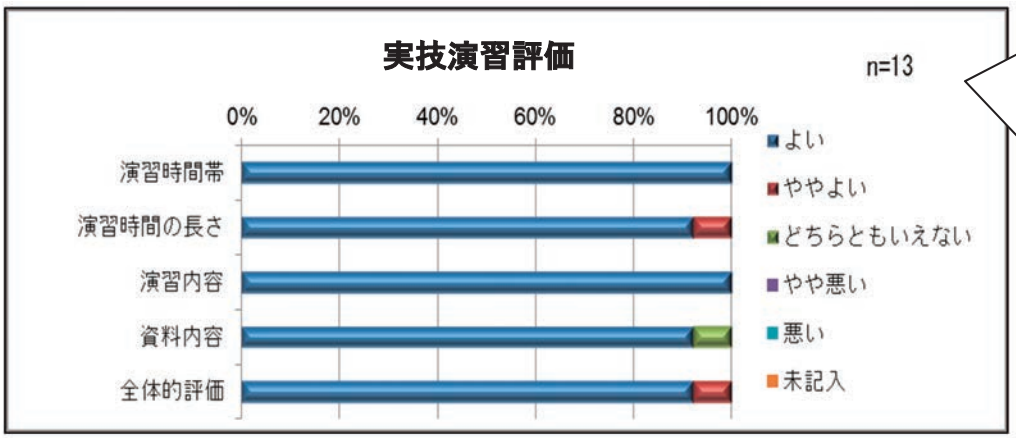


③指導者評価



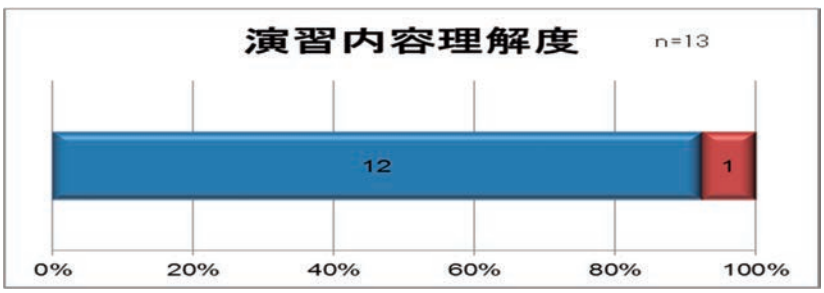
態度、話し方、わかりやすさ全ての項目においてよいと評価を得た。指導者に対する評価は大変良かった。

④実技演習



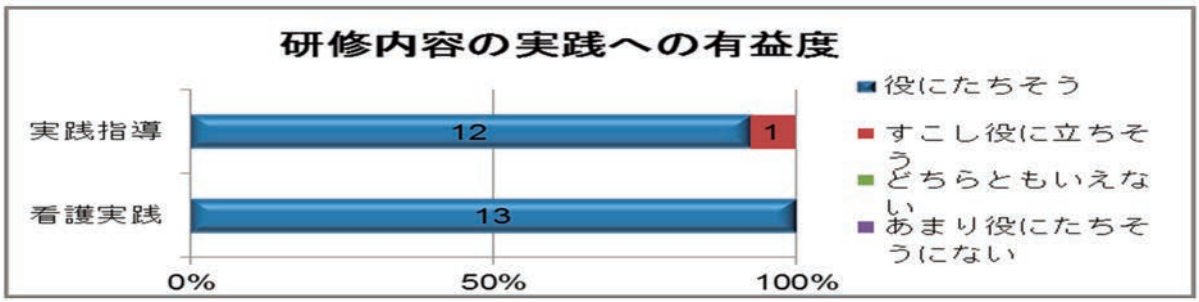
実技演習会はどの項目においても「よい」と 90%以上の受講者が評価している。

⑤実技演習内容理解度



理解できなかったと回答した参加者はいなかった。13 名中 12 名が理解できたと評価している。

⑥実技演習有益度評価



参加者全員が肯定的に評価しており、今回の研修が各施設でも役立つ内容であったといえる。

⑦研修への意見・感想（自由記述）

・仕事のブランクがあったので今回はとても勉強になった。当院にはこのような研修がないため新人に紹介したい。
・留置針の外筒の進め方がわからなかったので腕モデルが役に立った。今さら聞けないことを聞くことができた。
・バーチャルIVシステムが難しかった。
・色々再確認できた。
・手技だけでなく細かい片づけの仕方まで教えてもらえた。現場で使いたい。留置針が出来るようになったので役立てたい。
・指導がとても分かりやすかった。満足の演習だった。
・他の看護技術系も研修して欲しい。分かりやすく楽しかった。
・具体的な症例などを教えてもらえると分かりやすいと思った。

静脈注射教育プログラム地域公開では、平成 25 年度は 14 名、平成 26 年度は 13 名の参加があった。公開開始した平成 24 年度と比べると参加者数は 10 分の 1 に減少しているが、一定数の参加者があり、地域からの静脈注射教育プログラムへのニーズがあると考える。

講義・実技演習ともに研修内容や有益度を高く評価していた。特に実技演習では、「実技評価表を使用することで感染対策や事故防止に対する意識も高まり、自施設でも活用したい。」といった意見も聞かれ、演習シミュレーター（静脈注射腕モデル、バーチャル I.V.実技消耗品）や、評価表（静脈注射実施準備から片付けまでの看護手順や医療安全・患者の安楽を意識したコミュニケーションも含んだ確認チェック表）、教育担当指導者に加え IV ナース育成 WG の構成員も指導を担当した少人数制での実技指導など、本教育プログラムの全容をそのまま地域看護職員にも体験してもらうことで、研修計画方法を具体的に学んでもらい、指導者として自施設への活用を促すことができた。

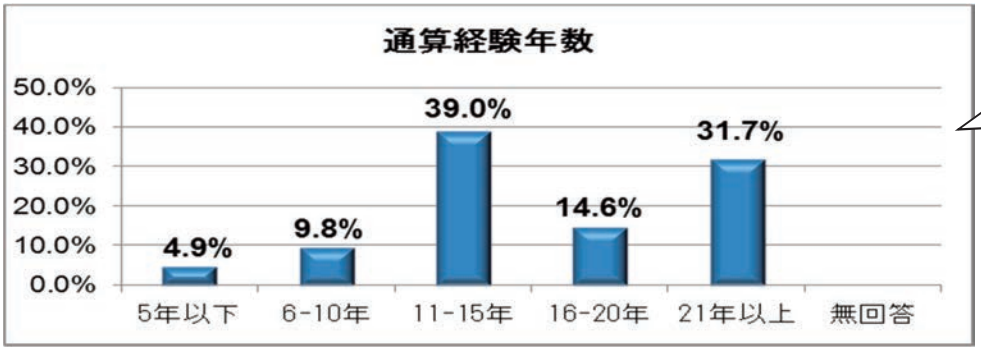
さらに、経験の浅い看護師の看護技術修得への支援のほか、「仕事のブランクがあったので、とても勉強になった。」「今さら聴けないことがいろいろ聞けた。確認ができた。」などの意見が聞かれ、長期休業後の職場復帰への支援や経験の看護職員の知識・技術の再確認や質の維持にも貢献できた。

（3）Ⅳ ナース更新プログラム評価

①回答者属性

アンケート回答者総数：41 名（n=41）

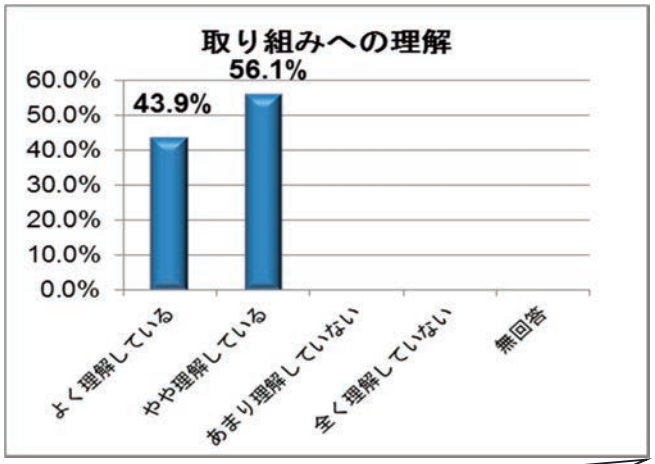
看護職経験年数：平均 18.0 年



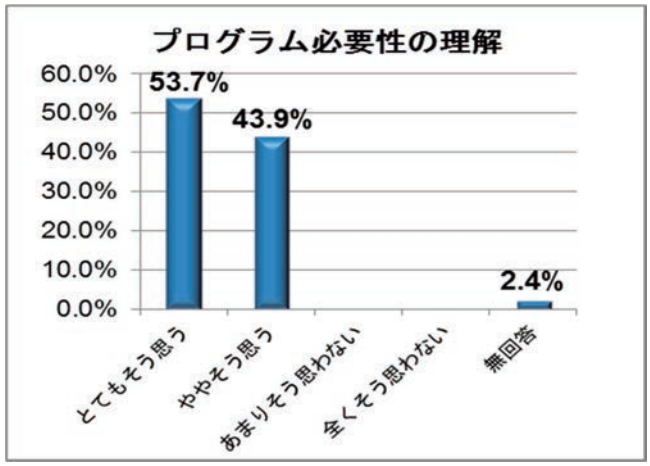
対象者は、看護職経験年数 11 年目以上が 8 割以上（85.3%）を占めていた。

②静脈注射更新プログラムの取り組みへの理解と必要性について

取り組みへの理解



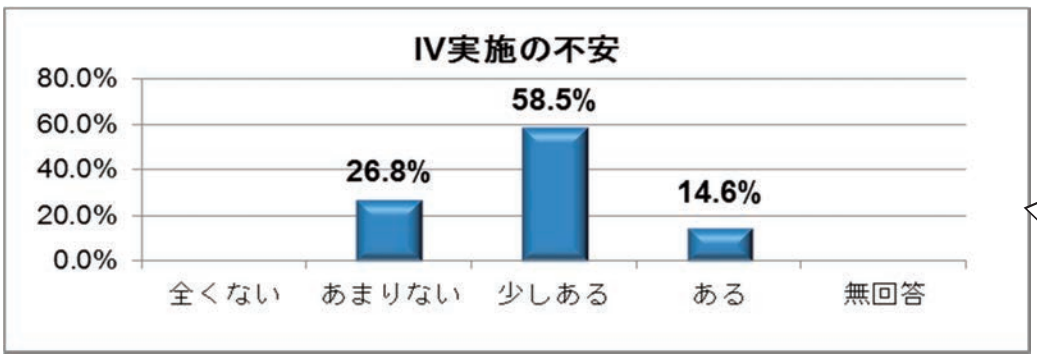
プログラムの必要性の理解



更新対象者も取組みに対する理解とプログラムを実施することの必要性はほぼ 100%肯定的な回答を得ている。

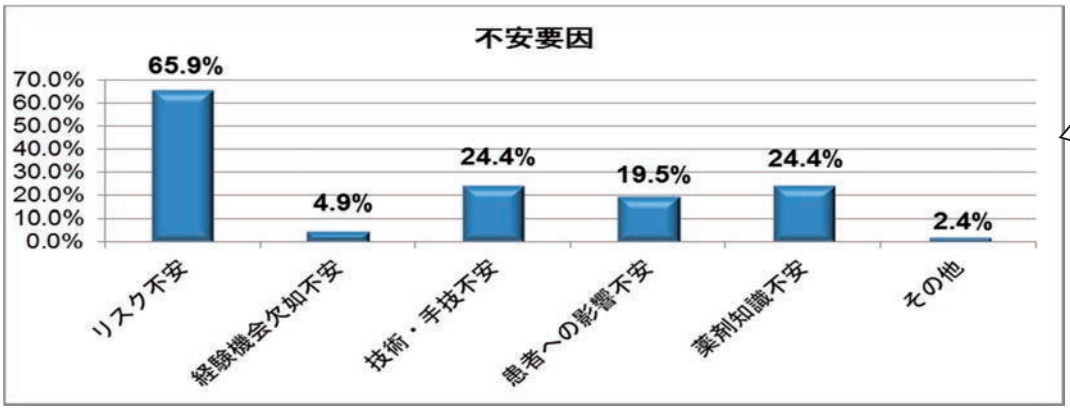
③静脈注射実施に対する不安と自信について

静脈注射実施の不安



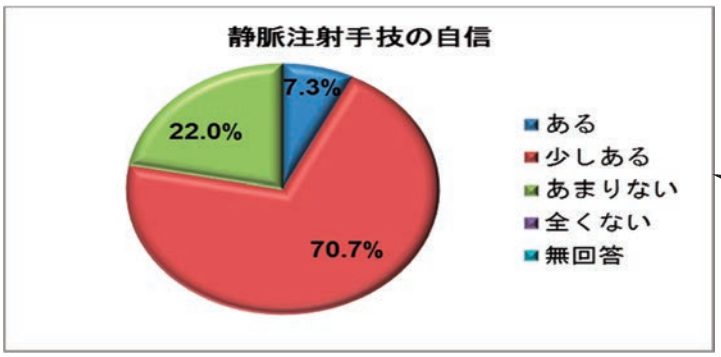
70%以上が不安があるまたは少しあると回答していた。

静脈注射実施に関する不安要因（複数回答）



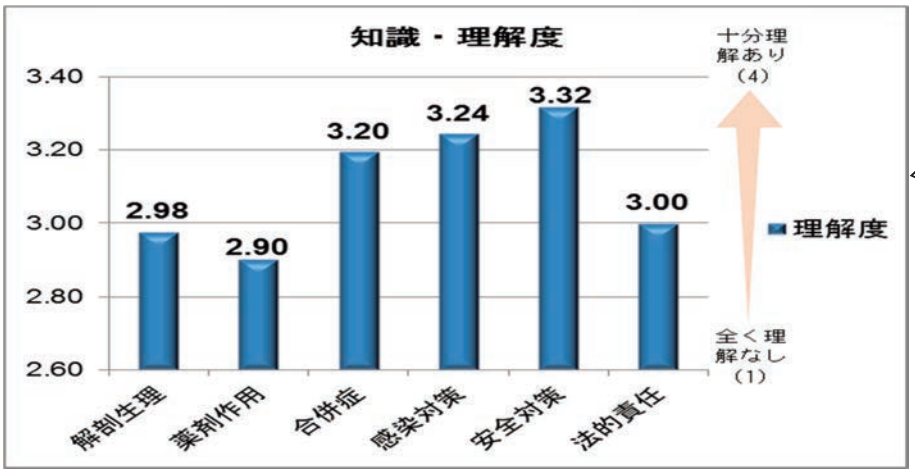
リスク不安の要因を「静脈注射のリスク」と約 70%が回答していた。

注射手技に対する自信



約 80%が手技自信があると答えていた。あまりないと答えた対象者も 22%いた

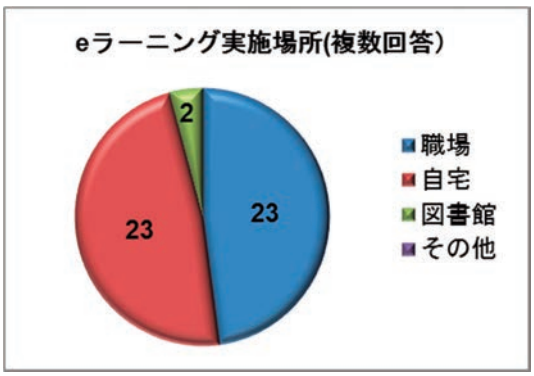
④静脈注射に関する各項目についての知識・理解度について



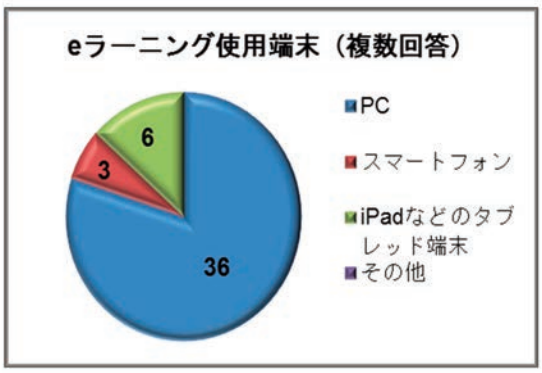
知識・理解度 4 点満点中、6 科目とも 3 点前後の理解度を示し、講義の理解はほぼできている。解剖生理、薬剤作用は他の科目と比べ、知識・理解度が低い傾向にあった。

⑤静脈注射プログラムの e ラーニングについて

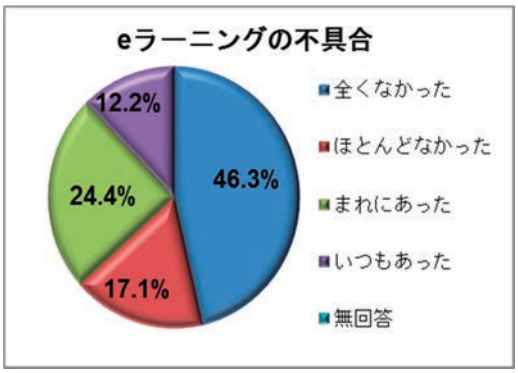
実施した場所



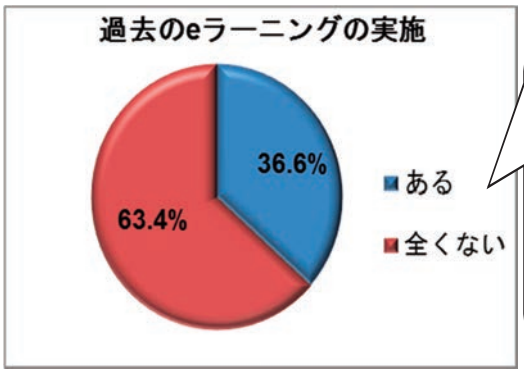
使用した端末



不具合の程度



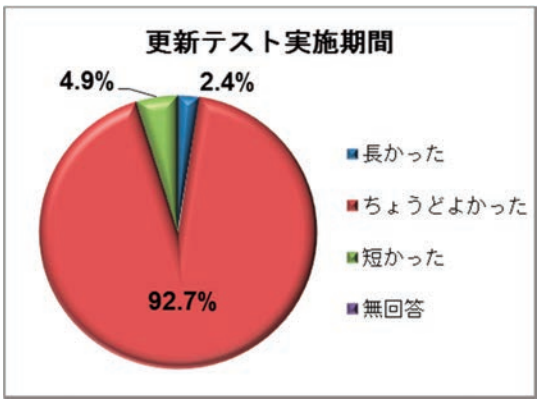
過去の実施経験



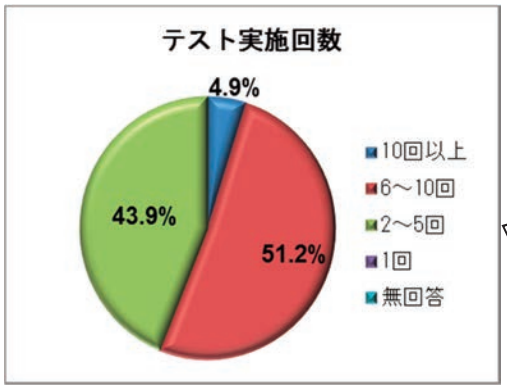
60%以上が更新テストをきっかけに、はじめてｅラーニングを実施したと回答していた。

⑥Ⅳナース更新テストについて

実施期間の長さ

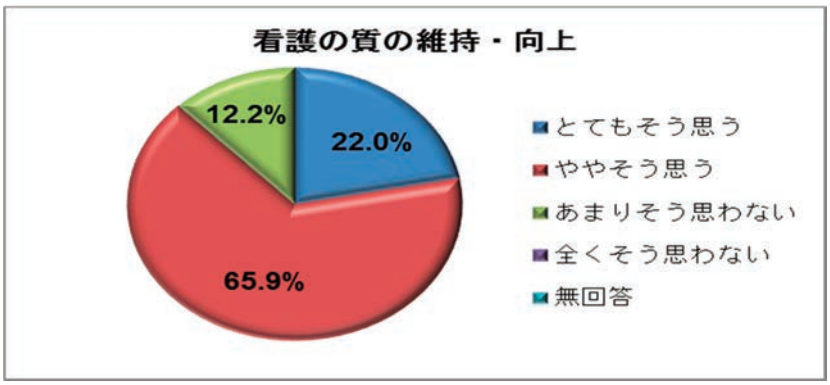


満点取得までに実施した回数



実施期間は90％以上が適当であると回答していた。
また半数以上が6～10回実施していた。

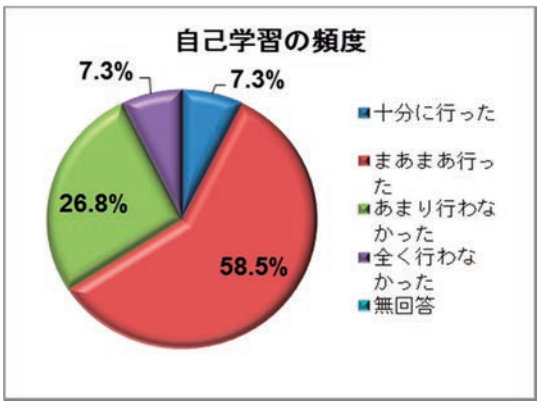
⑦更新テスト実施による看護の質の維持・向上について



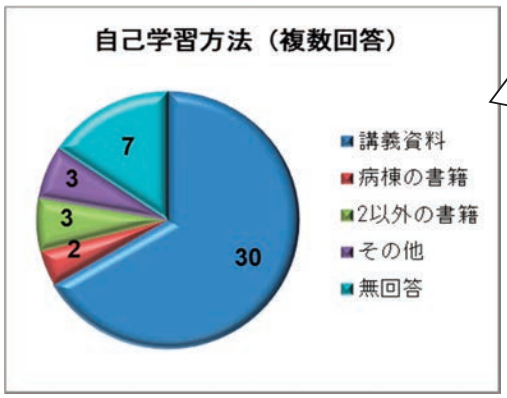
看護の質の維持・向上に更新テストは効果があるかについて、約9割が肯定的な回答でああった。

⑧更新テストのための自己学習について

自己学習の頻度



自己学習の方法



65.8％が自己学習を繰り返し実施していた。全く実施していなかったのは 7.3％であった。

静脈注射教育プログラムによる IV ナース認定制度開始から 5 年が経過した平成 26 年度は、安全で安心な静脈注射に関する看護の質を担保するため、必要な知識確認のための学習資料の提供とテストの実施による更新認定制度を導入し、対象者 51 名全員が認定を更新することができた。

更新認定制度は、来年度以降は対象者が 200～300 名となることを踏まえ、九州大学 Web 学習システムのｅラーニングを利用した。それにより更新認定制度が効率的に運用でき、対象者が簡単な方法で職場以外でも、いつでも何度でも学習できるような環境を整え、更新制度第 1 回目は円滑に実施することができた。また今年度の更新認定者の 88%は、更新認定制度が静脈注射に関する看護の質の維持向上に有効であると評価しており、今年度の更新認定制度の目標はほぼ達成できたと考える。

また、今年度対象者の 63.4%がｅラーニング利用が初めてであったことから、来年度の更新認定制度では、更新認定制度実施前の準備として、SSO-KID を使用した Web 学習システムの利用方法を周知し、ｅラーニングの活用促進を図り、円滑な更新認定制度の運用ができるような取り組みの必要がある。

ＩＶナース育成ＷＧメンバーの活動の振り返り

ＩＶナース育成ＷＧは、プロジェクトに今年度から新たに設置され活動を開始し、静脈注射育成プログラムを継続した。またＩＶナース育成開始から 5 年が経過した今年度は、「ＩＶナース更新認定制度」についても検討・導入を開始することができた。ＷＧメンバーとして教育プログラムの企画・運営・評価、研修指導者としての参加、「更新認定制度」という新たな取り組みなどを通して、ＩＶナース育成に関する全容を理解し、改めてＩＶナースの育成や静脈注射に関する質の担保や向上の必要性を再認識した。また、ＷＧ活動が病院が提供する医療の質の向上にも繋がる重要な役割を担っていることも認識した上で、構成員一人ひとりが意見を出し合い活動を進めた。さらに自部署では、ＷＧの一員としてＩＶナース認定取得への働きかけ、実技指導、更新認定制度についての説明や更新テスト実施のサポートなどの活動ができた。

ほとんどの構成員は「ＩＶナース」として静脈注射教育プログラムの目的は理解していたが、ＷＧ活動自体が初めてであった。またＩＶナース育成プログラムが、講義・演習・試験と複数の過程があり、構成員は全ての工程を担当することが困難であるためプログラム全体を把握することが難しいこと、外部施設の看護職員を対象としたプログラムでもあることなど慣れない事が多く、活動開始当初は不安や緊張があった。しかし教育委員会所属の看護師長・副看護師長に加え、病棟・外来問わず色々な部署のリーダークラスのスタッフが構成員となることで、現場の状況を反映した有意義な意見交換ができた。また自部署だけでなく看護部全体に関わる教育プログラムを担当することで視野が広がり、自身の教育力やマネジメント力の向上にも繋がったと考える。

今後の課題と目標

ＩＶナース育成ＷＧの活動を通して、ＩＶナースの育成や静脈注射に関する質の向上の必要性を再認識し、教育に関わることができた。来年度は、静脈注射教育プログラムの継続、300 名余を対象とした「更新認定制度」の円滑な実施と評価、静脈注射実施機会の少ない部署への認定取得率増加のための働きかけなど、静脈注射に関する看護の質の担保・向上のための活動を構成員一人ひとりが主体的に行っていきたい。

2．医療機器操作強化 WG

平成 26 年度は、これまで実施してきた、身体侵襲の大きい特定の医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）に関する教育研修プログラム、教育支援ツールの開発、実施、評価を組織的・継続的に実施することを目的に、今年度から新しいメンバーを構成した。

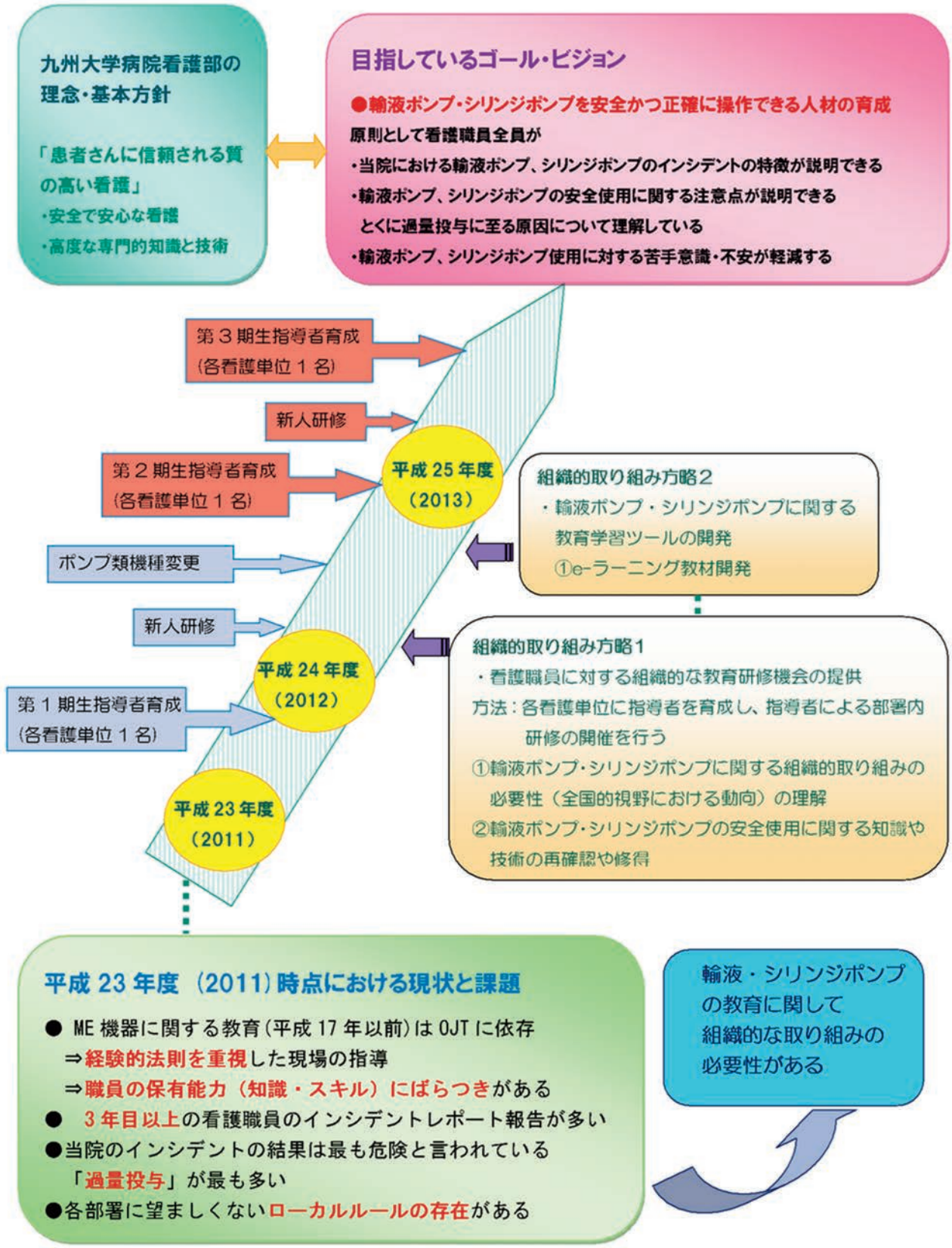
【平成 26 年度 MEWG 構成員】

所属	職位	氏名
南 6-2	看護師長	◎安養寺　美会子
北 10-1	看護師長	★藤岡　智恵子
セーフティマネージャー	副看護師長	○岩切　美津子
医療技術部臨床工学部門	臨床工学部門長	三島　博之
医療技術部臨床工学部門	臨床工学技師	●平井　雅博
北 11-2	副看護師長	○中屋　純子
南 8	副看護師長	○小林　沙
南 5-1	看護師	○稲垣　志保
南 7-2	看護師	●島田　勇樹
北 3	看護師	★鷲頭　朋子
北 6-2	看護師	★岩城　幸子
ICU	看護師	★豊福　由香里
救命 ICU	看護師	★●長友　眞紀
看護キャリアセンター	副看護師長	○山口　千夏
	看護師	吉川　由香里

◎WG 長　○スーパー指導者　●今年度スーパー指導者　★新メンバー

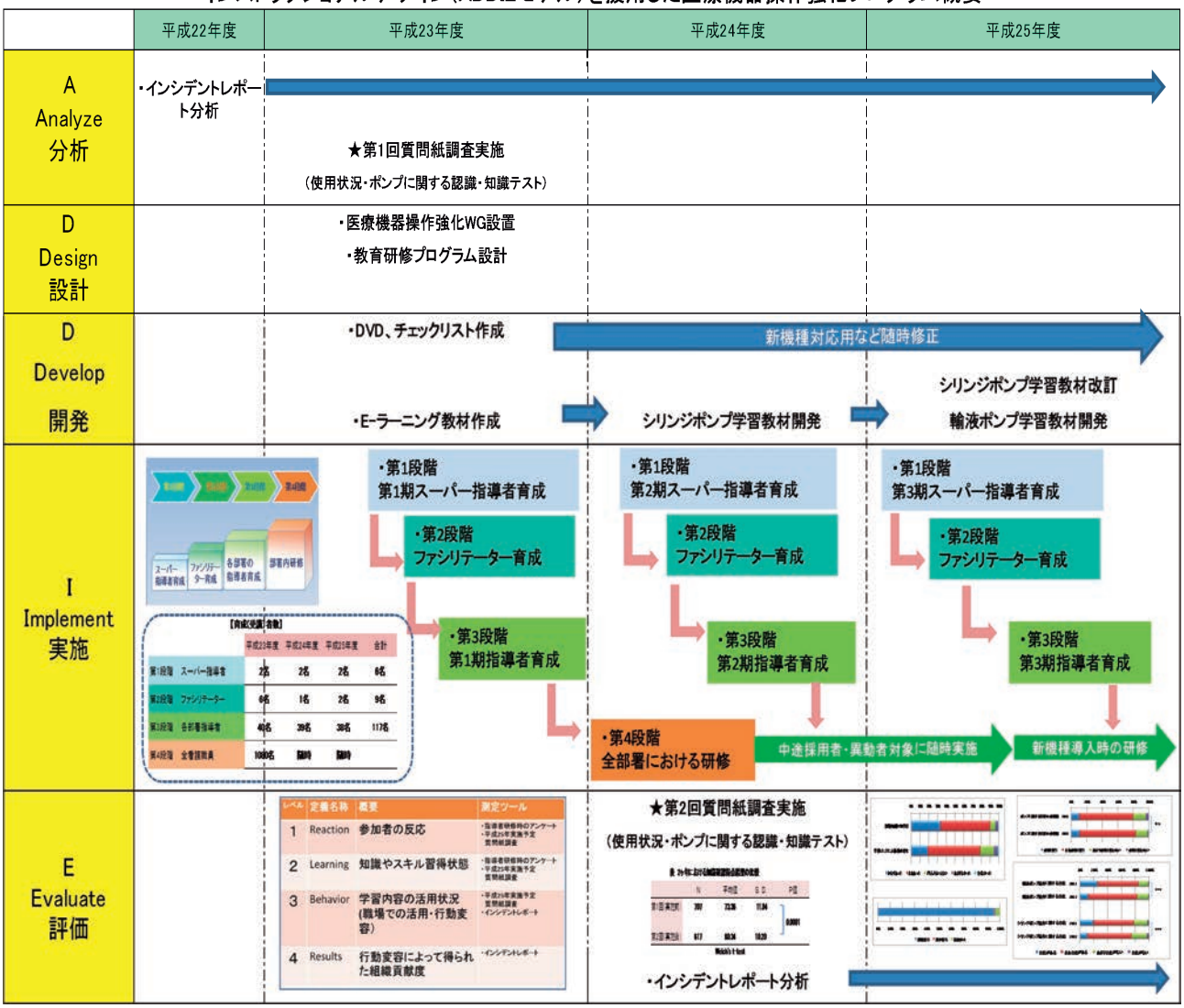
※スーパー指導者とは
テルモ株式会社が主催している「輸液・シリンジポンプ医療安全プログラム」研修を受講し、輸液ポンプ・シリンジポンプに関する知識や技術、指導マインドを学んだ者である。

◆九州大学病院看護部における輸液・シリンジポンプに関する現状と課題および今後の取組み概要◆



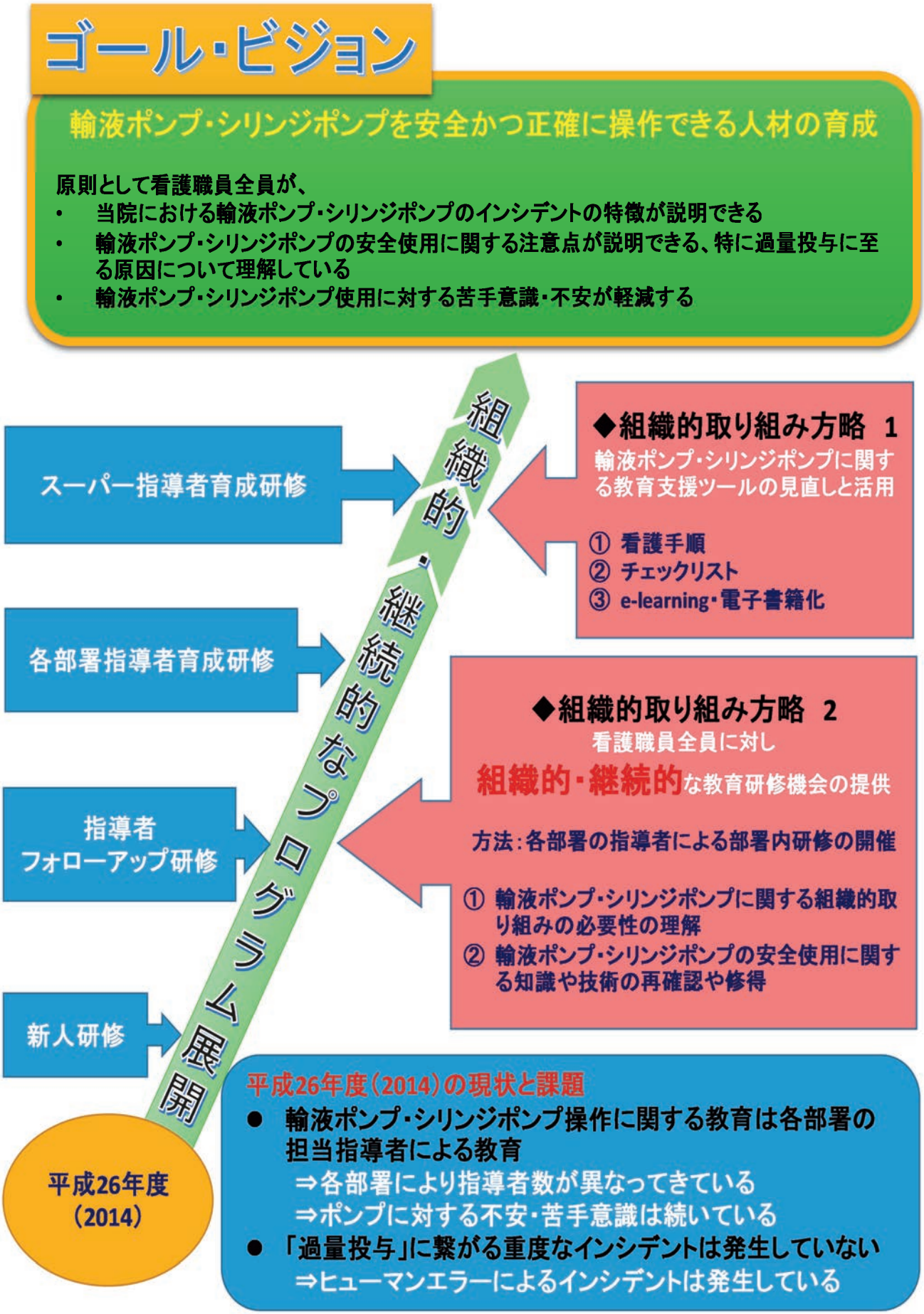
このビジョンを実現するための方略として、インストラクショナルデザインを援用し、教育プログラムの開発と実施に取り組んだ 25 年度までの内容をまとめたものが以下の通りである。

インストラクショナルデザイン（ADDIEモデル）を援用した医療機器操作強化プログラム概要



本教育研修プログラムの評価は、D.Kirkpatrick によって提唱された「レベル 4 フレームワーク」を用いて実施する。このフレームワークは、個人への影響範囲としての教育効果を「感情」「認知・態度」「行動」の 3 水準に、そして組織への影響範囲を「成果」の 1 水準、計 4 水準に分けて体系化している。平成 24 年度までの調査において、すでにレベル 1～3 に関して教育プログラムの十分な効果が発現していることが明確になっている。　25 年度は、最終段階のレベル 4「行動変容によって得られた組織貢献度」の評価に値するインシデントレポートの縦断的分析を行った。これらの実績を基に、26 年度も継続して以下のゴールビジョンを目指しプログラムを実施していく。

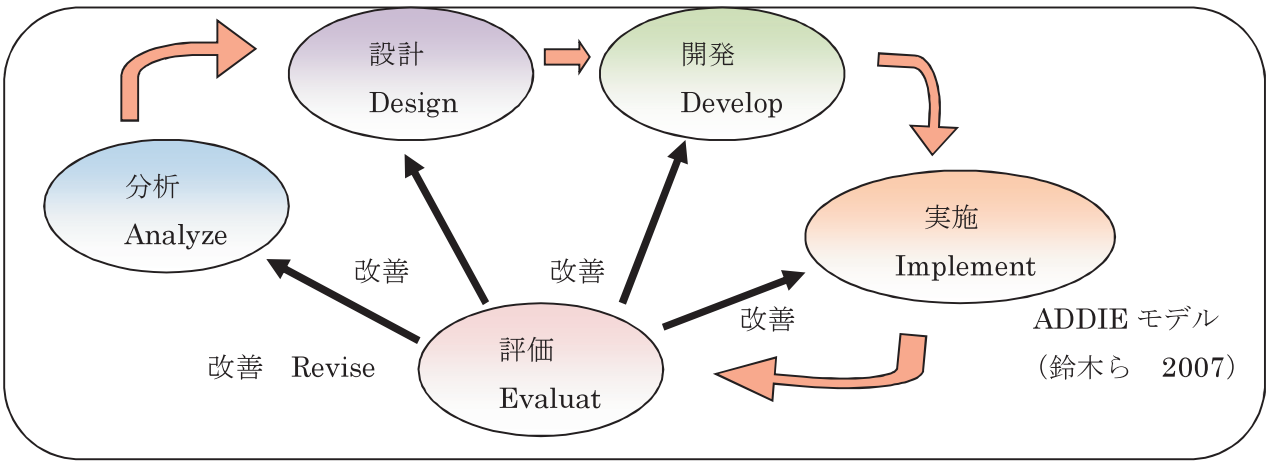
九州大学病院看護部における輸液・シリンジポンプに関する現状と課題および今後の取り組み概要



平成 26 年度実施計画

平成 26 年度は、これまで実施してきた、安全かつ正確に輸液ポンプ・シリンジポンプ操作のできる看護職員育成のための「輸液ポンプ・シリンジポンプ操作指導者」育成とその効果測定、輸液ポンプ・シリンジポンプの看護手順の見直しと電子書籍化、チェックリストの見直し、シリンジポンプｅラーニング教材の改訂を行う。

＜ADDIE モデル＞



A：Analyze（分析）

①インシデントレポート分析
②全看護職員を対象とした調査（第１回）
　ME 操作頻度、自信、ME に対する学習意欲
　知識確認テスト

【問題点】
・ME に関する教育は OJT に依存
・3 年目以上の看護職員のインシデント報告が多い
・当院の輸液ポンプ等に関するインシデントの結果は「過量投与」が最も多い

D：Design（設計）

【方略の 3 本柱】
Ⅰ　教育研修プログラム開発
Ⅱ　学習環境整備
Ⅲ　ME 機器使用環境の検討

D:Develop（開発）
I：Implement（実施）

Ⅰ　教育研修プログラム開発
　第１段階
　　スーパー指導者育成
　第２段階
　　ファシリテーター育成
　第３段階
　　各部署指導者育成
　第４段階
　　部署内研修

E：Evaluate（評価）：

平成 26 年度

年度毎のインシデントレポート分析継続

- 医療機器操作強化 WG 設置
  - ✓ 定例会（1 回/月）
  - ✓ プログラム企画・運営・評価
  - ✓ 看護手順・チェックリスト見直しと電子書籍化
  - ✓ e-learning 教材改定

【スーパー指導者】
・第４期育成研修　・第５期育成研修

【部署指導者】
・第３期フォローアップ研修　・第４期育成研修

ファシリテーター　ファシリテーター

平成 26 年度実施進捗状況

1）MEWG 会議

定期的（月 1 回）な会議を開催し、今年度のプログラム予定に沿って情報共有を行うとともに、それぞれの取り組み内容を検討し実施・評価を行っている。以下にその開催概要をまとめている。

開催回数	日時	主な概要
第 1 回	26 年 5 月 13 日（火）	・MEWG 継続について ・第 3 期指導者フォローアップ研修について ・輸液・シリンジポンプ医療安全プログラム受講者について ・今後の WG 運営について
第 2 回	26 年 6 月 16 日（月）	・WG 構成員名簿について ・輸液・シリンジポンプ医療安全プログラム受講者について ・第 3 期指導者フォローアップ研修プログラムについて
第 3 回	26 年 7 月 24 日（木）	・第 3 期指導者フォローアップ研修についての振り返り ・第 4 期指導者育成研修について ・看護手順（輸液ポンプ・シリンジポンプ）、新機種シリンジポンプチェックリストの見直しについて ・次期輸液・シリンジポンプ医療安全プログラムについて
第 4 回	26 年 9 月 25 日（木）	・輸液・シリンジポンプ医療安全プログラムを受講しての感想 ・「輸液・シリンジポンプ指導者」の役割・名簿・研修修了証・ナビゲーション入力について ・看護手順（輸液ポンプ・シリンジポンプ）、新機種シリンジポンプチェックリストの見直し進捗状況と検討
第 5 回	26 年 10 月 23 日（木）	・「輸液・シリンジポンプ指導者」の役割・名簿について ・第 4 期指導者育成研修プログラム内容について ・看護手順（輸液ポンプ・シリンジポンプ）、新機種シリンジポンプチェックリストの見直し進捗状況と検討
第 6 回	26 年 10 月 23 日（木）	・看護手順（輸液ポンプ・シリンジポンプ）、新機種シリンジポンプチェックリストの見直し進捗状況と検討 ・第 4 期指導者育成研修プログラム内容について
第 7 回	26 年 12 月 25 日（木）	・看護手順（輸液ポンプ・シリンジポンプ）、新機種シリンジポンプチェックリストの見直し進捗状況と検討 ・第 4 期指導者育成研修プログラム内容について
第 8 回	27 年 1 月 15 日（木）	・第 4 期指導者育成研修プログラム内容について ・看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト報告書について
第 9 回	27 年 2 月 26 日（木）	・第 4 期指導者育成研修の振り返り ・看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト報告書について

2）「輸液・シリンジポンプ指導者」の役割の明確化と名簿作成

輸液ポンプ・シリンジポンプ指導者が自覚をもち、それぞれの部署における活動が円滑に進むよう「輸液・シリンジポンプ指導者」の役割を明確化し、名簿を作成した。以下にその内容を示している。

輸液・シリンジポンプ指導者の役割

1.　役割

輸液・シリンジポンプの安全かつ正確な使用の定着のために下記の事項を実施する。

1）　輸液・シリンジポンプの正しい操作方法・知識を修得する。

2）　輸液・シリンジポンプに関する教育・指導を行う。

3）　輸液・シリンジポンプ使用に関する問題点を抽出し、改善に取り組む。

2.　活動内容

1）　部署の他の輸液・シリンジポンプ指導者と協働し、部署内の研修企画および運営について中核的存在として活動を行う。

2）　既卒の入職者、中途採用者、部署異動してきたスタッフに対する輸液・シリンジポンプ操作や管理に関する指導を行う。

3）　新機種輸液・シリンジポンプに関する部署の窓口となり、部署のスタッフに伝達指導する。

4）　新人看護職員を対象とした『看護実践研修』の指導者として参加する。

3.　要件（選出基準）

1）　九州大学病院看護部クリニカルラダーⅡ以上の認定者とする。

2）　ME機器に関心を有し、輸液・シリンジポンプの安全な操作の推進のためにリーダーシップが発揮できるものとする。

輸液・シリンジポンプ指導者名簿	
部　　署	氏　　名
ウエストウィング１・２階	田村　拓哉（1） 小田　浩二（1） 宮崎　美枝（1） 倉光　由樹（3） 大藪　由加（3） 小林　祐樹樹（４） 池田　沙織（４）
南棟５階-1	越智　理絵（1） 井上　千加（2） 高浪　良子（3） 大田　亜由子 （４）
南棟５階-2	稲垣　志保（1） 福田　美穂（2） 坂口　博亮（2） 安川　まゆみ （2）渡部　秀美（2） 木村　真悠子（3） 大坪　未歩（４）
南棟６階-1	平川　亜希（1） 片岡　薫（3） 平田　恵美子（４）
南棟６階-2	岡本　冴子（2） 冨永　リエ（3） 榎木　路子（４）
南棟７階-1	末山　美江（1） 松澤　奈穂美（1） 横尾　陽（3） 竹下　まゆみ （４）
南棟７階-2	島田　勇樹（1） 山本　優（2） 相原　加奈子（2）深野　美樹（3） 濱崎　美代（４）
南棟８階	泉　由香里（1） 小林　理沙（1） 峯下　香織（2） 宮崎　可奈（2） 田原　和代（3） 渡邊　宏美（3） 安武　佳代子（４） 藤井　裕 子（４）
南棟９階	赤松　めぐみ（1） 石亀　耕平（2） 河野谷　梢（2） 福田　久美 （3）　髙宮　満（3） 上家　雅未（４） 安倍　梨紗子（４）
南棟 10 階	本多　麻里子（2） 松尾　優子（2） 横手　円（3） 松村　亜矢（４） 中村　加奈（４）
南棟 11 階	則武　円（1） 藤井　美穂子（2） 岡本　由佳（2） 原嶋　尚子（3） 伊﨑　啓子（3） 添田　貴昭（４） 岡本さゆり（４）
北棟３階	赤間　多麻美（1） 小山　恵利子（1） 梶原　由起子（1） 麻生島　かおる（2） 鷲頭　朋子（2） 初村　暢子（3） 日下部　紗衣（４）
北棟外来４・５階	野口　順子（1） 梅田　里香（2） 中村　智子（3） 後藤　佑紀（４）
北棟６階-1	舩越　美紀（1） 青木　美恵（2） 栗原　洋輔（3） 坂元　ミキ（４）
北棟６階-2	西田　由紀（1） 岩城　幸子（2） 桑原　尚子（４）
北棟７階-1	島田　実弥（2） 為石　明子（3） 城門　利恵（４）
北棟７階-2	坂本　さやか（1） 荒木　美樹（3） 大石　三菜美（４）
北棟８階-1	田上　可織（2） 油井　美樹（3） 山本　薫（４）
北棟８階-2	高田　貴代（3） 兒玉　真琴（４）
北棟９階-1	川久保　宏美（1） 花田　晶子（2） 岩下　富士子（3） 千々岩　裕子（４）
北棟９階-2	海藏寺　寿江（1） 江上　奈津子（2） 坂元　美妃（3） 清水　由紀子（４）

部　　署	氏　　名
北棟 10 階-1	藤原　典子（1）　上村　孝子（1）　小柳　亜衣（4）
北棟 10 階-2	蒲池　史子（3）　田上　絢子（4）
北棟 11 階-1	牛尾　智子（3）　平川　隆明（3）　古賀　清夏（4）
北棟 11 階-2	中屋　純子（1）　荒巻　慶子（2）　塚本　舞（3）　堀　公人（4）
集中治療部･救命救急センター（救命 ICU）	高田　早苗（1）　谷山　絵美（1）　豊福　由香里（2）　長友　眞紀（2）　倉重　真梨子（3）　財津　望（3）　的場　なおみ（4）　水川　達（4）
救命救急センター（ＣＣＵ・ハイケア病棟）	山本　恵子（1・3）　横山　ゆり（2）　石嶋　綾子（2） 本間　美紀（3）　笠　輝明（4）　宮路　暁博（4）
総合外来	荒木　維子（4）
放射線部・光学医療診療部	川野　良枝（2）　原口　夕紀（3）　成瀬　千枝（4）
手術部	受田　美紀（1）　津々浦　康（1）　山本　恵己（3） 福嶋　政也（3）　樋口　幸子（4）
＊　氏名横の数字は　（1）１期生　（2）２期生　（3）３期生　（4）４期生を示す 平成 27 年２月１日	

３）新人研修

平成 26 年度　１ヶ月フォローアップ研修・看護実践研修２

（１）実施概要

【日時】平成 26 年 5 月 8 日（木）8：30～16：30、9 日（金）8：30～17：00

【場所】百年講堂中ホール 1・2、臨床大講堂、WW3 階スキルトレーニングセンター

【対象】平成 26 年度採用者 159 名（新卒者 135 名、口腔ケア・CPR のみ既卒者 24 名）

【講師・指導者】

	口腔ケア	**心肺脳蘇生法**	**感染防止の技術**	**スキンケア**	**輸液ポンプ・シリンジポンプ使用法**	**内服薬の安全管理**
時間	100 分	100 分	100 分	100 分	100 分	100 分
担当者	歯科医師、歯科衛生士他	救急看護（桑田）	感染管理（安永・森）	皮膚排泄ケア（原田）	ME 操作指導者（山口）	教育 WG（樋渡）
指導者	二木寿子（歯科医師）	①桑田睦子（ハイケア）	①岩崎栄理（南 5-1）	①滑川歩美（南 9）	①田村拓哉（WW1・2）	①梅津人美（南９）
5月8日	山田看護師長（北 7-1）	②荒田弘樹（南 5-2）	②喜入美千子（南 8）	②松田美由紀（南 10）	②山本　優（南 7-2）	②古川潤子（南 11）
		③高橋公一（南 10）	③野村　愛（北 6-１）	③矢野可久子（北 7-2）	③倉重真梨子（ＩＣＵ）	③米山裕子（北３）
		④泉　涼子（北３）	④柿木　悟（北 7-2）	④冨永美千代（北 11-2）	④受田美紀（手術部）	④森　朋子（北 8-1）
		⑤谷口　愛（北 11-1）		⑤橋本智香（ＣＣＵ）		
		⑥吉川由香里（キャリアセンター）				
指導者	二木寿子（歯科医師）	①桑田睦子（ハイケア）	①西　美由紀（WW1・2）	①古川潤子（南 11）	①島田実弥（北 7-1）	①樋渡千佳（南 11）
5月9日	山田看護師長（北 7-1）	②田中　朋（南８）	②秋野照美（南 6-1）	②矢野可久子（北 7-2）	②岩下富士子（北 9-1）	②船越幸江（北 6-2）
		③泉涼子（北 3）	③松崎千佳（南 7-2）	③大重まどか（北 8-2）	③坂元美妃（北 9-2）	③末藤清美（北 11-1）
		④内藤礼子（北 10-2）	④原田徳子（北 10-1）	④谷口聖子（北 11-1）	④長友眞紀（手術部）	④石村徳彦（ＣＣＵ）
		⑤進藤幸之助（救命ＩＣＵ）		⑤村井春菜（北 11-2）		
		⑥吉川由香里（キャリアセンター）				

【研修内容】

（１）１ヶ月フォローアップ研修

①グループワーク「看護実践を通して感じていること・困っていること」

②フェイススケール記載

③講義「医薬品管理・薬剤の基礎知識」　　薬剤部：末安正典

④講義「輸液関係 ME 機器の安全使用と取り扱い」　　ME センター：三島博之

⑤講義「麻薬の管理」　　看護部：伊藤明美

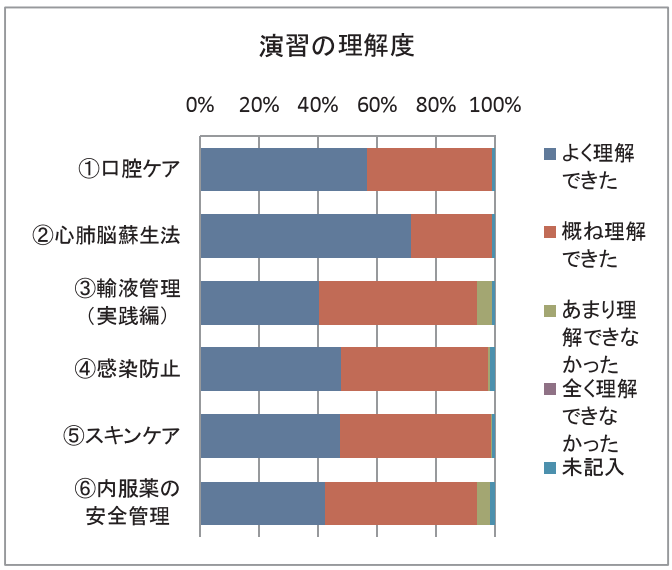
（２）看護実践研修２について

①口腔ケア　②心肺脳蘇生法　③感染防止技術の実際　④スキンケア

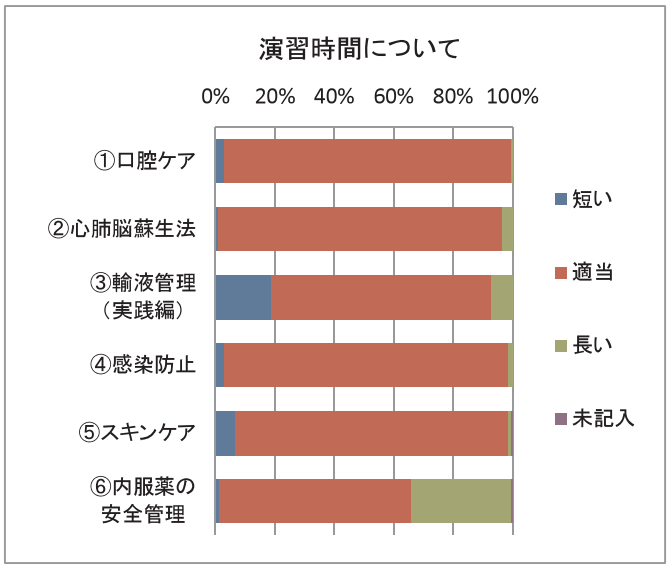
⑤輸液・シリンジポンプの使用法　⑥内服薬の安全管理

対象：新卒者 135 名

①演習の理解度



②演習時間



③その他研修に関する受講生からの意見や感想（一部抜粋）

- 自分が思っていたよりこの２日間でリフレッシュできた。技術を丁寧に教えていただきとても勉強になった。
- 先輩看護師がどのような１年を過ごしたか知りたい。
- このような研修は心のリフレッシュにつながってとてもよかった。
- 指導者が優しく丁寧に教えてくださるのでとても勉強しやすく役立つ。
- だんだん病棟にも慣れてきたので研修内容がすぐに勤務に活かせそうと思った。
- １ヶ月経ってからなのでわかりやすかった。理解しやすかった。
- 今までの復習になったり新たな知識が増えてよかった。
- 輸液・シリンジポンプをもう少し長くしてほしい。
- スキンケアの研修時間が短いと思った。洗浄などももっと演習時間がほしかった。講義内容はわかりやすく、指導者さんも丁寧に教えてくださったのでよかった。
- 基礎をしっかりと教えてくださるので質問しやすく、よく理解できた。楽しい雰囲気作りをされていて学ぶのが楽しくなった。
- 研修がとても楽しい。

④研修風景

４）第３期輸液ポンプ・シリンジポンプ指導者フォローアップ研修

【日時】平成 26 年 6 月 26 日（木）13：00～16：30

【会場】ウエストウィング 3 階　スキルトレーニングセンター　C

【対象者】第３期輸液・シリンジポンプ指導者：35 名

【講師・指導者・運営】MEWG メンバー9 名

安養寺美会子看護師長　三島博之臨床工学技師長　岩切美津子副看護師長
山口千夏副看護師長　中屋純子副看護師長　小林理沙副看護師長
稲垣志保看護師　島田勇樹看護師　吉川由香里看護師

【研修協力】テルモ（株）平沢幸雄氏

【目的】各部署のおける指導者としての活動状況を振り返り、今後の活動が円滑に行えるための方法を再確認する

【目標】１．医療機器に関する取り組みの意義および指導者としての役割を再確認できる
２．各部署における部署内研修の実施状況を確認できる
３．同期の指導者との演習や意見交換を通して学んだ内容を自部署の研修計画に反映することができる

【研修概要】

時間	内容
～ 12：30	受付
13：00～ 13：20	オリエンテーション ①研修の目的・目標・内容の説明 ②指導者の役割（１～４期生） ③事前アンケート質問の回答
13：20～13：40	実践報告（南 7-2 深野美樹さん　北 6-1 栗原洋輔さん）
13：40～14：40	グループワーク　事例に対する研修計画発表準備
14：40～14：50	休憩
14：50～15：30	グループワーク　事例に対する研修計画立案発表
15：30～15：50	グループワーク　他グループの発表を聞いて振り返り
15：50～16：15	振り返りの発表
16：15～16：30	まとめ・アンケート ①　説明：最終的な部署の研修計画案を作成し提出（7 月 15 日まで）

【振り返りのグループ発表】

《シナリオA》

昨年度は第３期生として新機種ポンプ導入の際、部署内研修を実施しました。今年度が、新卒者５名と既卒者１名が部署に配属され、新卒者は５月に看護実践研修２で「輸液・シリンジポンプの集合研修」が終了しています。部署の特徴としてポンプ類の使用頻度が少なく、時々（１ヶ月に１～２回程度）手術後の患者さんが、輸液・シリンジポンプを使用する程度です。昨年度からスタッフを見ていると、ポンプ類に触ることが少ないので、受け持ちになった担当者は少し不安そうに見えます。部署の指導者はもう一人いるのですが、「新機種のことはわからない」と少し頼りになりません。
スタッフ人数：25 名（経験年数は１年目～30 年目）
計画立案時期は６月とする。

●他のグループの良かった点・参考になった点
・フェイススケールで不安を解消の評価に活用（理解度の数値化）
・経験年数に偏りがある点をふまえて質問を行う（経験年数の長いスタッフへの質問）
・e-learning の活用（事前学習）
・各グループに１年生を入れる
・テストを行う（指導に反映）
・研修前後でアンケートを取り入れる（現状把握に有効）
・事前資料の配布
・勤務時間内での研修（スタッフの負担軽減）

●自グループの良かった点
・研修後のテスト結果を踏まえて個別指導
・１年生を交えたグループ編成（研修終了直後であるため知識が新しい）
・研修後のテストを期間をあけて実施したこと（振り返りにつながる）
・研修前後のテスト結果を比較することにより評価が明確
・グループ編成が少人数であるため、個別に対応できる
・アンケートやテスト結果を提示することで振り返りができる
・ショートカンファを活用し、１５分設定の研修であったため、スタッフの負担が少ない
・フェイススケールを活用することで客観的に研修を評価

●自グループの改善点
・時間外の研修であるため、短時間での研修計画を
・事前学習の活用
・指導内容（演習）をしぼる
・１５分での研修内容
・タイムスケジュールを詳細にする

《シナリオB》

昨年度は第３期生として新機種ポンプ導入の際、部署内研修を実施しました。今年度が、新卒者５名と既卒者１名が部署に配属され、新卒者は５月に看護実践研修２で「輸液・シリンジポンプの集合研修」が終了しています。部署でのポンプ類の使用頻度は高く、ほとんど毎日輸液・シリンジポンプを触っていて、スタッフも基本操作は理解しているようです。部署の特徴として昇圧剤や抗不整脈薬などの薬剤を使用している患者さんが多く、薬剤の投与間違いは生命に関わってくる危険性があります。部署の指導者はもう一人いるのですが、「新機種のことはわからない」と少し頼りになりません。

スタッフ人数：25 名（経験年数は１年目～30 年目）

計画立案時期は６月とする。

●他のグループの良かった点・参考になった点

・時間内に実施
・短時間で実施
・相方の指導を先に実施、次回の演習でメインにしてもらう
・テスト後、e-learning を視聴して講義を実施
・抜き打ちテストと後日テストを実施（評価しやすい）
・インシデントを紹介して危険なことを具体的に理解できる
・e-learning 視聴
・細かい目標設定
・病棟相談会の後に研修を実施（指導者とスタッフの負担軽減）

●自グループの良かった点

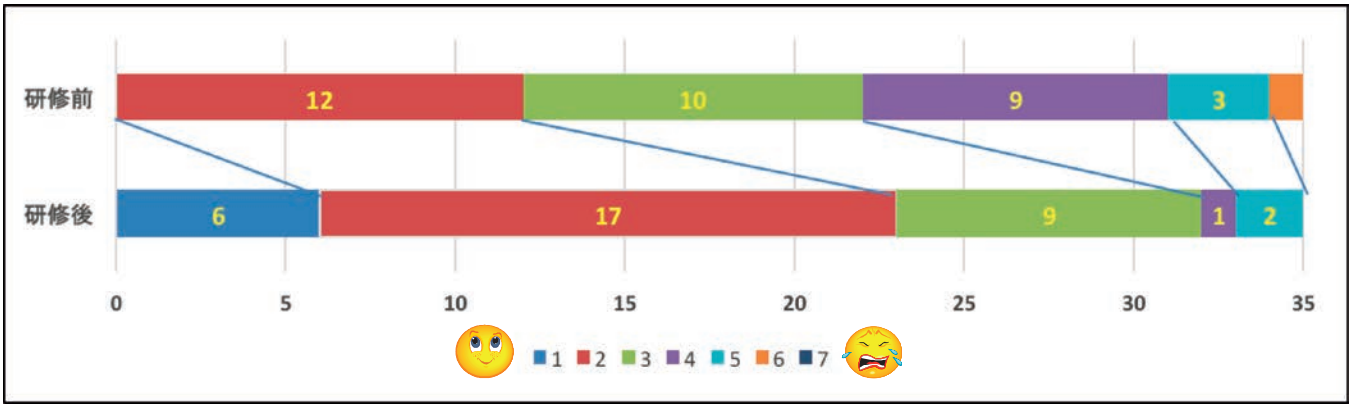
・理論を踏まえた上で講義を実施
・相方の指導を指導者としての自覚をもってもらうように積極的に指導
・ipad の活用
・業務時間内で実施
・ディスカッションを行う

●自グループの改善点

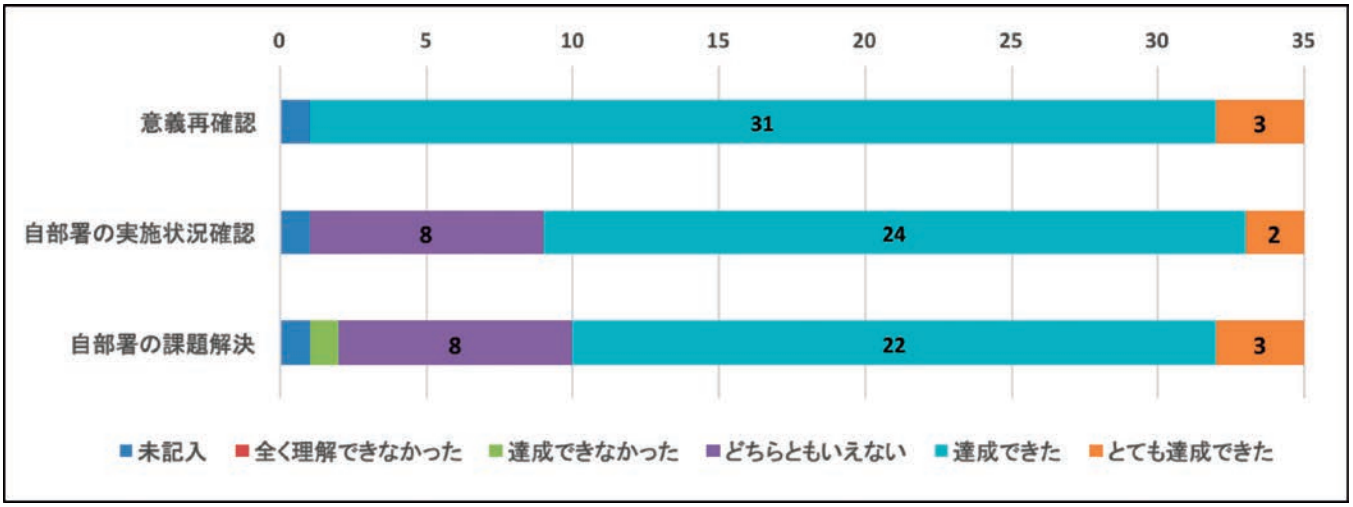
・講義の時間
・インシデントの紹介
・資料の活用
・ＰＮＳのパートナーの上の人に説明し、指導してもらう

【アンケート結果】n=35

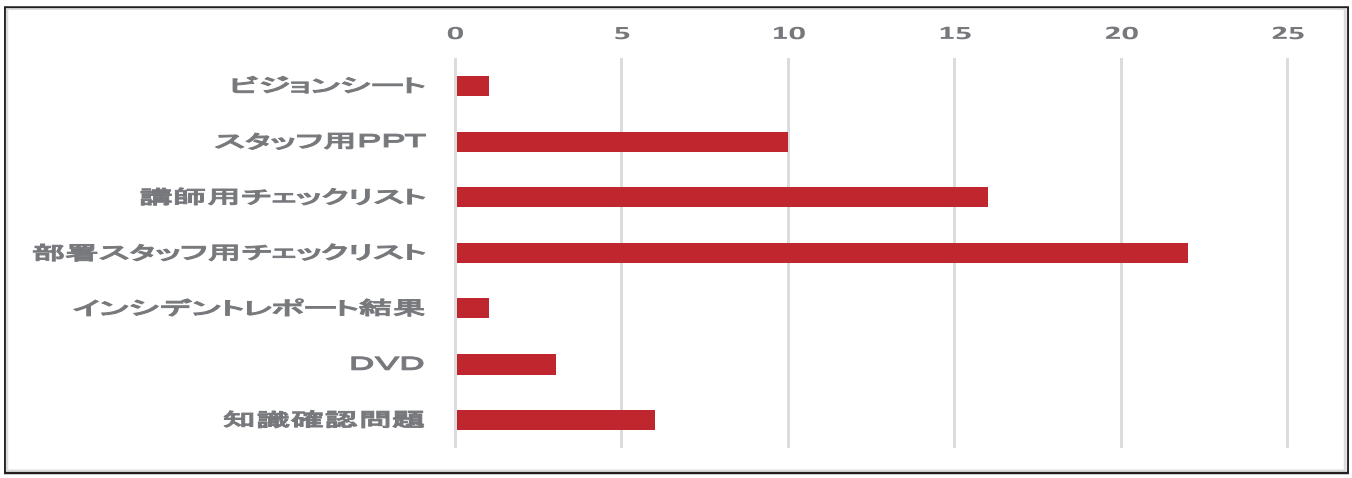
①フェイススケール



②目標達成度



③部署内研修で使用している資料（複数回答可）



その他（e-learning、ipad、テルモパンフレット、オリジナル作成ＰＰＴ）

④感想

- 新しいシリンジポンプのことが聞けてよかった。
- 研修メンバーで計画を立てられて参考になった。
- グループワークを行うことで指導内容の様々な方法を知ることができた。また自部署だけではなく他部署の現状も把握することができよかった。

- 他部署の輸液ポンプ・シリンジポンプの使用状況や指導方法を聞けてよかったです。指導方法を参考にできました。
- 他部署の実際が聞けたので参考になった。
- 現時点で困ったことがなかったので、フォローアップの意義があまり感じられなかった。
- 輸液ポンプ・シリンジポンプを取り扱う機械が多くなっている気がします。研修に参加するたびに気をつけないといけないと再認識できます。
- 研修にインシデントレポートや e-learning 利用などの他部署の工夫点を知ることができてよかったです。
- 皆さんの色々な案を聞くことができ、計画立案の知識の幅が広まりました。実際に行う際に今回の研修内容を活用したいと思います。
- ふり返りができて良かったです。ありがとうございました。
- 他部署の研修状況が知れてよかった。

【研修風景】

第 3 期指導者フォローアップ研修は、第 2 期スーパー指導者 2 名(中屋副看護師長、小林副看護師長)を中心に MEWG メンバーで検討を重ね計画を立案した。

第 3 期指導者の中心的な役割は、平成 25 年度中に全部署において導入予定の新機種輸液ポンプ(TE-261)について部署のスタッフ全員に部署内研修を実施することであった。そのため今回の研修では「指導者としての教育力」をこれまで以上に重視し、グループワークでは、シナリオを提示し、実際の指導計画を立案・発表するという形式を採用した。その後、それぞれ別のグループからフィードバックを行い、最終的には自部署での研修概要を立案するところまで実施した。今回は、輸液ポンプ・シリンジポンプに関わるインシデント情報も 2 件紹介していたため、計画立案にも情報共有するなどの案があがり、部署での指導計画に役立つ研修になったと思われる。

5）第4期輸液ポンプ・シリンジポンプ指導者育成研修

【日時】平成 27 年 1 月 21 日（水）　8：30～16：30

【会場】ウエストウィング 3 階　スキルトレーニングセンター

【対象】各看護単位より選出された「輸液・シリンジポンプ」指導者　第 4 期生 37 名

【講師・指導者・運営】MEWG メンバー14 名・平井臨床工学技師

【研修協力】テルモ（株）平沢幸雄氏

【目的】輸液・シリンジポンプの安全使用に関する知識やこれらを学ぶ必要性を再確認し、指導者としての必要な知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1. 医療機器操作強化WGの取り組みの背景について理解し説明できる
   1) 医療安全（輸液・シリンジポンプ）に関する全国の動向
   2) 当院の ME 機器に関連したインシデントの現状と調査結果
   3) 当院看護部の理念との関連性
   4) 輸液・シリンジポンプ指導者について
2. 指導者として必要な輸液・シリンジポンプに関する基本的知識を深め理解できる
   1) 輸液ポンプの構造・名称・管理・使用時の注意点と指導のポイント
   2) シリンジポンプの構造・名称・管理・使用時の注意点と指導ポイント
3. 部署における研修実施に向けてレディネス(心身の準備状態)を整えることができる
   1) シリンジポンプに関する部署での研修内容を理解し、研修計画を立案することができる
   2) 研修実施時における指導者としての留意点と自分自身の行動目標を言語化できる

【研修内容】

	内容	担当
～8:30	受付	鷲頭、岩城、豊福
8:30～8:45	オリエンテーション、アンケート	中屋
8:45～9:05	輸液・シリンジポンプ指導者育成について	安養寺
9:05～9:25	医療安全と輸液ポンプ・シリンジポンプに関する動向	岩切
9:25～9:55	ポンプの構造と機能	三島
9:55～10:05	質問・回答	山口・小林
10:05～10:15	休憩	―
10:15～10:25	アイスブレイク	山口
10:25～11:30	現行シリンジポンプの正しい使い方(小グループ A～L で演習)	中屋・小林

11:30～12:00	シリンジポンプ新機種説明	テルモ平沢
12:00～13:00	昼休憩	―
13:00～13:10	シミュレーションに関するオリエンテーション	島田　長友
13:10～14:00	シリンジポンプ使用によるシミュレーション研修 テーマ：閉塞アラーム又は残量アラーム解除の実施 小グループ A～L グループで実施。iPad による撮影。	↓
14:00～14:15	GW①撮影した動画視聴。A~L グループ内振り返り、動画 1 本決定	島田　長友
14:15～15:00	GW②大グループ 1～6 にわかれ GW①で決定した動画を 2 本視聴 視聴した動画を元にグループ内ディスカッション	↓
15:00～15:10	休憩	―
15:10～15:30	自部署のシリンジポンプに関する課題や研修に関する意見交換	吉川　稲垣
15:30～15:50	個人ワーク　自部署での研修計画立案(2/10 提出)	↓
15:50～16:10	研修の振り返り・質疑応答	↓
16:10～16:30	まとめ、アンケート	↓

【知識確認テスト】

研修前後に“医療安全全国共同行動「いのちを守るパートナーズ」”のホームページに掲載してある知識確認問題（応用問題）を用いて知識の習得状態を評価している。

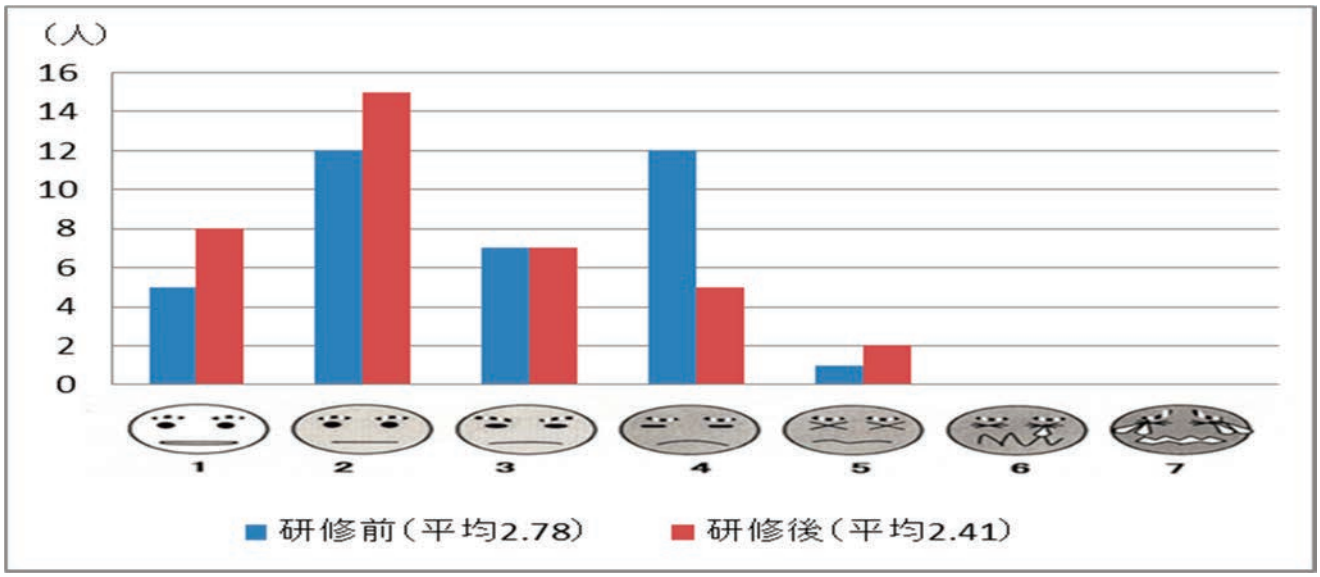
	N	輸液ポンプ	S.D	p 値	シリンジポンプ	S.D	p 値
研修前	37	62.03	15.38	0.00028	62.30	24.60	＜0.0001
研修後	37	72.03	13.51		87.43	11.82	

研修前後における知識確認テストの平均点は、輸液ポンプ・シリンジポンプともに研修後の方が、有意に点数は上がっていた。

【アンケート結果】n=37

①フェイス・スケール

研修前後におけるフェイススケールの推移を確認している。



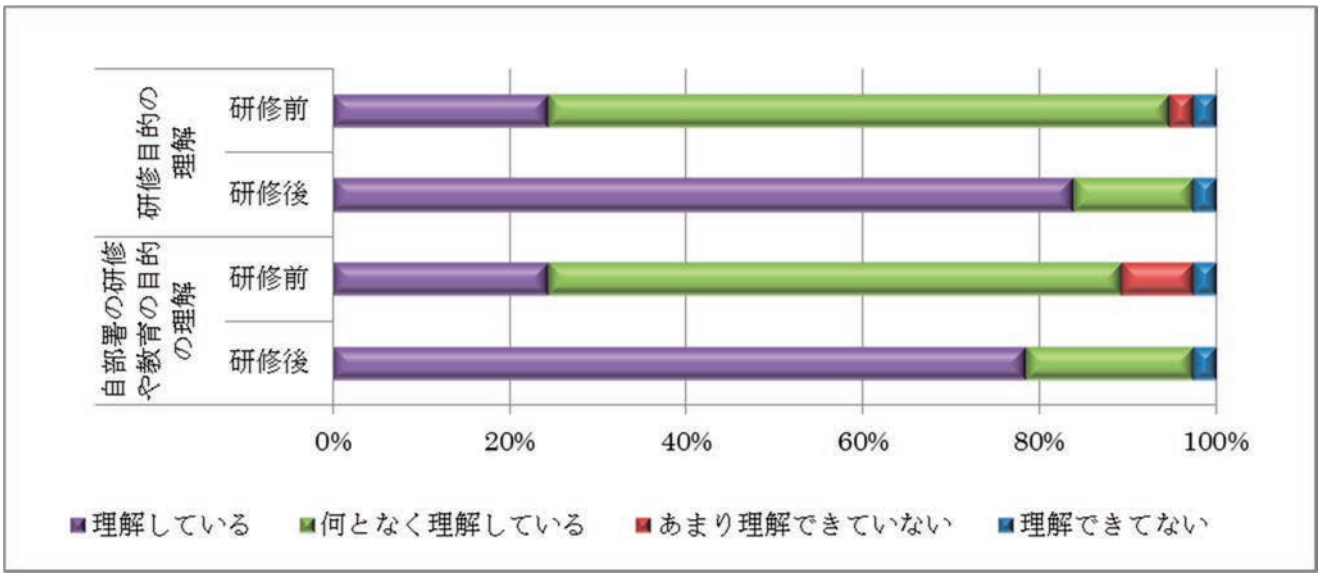
□選択したフェイススケール値の理由□

前	理由	後	理由
4	少し不安があるため	3	研修受けて少し不安が軽減したため
3	輸液･シリンジポンプを使用する機会が少ないので、自信がないから	2	指導に対し不安はあるが、いい復習、勉強になった。
3	特別落ち着かない状態ではないので。朝病棟が忙しそうだったのが少し気になる。	2	記載なし
2	輸液ポンプ･シリンジポンプは日常業務で使用しているものであるが､正しい知識をもって使用することが大切であると考えるため､今回の研修で知識を再確認したいと思っています。	4	とても勉強になったが、シミュレーション研修がとても難しかった
4	どのような内容を学んでいくのか分からないため	2	復習すること（根拠や正確な名称等）が今回の研修でわかったから、①ではありませんでした。
3	輸液･シリンジポンプについて特に苦手意識はないが､指導者となると､どうすればいいのかイメージがわかないため。	3	輸液･シリンジポンプで曖昧だった知識･技術が勉強できてよかった。今後、指導者として行動していけばいいか不安がある。
4	指導者育成と言う研修に参加するのが初めてであり緊張している	3	研修が終了したという安堵と、今後の自部署での研修の不安があるため
3	輸液･シリンジポンプの使用法について、全てを正しく理解し病棟スタッフに指導できるか不安があるため	2	研修を受けたことによって今後の活動に対する不安が軽減できたから。
4	研修ですが､通常使用しているポンプでも誤った使用方法を行っているかもしれないから	4	研修が終了するまでは不安。
1	頑張ろうと思っている	1	1 回習っていたことでも忘れていたことが沢山あった。自部署にも同じようなスタッフがいると思うので説明し、オリエンテーションを行いたいと思った。
2	普段ポンプ類を使用しているのに､分からないことが多いのではないかという不安がある	2	基本的な知識の確認はできたが、部署のスタッフへの伝達講習の不安があるため。
4	あまり得意ではなく､また指導する立場で上手く皆に伝達できるかが不安だから	2	輸液･シリンジポンプの理解は深かった。しかし指導の面が上手くできるかか不安。
2	新しいポンプはどんなところが違うのか興味がある	3	部署のスタッフ研修をしないといけないため
3	新しい知識､知らなかったことをしっかり覚えたいという気持ちもあるが､それを部署に伝えなければならないため、責任感も感じる、少し緊張する。	1	根拠や起こりうる危険性について知ることができ、とても勉強になった。最初は緊張していたけど、グループで楽しく学ぶことができ充実した研修になった。

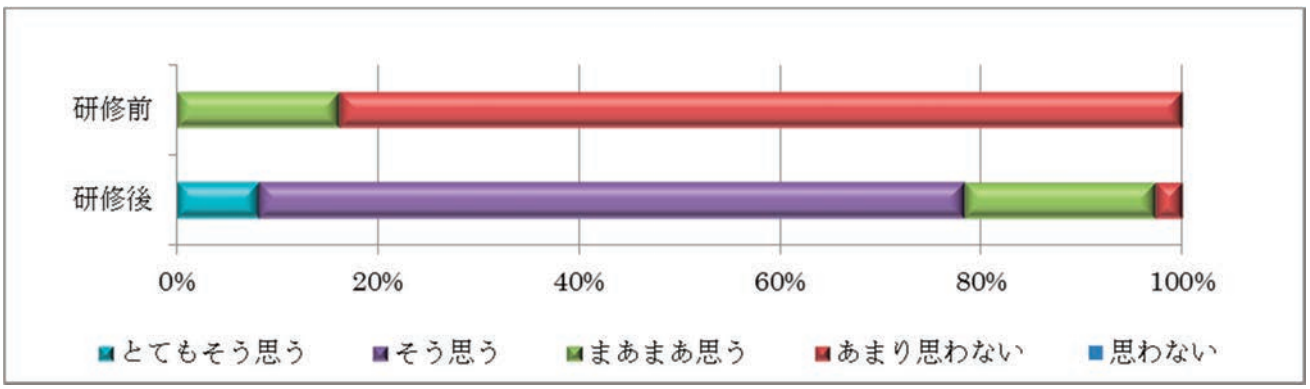
2	多くのことを学び自部署のスタッフに学習機会を設け､スタッフ全体が理解できるようにするため多くを学びたい	2	再学習するためのよい機会になったが、今後、病棟で指導、伝達を行うのが大変そう。
4	輸液ポンプやシリンジポンプの指導者として正しい知識をわかりやすく指導できるか不安	2	初めは指導するのが難しそうだと思ったが、実際に輸液ポンプやシリンジポンプを使用し、指導方法がわかり安心した。
4	どんなことを学ぶかまだ分からないから	3	指導を頑張らないといけないと思ったから。
2	輸液･シリンジポンプについて今回じっくり学べるため	5	部署のスタッフへ上手に伝達できるか少し不安になった。
4	緊張しているため	2	ホッとしている
1	面識のある先輩方が沢山いらっしゃるのでリラックスできた	1	今まで疑問に思ってたことが解決できた。のびのびとした研修でとても楽しかった。
3	難しそうなイメージがあり､ちょっと心配になる	2	研修前よりしっかりと使用方法と注意点を知ることができた。
2	輸液ポンプ･シリンジポンプについて知識があまりない部分もあり、少し不安があるから	1	研修前より輸液ポンプ･シリンジポンプの取り扱いについて、理解ができたから。
4	普段使わない操作等ポンプの使用に自信がなく指導できるか不安	3	今後、部署で指導していく立場として頑張ろうと言う気持ち。
1	研修で学べることに期待しています	1	とても勉強になった。
5	正しく伝達していくことができるか不安だから	5	伝達講習に対する不安があるから。
2	輸液ポンプ･シリンジポンプについて復習できたらいいと思うので｡ただ 1 日研修は長いと思った。	2	研修はすごく学ぶことがあり、今後に活かせそうだと感じた。部署へ今回学んだことをどう伝達していくかしっかり考えていきたい。
2	研修で学びを深めようと思う	1	病棟に持ち帰って学びを深めようと思った。
2	少し緊張しているから	2	色々な知識や技術を学んでためになった。
2	どんなことをするのだろうという緊張､普段のポンプの使い方が間違っていないか確かめたい。	4	普段、輸液ポンプ、シリンジポンプを使用する事は多いが、知らないこと、分からない事があった。今後、部署でスタッフへの指導をするのに不安がある。
2	シリンジポンプと輸液ポンプの再確認と､知らないことを学べる期待から	1	事前アンケートでの不明点や知りたかったことが分かったから。講義を受けることで知識の再確認ができたから。
1	改めて輸液ポンプ･シリンジポンプについて学べるので楽しみ	2	部署での研修が少し心配。
1	疲れもなく知っているスタッフもいて気持ちに余裕があるから	4	部署に戻って、スタッフに研修をしなければいけないため。

3	どんな研修になるか興味があるのと、学んで帰ろうというまじめな感じで選んだ	2	研修を受けて自身のスキルアップ、知識向上になった。自部署での研修や知識の向上に携わっていくと思うと不安（FS⑤も〇つけている）。
2	特別な苦手意識等はないため	1	正しい知識を得ることがで、指導への自信がついた。
4	当部署で輸液ポンプやシリンジポンプを常時使用していないので、自信がない。研修を通して学びを深めたい。	4	研修を受けたことで、自身の振り返りができたのでよかったが、指導者としての立場で教育する難しさを知った。
4	輸液ポンプに比べシリンジポンプを使う頻度がほとんどなく、以前使用していた時の記憶も曖昧なので自信がない	2	研修で操作や指導方法等、かなりの学びがあったが、部署内のスタッフに効果的に伝えられるか少し不安が残る。
4	特に大きな理由はないが、あまりワクワクしないため	3	やることは理解したいがワクワクすることではないため

②指導者育成研修の目的と自部署の研修や教育の目的の理解について



③「輸液・シリンジポンプの指導者」は、あなたにとってやりがいのある役割であるかについて



④感想（一部）

指導に対する不安はあるが、輸液･シリンジポンプに対する知識も深められるし、指導という面でも自分自身の成長につながるので、頑張ろうと思った。
指導する際、どのような内容をどうやって伝えていけばいいか考えられる内容だった。1-3 期生と相談しながら自部署へ今回の研修を還元したい。グループワークの iPad での撮影は不要に感じた。グループ内でシミュレーションする姿を見るだけでも十分と思う。
指導者、新人の役をして指導の難しさを感じた。また新人の気持ちも分かったため、今後は今日の研修を活かして自分の知識を高め、患者さんのことも考えたケアができるよう指導も行っていきたい。
すごく勉強になった。自分自身、知らなかったことや忘れていたことが多く驚き反省した。
指導する難しさと、反応を見ながら進める大切さを学んだ。
指導者の方がとても質問しやすい雰囲気で、楽しく研修に参加することができた。
自分が研修を受け指導を行うことで、病棟でどのような説明を行えばよいか、どのようなことが大切かがわかり、実践に活かすことができると思った。
知識の確認と、実際に演習できてよかった。指導方法については、ビデオにとって振り返ることで、自分を客観的に見ることができた。他部署や前年度の取り組みを話した事はとても参考になった。
輸液ポンプ、シリンジポンプで曖昧に覚えていたことの振り返りにつながった。
勉強になった、新人の頃どういう気持ちだったか等考えて、少し緊張した。
再学習の機会になり、今後病棟で研修会を開きたいと思う。
指導看護師役や、新人看護師役等、色んな役を実際にやってみることで、それぞれの立場からどのように指導したらいいか、わかりやすいかが理解できた。また、自分の知識の再確認ができた。
以前、研修を受けたことがあるが、実際に使用する機会がないとすっかり忘れてしまうこともあった。改めて学ぶことで継続した学びが必要だと思った。
時間が過ぎるのが早いくらい、楽しく受講することができた。ありがとうございました。
今まで何気に使用していたポンプをしっかりと根拠を持って注意していこうと思った。
普段、何気なく使用しているポンプ類ですが、まだ知識が浅かったことを実感させられた。しっかり復習してまずは自分の知識も増やした上で、スタッフに還元したい。
今まで何となくこうだろうと思っていたことに、はっきり理由づけすることができ、よかった。
シミュレーション研修は緊張したが、全体の講義は分かりやすくてためになった。これを伝えていく責任があると思うと、不安で一杯です。
輸液ポンプやシリンジポンプの使用方法は慣れていると思っていたが、根拠を知ると改めて機器管理の難しさ等を知ることができた。丁寧に説明や相談にのっていただき、ありがとうございました。
シミュレーションを踏まえ、グループディスカッションでポンプの知識だけでなく教えるにはどうするか考えることができた。
自分の新人指導をしている姿を見て言葉遣いや説明の仕方等、改善すべき点も沢山あることがわかった。
改めて講義を受け、演習をし、今まで理解できていなかったことがわかった。
疑問点が解決できて非常に有意義でした。ありがとうございました。
自分の指導を iPad に取ることによって、自分の欠点が分かった。
グループワークは苦手に思っていたが、メンバーに恵まれたこともあり、充実した研修だった。
丁寧で分かりやすかった。テルモの方も来ていたので、疑問も解消した。
他部署での使用方法等を知ることができ、グループワークが楽しく新鮮だった。
シミュレーション学習等、部署での取り組み等を考えると、もっと違う人選があったのではないかと思える。

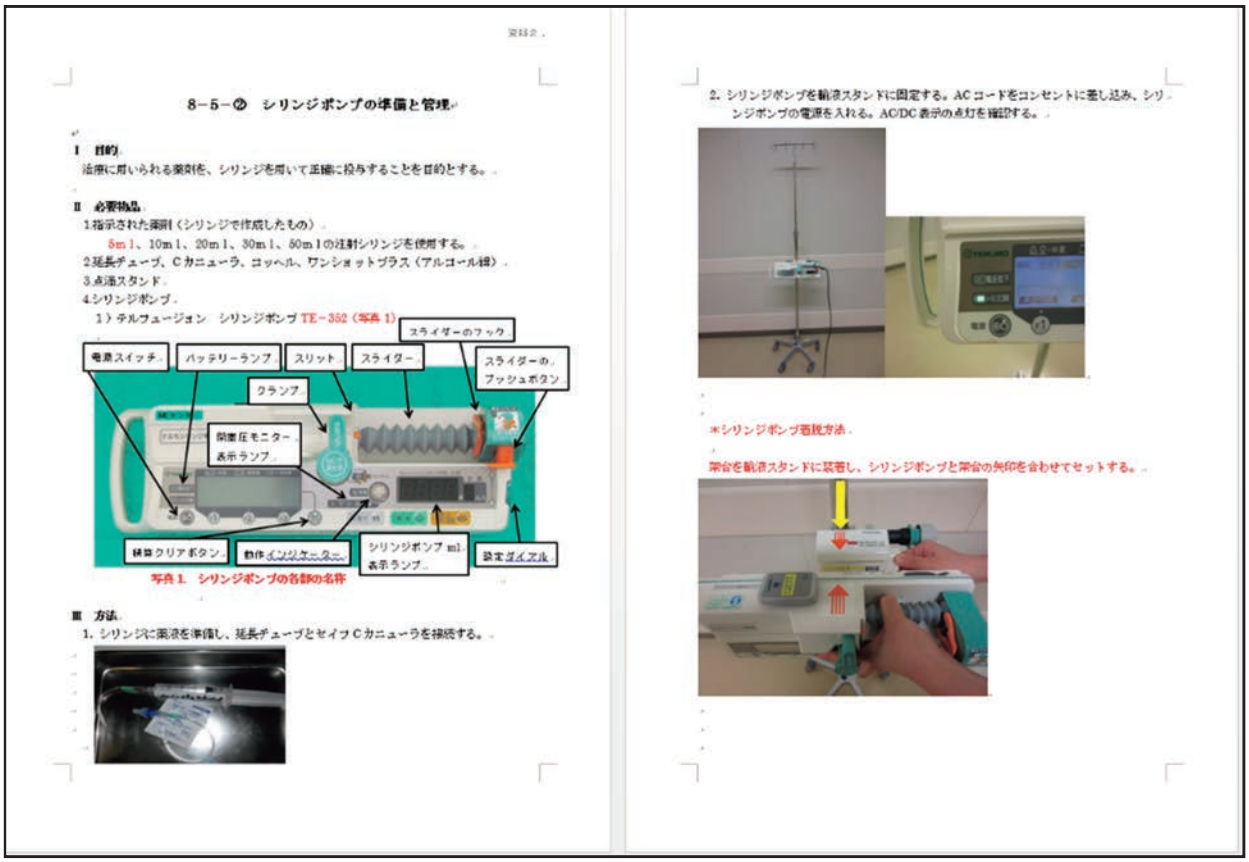
【研修風景】

第４期指導者育成研修では、今年度育成された第３期スーパー指導者である島田看護師と長友看護師を中心に検討を重ね計画を立案した。今回は ipad を演習に活用し、自分が実施した指導についての振り返りを行うにあたって、指導者全員が視覚的に行うことを重視し、新人看護師・指導看護師・評価者の３役割を全て行えるよう時間配分し実施した。知識確認テストやアンケート結果から、第４期指導者育成研修は、研修の目的や指導者としての役割をしっかり理解することができ、輸液ポンプ・シリンジポンプの機器操作も知識の確認ができていた。さらに、シミュレーション演習・グループワークを通して振り返ることにより、指導者としての教育マインドを意識できる研修であったと思われる。今後は、自部署での研修計画に基づいて研修ができるよう、WG でサポートをしていく。

6）看護手順・チェックリストの見直しと電子書籍

今年度は、シリンジポンプの新機種変更に伴い、部署の指導者がそれぞれの学習会で使用するチェックリストと輸液ポンプ・シリンジポンプの手順と管理についての看護手順を電子書籍化する目的で、WG メンバーを３グループに分け、それぞれで見直しを行った。

（1）シリンジポンプの手順と管理



8－5－② シリンジポンプの準備と管理

Ⅰ 目的
治療に用いられる薬剤を、シリンジを用いて正確に投与することを目的とする。

Ⅱ 必要物品
1.指示された薬剤（シリンジで作成したもの）
5ml 1、10ml 1、20ml 1、30ml 1、50ml 1の注射シリンジを使用する。
2.延長チューブ、Cカニューラ、コッペル、ワンショットプラス（アルコール綿）
3.点滴スタンド
4.シリンジポンプ
1）テルフュージョン シリンジポンプ TE－352（写真 1）

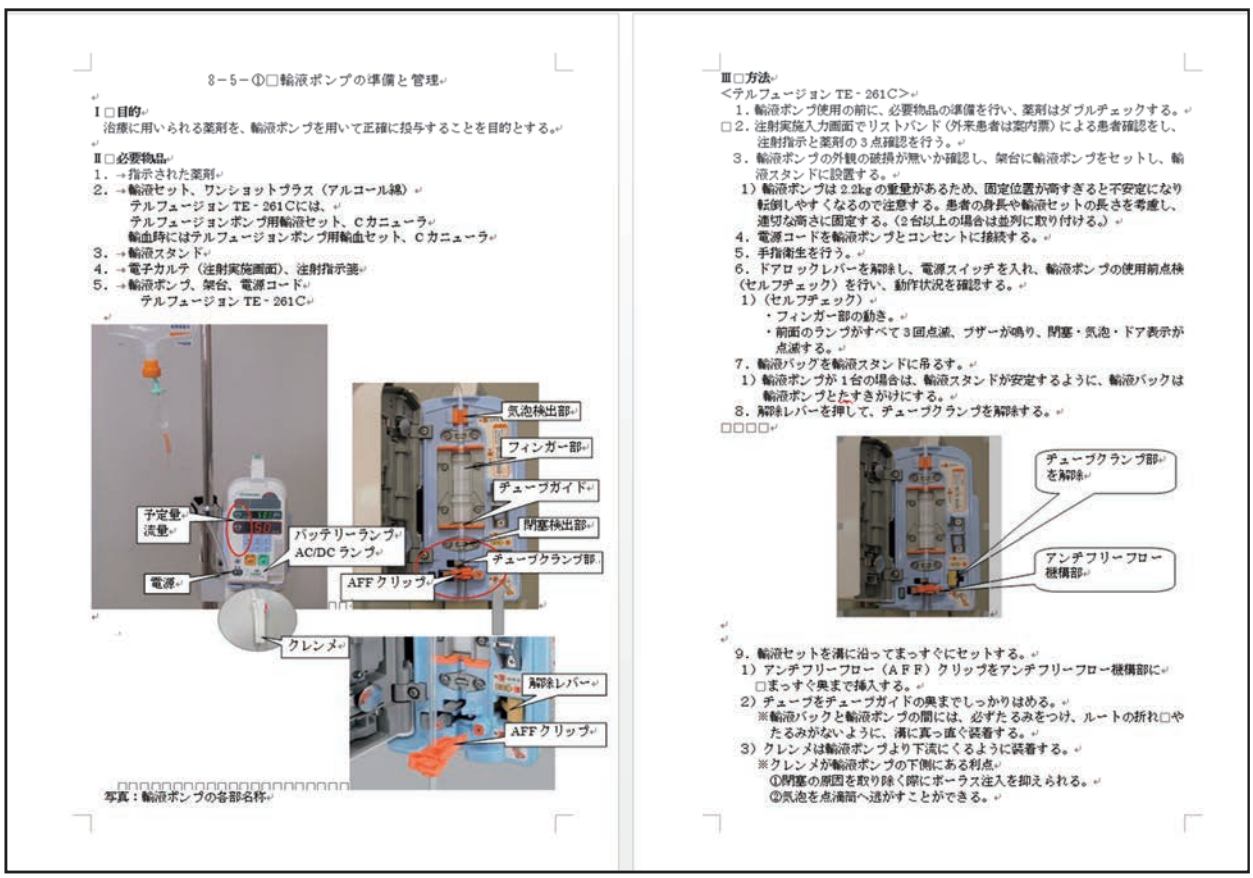
写真 1. シリンジポンプの各部の名称

Ⅲ 方法
1. シリンジに薬液を準備し、延長チューブとセイフＣカニューラを接続する。

2. シリンジポンプを輸液スタンドに固定する。ACコードをコンセントに差し込み、シリンジポンプの電源を入れる。AC/DC表示の点灯を確認する。

＊シリンジポンプ固定方法
架台を輸液スタンドに装着し、シリンジポンプと架台の矢印を合わせてセットする。

（2）輸液ポンプの手順と管理



8－5－①□輸液ポンプの準備と管理

Ⅰ□目的
治療に用いられる薬剤を、輸液ポンプを用いて正確に投与することを目的とする。

Ⅱ□必要物品
1．→指示された薬剤
2．→輸液セット、ワンショットプラス（アルコール綿）
テルフュージョン TE－261Cには、
テルフュージョンポンプ用輸液セット、Cカニューラ
輸血時にはテルフュージョンポンプ用輸血セット、Cカニューラ
3．→輸液スタンド
4．→電子カルテ（注射実施画面）、注射指示箋
5．→輸液ポンプ、架台、電源コード
テルフュージョン TE－261C

写真：輸液ポンプの各部名称

Ⅲ□方法
<テルフュージョン TE－261C>
1．輸液ポンプ使用の前に、必要物品の準備を行い、薬剤はダブルチェックする。
□2．注射実施入力画面でリストバンド（外来患者は薬内票）による患者確認をし、注射指示と薬剤の３点確認を行う。
3．輸液ポンプの外観の破損が無いか確認し、架台に輸液ポンプをセットし、輸液スタンドに設置する。
1）輸液ポンプは 2.2kg の重量があるため、固定位置が高すぎると不安定になり転倒しやすくなるので注意する。患者の身長や輸液セットの長さを考慮し、適切な高さに固定する。（2台以上の場合は並列に取り付ける。）
4．電源コードを輸液ポンプとコンセントに接続する。
5．手指衛生を行う。
6．ドアロックレバーを解除し、電源スイッチを入れ、輸液ポンプの使用前点検（セルフチェック）を行い、動作状況を確認する。
1）（セルフチェック）
・フィンガー部の動き。
・前面のランプがすべて３回点滅、ブザーが鳴り、閉塞・気泡・ドア表示が点滅する。
7．輸液バッグを輸液スタンドに吊るす。
1）輸液ポンプが１台の場合は、輸液スタンドが安定するように、輸液バックは輸液ポンプとたすきがけにする。
8．解除レバーを押して、チューブクランプを解除する。
□□□□

9．輸液セットを溝に沿ってまっすぐにセットする。
1）アンチフリーフロー（ＡＦＦ）クリップをアンチフリーフロー機構部に□まっすぐ奥まで挿入する。
2）チューブをチューブガイドの奥までしっかりはめる。
※輸液バックと輸液ポンプの間には、必ずたるみをつけ、ルートの折れ□やたるみがないように、溝に真っ直ぐ装着する。
3）クレンメは輸液ポンプより下流にくるように装着する。
※クレンメが輸液ポンプの下側にある利点
①閉塞の原因を取り除く際にボーラス注入を抑えられる。
②気泡を点滴筒へ逃がすことができる。

（3）チェックリスト

2014年度版【部署スタッフ用】
シリンジポンプ実施手順とチェックリスト

＊この手順とチェックリストは輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な使用法に限局しています。

	輸液手順	実施内容	注意ポイント
1	患者状態の把握と確認	□ 薬剤の準備	＊一患者一トレイの徹底
		□ 注射指示と薬剤を確認	＊日時・患者氏名・薬剤名・用量・用法・速度 ＊薬剤の使用目的も把握しておく 【九大の６R】 1．正しい患者　：患者氏名 2．正しい薬剤　：薬剤名・規格 3．正しい量　：1回投与量 4．正しい方法　：投与方法（経路・ルート） 5．正しい時間　：投与日時・速度（mL/時） 6．正しく記録　：実施を記載
		□ 患者の状態の確認とアセスメント	＊輸液ルート接続部位・ルートの長さ・必要物品を判断
2	シリンジポンプの準備	□ 外観の破損が無いか確認	＊破損・落下不具合発見時などの場合は、MEセンターへ返却 【履歴機能】 ★電源が入っていなくても、流量変更や落下・衝撃の履歴は機器本体に記録される
		□ 架台にシリンジポンプをセット □ ポンプを輸液スタンドに設置	＊安定性に注意 ＊シリンジポンプの重みにより不安定になるので、出来る限り5本脚の輸液スタンドを使用する
3	患者への説明と確認	□ 患者確認	＊患者にフルネームを名乗ってもらい、リストバンドで確認する ＊フルネームを指差し呼称
		□ シリンジポンプを使用して薬剤の投与することの説明	
		□ 注射指示と薬剤と患者（リストバンド）の**3点確認**	
4	ベッドサイドでシリンジポンプの準備	□ シリンジポンプの設置位置を確認	サイフォニング現象の防止 ＊シリンジポンプの位置は患者のベッドの高さ、または刺入部位の高さに合わせる 【サイフォニング現象とは】 患者接続部とシリンジの高低差により薬液が大量に急速注入されてしまうこと
		□ 電源の確保	＊電源コードがシリンジポンプ本体の電源 差込口とコンセントに接続されているか確認する ＊バッテリーランプが3つ点灯し、充電満了であることを確認する ＊バッテリ動作時は流量表示が点滅 （液晶表示部はバックライトが消灯する） 【充電満了時のバッテリー残量の目安】TE-352の場合 ・1個30分、2個1時間、3個3時間 、4個5時間　5個7時間以上。充電フルで12時間。 ・充電時は電源を切り6時間以上充電して下さい ・バッテリーが少ない場合は、充電満了のものと交換する
		□ 電源スイッチを長押しして電源を入れる □ スライダーをスリットに近づけ、残量アラームが鳴ることを確認	【セルチェックの確認】 ＊すべてのランプが点滅、その後シリンジ・押し子クラッチ・閉塞圧M・流量デジタルが点滅・点灯する
5	シリンジの装着	□ シリンジをセットする □ クランプを引きあげて横に回す □ スライダーを最大まで引き延ばす □ シリンジのフランジを、めもりと患者名が確認できるようにスリットにセット □ シリンジの押し子をスライダーで挟む □ クランプを降ろしてシリンジを固定 □ 使用しているシリンジと液晶表示部のシリンジサイズが一致していることを確認	＊シリンジは必ず指定のものを使用する ＊シリンジポンプの「スリット」→「スライダー」→「クランプ」の順にもれなくセットする ＊セット後は液晶表示部の「セット完了」を確認 ＊正しくセットできていないと、液晶表示部に「押し子をセット」又は「フランジをセット」と赤く点滅する。また押し子外れアラーム又はスライダーのランプが点滅する

これら 3 つの資料を、ワーキング内で検討することにより、院内における言葉や知識の統一化が可能となった。今後は、これらを電子書籍化し部署に配布されている ipad にダウンロードすることにより、いつでもどこでも手軽に視聴することが可能となり、輸液ポンプ・シリンジポンプ操作に関する知識・技術の向上に繋がるツールにする。

これまで育成・教育した実績

	23 年度	*24 年度*	*25 年度*	*26 年度*	*合計*
第 1 段階　スーパー指導者	2 名	2 名	2 名	2/4 名	10 名
第 2 段階　ファシリテーター	6 名	1 名	2 名	－	
第 3 段階　各部署指導者	1 期生 40 名	2 期生 39 名	3 期生 39 名	4 期生 37 名	 154 名
第 4 段階　全看護職員	1,080 名	随時	随時	随時	－

プログラム効果測定

【平成 26 年度のインシデントレポート結果　(平成 26 年 12 月末時点)】

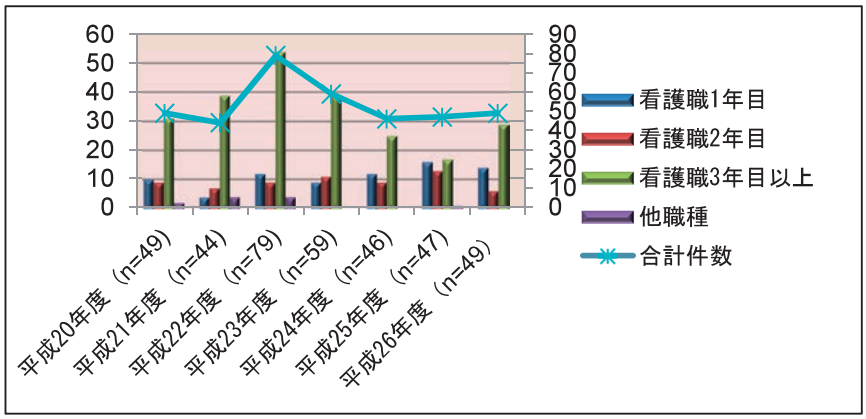
《インシデントレポート件数》

ME 機器に関連したシンシデントレポートの件数は、26 年度もこれまでと変わらない件数で推移すると思われる。例年、総インシデントレポート数の 1～2%を占めている。

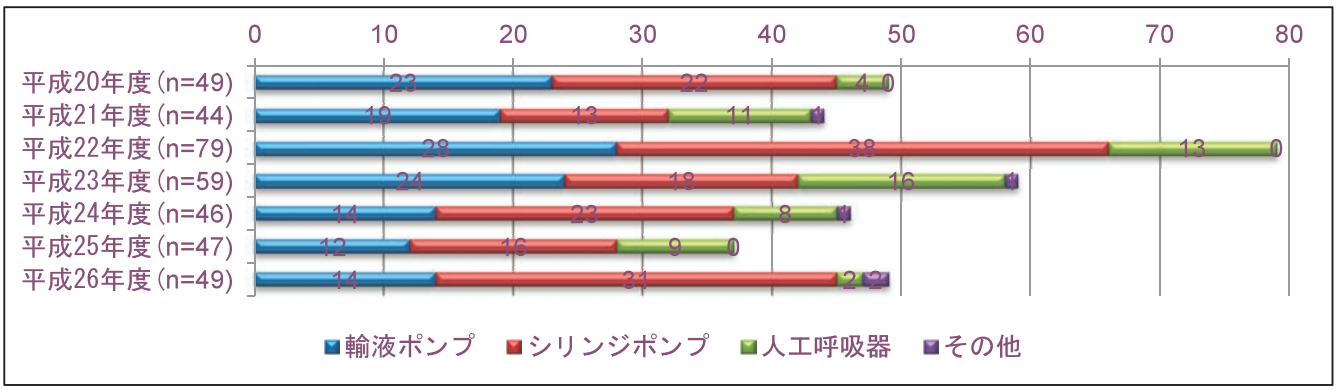
	総インシデント報告件数	ME機器に関する件数
平成20年度	3423	49 (1.43%)
平成21年度	3553	44 (1.24%)
平成22年度	2712	79 (2.91%)
平成23年度	3965	59 (1.49%)
平成24年度	3871	46 (1.21%)
平成25年度	3758	47(1.24%)
平成26年度		49

《職種と経験年数》

報告者の職種と経験年数は、看護職員からの報告が 9 割以上であり、例年と変わりないが、経験年数については、減少していた看護職 3 年目以上の報告数が、年度途中である今年度は既に、60%を占めている。

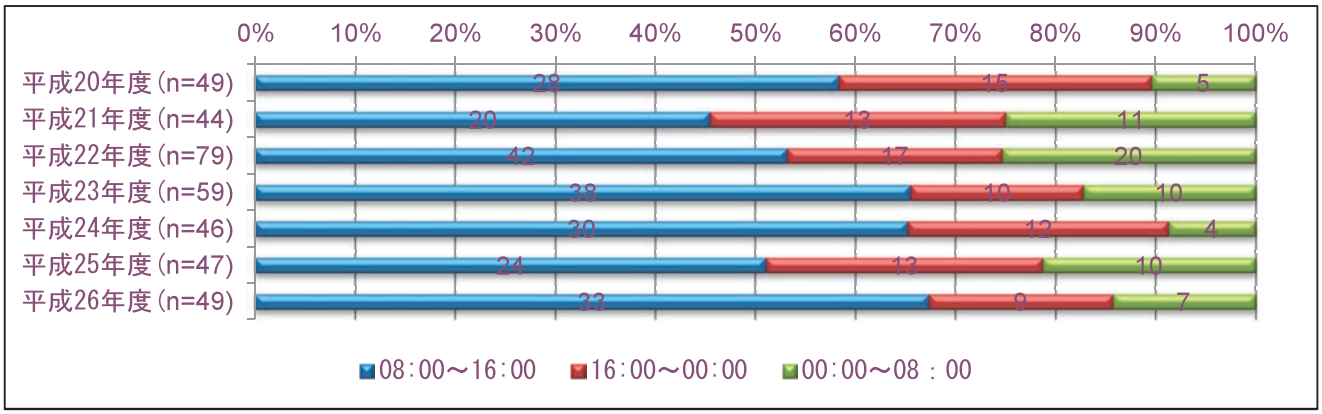


《ME 機器の種類》



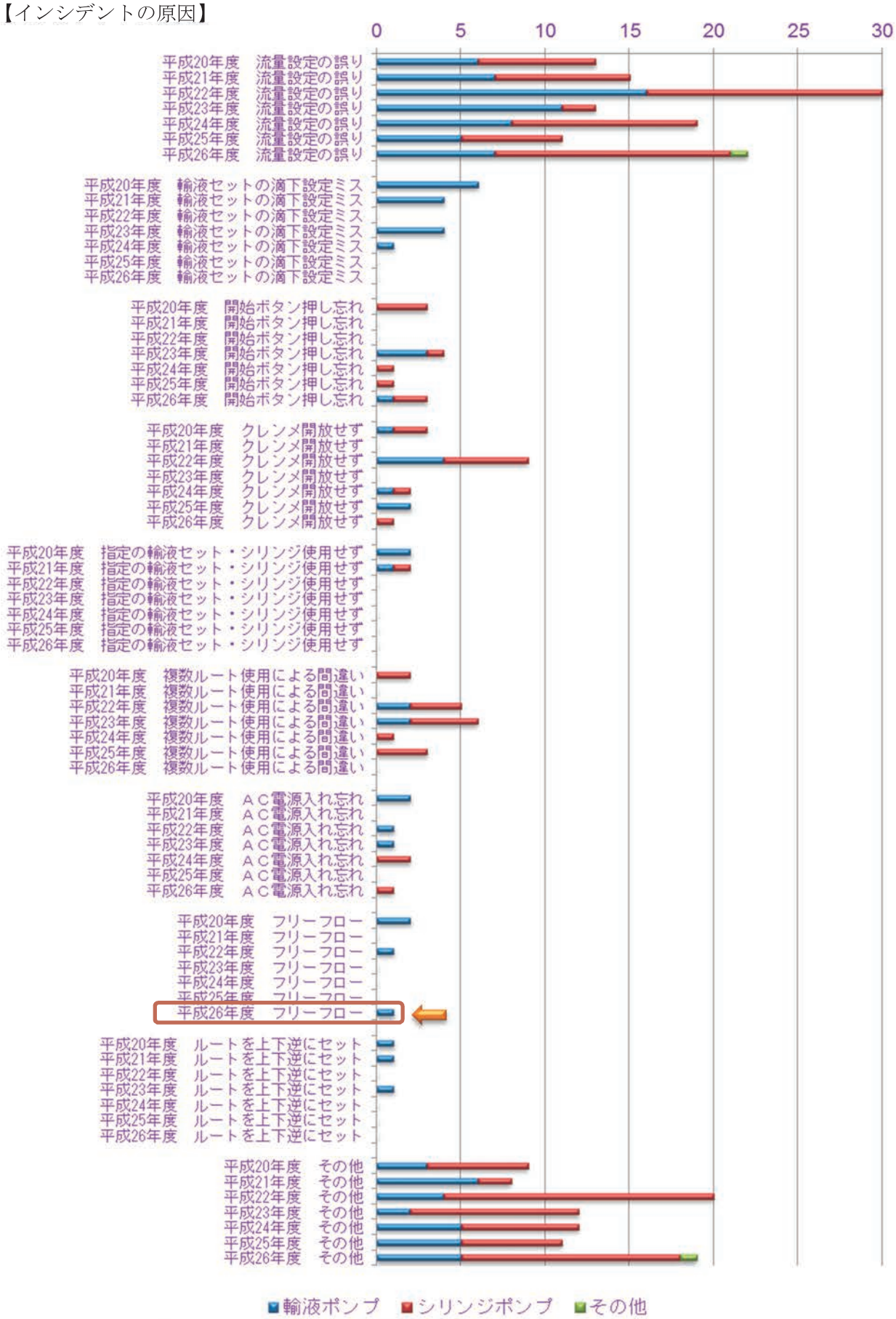
ME 機器の種類において、26 年度では輸液ポンプとシリンジポンプが約 9 割を占めており、シリンジポンプに関するインシデントが多い傾向にあった。

《発生時間帯》



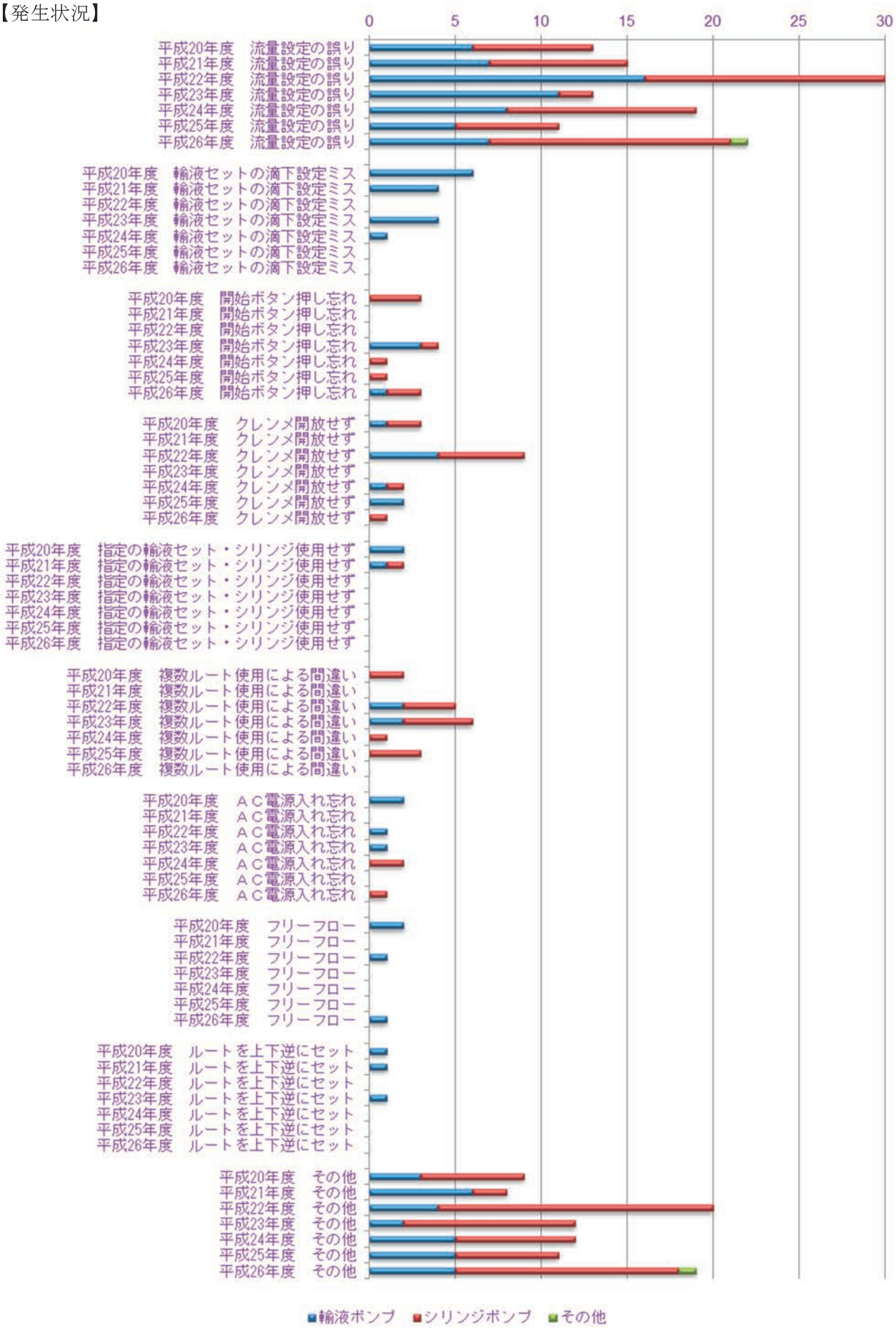
発生時間帯は、8：00～16：00 に最も多く発生している。

【インシデントの原因】



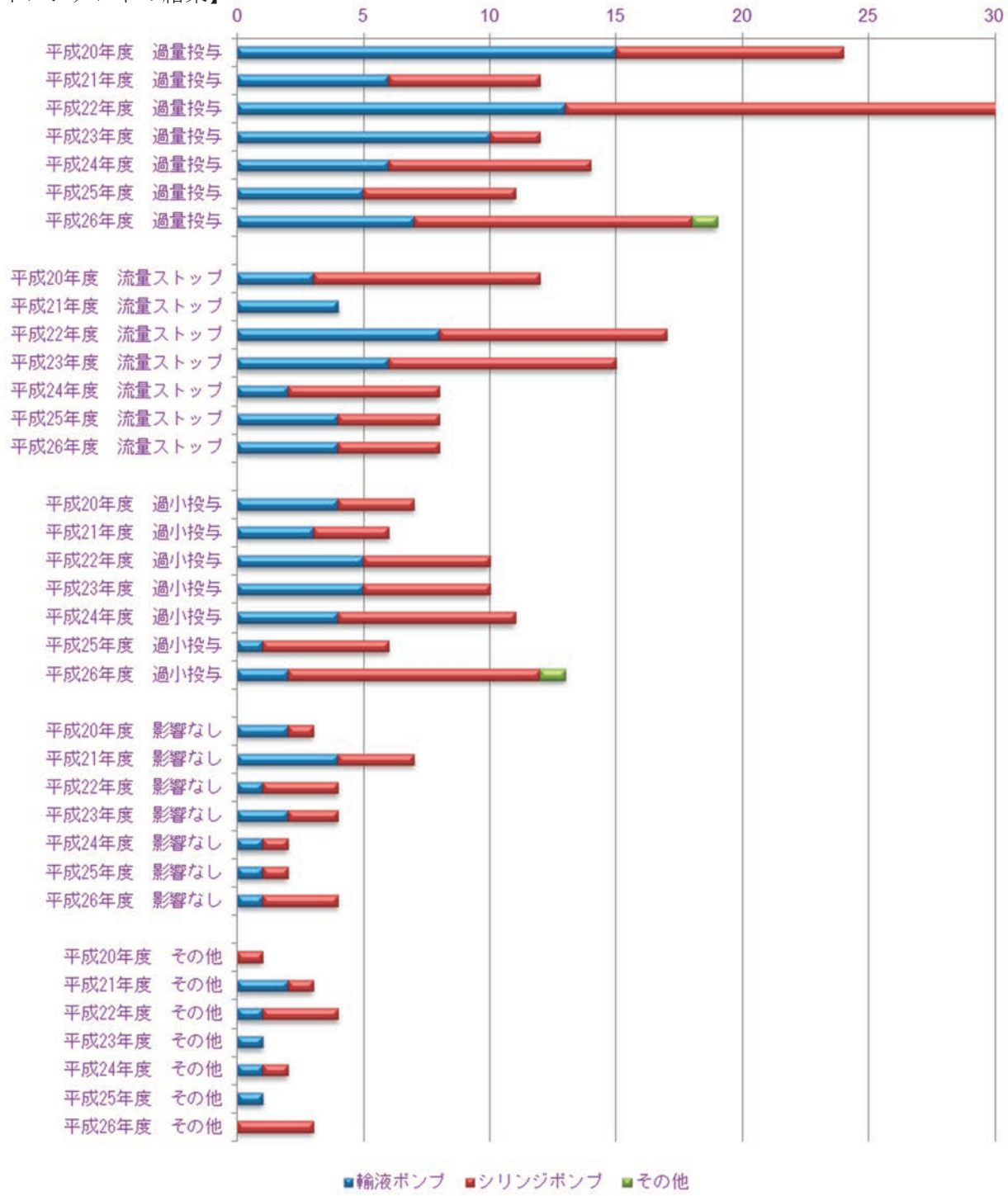
インシデントの原因は、例年同様「流量設定の誤り」が最も多かった。このプログラムが開始となり発生していなかった『フリーフロー』による過量投与が、26 年度は 1 件発生している。残量が約 60ml であったため大事には至らなかったが、重大事故に繋がる可能性があるため、改めて周知する必要がある。

【発生状況】



インシデントの発生状況は、投薬を『開始時』、あるいは『再開時』に最も多く発生している。その次に多くみられたのは、投薬の「更新時」であり、その時点で多重課題が発生したことによるヒューマンエラーが多いように思われる。

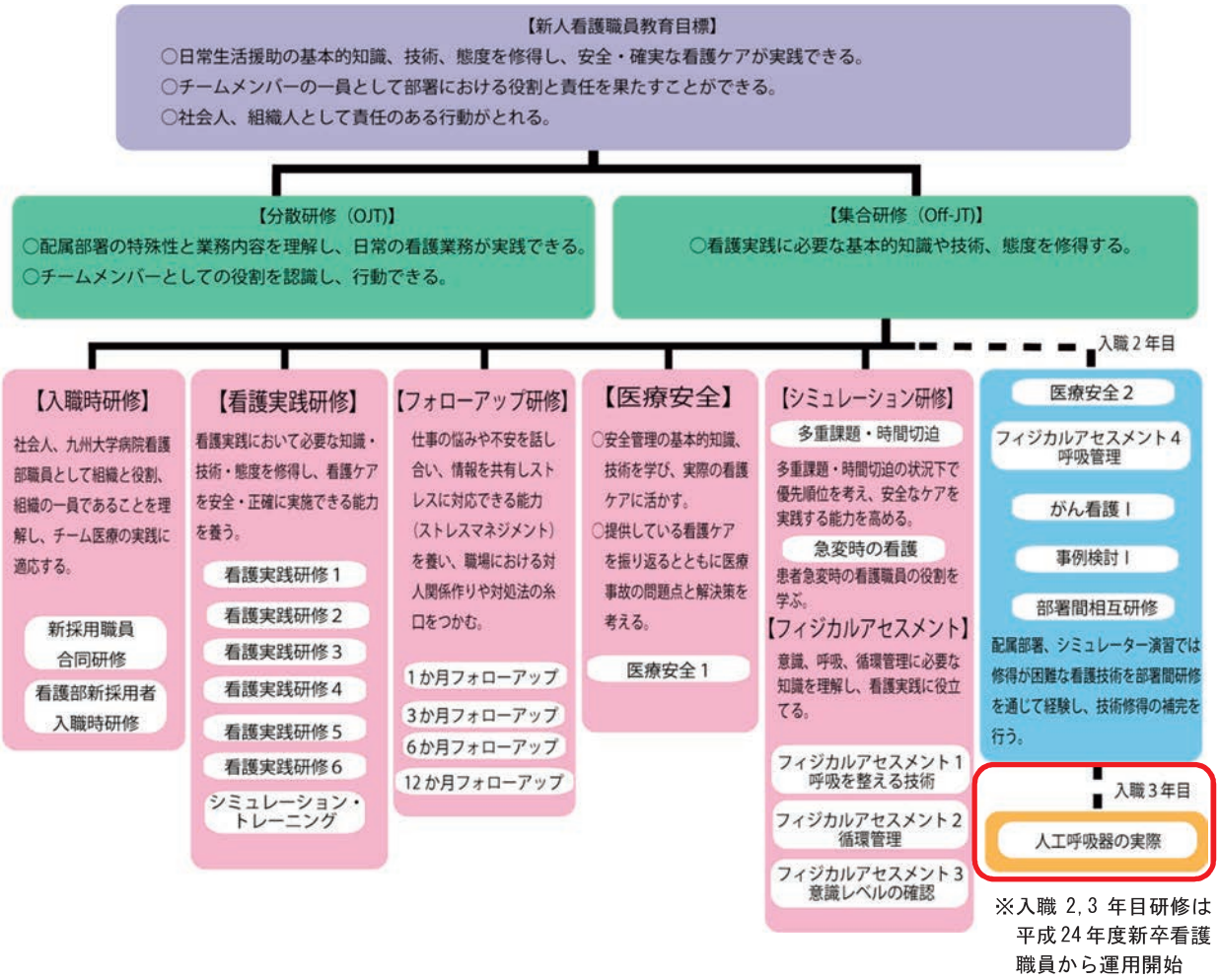
【インシデントの結果】



インシデントの結果は 26 年度も『過量投与』が最も多くみられており、次いで『過小投与』であった。知識確認テストを第 4 期指導者育成研修で実施したが、『フリーフロー』を問う問題では、正解率が 2 割を下回っており、研修後で 3 割程度であった。現プログラムの第 4 段階である部署内研修が全部署で終了し、1 年以上が経過している。25 年度に輸液ポンプの新機種に導入に伴い、再度部署内研修が実施されているが、以降のフォローアップが部署ごとに異なっており、輸液ポンプ・シリンジポンプに関する知識や技術の低下が伺われる。27 年度では、部署における指導者の役割を再度認識させ、部署の課題の把握とインシデント結果のフィードバックを適宜行って、部署内研修や勉強会の実施を促しサポートしていく必要がある。

３．新人看護職員育成 WG

１）新卒看護職員教育研修プログラム



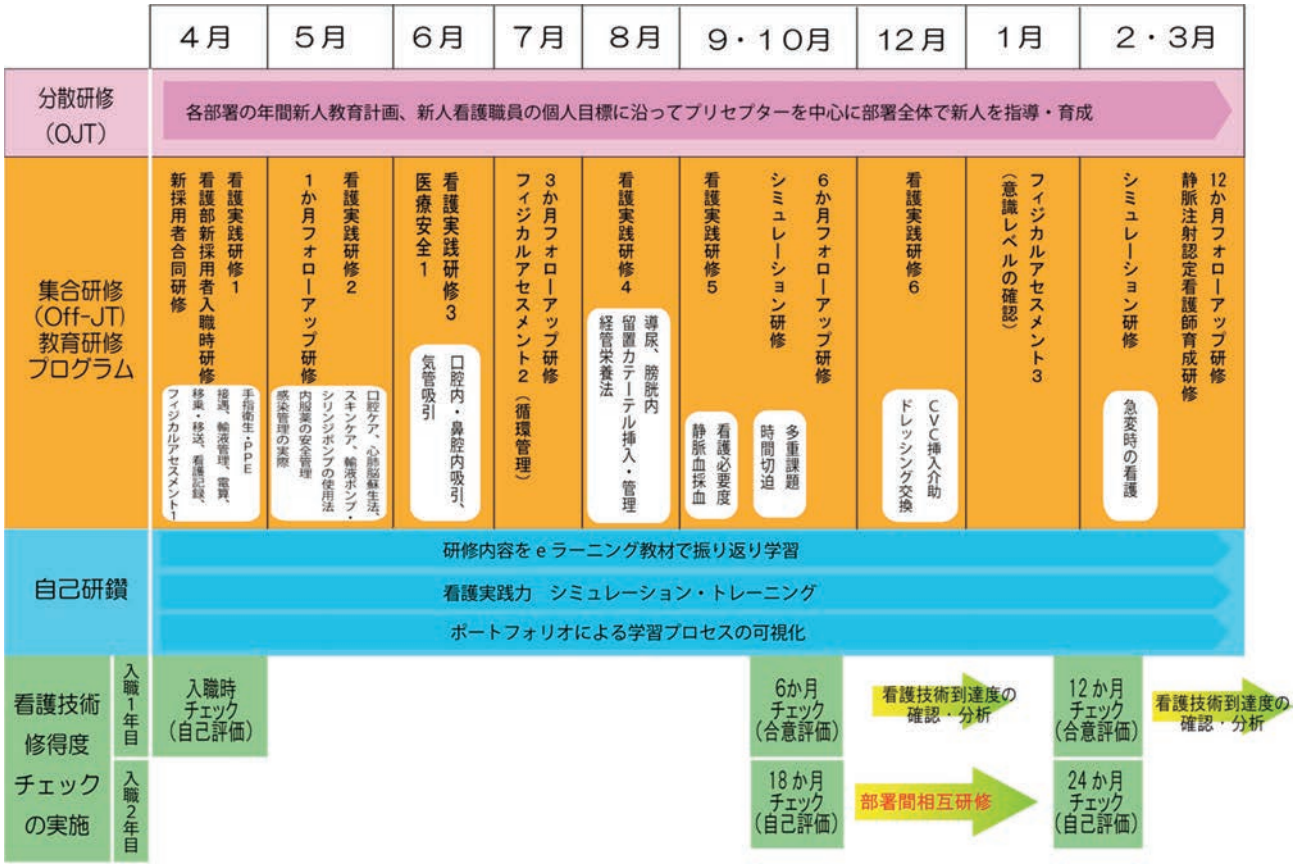
※入職 2,3 年目研修は平成 24 年度新卒看護職員から運用開始

九州大学病院看護部では、当院で看護専門職業人としてのキャリアをゼロからスタートする新卒看護職員を対象に、九州大学病院新卒１年目看護職員に求められる基礎的な看護実践能力の定着、キャリア形成支援を行う目的別の集合研修を提供している。研修内容については、新卒看護職員の看護実践研修は、看護技術修得状況や教育機会の拡充が必要性をあるものなどを年度毎に、教育担当部署で検討し、体系化を推進してきた。

また、平成 24 年度以降、集合研修入職１年間に限定せず、持続的・段階的な看護実践能力向上を支援できるよう、入職２年目、３年目にも研修機会を拡充した。特にがん拠点病院としての使命を担っている大学病院看護職員として、【がん看護】に関する看護実践能力も必要不可欠であることから、２年目看護職員研修として【がん看護】研修を追加し、がん看護に関する疫学、病態生理、国のがん対策についての理解とがん治療の特徴、副作用・合併症対策に関する知識修得を支援している。

さらに今年度から【人工呼吸器の実際】を新規に追加し、入職３年目全員を対象に実施した。看護技術修得度の低い領域において、看護職員の成長段階に応じた継続的な教育を提供できる研修プログラムを推進している。

平成 26 年度実施計画



平成 26 年度は、平成 25 年度までに変更・追加し、体系化した新人看護師教育プログラムを年間スケジュールに沿って提供することとした。

教育 WG メンバーは年間スケジュールを基に指導者または研修運営担当者として教育 WG メンバー全員が教育的関わりをもてるようにしている。また今年度はシミュレーション研修（多重課題・時間切迫）において教育 WG メンバー全員が研修の計画・準備から運営・評価まで実施した。

以下には、平成 26 年度新卒看護職員向け教育プログラムと教育 WG メンバーの担当者一覧を示している。教育 WG メンバーは臨床現場の看護実践者も兼任していることから、全員がバランスよく研修での指導にあたれるよう担当を分担させた。

【平成26年度新採用者教育プログラムと担当者】

日程		研修名	担当者			
4月	7日（月）	看護実践研修1 （手指衛生・PPE、接遇、輸液管理、 電算、移乗・移送、看護記録、 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ1：呼吸を整える技術）	**【輸液管理】**			
			WW1・2 細川	南5-2 荒田	ICU 立花	北11-2 平岩
			【移送・移乗】			
			南10 伊藤	北7-2 本村	ICU 山崎	南7-2 高浪
			【手指衛生・PPE】			
			感染対策担当 森			
	8日（火）	看護実践研修1 （手指衛生・PPE、接遇、輸液管理、 電算、移乗・移送、看護記録、 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ1：呼吸を整える技術）	**【輸液管理】**			
			南5-2 荒田	南6-2 平田	北3 泉	北6-1 船越
			【移送・移乗】			
			南7-1 菊原	南8 勝木	南10 西田	OPE 松岡
			【手指衛生・PPE】			
			感染対策担当 森			
	9日（水）	新採用者合同研修				
5月	13日（火）	教育WG				
	8日（木）	1ヵ月フォローアップ研修	教育担当			
		看護実践研修2 （口腔ケア、心肺脳蘇生法、スキンケア、 輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ・ｼﾘﾝｼﾞﾎﾟﾝﾌﾟの使用法、 内服薬の安全管理、　感染管理の実際）	**【心肺脳蘇生法】**			
			南5-2 荒田	CCU・ハイケア 桑田		
			【感染管理の実際】			
			感染対策担当 森			
	9日（金）		**【内服薬の安全管理】**			
			南9 梅津	南11 古川	北3 米山	北8-1 森
			南11 樋渡	北6-2 船越	北11-1 末藤	CCU 石村
			【輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法】			
			教育担当 山口			
6月	10日（火）	教育WG				
	3日（火）	医療安全Ⅰ（H26新採用者全員）	南10 宇藤	北10-1 諫山		
	4日（水）		南10 高塚	北8-1 森朋子		
	12日（木）	教育担当者研修①				
	24日（火）	がん看護Ⅰ（2年目全員）	WW 三坂	北11-1 末藤	OPE 荒津	
7月	8日（火）	教育WG　　教育担当者研修②				
	2日（水）	3ヵ月フォローアップ研修 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ2（循環管理）	教育担当			
			【重症不整脈について】			
			CCU・ハイケア 桑田			
8月	12日（火）	教育WG				
	4日（月）	看護実践研修4 （経管栄養法）	南7-2 高浪	北8-2 今林	北9-1 井上	北10-1 諫山
	5日（火）	看護実践研修4 （導尿、膀胱内留置ｶﾃｰﾃﾙ挿入・管理）	感染対策担当 森			
	6日（水）					
9月	9日（火）	教育WG				
	2日（火）	看護実践研修5 （静脈血採血）	【担当：江口】			
			南6-1 古賀	南10 宇藤	北6-1 船越	ICU 立花
	3日（水）		WW1・2 三坂	南6-2 平田	南10 高塚	放射線部 清藤
	4日（水）		南9 江口	北4・5 五嶋	北10-2 内藤	OPE 荒津
	30日（火）・ 10月1日（水）	フィジカルアセスメント4『呼吸』 （2年目全員）	南11 古川	北6-2 船越		
10月	14日（火）	教育WG　　教育担当者研修③				
	2日（木）	6ヵ月フォローアップ研修	教育担当			
	3日（金）～8日（水）	シミュレーション研修（多重課題・時間切迫）	【担当：徳田】 ≪シミュレーショングループ≫ 荒田・古賀・泉・本村・荒津 他　教育WGメンバー全員参加			
11月	11日（火）	教育WG　　教育担当者研修④				
	14日（金）	看護実践研修6 （CVC挿入介助、ドレッシング交換　等）	北11-2 平岩			
	18日（火）		南6-2 平田			
	19日（水）		ICU 山崎			
12月	9日（火）	教育WG　　教育担当者研修⑤				
H27. 1月	13日（火）	教育WG				
	15日（木）	事例検討Ⅰ（2年目全員）	北4・5 五嶋	北11-2 平岩		
2月	10日（火）	教育WG　　教育担当者研修⑥				
	3日（火）	急変時の看護	南5-2 荒田	CCU・ハイケア 桑田	CCU・ハイケア 石村	
	4日（水）					
	5日（木）					
	27日（金）	静脈注射認定看護師育成研修	南9 江口	南11 樋渡	北10-2 内藤	北11-2 平岩
3月	10日（火）	教育WG				
	3日（火）	静脈注射認定看護師育成研修（演習）	【担当者：樋渡】			
			WW1・2 宮崎	南5-1 徳田	教育 山口	北10-2 内藤
	4日（水）		北3 泉	北6-2 船越	北11-2 平岩	北7-1 三島
	5日（木）		南6-1 古賀	北8-2 今林	OPE 荒津	外来 藤田
	19（木）	12ヵ月フォローアップ研修 （ストレスマネージメント）	教育担当			

平成 26 年度実施進捗状況

【4 月：入職時研修】

キャリア形成スタート時である【入職時研修】から、保健学科教授による「臨床倫理」講義、看護部長による看護者の倫理綱領についての講義、総務担当副看護部長による「職業人としての責務」講義など、看護専門職業人として中核をなす看護倫理観の醸成に役立つ講義を集合研修に取入れ、大学病院職員としての人間性、社会性を自覚させている。

日程	研修名	目標	講師	期間
4 月 1 日 4 月 2～4, 9 日	新採用者集合研修 看護部入職時研修	・九州大学病院の診療に携わる新規採用職員として必要な知識を理解し、チーム利用の実践に適応する。 ・社会人としての基礎的知識・態度を養成し、九州大学病院・看護部の組織と役割、組織チームの一員であることを理解する、	・看護部長 ・副看護部長 ・看護師長 ・認定看護師	合計 4 日間

【4 月：看護実践研修 1】

【看護実践研修】では、100 名を超える新卒看護職員全員の実践的な演習機会を確保できるよう、演習用シミュレーターを複数台整備している。また、少人数（4～6 名）のグループ構成、指導者を各グループに配置し、身体侵襲の大きな看護技術を安全・安心に患者に提供できるよう、シミュレーターを活用した実技演習時間を確保する研修計画を立てている。特に研修会では、技術のみを修得するのではなく、患者とのコミュニケーションのとり方、症状に関する情報収集方法、医療事故や感染を予防する看護ケアの在り方など、包括的な看護実践能力の修得・定着を目指している。

日程	研修名	目標	講師	期間
4 月 7, 8 日	看護実践研修 1 「手指衛生・PPE」「接遇」 「輸液管理」「電算」 「移乗・移送」「看護記録」 「フィジカル・アセスメント 1： 呼吸を整える技術」	基本的看護技術を身につけ、看護ケア安全・正確に実施できる能力を養う。	・看護部 各委員会 ・教育 WG ・集中ケア認定 看護師	合計 2 日間

手指衛生・PPE

接　遇

輸液管理

移乗・移送

看護記録・電算

フィジカルアセスメント 1

【5 月：1 か月フォローアップ研修】

日程	研修名	目標	講師	期間
5 月 8 日	1 か月フォローアップ研修	働き始めて感じていることを GW で話し合い、情報共有することで、ストレス対処法を学ぶ。	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育指導者	60 分

【5 月：看護実践研修 2】

日程	研修名	目標	講師	期間
5 月 8,9 日	看護実践研修 2 「口腔ケア」「心肺脳蘇生法」 「スキンケア」「輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法」 「内服薬の安全管理」 「感染管理の実際 （血糖測定・抜針）」	看護実践において必要な看護技術を身につけ、安全・正確にできる能力を養う。 口腔ケア、心肺脳蘇生法、スキンケア、安全確保の技術等の看護技術を部署で実践できる。	・歯科医師 ・歯科衛生士 ・看護師長 ・副看護師長 ・院内ＣＰＲインストラクター ・皮膚・排泄ケア認定看護師 ・院内認定看護師	合計 2 日間

口腔ケア

心肺脳蘇生法

スキンケア

輸液ポンプ。シリンジポンプの使用方法

内服薬の安全管理

感染対策の実際

【6 月：医療安全 1】

【医療安全】では、KYT（危険予知トレーニング）等の討議を含む講義で**看護管理力**に関する基本的な知識を学ばせている研修を提供している。

日程	研修名	目標	講師	期間
6 月 3,4 日	医療安全 1	安全管理の基本的知識・技術を学び、実際の看護ケアに活かすことができる。	・セーフティ担当看護師長 ・感染対策担当看護師長	4G にわけて 0.5 日ずつ

【6 月：看護実践研修 3】

日程	研修名	目標	講師	期間
6 月 18～20 日	看護実践研修 3 「口腔内・鼻腔内吸引、気管吸引」	看護実践において必要な看護技術を身につけ、安全・正確にできる能力を養う。 口腔内・鼻腔内吸引、気管吸引の技術を部署で実践できる。	・集中ケア認定看護師 ・院内認定看護師 ・教育委員会 ・教育 WG	4G にわけて 0.5 日ずつ

院内認定看護師による講義

吸引

挿管介助

【7 月：3 か月フォローアップ研修】

日程	研修名	目標	講師	期間
7 月 3 日	3 か月フォローアップ研修	入職後 3 か月の悩みや不安を話し合い、情報を共有し、ストレスに対応できる能力（ストレスマネジメント）を養い、職場における対人関係作りや対処法の糸口をつかむ。	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育指導者	0.5 日

グループワーク

教育指導者司会進行によるグループワーク発表

【7 月：フィジカルアセスメント 2】

【フィジカルアセスメント・急変時の対応】研修では、新卒看護職員の入職時から 24 か月後までを経年的に調査している看護技術修得チェック状況の結果より、当院看護職員の看護技術修得の特徴として、入職年度に関係なく「呼吸・循環を整える技術」「救命救急の技術」領域の看護技術修得が低い傾向にあり、集合教育での強化が必要であることが明らかになった。そのため、平成 24 年度以降、集合研修として体系化したものである。研修では、より専門技術の高い認定看護師などに研修内容を立案してもらい、演習指導を任せ、看護部教育活動の一端を担ってもらっている。新卒看護職員は、特定分野のスペシャリストからの最新の教育を受け、<u>看護技術や看護ケアを学ぶとともに、スペシャリストとしてのキャリアメンターと触れ合う機会</u>ともなっている。

日程	研修名	目標	講師	期間
7 月 2 日	フィジカルアセスメント 2：循環管理	循環管理に必要な基本的知識を理解する	・集中ケア認定看護師 ・救急看護認定看護師 ・ME センター	4G にわけて 0.5 日ずつ

【8 月：看護実践研修 4】

日程	研修名	目標	講師	期間
8 月 4～6 日	看護実践研修 4 「導尿」 「膀胱内留置カテーテル挿入・管理」 「経管栄養」	看護実践において必要な看護技術を身につけ、安全・正確にできる能力を養う。 導尿、膀胱内留置カテーテル挿入・管理、経管栄養の技術を部署で実践できる。	・感染管理認定看護師 ・摂食・嚥下障害看護認定看護師 ・院内認定看護師 ・教育 WG	4G にわけて 0.5 日ずつ

※研修参加事前課題として研修内容 e ラーニング教材学習を設定。
　動画教材の視聴と研修時資料をプリントアウトして持参することとした。

【9 月：看護実践研修 5】

日程	研修名	目標	講師	期間
9 月 2～4 日	看護実践研修 5 「看護必要度、静脈血採血」	看護実践において必要な看護技術を身につけ、安全・正確にできる能力を養う。 静脈血採血の技術を習得し、部署で実践できる。 看護必要度の考え方と評価方法を正しく理解する。	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育 WG	4G にわけて 0.5 日ずつ

※事前課題として研修内容 e ラーニング教材視聴と採血に関するプレテストで 100 点（10 問）がとれるまで繰り返し学習することとした。

【9 月～10 月：シミュレーション研修（多重課題・時間切迫）】

【シミュレーション研修】では、多重課題・時間切迫状況下、1 人ではなく、医師・他看護職員とともにチームで患者対応を行えるよう、優先順位判断、応援要請、安全な看護ケアを演習を通じて体験し、自らの看護実践を考えることで、自律した気付く力を研鑽させている。

日程	研修名	目標	講師	期間
10 月 3 日, 6～8 日	シミュレーション研修	多重課題・時間切迫の状況下で優先順位を考え、安全なケアを実践する能力を高める。	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育 WG	12G にわけて 0.5 日ずつ

平成 26 年度は、看護部教育担当指導者（各部署教育担当副看護師長）が中心となり、シミュレーション研修の企画、必要物品の準備、研修運営を実施。
4 日間の研修に教育看護師長、副看護師長、教育指導者、教育担当指導者が延べ 53 名、研修に配役（先輩看護師役、患者役、ファシリテーター、録画係）として参画。

【10 月：6 か月フォローアップ研修】

日程	研修名	目標	講師	期間
10 月 15 日	6 か月フォローアップ研修	入職後 6 か月の悩みや不安をグループで話し合い、共有し、今後の目標を考える。	・九州大学院基幹教育院 学修/健康支援開発部開発部 准教授　松下智子 ・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育指導者	1 日

【12 月：看護実践研修 6】

日程	研修名	目標	講師	期間
12 月 2～4 日	看護実践研修 5「CVC 挿入介助・ドレッシング交換」	看護実践において必要な看護技術を身につけ、安全・正確にできる能力を養う。 CVC 挿入介助、ドレッシング交換の技術を習得し、部署で実践できる。	・教育看護師長 ・教育副看護師 ・感染管理認定看護師	4G にわけて 0.5 日ずつ

※事前課題として研修内容 e ラーニング教材視聴と中心静脈カテーテル管理と血流感染予防に関するプレテストで 100 点がとれるまで繰り返し学習することとした。

【平成 27 年 1 月：フィジカルアセスメント 3】

日程	研修名	目標	講師	期間
1 月 7～8 日	フィジカルアセスメント 3：意識レベルの確認	フィジカルアセスメントにおける意識レベルの確認および観察のポイントを学び、部署で実践できる。	・集中ケア認定看護師 ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	4G にわけて 0.5 日ずつ

※事前課題として e ラーニング教材（意識障害分類表）を覚え、意識レベル確認に関するプレテストで 100 点がとれるまで繰り返し学習することとした。

【平成 27 年 2 月：急変時の看護】

日程	研修名	目標	講師	期間
2 月 5～7 日	急変時の看護	患者急変時の看護職員の役割を学ぶ	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・救急看護認定看護師 ・院内認定看護師	12G にわけて 120 分ずつ

※事前課題として e ラーニング教材（意識障害分類表）を覚え、意識レベル確認に関するプレテストで 100 点がとれるまで繰り返し学習することとした。

【平成 26 年 3 月：12 か月フォローアップ研修】

日程	研修名	目標	講師	期間
3 月 19 日（予定）	12 か月フォローアップ研修	GW と全体討議により、入職から 1 年経っての現状や問題点などを明確に次年度の目標を考える。また、後輩を受け入れる心構えを持つ。	・教育看護師長 ・教育副看護師長 ・教育指導者 ・キャリアセンター看護師	2G にわけて 0.5 日ずつ

平成 26 年度成果

1）シミュレーション研修ー多重課題・時間切迫ー

シミュレーション研修では、研修目的を達成するために、4 つの研修目標を設定し提供した。135 名の平成 26 年度新卒看護職員全員が「演習 1 回目→教育指導者・同グループ受講者とともに振り返り（iPad で撮影した演習内容を視覚的な客観データとして活用）→演習 2 回目→振り返り」の工程を体験できるよう、演習タイムスケジュールを分刻みで設定し、提供した。

研修目標やタイムスケジュール、演習場面となる病室の人物設定について、演習前にオリエンテーションを行い、演習前の情報収集内容を統一させた。

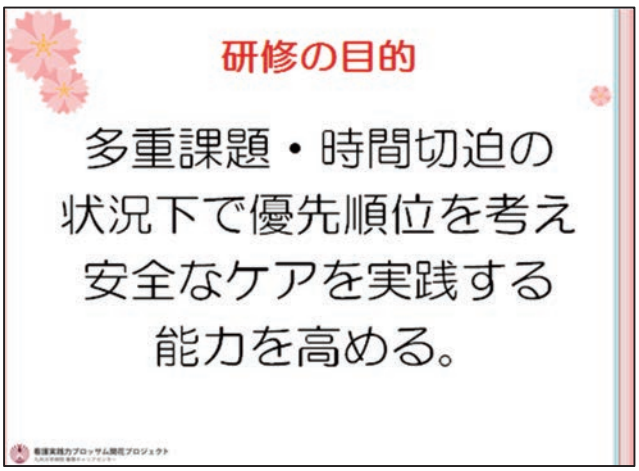
今年度は研修計画を担当グループメンバーが中心に行い、シミュレーション研修の準備から運営まで教育担当副看護師長全員が関わることで新卒看護職員の現状や課題を把握することができた。

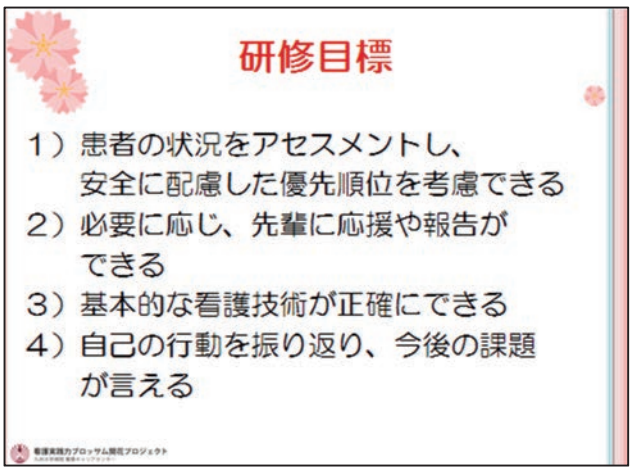
【シミュレーション研修担当グループ】

南棟 5 階 1 病棟	徳田　淳子（リーダー）
南棟 5 階 2 病棟	荒田　弘樹
南棟 6 階 1 病棟	古賀　幸代
北棟 3 階	泉　涼子
北棟 7 階 2 病棟	本村　彰子
手術部	荒津　恵美子

【シミュレーション研修役割】

	まとめ役		患者役		先輩役	録画	ファシリテーター	
10月3日(金)	南6-1 古賀	Ⅰ室	ｷｬﾘｱ 大村	南8 勝木	教育 山口	南6-2 立花	救命･ﾊｲｹｱ 桑田	北9-2 桃坂
		Ⅱ室	南7-1 葛原	南7-2 高浪	ｷｬﾘｱ 吉川	AM:医連 中村 PM:外来 嶋田	北10-1 諫山	北11-2 平岩
10月6日(月)	北3 泉	Ⅰ室	感染 森	南11 樋渡	ICU･救急 立花	南6-1 徳田	手術部 荒津	北11-1 末藤
		Ⅱ室	南6-2 荒田	北7-1 三島	北9-1 井上	南8 小林	ICU･救急 山崎	放射光学 清藤
10月7日(火)	南6-1 徳田	Ⅰ室	北8-1 森	北9-2 桃坂	南7-1 葛原	北4･5 五嶋	南6-1 古賀	南6-2 平田
		Ⅱ室	手術部 松岡	北10-1 諫山	南9 梅津	WW 宮崎	救命･ﾊｲｹｱ 石村	AM:南6-2 荒田 PM:外来 藤田
10月8日(水)	北7-2 本村	Ⅰ室	WW 三坂	南11 古川	救命･ﾊｲｹｱ 石村	北10-2 内藤	南10 宇藤	北3 米山
		Ⅱ室	教育 山口	北6-1 船越	北6-2 船越	南9 江口	セーフティ 岩切	北8-2 今林





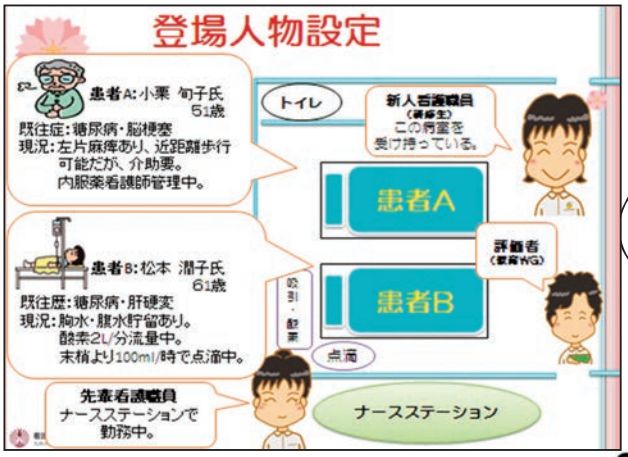
4日間のタイムスケジュール：研修生135人を16群に分ける

10月3日（金）	10月6日（月）	10月7日（火）	10月8日（水）
8:30〜10:30	8:30〜10:30	8:30〜10:30	8:30〜10:30
10:30〜12:30	10:30〜12:30	10:30〜12:30	10:30〜12:30
13:30〜15:30	13:30〜15:30	13:30〜15:30	13:30〜15:30
15:30〜17:30	15:30〜17:30	15:30〜17:30	15:30〜17:30

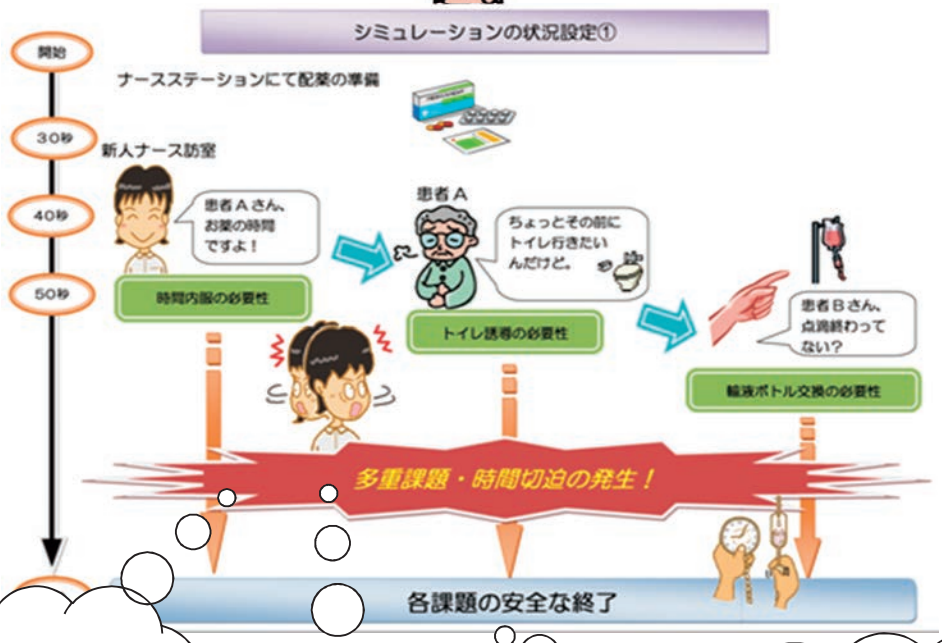
本日のタイムスケージュール

時間	1・3グループ	時間	2・4グループ
8:30〜9:00	オリエンテーション		
9:00〜9:05	1人目演習①	9:10〜9:15	1人目演習①
9:05〜9:10	2人目演習①	9:15〜9:20	2人目演習①
9:10〜9:40	移動・振り返り①	9:20〜9:50	移動・振り返り①
9:40〜9:45	1人目演習②	9:50〜9:55	1人目演習②
9:45〜9:50	2人目演習②	9:55〜10:00	2人目演習②
9:50〜10:20	移動・振り返り②	10:00〜10:30	移動・振り返り②
10:20〜10:25	アンケート	10:30〜10:35	アンケート

登場人物設定



「どう声掛けして入室しようかな？」
「患者さんとどんなコミュニケーションをとろうかな？」
「今日担当する病室について情報収集した内容をもとに、どんな看護ケアを提供したら良いのかな？」
「患者さんは安楽な療養生活ができる環境が整っているかな？」



トイレとお薬どっちが優先？
その根拠は？
患者さんにどういう声掛けをしよう？

患者さんの症状は何？
トイレ誘導は必要かな？
安全でスムーズな誘導には何をすれば良い？

2人の患者さんからの要望どうしたら良い？
患者さんにどういう声掛けをする？
私が1人で両方するの？
今、私ができることは何？

【演習風景】

演習前のオリエンテーション：研修目標・研修スケジュール、演習会場を説明

シナリオに沿って患者対応

メッセージカード

動画・メッセージカードによる振り返り

シミュレーション研修では、病棟で発生頻度が高いであろう多重課題を、限られた時間で対応する演習を提供した。演習では、それまで培ってきた臨床経験や看護実践研修で修得した安全な看護実践力を活かした患者対応が必要となっている。

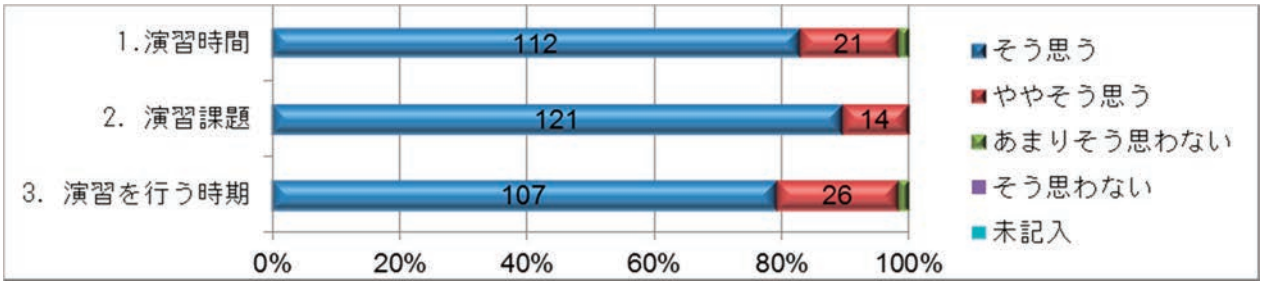
演習は、シミュレーション状況設定にある「与薬・トイレ誘導・点滴交換ができたか」を確認する研修ではなく、研修受講者が「**状況設定からどういう情報収集をし、どのようなニーズの必要性を感じたか、その結果、どういう行動を選択したのか**」を客観的データ（チェックリスト評価や演習映像）をもとに振り返り、気づくことを目的に行っている。そのため、振り返り場面では、グループ内で「与薬・トイレ誘導・点滴交換」完了の可否を振り返るのではなく、**状況設定で「何に気づいたか」「気づいたことをどうしようと思ったのか、行動の根拠」「実際にどう行動したのか」**等を中心に、討議してもらった。グループでの討議では、ファシリテーターには、受講者に「気づき」を発言してもらうよう討議を先導してもらい、「できた／できなかった看護処置」に一喜一憂しやすい受講生に、視点の切り替えを促す役割を担ってもらった。

一昨年度まで撮影は看護部所有の数台の iPad でグループごと演習風景を撮影していたため、動画を持ち帰ることは出来なかった。今年度は各部署所有の iPad を持参し、受講生 1 名に対し 1 台の iPad で撮影することで、全員自己の演習動画を持ち帰ることも可能としている。

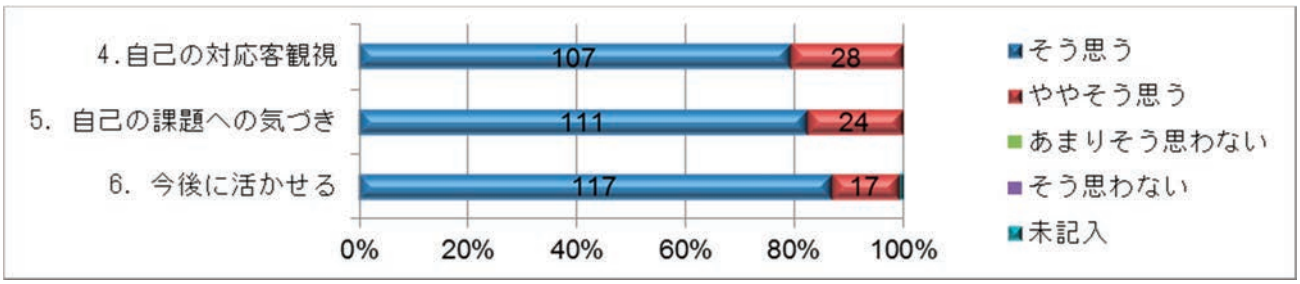
昨年度より取り入れた先輩看護師役、患者役からのメッセージカードは好評だったため、今年度も継続しファシリテーターとは異なる視点からの気付いた良かった点、アドバイスなどを記入し、受講生の気づきに役立てた。

(1) 研修受講生からの研修評価（ｎ=135）

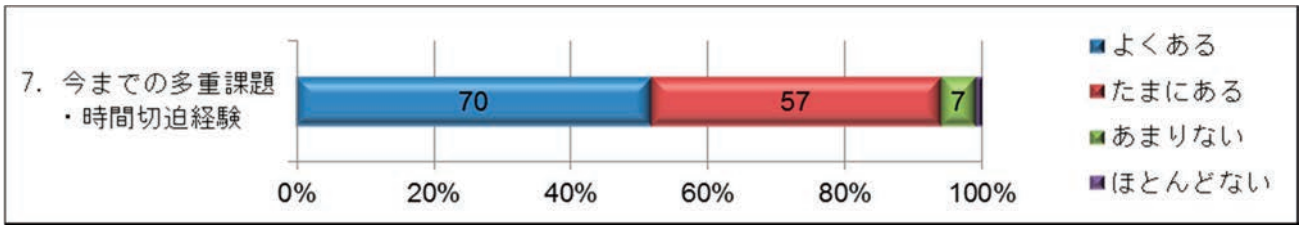
①演習について

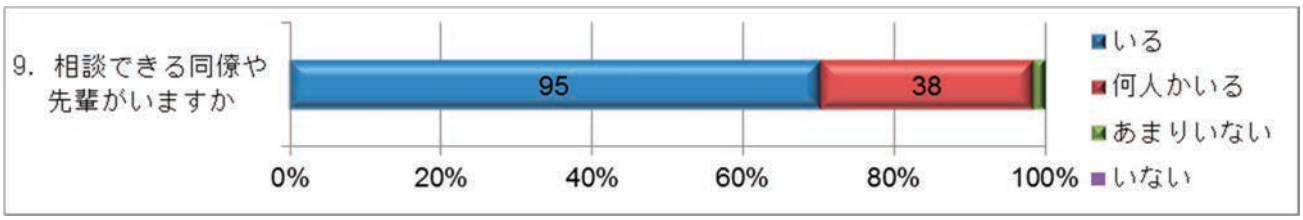


②演習内容について



③部署での状況について





研修受講生の臨床現場での「多重課題・時間切迫」の発生状況とその対応では、8 割以上の受講生が実際に体験しているが、落ち着いた対応ができていると評価している人は 1 名であった。

判断に困った際に、相談できる同僚・先輩については 135 名中 133 名が「いる」と回答しており、プリセプターシップ、PNS 制度等、新卒看護職員が臨床現場で孤立しない環境は整っているようであった。

この演習では、設定された 5 分の中で、「何ができれば正解」という模範解答はなく、「気づく力」を研鑽してもらうものであるため、研修受講生にとって「演習を通じて自分の課題に気付く」ことで、自己の看護観を振り返る機会にもなっているのではないかと思われる。

④自由記載より（一部抜粋）

【自己の振り返り】　51 件
・自分の対応の仕方を客観的に見て、普段気づかなかったことを意識することができた。また、他の人の対応も見ることができて、自分に足りない部分が分かって良かった。
・いつも自分の受け持ち患者のところに向かってしまいますが、部屋全体を見渡すことも必要だと学べた
・まだまだ確認や相手に伝える力、判断力が不足しているので、経験、知識を増やして対応できるようになりたいです。
・普段、自分を客観的に見る機会はないので、その機会があって良かった。自分は何かあるとすぐに慌ててしまうが、その慌てた感じはきっと患者さんにも伝わってしまうので落ち着いた行動をしていきたい。
・ビデオを通して自分を客観的にみることで普段の自分の患者さんへの対応が分かり反省点や課題をみつけることができてよかった。最後のメッセージがとてもうれしかった！
・自分が想像していたよりも患者さんに対する対応が悪かった。
・業務の中では必至で自分がどのように動いているか分からないけれど、ビデオで客観的に自分の動きを見ることで出来ていた点、見落としていた点などを認識できてよかった。
・自分が患者さんと接したり、ケアや援助を行っているところを動画で客観的に観ることができて、自分のケアや患者さんとの接し方について気づいた点が多くあったので、これからに活かそうと思えたのでとてもよかった。
・患者さんから自分がこんな風に見えているのだと思い、改善したいところがたくさん見つかった。今回の演習のシチュエーションはとても現実的で、病棟でも活かしていきたいと思った。
・演習を通して１つのことに集中しすぎて周りがみえていないという課題がわかった。また、演習をもう１つほど、実践し、対応能力を身につけたいと思った。
・自分を客観的に見られるいい機会だったので、他にも様々な場面、部署でのシーンもあればと思います。

【優先順位の判断】　16 件
・優先順位を考えるには、判断材料となる情報、根拠となる知識・経験が必要なので、情報収集、疾患の勉強も頑張ろうと思う。
・一気に色々言われると優先順位など考えられなくなるので経験値を積んで頑張っていきたい。とても勉強になった。
・多重課題、時間切迫下に置かれた時に、何を優先で行うかを瞬時に判断できるよう、普段の業務の中で考えながら動く努力をしていこうと思いました。
・患者さんに対して正しい知識・技術をもって接することでその時に何を優先すべきなのかが判断できると思った。スタッフ間のコミュニケーションを十分にとることも事故を防ぐことにつながると感じた
・優先順位を考えるアセスメント力や、自分がどこまでできるのかの判断力をこれから養い、適切に判断し患者さんに安全なケアをできるようになりたいと思った。
・多重課題の場面にそう遇した場合、一度冷静になって安全、感染など注意して優先順位を考えたいと思う
【安全の確保】　9 件
・一歩引いて周りをみる姿勢が足りないと思いました。身の回りには沢山危険がひそんでいるので、それを予測して安全管理を行えるように頑張りたいと思いました。患者さんの状態をアセスメントするための情報を見落とさずしっかり対応できるようこころがけていきたいです。
・安全面に配慮して五感を使いながら看護できるよう頑張りたい。
・患者さんの状態や性格をアセスメントし、予期できる危険を防ぐことが大切だと感じた。また検査や内服薬についての説明もきちんと患者に伝えなければいけないと感じた。
・患者安全を優先すべきあると改めて実感できた
・部屋に入った時点でその患者の安全が確保されているかどうかを判断することが一番大事だと学んだ
【他スタッフへの依頼】　6 件
・このような場面はよくあるころだから、優先順位を考えてペアの先輩に頼むことも大切だと思いました。
・先輩に仕事を依頼しようと思うボーダーが高い位置にあることが分かったのでもっと自分の力量を把握してできないことを理解しないといけない
・先輩にすぐ頼む選択肢を自分が持っていないことに気づけた。
・多数のことを一度にこなすことができないので先輩の応援を頼むことの大切さを学んだ
【冷静な対応】　5 件
・普段、演習のような状況に置かれることがないので非常に勉強になった。焦った時ほど落ちついて冷静に対処できるよう日々心のゆとりをもって業務にあたりたい。焦ると声や動きに動揺が表れることが分かったので患者さんに伝わらないように頑張りたい
・一般病棟での患者対応を学ぶいい機会となった。今回の演習の学びを活かしておちついて対応できるようになりたい。
・自分が多重課題や時間切迫の状況に置かれたときに何をどうしたらよいか考えるきっかけになった。落ち着いて対応できるように先輩へ相談したり知識を身につけたりしていきたい
・多重課題に遭遇する機会が多い部署のため、冷静に対応する必要があると思った。

【報告・コミュニケーション】　2 件
・先輩や他のスタッフに協力を求める時に必要事項を伝えないと危険につながるたえめ、上手くコミュニケーションがとれるようになるのも必要だと感じた。患者さんや先輩看護師からのメッセージは嬉しかった。
・パートナーとのコミュニケーションが大事だと思った。
【安全な看護技術の提供】　2 件
・常に起こりうる事態を想定して業務を行うことが大切だと思った。もっと知識と技術を磨いて臨機応変に対応できる看護師になりたい
・３点確認などの基本ができないことがあったので、忙しい時ほど基本に忠実にしないといけないと思った。
【その他】　20 件
・役者さんたちの心温まるコメントが嬉しかった。自分自身が焦ってパニックになる傾向になるので何回もトレーニングしたいです
・同時に複数の患者さんから色々な訴えがあると、心から傾聴することができなくて、バタバタしてしまった。
・優先順位や事故はおこりそうな時ほどより広い視野をもって行動することが大切だと思った。特に、ひとつのことをやりだすと他の事に目をむけられなくなるので病棟でも気をつけたい。
・多くの課題が一度にあると周りが見えなくなって、とても難しかった。
・日頃体験しているような状況でとても勉強になった。一度立ち止まって正しい判断できるようになりたい。そのためにも多くの知識が必要だと感じた。お手紙嬉しかったです。
・普段の病棟ではあまりない多重課題であったため対応に困った。
・精神的に負担がかかる研修だったが職員の方が優しく元気づけてくれたので良かったです。
・実際に病棟であるような場面だったので、業務が重なった時に活かしたいと思う。
・緊張して焦ってしまい、上手く対応することができなかった。
・自部署でもありそうな設定でもやれたらより良かった。
・患者さんに言われたことばかりに集中してしまっていたが、部屋に入ったときの観察、確認をもっと徹底したい。

（2）教育指導者からの研修評価

平成 25 年度から<u>シミュレーション研修の運営から実施まで教育担当副看護師長が主体となって実施</u>している。全ての役割を教育担当副看護師長が実施し、<u>4 日間で延べ 52 名</u>がシミュレーション研修に関わった。<u>全ての役割を教育担当副看護師長が担うことで、新人看護職員の現況を多くの教育担当者が把握し部署での新人教育へと連動</u>できるようにした。

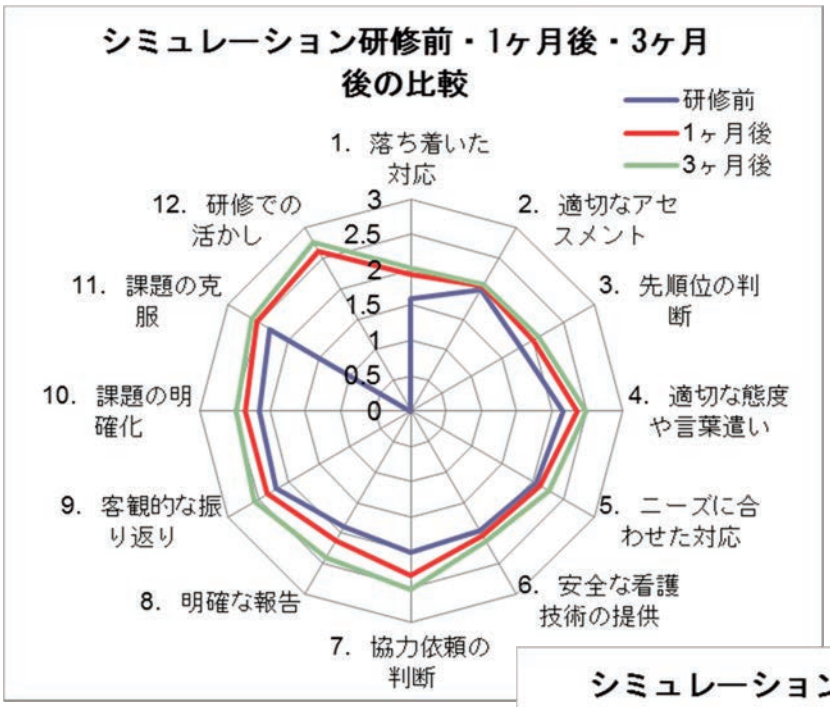
研修に参画した教育担当副看護師長からは「新人看護師は新人看護師なりに考えて動いている」、「一般病棟ではない部署の新人看護職員も丁寧な対応ができていた」など新人看護職員の現状や成長度が把握でき、今後の教育指導に役立つとの意見が聞かれていた。要望やその他の意見としてはシミュレーション研修継続のための改善点などが多く寄せられており、研修の継続を希望する副看護師長が多いことが示唆された。「研修を通して新人看護師に関わることが楽しかった」「楽しかったという声を聞いて疲れがとれた」など<u>研修を企画及び運営することにより副看護師長自身の満足感や達成感にもつながっている</u>。

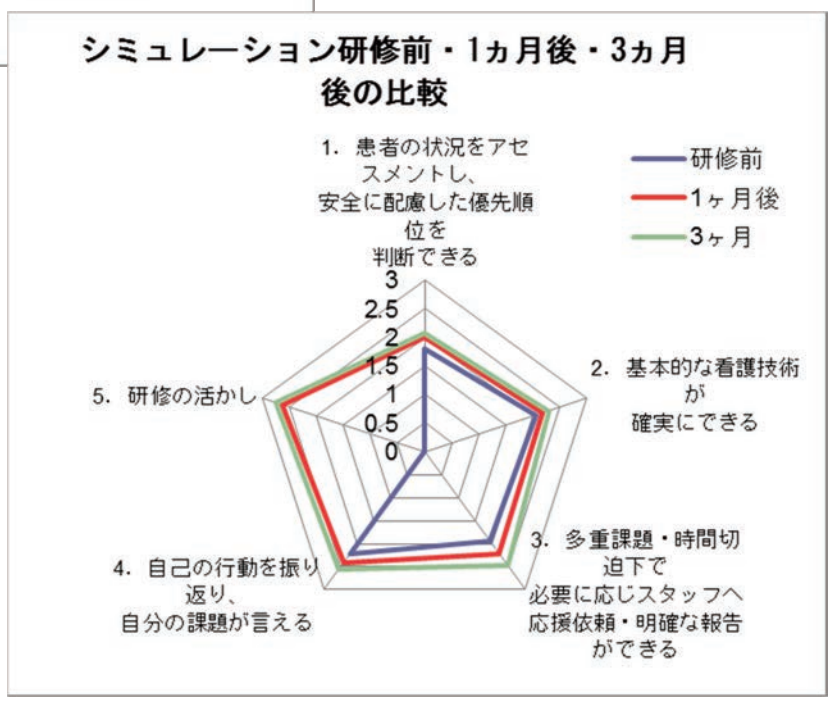
⑤研修後アンケート自由記載より（一部抜粋）

【患者役】
・新人看護師の頑張っている姿がよくわかって良かったです。この研修で優先順位を考えながら業務を行うことに新人看護師が気付く機会になると思います。
・患者さんへの声かけの仕方や内服・点滴の確認、転倒への気配りがきちんとできていることや、研修に一生懸命取り組んでいる姿が見れてよかったです。部署に応じた課題を取り入れてもおもしろいのではないかと思います。
・1 回目は緊張している子も、振り返りを終えたあとは観察の目が広がっていたので、自分の姿を客観的にみることの大切さを感じました。
・教育がしっかりしているため落ちたゴミのテイッシュを手袋をつけて拾ったり、一旦中断した作業を一から始めているなど、きちんとできていました。
・薬剤に関する知識はまだ乏しい印象でした。
・みんな落ち着いて冷静に対応していたように思います。楽しく参加させて頂きました。
・日々どのように関わっているかがわかりました。
・新人さんはどの方も真面目に丁寧な対応をされていてよかったと思います。
・少々疲れましたが、若さのパワーを頂きました。
【ファシリテーター】
・忙しい中で先輩に依頼することが難しいこともあるようで、課題を抱え込む状況をどうクリアしていくか課題に感じた。
・特殊部署の人は自信を無くしがちなのでオリエンテーションの時に研修の目的をしっかり説明してほしい。動画での振り返りで同じグループの人と比較してしまっているようで出来ていることを伝えても本人の口からは「あまり出来なかった」と悲観的な発言がよくきかれた。
・演習 1 回目が終了し、ipadやチェックリストで振り返りをしたことで 2 回目の演習の多重課題に十分対応できるようになっていたので、研修成果のあらわれだと感じ嬉しく思いました。
・1 回目の振り返り時にそれぞれお互いに良い点悪い点の意見交換をしてもらったらやりやすかったように思います。
・6 ヵ月の成長にはすごいなと思った。短時間でいろんなことの観察ができていた。
・新人なのでスムーズに処置等ができるわけではないですが丁寧で優しく対応しており、自分の振り返りとなりました。
・チェックや振り返りなど時間に追われていました。でも一年生が予想外にのびのび笑顔で帰っていったことがよかったと思います。
・演習 2 回目はめざましい成長をしており指導のしがいがありました。ヒントを出すと自分たちで気づくことができていました。
【録画係り】
・新人看護師の方の成長を見ることができ、とても勉強になりました。
・新人さんの患者の状況を把握し対応しようとする能力を知ることができた。戸惑いながらも丁寧に対応しようとする姿に感心した。
・新採用者は緊張していたので、楽しい雰囲気作りが大切だと実感しました。
・個人差はあるが皆さん頑張っていたと思う。
・新人の方がていねいに患者さんに接しているのを見て成長を感じました。

【先輩看護師役】
・1 回目かなり心配だった受講生も 2 回目は期待以上によくなっていて安心しました。
・先輩 Ns に頼まずに自分でしようと言う人が多かったと思います。
・私も 1 年目の頃にこのような研修があったらよかったなあと、今の新人さん達がうらやましく思えます。
・みなさん全体的に礼儀正しくされており、患者さんの印象もよいように思いました。
・先輩に依頼していてもすぐに「変わります」と言われていて責任感もあるように感じました。
・手術部やICUなど、特殊な部署の場合、キャンセル待ち造影CTなどの言葉は通じにくいので分かりやすく伝える工夫が必要でした。
【まとめ役】
・キャリアセンターの方々にも支援頂きましたが、沢山の副師長に参加してもらって、円滑に運営できたことが嬉しかったです。
・色々な副師長さんの新人への関わりを拝見して、良い刺激になりました。

（3）研修参加による受講生変化





※「研修の活かし」について、研修前の質問紙調査では調査を行っていないため、右記レーダーチャートでは 0 ポイントとなっている。

シミュレーション研修では、ルーブリック評価基準を活用した 11 項目の「多重課題・時間切迫場面での対応」に関する質問紙を活用して研修効果を測定した。実践の場で多重課題・時間切迫場面が発生した際に、どのような行動や判断を行っているか自己の看護実践を振り返り、自己評価を行うものである。研修参加前と研修後を比較すると、研修から 1～3 か月経過しても多重課題発生時の対応は向上している。

（4）研修 1 ヵ月後の変化に関する自由記述

研修 1 ヶ月後の臨床実践の場での変化に関する自由記述では、【他スタッフへの相談・協力依頼】は 50 名、【優先順位の判断】は 38 名、【落ち着いた対応・冷静な対応】は 13 名、【事前準備・予測した対応】8 名、【視野の拡大・周囲への配慮】7 名、【明確な報告】は 7 名が研修後の行動の変化を実感していた。また日々の看護実践に取り組みながら【自己の振り返り】を行い【課題の克服】に努め、学びを再構築している。

【他スタッフへの相談･協力依頼】　50 件
･1 人で抱え込まず先輩に依頼することができるようになった。迷惑をかけてはいけないと思っていたが、優しくフォローしてくださったので、これからも何を優先すべきか、自分にできること、できないことを判断して、患者にとって最善を尽くせるように心がけていきたい。
･状況を判断してペアの先輩などに協力を依頼できるようになってきた。
･他スタッフへの協力を依頼できるようになり、スムーズにケアをすることができています。
･多重課題などが起こった時、以前は 1 人で何とかできるところまではしようとしていたが、今は判断して先輩に依頼することができるようになった。
･多重課題時に先輩に自分で判断し依頼できるようになった。
･多重課題の状況下で自分が行うこと、先輩に依頼することを考えて行動できるようになった。
･他スタッフに依頼できるときは無理せず依頼するよう心がけている。また自分のが空いているときは進んでスタッフに声をかけて補完している。
･自分で全ての状況に対応できない時は、先輩に頼むようになった。頼む時も丸投げするのではなく、状況を丁寧に伝えるよう心がけている。
･先輩に依頼することの大切さも学べたので、勇気を持って依頼できるようになった。
･患者の安全を優先できるよう一人で行えないことや判断できないことは早めに相談し、先輩に依頼するようになり、以前よりも安全に行えるようになったと思う。
･自分の力量を考えパートナーに仕事を依頼することができるようになった。
･自分で出来ないと思った時に先輩に何がどこまでできなくてどうしてほしいかを伝えることが出来るようになった。
･多重課題、時間切迫の中でも一人で対応せず、先輩に相談しながら行動できるようになったと思う。
･スタッフへの協力依頼を判断し、行うことができるようになったと思う。以前よりもスムーズに多重課題＋時間切迫した状況下での対応ができるようになってきたのではないかと思う。

【優先順位の判断】　38 件
・多重課題や時間切迫の時になにを一番に優先すべきかを考えながら行動することができるようになってきた。
優先順位をアセスメントできるようになった気がする。
・より優先順位を考えて行動するようになった。
・シミュレーション研修以降、優先順位をより意識して業務に取り組むようになった。
・多重課題・時間切迫下に直面した時はまず優先順位を考えて、先輩に相談し患者に声かけしながら、1 つ 1 つ課題を解決するように努めている。
・優先順位を考える癖ができた
・常にケアや処置において優先順位を考えるようになった。
・優先順位を作る時間が作れるようになったと思う。
・研修後から時間切迫・多重課題の場面では落ち着いて今何を優先して行うと良いのかを考えて行動するように心がけている。まだまだ不十分な部分はあるが優先順位がわかってきたと思う。
・時間と優先順位を意識する機会が増えた。
・優先順位を考えて動くように心がけることができている。
・緊急の場面で優先順位と部署での決まりを状況に応じて判断・実践することができるようになった。
【落ち着いた対応・冷静な判断】　13 件
・多重課題・時間切迫の場面では落ち着いて行動するよう心がけるようになった。
・時間切迫時や業務が重なった時でも焦らず、落ち着いて対応するように心がけるようになった。
・常に冷静でいることを心がけている。焦らないようにしている。
・多重課題である時には状況全体を把握するために、まず落ち着いて考えるように心がけている。
【事前準備・予測した対応】　8件
・その場だけでなく、先のことまで予測して行動するよう意識できるようになった。
・先のことを予測しながら動くことで、少しでも多重課題を抱える状況にならないよう努力している。
・初めに優先順位をつけて業務にとりかかるようになったので、業務が重なることが少なくなったと思う。
・多重課題の状況にならないように、出来ることは早めにしておくことを心がけるようになった。
・訪室した際、全体を観察し起こることを予測し環境整備や看護を行うことで、以前より多重課題を最小限にすることや優先順位をつけた行動が行いやすくなった。
【視野の拡大・周囲への配慮】　7 件
・患者の部屋に入る時も、できるだけ全体を見て、普段と違うところはないか視野を少し広げてみるようになった。
・患者の全身・周囲を観察することを心がけるようになった。
・シミュレーション研修では患者、環境など全体の状況把握に欠けていたので、その後病棟では意識できている。
・視野を広く持ち自分の担当外の患者でも一度観察・確認するよう意識してます。
・1 つの事象だけでなく、周囲の状況をまず把握しようと心がけるようになった。

【明確な報告】　7 件
・先輩方への依頼時の報告内容などがスムーズにできるようになっていると思う。
・自分の状況、患者の状況や状態など他スタッフにわかるように説明することを意識できるようになった。
・患者状況を伝えながら困っていることを報告、相談するようにしている。
【自己の振り返り】　5 件
・時間切迫の中で自分の能力をきちんと理解してできるところとできないところを明らかにするよう心がけるようになった。
・時間切迫時のその時の対応を振り返るように心がけている。
・専門知識をもとにした判断はまだ不十分だと思うが、なぜその状況になったのか考えようとすることはできてると思う。
【安全な看護の提供】　5 件
・夜勤で複数の患者の対応を同時に行わなければいけない時、患者の安全を第 1 に考えて行動するよう心がけている。
・安全に配慮できるように優先順位をつけて行動しようとこころがけている。
・患者の安全に気をつけることをより意識することができた。
【コミュニケーション】　3 件
・自分の行おうとしていることや何をしたいかなど意識してコミュニケーションをとるよう心がけている。
・スタッフ間のコミュニケーションも意識するようになった。
【課題の克服】　2 件
・自分の姿を振り返ってみたことで、自分の課題を意識するようになった。また自分の対応でよいところもあったのでそれを続けていこうと思えるようになった。
【その他】 10 件
・恐怖心が少なくなり自信がついた。研修や自己学習を実践の場で活かせるようになった。
・緊急時に自分のできることを見極めて何をすればよいのかが、シミュレーション研修のおかげで動くことができた。
・この場面で多重課題や時間切迫があったらどうするか時々意識するようになった。急変の時、最初の行動が早く行えた気がする。
・人によって仕事の方法が違うため、多重課題にし直面してもスムーズに対応できる場合とそうでない場合がある。
・研修では自分が多重課題に置かれた場合、周囲に協力を依頼することができたが、実際は依頼することができていないため、協力を得る力も身につけたい。
・自分ができることを考え、先を見すえて行動できるようにがんばります。
・自分の力量をまず考え頼まれたことに対してできない、自信がないという判断は前より早くできるようになった。がすぐに人に頼るべきではないか、という考えも浮かびやすくなった感じがする。

２）新卒看護職員教育研修プログラム

（１）平成 26 年度看護技術修得度チェックによる看護技術修得度変化

【評価の基準】

１：知識としてわかる　　２：演習でできる　　３：指導のもとでできる　　４：一人でできる

上記評価基準「知識としてわかる」を 1 点、「演習でできる」を 2 点、「指導のもとでできる」を 3 点、「一人でできる」を 4 点と配点し、14 領域 99 項目の平均点の一覧を示す。

領域	番号	項目内容	評価基準平均値		
			入職時 (n=135)	6カ月 (n=135)	12カ月
1. 環境整備技術	1	以下のことに注意して病室内の環境が整えられる。(温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音)	3.40	3.90	
	2	クローズドベッドが作成できる。	3.07	3.84	
	3	患者が臥床したままでのシーツ交換ができる。	2.71	3.56	
	4	患者の安静度や活動範囲を考慮した環境整備ができる。(ベッド柵、ナースコールの位置など)	3.25	3.80	
2. 食事援助技術	5	臥床患者や座位患者に食事の準備・介助ができる。	2.77	3.42	
	6	患者に適した食生活内容を理解し、患者(家族)へ指導ができる。	1.92	3.05	
	7	鼻腔または胃瘻から経管栄養の実施ができる。	1.86	3.05	
3. 排泄援助技術	8	床上安静患者の自然排尿・排便援助(尿器・便器)ができる。	2.36	3.45	
	9	ポータブルトイレを用いた排泄介助ができる。	2.47	3.43	
	10	患者の導尿(膀胱内に貯留した尿をカテーテルを用いて一時的に誘導・排出させること)ができる。	1.63	2.62	
	11	膀胱内留置カテーテルの挿入と管理を行なうことができる。	1.50	2.76	
	12	排便困難な患者に、グリセリン浣腸ができる。	1.53	2.93	
	13	自力では排便困難な患者に摘便ができる。	1.27	1.95	
4. 活動・休息援助の技術	14	手術後や麻痺等で活動制限のある患者へ歩行介助ができる。	2.59	3.26	
	15	体動・移動に注意が必要な患者への援助ができる。(意識レベル低下、乳幼児、高齢者等への援助)	2.47	3.35	
	16	患者を車椅子に座らせ、目的地まで移送できる。	3.39	3.90	
	17	患者をストレッチャーに移動させ、目的地まで移送できる。	2.89	3.75	
	18	手術後や麻痺等で活動制限のある患者へ体位交換が1人でできる。	2.24	3.21	
	19	廃用症候群予防のための対策が実施できる。(早期離床、日常生活リズムの調整、関節可動域訓練等)	2.34	3.07	
	20	音、光、温度、湿度、ベッドや寝具、その他の院内環境に注意して、適切な睡眠環境の提供ができる。	2.86	3.62	
5. 清潔・衣生活援助技術	21	全身清拭や部分清拭ができる。	3.19	3.81	
	22	入浴介助(または沐浴)ができる。	2.72	3.41	
	23	患者の状態に応じた洗髪介助ができる。	2.76	3.53	
	24	患者に状態に応じた口腔ケアが実施できる。	2.52	3.29	
	25	患者の状態に応じた洗面の介助ができる。	2.64	3.58	
	26	陰部ケア(陰部洗浄・臀部洗浄)ができる。	2.68	3.65	
	27	足浴や手浴ができる。	3.01	3.56	
	28	成人患者(または乳児や小児)のおむつ交換ができる。	2.81	3.61	
	29	臥床患者の寝衣交換ができる。	2.77	3.59	
	30	点滴を行っている患者の寝衣交換ができる。	2.62	3.73	
6. 呼吸・循環を整える技術	31	酸素吸入療法が適切に実施できる。	1.93	3.30	
	32	吸引(口腔内・鼻腔内)を実施することができる。	1.59	2.85	
	33	気管内吸引(挿管中および気切孔のある患者)を実施することができる。	1.45	2.46	
	34	指示のあった患者に吸入の準備・実施ができる。	1.76	3.34	
	35	正常体温からの逸脱に対し、身体の冷却あるいは保温を行い体温を調整することができる。	2.60	3.64	
	36	患者の状態に応じた体位ドレナージを行うことができる。	2.03	2.68	
	37	人工呼吸器のアラームの対応ができる。	1.02	1.50	
7. 創傷管理技術	38	無菌操作ができる。(セッシや綿球の取り扱い、ガーゼ交換時等)	2.36	3.41	
	39	褥瘡予防のため、(枕、クッションを効果的に使用し)、体圧分散ができる。	2.52	3.44	
	40	患者の状態に応じた包帯法を実施できる。(巻軸包帯、三角巾、T字帯、腹帯、眼帯、伸縮ネット包帯など)	1.62	2.24	

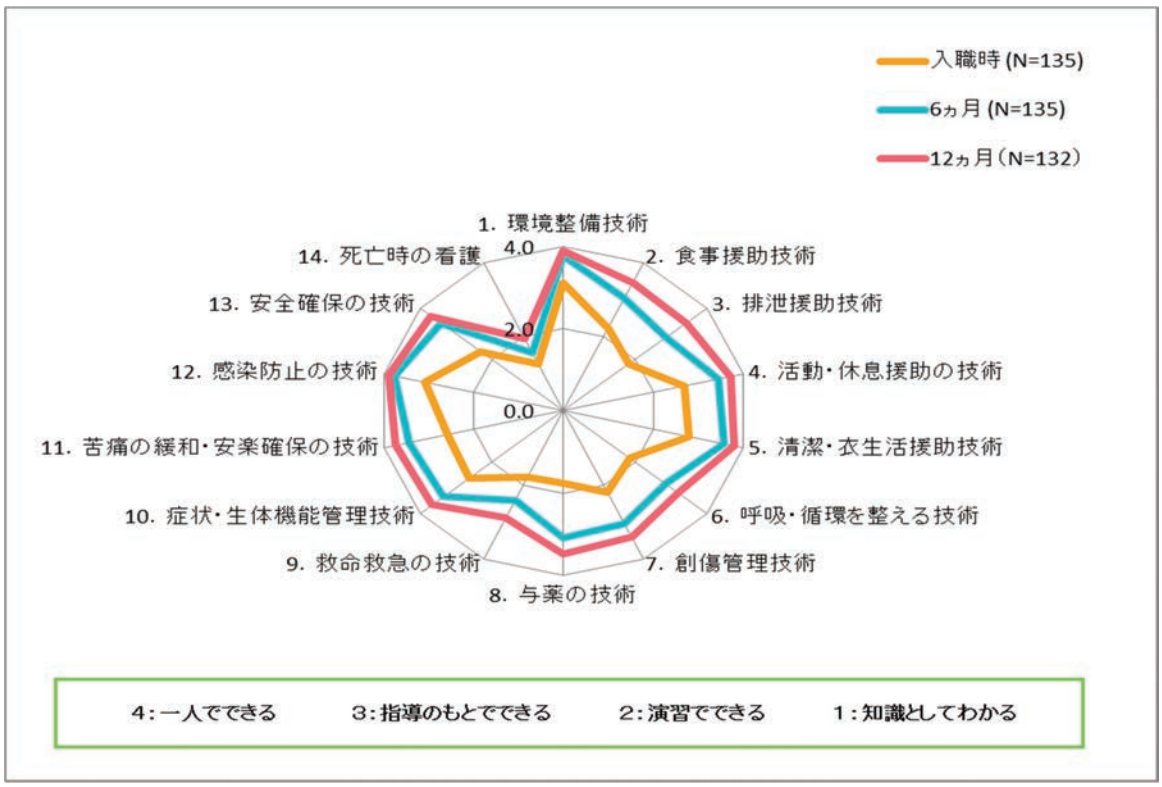
領域	番号	項目内容	評価基準平均値		
			入職時（n=135）	6ヵ月（n=135）	12ヵ月
8.与薬の技術	41	正確に与薬が実施できる。（経口）	2.47	3.79	
	42	正確に与薬が実施できる。（点眼）	1.96	3.66	
	43	正確に与薬が実施できる。（直腸）	1.39	3.21	
	44	正確に与薬が実施できる。（皮膚貼付剤の貼付）	2.01	3.43	
	45	注射器具を用いて薬剤を注入することができる。（皮下注射）	1.14	3.10	
	46	注射器具を用いて薬剤を注入することができる。（筋肉内注射）	1.11	2.44	
	47	注射器具を用いて薬剤を注入することができる。（皮内注射）	1.05	1.62	
	48	注射器具を用いて薬剤を注入することができる。 （静脈内注射・点滴静脈内注射） ＊1年目の実施範囲：ヘパリン・生食ロック、点滴ラインがある場合のワンショット・点滴開始 ＊2年目以降：翼状針・留置針の挿入を含む	1.19	3.27	
	49	CVC挿入時の介助ができる。	0.93	2.01	
	50	CVC挿入部の観察およびドレッシング交換ができる。	1.13	2.68	
	51	輸液ルートにエアが入らないように、輸液を満たすことができる。	2.31	3.88	
	52	適切な速度で、輸液を滴下することができる。（自然滴下）	2.20	3.70	
	53	適切な速度で、輸液を滴下することができる。（輸液ポンプ）	1.72	3.72	
	54	適切な速度で、輸液を滴下することができる。（シリンジポンプ）	1.63	3.47	
	55	輸血の種類に応じて準備ができる。	0.95	2.79	
	56	輸血の種類に応じて実施ができる。（観察も含む）	0.95	2.74	
	57	抗生物質の用法を理解し、副作用の観察ができる。	1.34	3.16	
	58	指示された量のインスリンを正確に投与することができる。	1.32	3.29	
	59	インスリンの副作用を理解し観察ができる。	1.72	3.27	
	60	指示された麻薬を正確な量、適切な方法で投与できる。	1.01	2.78	
	61	特殊な薬剤の管理方法を理解し、取り扱うことができる。 （毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤）	1.15	2.81	
9.救命救急処置技術	62	JCSを使って意識レベルの把握ができる。	1.96	3.02	
	63	気道閉塞に陥った患者もしくは、気道閉塞の可能性のある患者に対して、気道を確保できる。	1.49	2.18	
	64	胸骨圧迫ができる。	2.03	2.36	
	65	バッグバルブマスクを使用して人工呼吸を行うことができる。	1.50	2.29	
	66	気管挿管の準備・介助ができる。	1.07	1.89	
	67	患者の救急事態発生時、チームメンバーへ応援要請ができる。	1.76	2.74	
10.症状・生体機能管理技術	68	成人患者（または小児・乳幼児）の脈拍測定ができ、正常・異常が把握できる。	3.48	3.89	
	69	成人患者（または小児・乳幼児）の呼吸測定ができ、正常・異常が把握できる。	3.41	3.85	
	70	成人患者（または小児・乳幼児）の体温測定ができ、正常・異常が把握できる。	3.56	3.91	
	71	成人患者（または小児・乳幼児）の血圧測定ができ、正常・異常が把握できる。	3.47	3.90	
	72	成人患者（または小児・乳幼児）の身長・体重が測定できる。	3.33	3.81	
	73	成人患者（または小児・乳幼児）の腹囲が測定できる。	2.96	3.44	
	74	静脈より採血ができ、検体を正しく取り扱うことができる。	1.18	1.91	
	75	動脈採血の準備ができ、検体を正しく取り扱うことができる。	0.99	1.76	
	76	水分出納量が測定できる。	2.14	3.47	
	77	尿量や尿比重が測定でき記録ができる。	1.80	3.35	
	78	簡易血糖検査器で血糖値の測定ができる。	2.65	3.82	
	79	心電図モニターの装着と装着中の管理ができる。	1.80	3.48	
	80	12誘導心電図の装着ができる。	1.51	2.53	
	81	パルスオキシメーターを使ってSpo2の測定ができる。	3.65	3.97	
	82	聴診法により呼吸音の正常と異常が判断できる。	2.26	3.05	
	83	聴診法により腸音の正常と異常が判断できる。	2.48	3.27	
11.苦痛の緩和・安楽確保の技術	84	患者の個別性や病状を考慮した体位の工夫を行うことができる。	2.49	3.40	
	85	患者の安楽を目的とした温罨法・冷罨法を適切に使用できる。	2.81	3.67	
	86	患者の心身の緊張を緩和できるような方法を提供できる。	2.52	3.37	
	87	患者の好みや習慣を取り入れながら心身の安定が保てる生活環境を整えることができる。	2.59	3.36	
12.感染防止の技術	88	感染の種類によって適切な防護用具を使用できる。	2.70	3.50	
	89	衛生学的手洗いができる。	3.68	3.98	
	90	感染性廃棄物を他の廃棄物と区別し、分別することができる。	3.20	3.90	
	91	滅菌あるいは消毒された物品や清潔に保たなければいけない部位を細菌に汚染されないように、取り扱うことができる。	2.89	3.70	
	92	針刺し事故防止策を実施できる。	2.99	3.84	
13.安全確保の技術	93	6つのRightに従い、与薬することができる。	2.46	3.80	
	94	患者誤認防止策を実施することができる。	2.79	3.84	
	95	患者を取り巻く環境の危険因子を点検し、修正することができる。	2.56	3.45	
	96	不必要な放射線の被曝を防止することができる。	2.01	3.22	
	97	毒性の強い薬剤の曝露防止ができる。	1.53	2.67	
14.死亡時の看護	98	患者死亡時の家族への配慮ができる。	1.22	1.61	
	99	外観を美しく保ち、敬虔な態度で死後の処置を行うことができる。	0.96	1.39	
平均			2.18	3.19	

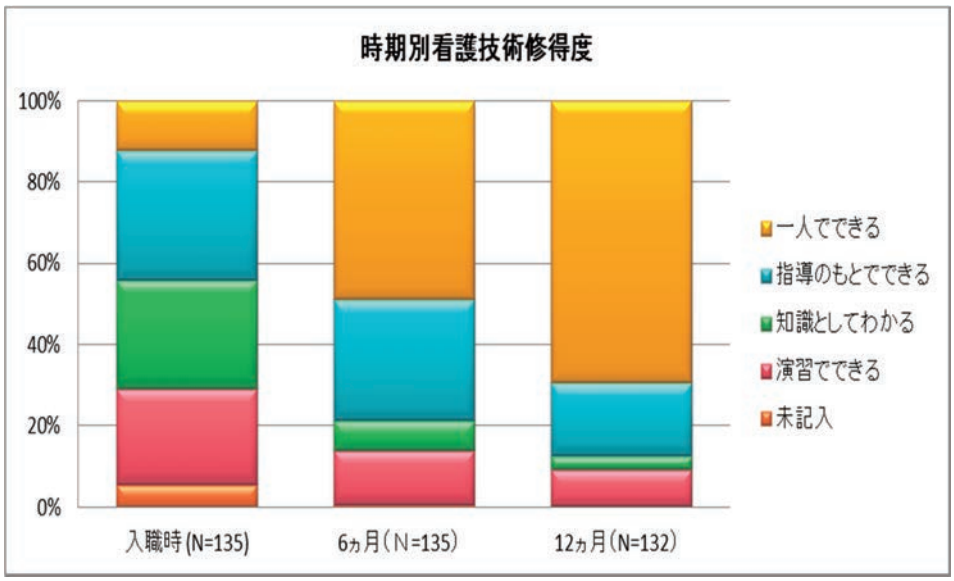
平成 26 年度入職の新卒看護職員 135 名の 1 年間の技術修得状況は、14 領域 99 項目全体平均で【入職時】2.28 ポイントから【入職 6 ヵ月（平成 26 年 9 月時点）】3.19 ポイントまで 0.91 ポイント上昇した。

毎年度、新卒看護職員の入職時から入職 6, 12, 18, 24 か月まで定期的に看護技術修得状況を確認し、新卒看護職員の成長度把握や、研修開催時期の妥当性を検討する資料として活用している。

また、看護技術修得状況は、キャリアナビゲーションシステム機能に組込み、新卒看護職員自身が自己の成長を可視化された数値データとして確認することが可能となっている。入職時時点は、自己の看護技術を自己評価し、入職 6 か月以降は各部署教育担当副看護師長との合意評価を入力し、自己が成長した項目、技術修得が低い項目などを情報共有し、自己研鑽や部署内教育に役立てることでキャリア形成支援としても活用している。

① 平成 26 年度入職（＝入職 1 年目）看護職員看護技術修得状況





入職から 12 か月で経時変化をみると **14 領域全ての領域で看護技術修得が拡大**している。

評価基準「一人でできる」評価も**入職時 12.2%が 12 か月後には 49.0%**に増えている。

平成 26 年度　教育担当指導者による報告

研修を担当した教育担当指導者は研修報告書を作成し、研修内容、受講状況、評価までを教育 WG 内で報告を行っている。新人看護職員の現状や研修内容などを教育担当指導者で共有し、部署での教育計画に活かせるように体制を整えている。

【医療安全Ⅰ】

医療安全1

日時；平成26年6月3日（火）　6月4日（水）
8：30~12：00・13：00~16：30
場所；外来棟5階会議室2
対象者；平成26年度新採用者
新卒者135名　既卒者24名　合計159名
講師；グローバル感染症センター・感染対策担当
森　日登美副看護師長　安永　幸枝看護師長
医療安全管理部　セーフティマネージャー
岩切　美津子副看護師長　池田　由美看護師長

担当；宇藤・高塚・森・諸山

研修の目的

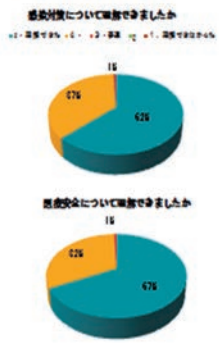
安全管理の基本的知識・技術を学び、
実際の看護ケアに活かす

研修内容

1．感染防止対策の実際について講義
2．症例を提示され、個人防護具と手指衛生についてのグループワーク
3．検討内容について、実際にPPEを装着しながらの発表
4．医療安全「安全に業務を行うために」について講義
5．症例を提示され、危険予知トレーニングのグループワーク、発表

研修風景

研修後のアンケート結果



受講者の感想

・グループワークや演習・ビデオなどを通して様々な事例をみることができ、イメージしやすく分かりやすかった。また、実際の病棟の写真も使っており、自分の病棟でのことを振り返りながら考えることができた。
・感染対策では、基本に忠実に実践できるように、複数の処置を一度に行う時どうすればよいのか考えるように心がけたい。安全に業務を行うために注意することとしては、人間の特性を理解すること、個人ではなくチームで活動することで注意力の向上を図ることができるように、病棟での人間関係やコミュニケーション方法を大切にしていきたいと思う。
・4月に習った時とは違って病棟での場面が思い浮かび勉強になった。今回はゆっくり考えて危険なポイントを見つけ出したが、これからはすぐに予想できるようにしたいと思った。
・感染の演習の時にベストプラクティスの説明があったが、もっと詳しく聞きたかった。
・感染予防が必要な疾患別の消毒方法や注意する点などを聞きたかった。
・SBARを実際に自分でもやってみるような演習をしてみたかった。
・過去に起きたインシデントをもとにKYTをしたらもっと意識できるようになると思った。

平成26年度　教育WG研修報告書

研修名	医療安全1
日時	平成26年6月3日（火） 6月4日（水） 8:30～12:00 13:00～16:30
場所	外来棟5階会議室2
対象者	平成26年度新採用者
人数	新卒者　135名　既卒者　23名　合計　158名
担当者	宇藤・高塚・森・諫山

【研修内容】
1. オリエンテーション
2. 感染防止対策の実際について講義
3. 症例を提示され、個人防護具と手指衛生についてのグループワーク
4. 検討内容について、実際にPPEを装着しながらの発表
5. 医療安全「安全に業務を行うために」について講義
6. 症例を提示され、危険予知トレーニングのグループワーク、発表

【研修後の受講生の結果・評価】
1. 研修受講報告集計データ
「感染対策」研修の内容は理解できましたか：非常にそう思う62%・ややそう思う37%・どちらでもない1%
「医療安全」研修の内容は理解できましたか：非常にそう思う67%・ややそう思う32%・どてらでもない1%
2. もっと聞きたかったこと
・感染の演習の時にベストプラクティスの説明があったが、もっと詳しく聞きたかった。
・感染予防が必要な疾患別の消毒方法や注意する点などを聞きたかった。
・SBARを実際に自分でもやってみるような演習をしてみたかった。
・過去に起きたインシデントをもとにKYTをしたらもっと意識できるようになると思った。
3. 感想
・グループワークや演習・ビデオなどを通して様々な事例をみることができ、イメージしやすく分かりやすかった。また、実際の病棟の写真も使っており、自分の病棟でのことを振り返りながら考えることができた。

・感染対策では、基本に忠実に実践できるように、複数の処置を一度に行う時どうすればよいのか考えるように心がける。安全に業務を行うために注意することとしては、人間の特性を理解すること、個人ではなくチームで活動することで注意力の向上を図ることができるように、病棟での人間関係やコミュニケーション方法を大切にしていきたいと思う。

・4月に習った時とは違って病棟での場面が思い浮かび勉強になった。今回はゆっくり考えて危険なポイントを見つけ出したが、これからはすぐに予想できるようにしたいと思った。

【研修内容のポイント】
「感染対策」・手指衛生は1）方法　2）タイミング　3）手順をきちんと守る　個人防護具の適正使用に関しては1）正しいタイミング　2）正しい選択　3）正しい着脱法　が重要である。

・器材/器具について　器具を複数の患者間で共用するときは、他患者に使用する前に洗浄・消毒をおこなう。洗浄・消毒が難しいノンクリティカル器材（血圧計のカフなど）については使い捨てにするか、患者専用にして複数の患者間で使いまわさない。

・感染経路別予防策を付加する時期としては、病原体が定着または感染を起こしていると疑われるか確定した時点から開始し、予防策を必要とする病原体ではないことがはっきりするか、あるいは感染力がなくなるまでおこなう。接触感染予防策の場合、隔離解除の基準は、抗菌薬終了後、培養結果が3～4日以上の間隔で3回以上続けて陰性となった場合である。

「医療安全」・医療従事者の夜勤、特に夜明け前はサーカディアンリズム（体内時計）の点から、潜在的にエラーを引き起こしやすくなる。医療以外の世界的な大事故も夜明け前に発生している。

・ひとつの課題に複数人が関わっている場合はリンゲルマン効果が発揮され、個人の手抜きが生じる危険性がある。「社会的手抜き」を起こさないよう注意が必要である。

・各人は過去の経験や学習などに基づいて心に描くイメージ;メンタルモデルを持っている。確実なコミュニケーションをおこなうためにはSBARを用いて、全体的・簡潔・明瞭・タイムリーに相手に伝える必要がある。

【各部署での実践、教育につなげて欲しいこと・病棟へ伝えたいことなど】

・感染の基本をしっかり講義・演習されています。病棟で先輩看護師が手抜きや省略をしてしまうと、新人看護師はそれを真似してしまうでしょう。スタッフ全員が基本を忠実に守って、新人看護師の手本になる必要があると感じました。

・SBAR報告の実際の仕方を知りたいとの研修生の意見が多かったです。SBARの報告は日々の「報連相」の中で身についていくものだと思うので、新人看護師からの報告の際、SBAR報告が練習できるよう、時に誘導して聞くなど各現場でフォローして欲しいと思います。

【感想・意見】
・グループワークでの演習や症例検討をおこなって、じっくりとみんなで考えることができ、良い研修の時間となったのではないかと思います。
・感染管理/医療安全についての基本を再確認できて、自分自身の学びにもなりました。
・空調が直接当たる個所があり、室温の調整が必要でした。
・グループワークに今ひとつ溶け込めていない研修生が見受けられました。
・講師の副看護師長さんの意見にもありましたが、起こしてもすぐ寝る人がいました。部署から送り出すときに勤務時間内であることを再確認させる必要があると思いました。

新卒看護職員研修「看護実践研修5(看護必要度・静脈血採血)」

1. 研修概要
日時:平成26年9月2・3・4日(看護必要度、静脈血採血)
場所:臨床小講堂1、WW3階スキルトレーニングセンター
対象:平成26年度新卒採用者　135名
講師・指導者:【看護必要度】業務WG
【静脈血採血】教育WG
9月2日　古賀幸代(南6-1)　宇藤美奈子(南10階)　船越美紀(北6-1)　立花陽子(ICU)　山口千夏(教育)
9月3日　三坂裕子(WW)　平田知子(南6-2)　高塚かなえ(南10)　清藤美子(放部)　山口千夏(教育)
9月4日　江口恭世(南9階)　五嶋幸子(北4・5階)　内藤礼子(北10-2)　荒津恵美子(手術部)　山口千夏(教育)
運営:上記教育WGメンバー
研修内容:1)事前課題　①Web学習システムの視聴
②コンテンツに含まれるミニテストを全問正解するまで学習すること
2)看護必要度(150分)講義・演習
3)静脈血採血(210分)5～6人グループで演習
2. 研修理解度　4.80(5点満点中)

3. 研修後レポート:感想など(一部省略、抜粋)

・モデルと人では血管の太さ・走行が違い、血管の選択が難しかった。針を刺すことで患者の不安はとても大きいと思うので、声かけや準備が大切だと学んだ。看護師が緊張すると患者の不安も増強してしまうため、しっかりと知識・技術を身につけないといけないと思った。

・事前に講義を受けた後、モデル・1年生同士で実践することで、すごく理解しやすかった。お互いの採血の際は緊張しすぎて声かけが十分にできなかったため、患者に行うときは気をつけたい。患者役も経験することで、採血される側の不安の大きさ、看護師のどういた声かけが不安を軽減させることができるのかがわかった。

・実際に指導者の方が病棟で行っているやり方やコツなどポイントを聞きながらすることができたので、今後の参考にしたい。経験や技術をたくさん練習し、増やしていきたい。

・採血する側・される側を経験して、する側の緊張感、焦りが伝わるものがあったので、患者さんに実施するときは焦らずーつーつ丁寧に行っていきたい。手技自体を習得できておらず時間がかかったりしているので確実にできるよう練習していきたい。

・モデルで何回も練習できたのでわかりやすかった。わからないことはすぐに聞ける状態だったのでよかった。

・自分たちで採血するとなると、人それぞれ血管が違って難しかった。採血管をホルダーにはめる時、針先が動いてしまうので、固定をしっかりすると、スピッツをまっすぐホルダーにはめることができように気をつけたい。まずは安全に正確に採血ができるよう練習していきたい。

・採血は正しい手順、手技を身に付けなければ患者に苦痛を与えるだけでなく、大きな事故につながってしまうため、安全に実施できるようになりたい。

【看護実践 6】

看護実践研修６（CVC挿入介助・ドレッシング交換）

日時：平成26年11月14日、18日、19日
８時30分～16時45分
場所：【講義】臨床小講堂１・臨床大講堂
【演習】WW３階スキルトレーニングセンター
対象者：平成26年度新採用者
人数：１３３名
講師/指導者：感染対策担当 安永看護師長、森副看護師長
院内認定看護師（感染管理領域）1日5名　計15名
担当者：山崎千恵・平田 知子・平岩ひろみ

平成26年12月9日 教育WG

研修内容

1．講義
1）血流感染とは
2）血流感染起因菌、感染経路、リスク因子について
3）血流感染予防策について

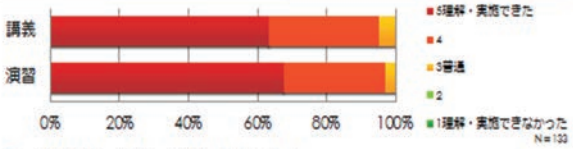
研修内容

2．演習
1）CVC挿入介助
デモンストレーションの実施後、2人1組で医師・看護師役となり挿入介助・ガウンテクニックの介助を行う。

研修内容

2）CVC挿入部のドレッシング交換
2人1組で患者と看護師役になりドレッシング交換を実施し、挿入部の消毒、挿入部の保護を行う。
3．まとめ

研修後の受講生の結果・評価



聞きたかった点・実施したかった点
・CVC挿入を見学したことがないので、実際の挿入場面のビデオなどがあればみてみたい。
・カテーテルの種類についてと管理方法について知りたい。
その他の感想
・清潔操作はとても難しいということを再確認した。
・久しぶりに同期と顔を合わせ、他部署の人と交流がもてて良かった。

研修内容のポイント

- カテーテルによる血流感染予防のためにCVC挿入前にシャワー浴かディスポタオルでの清拭を行い、挿入部位の皮膚を清潔にする。
- マキシマムバリアプリコーションを実施しない場合、感染リスクが６倍高まる。
- CVC挿入前とドレッシング交換時に0.5%を超える濃度のクロルヘキシジンアルコール製剤を用いて皮膚消毒を行う。

各部署での実践、教育につなげて欲しいこと

- CVC挿入介助だけでなく、清潔操作において応用できることもあるため引き続き病棟でも実践して欲しい。

感想・意見

- 講義の後に演習で医師・看護師・患者役を行うことで、血流感染について理解しやすかったのではないか。
- 記録やBSIサーベイランス入力については電子カルテがないので、実際に行えず難しかったようだった。

研修名	看護実践研修6 （CVC挿入介助、ドレッシング交換）			
日時	平成26年11月14日、18日、19日　8:30～16:45			
場所	講義：臨床小講堂　演習：WW3階スキルトレーニングセンター			
対象者	平成26年度新採用者			
人数	看護師133名			
講師・指導者	感染管理認定看護師	感染対策担当看護師長	安永　幸枝	
	感染管理認定看護師	感染対策担当副看護師長	森　日登美	
	院内認定看護師（感染管理領域）			
	11月14日　南棟8階	喜入　美千子	南棟9階	山本　喜子
	北棟6階2病棟	桑原　尚子	北棟7階2病棟	柿木　悟
	手術部	廣澤　由美子		
	11月18日　南棟8階	小林　里沙	北棟6階1病棟	坂本　ミキ
	北棟6階2病棟	太田　百絵	北棟7階2病棟	金丸　恭子
	手術部	岡野　新		
	11月19日　南棟10階	坂田　淳一	北棟3階	八木田　美穂
	北棟6階2病棟	末永　真由美	北棟7階2病棟	逆瀬川　周作
	北棟11階2病棟	藤井　美智代		
担当者	平岩ひろみ、山崎千恵、平田知子			

【研修内容】

研修スタイル：講義と演習

1.講義

1）血流感染とは　　2）血流感染起因菌、感染経路、リスク因子について　　3）血流感染予防策について

2.演習

1）CVC挿入介助

デモンストレーションの実施後、2人1組で医師・看護師役となり、挿入介助・ガウンテクニックの介助を行なう。

2）CVC挿入部のドレッシング交換

2人1組で患者と看護師役になり、ドレッシング交換を実施し、挿入部の消毒、挿入部の保護を行なう。

3.まとめ

【研修後の受講生の結果・評価】

研修受講報告集計データより

1.講義内容の理解度　　平均値　4.56

2.演習について　　平均値　4.65

3.もっと聞きたかった点・実施したかった内容

・CVC挿入を見学したことがないので、実際の挿入場面のビデオなどがあれば見てみたいです。

・挿入までの準備の手技は学ぶことができたが、実際に挿入の際はどのような介助が必要なのかということを知りたかった

・ヘパリンロックやお風呂に入るときの刺入部の扱いについて最後に説明はしていただいたけど、部署ですることがないので演習もしてみたかった

・実際に使用するカテーテルの種類についてあまり見る機会がなく、見学できる資料もないため、カテーテルの種類とそれぞれの管理方法について知りたいと思った。（ブロビアック、ヒックマンの違い。PICCとPIの違い）

4.その他の感想

・清潔操作はとてもむずかしいということを再確認しました。どこが不潔なのか考えることばかりに集中するのではなく清潔操作をふまえながら自分がするべきことを理解し的確にすばやく実践できるようになりたいと思いました

・久しぶりに同期と顔を合わせ、他部署の人と交流がもててよかった。部署が、違うと自分の自分の体験していない事、経験していない事もあるので、演習の時の動作のスピードや正確さに差が見られて少しあせった。

【研修内容のポイント】

・カテーテルによる血流感染予防のためにCVC挿入前にシャワー浴かディスポタオルで清拭をおこない、挿入部位の皮膚を清潔にする。

・マキシマムバリアプリコーション（高度無菌遮断予防策）を実施しない場合、感染リスクが6倍高まる。

・中心静脈カテーテル挿入前とドレッシング交換時に0.5%を超える濃度のクロルヘキシジンアルコール製剤を用いて皮膚消毒を行なう。

【各部署での実践、教育につなげて欲しいこと・病棟へ伝えたいことなど】

・CVC挿入介助だけでなく、清潔操作において応用できることもあるため引き続き病棟でも実践して欲しい。

・CVC挿入について感染防止対策、安全対策をきちんと行なってCVC挿入していることをカルテ記入する必要がある。

【感想・意見】

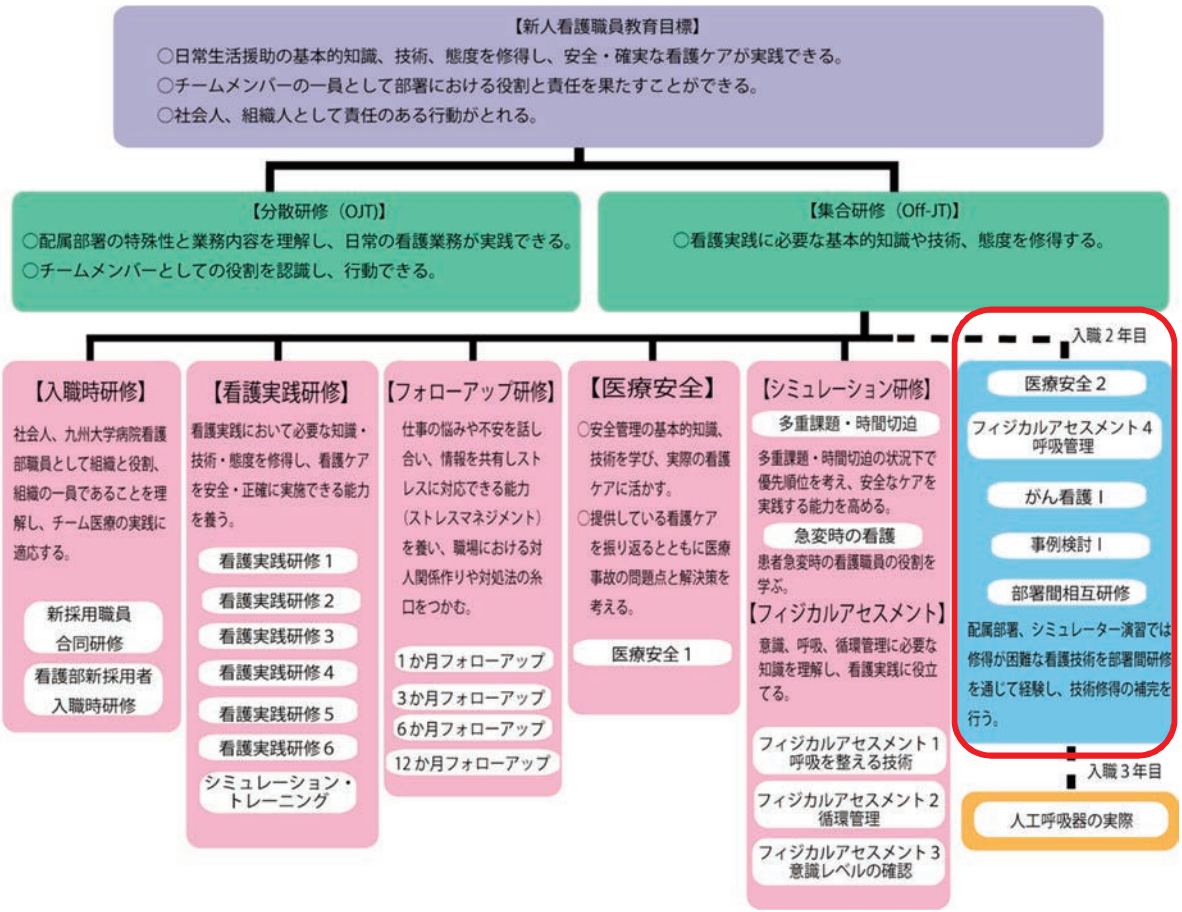
・講義の後に演習で医師・看護師・患者役を行なうことで、血流感染について理解しやすかったと思う。記録やBSIサーベイランス入力については、電子カルテがないので実際に行えなかったので難しかったようです。

2）入職２年目看護職員教育研修プログラム

平成 26 年度実施計画

平成 26 年度入職 2 年目を迎える平成 25 年度新卒入職看護職員も、集合教育、OJT、学習ツールを活用した自己研鑽を重ねることにより、1 年間で全領域の看護技術修得が拡大する傾向であった。しかし、急性期看護を担う大学病院という特性から、「救命救急の技術」「死亡時の看護」領域は他領域と比較して技術修得が低い水準で推移する傾向がみられた。

平成 25 年度より開始した九州大学病院看護職員の看護技術修得が低い領域強化を補完する入職 2 年目看護職員を対象とした教育研修プログラムを体系化し実施した。



平成 26 年度実施進捗状況

日程	研修名	目標	講師	期間
5 月 29,30 日	医療安全Ⅱ	日常業務において安全対策が適正に実施されているかを再確認する。	セーフティマネージャー 感染対策担当看護師	4G にわけて 0.5 日ずつ

日程	研修名	目標	講師	期間
6 月 24 日	がん看護Ⅰ	がんの疫学、病理整理、国のがん対策について理解する。がん治療の特徴、副作用・合併症対策に関する知識を修得し、実践に活用する。	がん看護専門看護師 がん放射線療法看護認定看護師 緩和ケア認定看護師 院内認定看護師	0.5 日

日程	研修名	目標	講師	期間
9 月 30～ 10 月 1 日	フィジカルアセスメント 4：呼吸管理	呼吸器系フィジカルアセスメントに必要な基本的知識を理解する。	集中ケア認定看護師 救急看護認定看護師	1 日ずつ

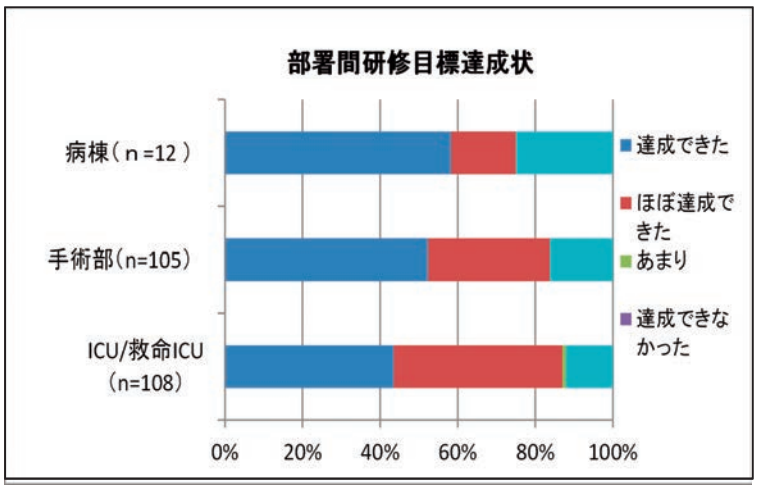
日程	研修名	目標	講師	期間
平成 27 年 1 月 15 日	事例検討Ⅰ	自分の看護体験をまとめ、看護者としての自分を振り返ることができる。	教育指導者	2G にわけて 0.5 日ずつ

日程	研修名	目標	期間
平成 26 年 9 月 3 日～ 平成 26 年 12 月 16 日	部署間研修	未経験、未修得の看護技術を修得することができる。	2 日ずつ

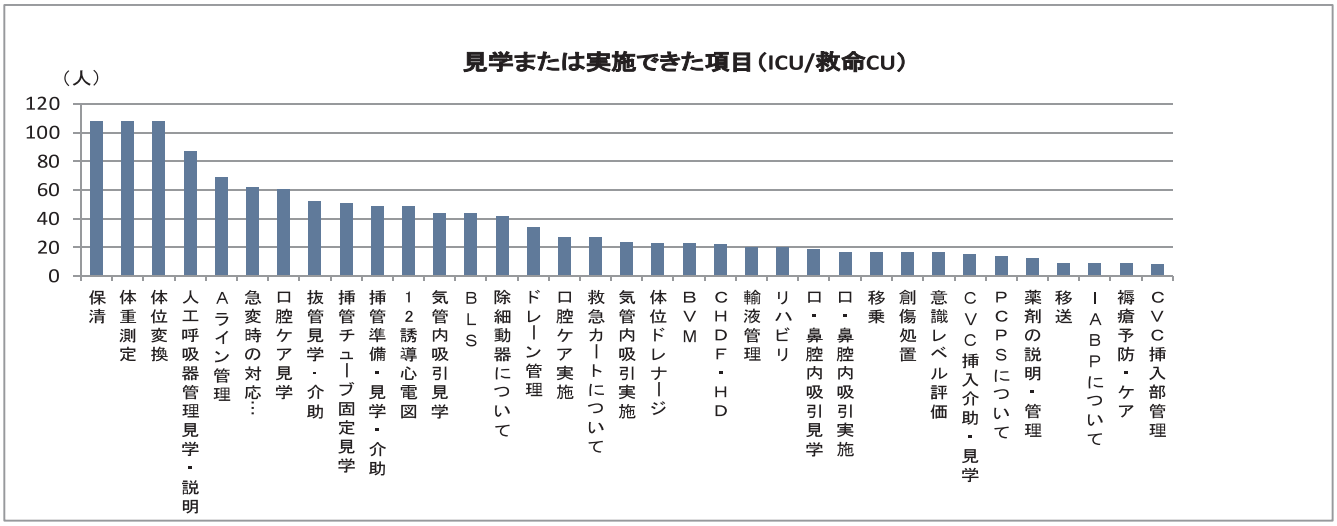
平成 26 年度成果

①部署間研修での学び

配属部署・シミュレーター演習では修得困難な看護技術修得のため、一般病棟と ICU/救命 ICU および手術部間で相互に 2 日間ずつの研修を実施している。看護技術修得だけではなく、全く環境の違う部署での研修で、刺激を受け、自身が日頃実践している看護を振り返る機会となっていた。



【ICU/救命 ICU で見学及び実施できた項目】



＜研修後レポートより自由記載＞

・自部署では経験できない治療、看護技術、急変時の対応などを学ぶことができ貴重な 2 日間だった。今後も自己学習を深め、自部署での看護に活かしたい。

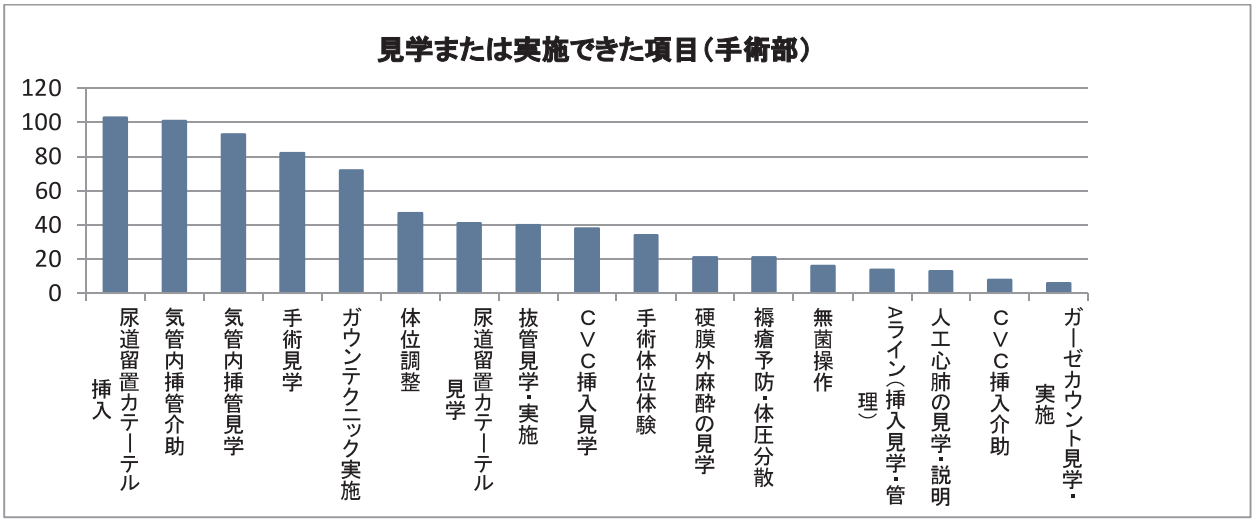
・起こりうるあらゆる場面を想定し、状態をアセスメントして、患者の変化にも冷静に対応できていた。また、常にチームで情報を共有し、チームが協力しながら適切に医療を提供しており、チーム医療の重要性を実感した。

・人工呼吸器装着や鎮静中で意思疎通が困難な患者にも一つ一つ声かけをしたり、プライバシーの配慮、家族への精神的フォローもしっかり行われており、とても勉強になった。

・ICU の環境や術後 ICU から自部署に転棟してくるまでの患者の状態を知ることができたので、術後の看護に活かしていきたい。

・ICU で担当する対象患者の年齢や疾患、症状はとても幅広く、それらに瞬時に対応している看護師をみて、とても ICU に興味を持った。

【手術部で見学及び実施できた項目】



＜研修後レポートより自由記載＞

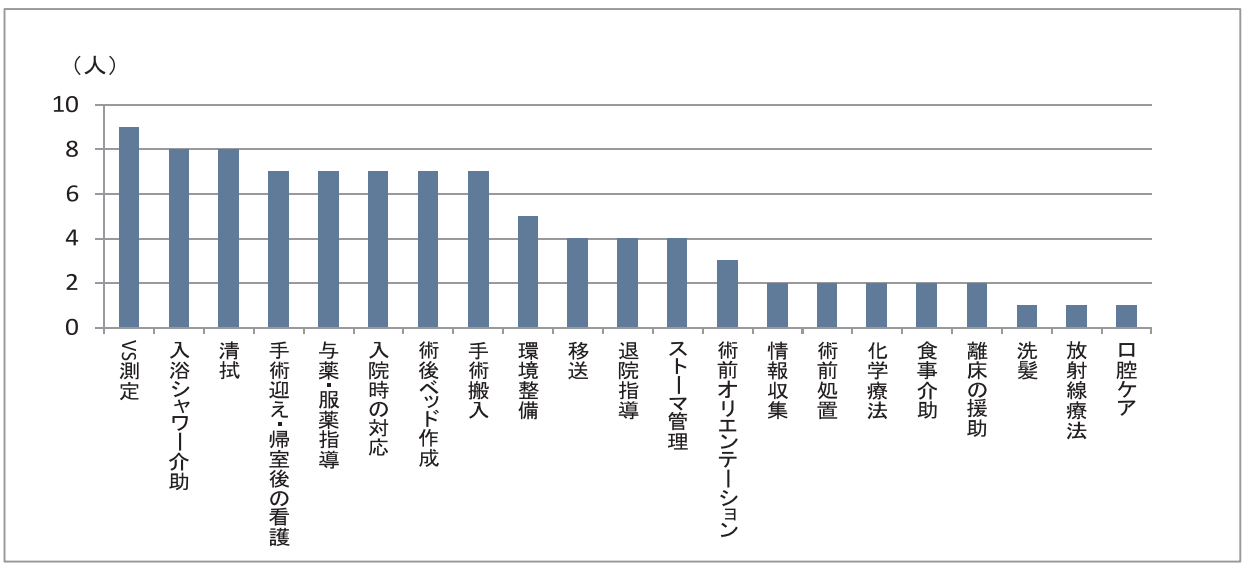
・意識のない患者の代弁者となりあらゆることを予測し、事前準備がされており、手術部看護師は幅広い知識と技術が必要だと感じた。また自部署で経験できない技術の経験ができたので今後に活かしたい。

・手術室では多職種が、常に声を出し合ってコミュニケーションをとり、患者に安全な医療を提供しており、チーム医療の重要さを学ぶことができた。

・手術の見学や手術体位を経験してみることで、手術を受ける患者の状況や不安が分かった。病棟での術前オリエンテーションに活かし、より患者の立場に立った介入をしていきたい。

・安全に手術が実施されるような業務、患者の負担をできる限り軽減できるような環境作り、体位調整など手術室看護師の役割を学んだ。意識のない患者の看護という点では ICU も似ており、皮膚トラブルや良肢位の保持など先を見越してケアを行うことが重要だと感じた。実際の手術も見学し、術式や術後の観察ポイントなどイメージしやすくなった。

【病棟で見学及び実施できた項目】



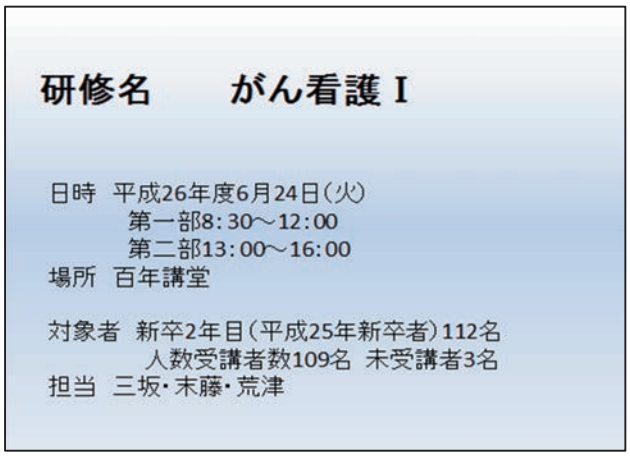
＜研修後レポートより自由記載＞

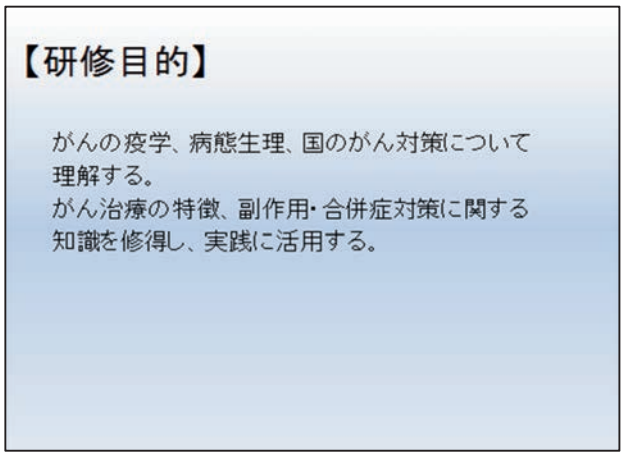
・病棟では受け持つ患者が多く、自分で時間を組み立て限られた時間の中でどれだけ患者と関わることができるか、必要な看護を提供できるかが大切であると思った。

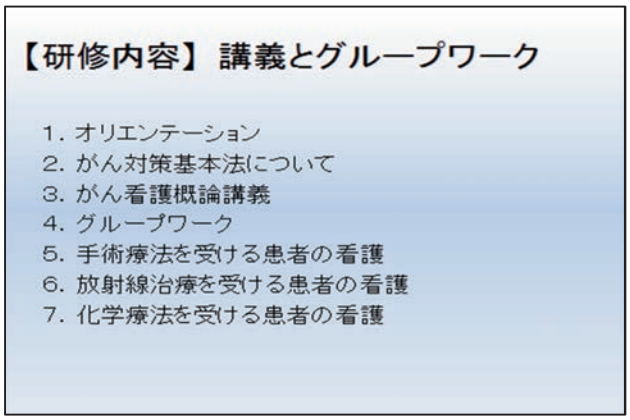
・術前の患者や家族の気持ちを知り、手術室で患者を迎え、手術が終了するまで、安心できるような声かけや表情を心がけていきたいと改めて思った。
・定期的に多職種でのカンファレンスが開催され、情報交換や回復・退院に向けて患者に合わせた計画は立てられており、チーム医療が実感できた。
・術後早期離床に向けた援助が積極的に行われ、回復していく様子を知ることができ、手術室看護師として、褥瘡予防をはじめ合併症予防をしっかりと行い、病棟に引き継がなければいけないと思った。
・意識があり、ADL が自立している患者との関わり方や訴えの傾聴、寄り添う看護を学ぶことができた。不安を少しでも和らげ、安心できる環境を整えることが大切だとわかった。研修で学んだことを今後の看護に活かしたい。

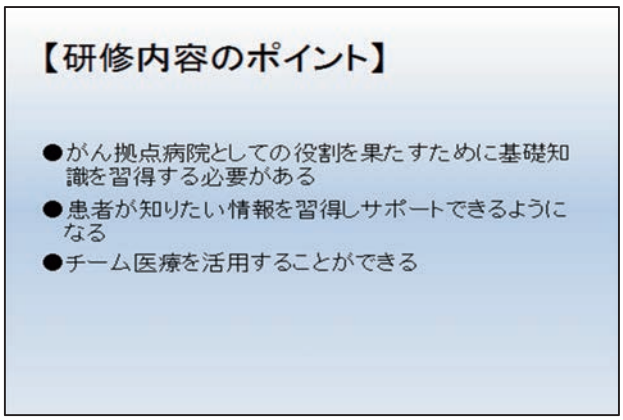
教育担当副看護師長による報告

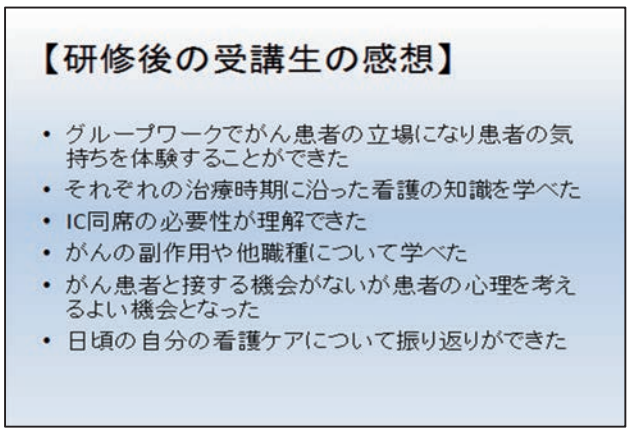
【がん看護Ⅰ】

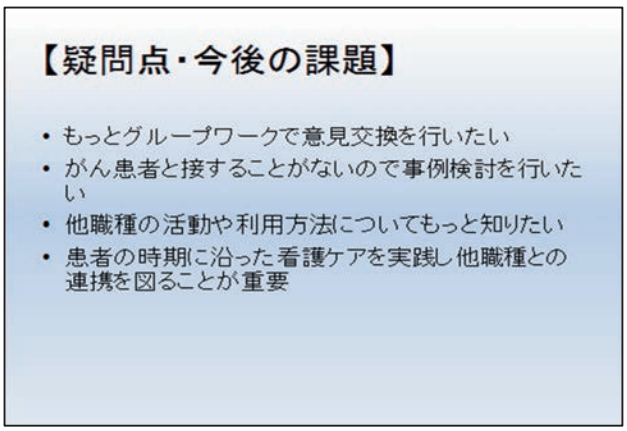












【研修後の受講生の感想】

- グループワークでがん患者の立場になり患者の気持ちを体験することができた
- それぞれの治療時期に沿った看護の知識を学べた
- IC同席の必要性が理解できた
- がんの副作用や他職種について学べた
- がん患者と接する機会がないが患者の心理を考えるよい機会となった
- 日頃の自分の看護ケアについて振り返りができた

【感想・意見】

- 配布資料が多い場合は、各席に配布しておくことで受付がスムーズ
- 講義とグループワークの充実した内容
- 講義内容によりファシリテータの協力やグループ分けの配慮が必要
- 講義中居眠りをする受講生に対し起しても何度も眠る受講生もいた

研修名	がん看護Ⅰ
日時	平成26年度6月24日（火）　第一部8:30～12:00　　第二部13:00～16:30
場所	百年講堂
対象者	新卒2年目（平成25年度新卒者）112名
人数	受講者数109名　　未受講数3名
担当者	司会：　三坂　　会場担当：荒津、末藤

【研修内容】＊ 研修スタイルも記入する・・・例）講義のみ　　講義と演習など
講義とグループワーク
1．オリエンテーション
2．がん対策基本法について
3．がん看護概論講義
4．グループワーク
5．手術療法を受ける患者の看護
6．放射線治療を受ける患者の看護
7．化学療法を受ける患者の看護

【研修後の受講生の結果・評価】＊ 受講生の研修レポートまたはアンケートの結果や評価を記入する
＜疑問点・今後の課題＞
・抗がん剤の治療はきついものがあったり、費用がかかるなど患者に様々な負担がかかる。それを理解し、看護師として広い視点で患者に接することができるようになりたいと思った。
・治療ができないから 緩和ケアという短絡的な考えに至らないように注意する。
・手術療法における患者の意思決定における葛藤をアセスメントし、IC同席を行った上で精神的な支援を行うようにする。
・化学療法における様々な副作用症状を理解し、症状悪化を防ぐべく患者指導を行えるようにする。
・化学療法を多く扱う病棟であるので、抗がん剤の副作用・出現時期を正しく理解し、予防出来るように努めていく。
・がん看護概論を通して、患者の立場なって考えることが出来ていなかったのを反省し、今後はどのプロセスの段階におり、どんな心理状況なのかを考え、患者への看護を考えていけるようにしたい。
・放射線療法の際、クリームやローションを塗っていても問題ないことを知った。今後患者指導を行う際はしっかり保湿することを指導したい。
・グループワークで、患者の各時期における患者の気持ち、情報、看護師の役割を考え、患者の気持ち、どんな情報が欲しいかを考え、看護師としてどんな役割を果たしていくべきかアセスメントできる必要があることをわかった。
・情報の提供ではよりよい専門性の高いがん相談支援室に相談することを視野に入れる。
・多職種と連携する際、どういう職種がいるのか、どういう資源を利用できるのかを知っていきたい。
・普段、がんの治療を行っている患者と接する機会がないため、がん治療の大筋を学ぶことが出来た。
・がんの患者の精神状態、看護師の役割をグループワークで考えたことで、がんの診断から緩和ケアへ移行するまでの流れを把握することができた。今後具体的な支援方法を学んでいきたい。
・院内に緩和ケアチームやがん相談支援室があることを知らなかった。連携方法やがんの治療法についてもっと理解する。
・薬剤によっては、強い悪心を引き起こすことは理解していたが、一度抗がん剤による悪心やおう吐を経験した人は予期不安から、悪心を催すことがあるとわかった。精神面への援助がいかに大切かわかった。今後は、がん患者にとどまらず、様々な場面で積極的にICび同席し、患者と医師のかけ橋になって必要な介入は何かを考えられるようになりたい。
・ICに入ることをしていなかったが、患者の心理面や疾患の状態、家族の気持ちを知るために、IC同席の必要性を感じた。
・普段の業務において、患者や家族の気持ちを考えた上での説明が出来ていなかったと思った。今後、患者の立場に立ってその日の検査の時間やどのくらいかかるのかなど細かに説明できたらと思った。
・当院が福岡のがん拠点病院と初めて知った。その一員として自分も正しい知識を持って患者のケアを行っていきたい。
・患者に行われている治療が、緩和目的なのか、延命目的なのか、根治目的なのか今まで理解せずに患者と関わってきたところがあるなと感じた。もっと知識を深める必要がある。
・がん患者が多いが、治療期や終末期など、それぞれステージにおける心情について具体的に考えることが出来ていなかった今後、もっとそのことに注目してやっていきたい。がん相談支援室や地域医療連携センターの存在は知っていても、具体的には知らなかった。正しく理解し、患者に繋げていきたい。
・がん看護について治療や薬のこと、社会資源など知らないことがたくさんあり、学ぶ必要があることがわかった。
・今までがん患者を受け持ったことがなく、イメージするのが難しかった。しかし、どんな患者でも発病、再発して入院してくる患者・家族には抱えている悩みや不安があり、傾聴と共感をして、看護師としての情報提供を出来るようにしたい。

＜感想＞
・それぞれの治療における看護の知識を学ぶことが出来、治療期において患者の思いは異なるため、それに沿った看護が必要であると改めてわかった。副作用を理解することで、その出現を予防し最小限にすることで、患者の苦痛軽減につながると思った。
・がん患者の立場になって、どんなことが不安か、どんな情報が欲しいかを考えることで、患者の気持ちを少し体験することが出来た。疾患や治療だけでなく、家族のこと、金銭面のことなど様々な不安があることが分かった。ICにおける患者の気持ちも考えることが出来た。患者の精神状態を理解し、今患者に必要な情報や看護、サポートは何かを考えられるようにしたい。
・がん患者に関わる時、治療のことばかりを考えてしまうことが多かったが、患者本人とその家族の今後について考えていくべき事がたくさんあることを学んだ。
・がんの疫学、放射線療法、化学療法、手術療法といった様々な分野から、がん看護について理解を深めることが出来た。もっとグループワークを行い、他の病棟はそのような治療を行っているかなどを意見交換できたら良かった。
・化学療法の副作用をもっと聞けたらよかった。
・化学療法の効果判定、副作用の評価方法について聞くことができてよかった。今後活用していきたい。グループワークで共有したことを今後活かしていきたい。また、がん患者だけではなく、すべての患者に対しても必要があると思った。
・今の病棟でがん看護・緩和ケアを経験したことがないため、勉強になった。事例について現場では実際どのようにされているのか知りたかった。
・がん患者と接することが少ないため、がん患者が抱えている不安点や疑問点を知ることが出来、またそれに対する看護師の役割を学んだ。さらに看護師として、医師や患者の家族、病棟スタッフとの連携を図り、がん相談支援室や緩和ケアチーム情報共有していくことも、がん患者のQOLやQODを高めていく上で重要であること再認識した。
・がん患者と接することは少ないが、今回の講義で、患者のがんに対する受け入れ状況を理解した上で、今患者がどのような援助や言葉掛けを必要しているのかを考えられるようになりたい。がんの治療を行う患者にとっては様々な社会資源の活用が可能かを知った。実際それらの存在を知っていても、患者に正しく案内出来ないことが分かった。今後積極的に活用できるよう理解を深めていきたい。
・緩和ケアと聞くと治療法が無くて痛みをとっていくだけしかないと思っていたが、それは間違いと気付かされた。
・自分ががんになったらと考え看護について考えることで、必要な看護が自然にあがってきた。看護師となって、日々の業務に追われ患者の気持ちに立った行動が出来ていたかと言われると、あまり出来ていないと思う。
自身の看護について省みるいい機会となった。
・がん患者が多いためとても興味深く、普段の看護を振り返る良い機会となった。患者の気持ちを忘れず今後の看護に活かす
・グループワーク形式で患者の心理などを考える機会はとても貴重でした。
・予後告知についてもっと聞きたかった。
・より実践に即した内容がさらに聞けたらよかった。
・がん相談支援室が、どのようなサービスを行っているのかもっと詳しく知りたかったです。
・化学療法の細かい内容まで聞きたかった。また、実際の事例なども聞きたかった。

【研修内容のポイント】＊ 研修の内容で教育担当副看護師長へ伝達したいこと。最新の情報など。
・県のがん拠点病院である九州大学病院は、今後近い将来緩和ケアーセンターを設立予定。
診断から迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するため、「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「緩和ケア病棟」を統括。
院内に1床緩和ケア病床を確保する予定。
・九州大学病院のセカンドオピニオンは、45分31500円。
・看護師は、がん患者がたどるプロセスに沿って、患者が知りたいことを答えれるように、正しい知識と情報、リソース等を習得しておかねばならない。
・当院では、予後に於いての患者の認識のズレが、緩和のスムーズな移行が出来ずにいる。
治療をしなくなっても、最後まで当院にいたいという患者や家族が多い。

【各部署での実践、教育につなげて欲しいこと・病棟へ伝えたいことなど】
＊ 集合研修と部署での教育をつなげるために必要な情報を記入する
・放射線療法時の皮膚障害に対して軟膏やローション塗布していることが多いが、照射前に拭き取りをする必要はない。
むしろ、保湿は大切である。
・部署によっては、がん患者と接する機会がない部署もあるが、当院にはがん相談支援室をはじめ、緩和ケアチーム、NSTチーム、様々な認定看護師、専門看護師などの存在があり、その活動内容、利用方法等と知っておく必要があることを部署でも継続して学習して欲しい。そのことで、がん患者に限らず、すべての患者によりよいチーム医療を提供することができると考える。

【感想・意見】＊ 研修の運営、研修の内容に関してなど何でも結構です。教育WGメンバーに伝えたいことなど。
・配布する資料が多い場合は、手数ではあるが、事前に各席に置いておくことで、受付がスムーズであった。
・がん看護Ⅰでは、半日ではありましたが、講師の先生方のご協力のおかげで、グループワークも入り内容も豊富で充実した研修であり、受講生から感謝の声が多かったです。
・講義の内容によっては、ほとんど経験したことのない症例も多く、ファシリテーターの協力やグループ分けの配慮が必要。
・講義中、居眠りする受講者に対しては、巡回して起こして回った。起こしてもまた眠る人もいて対応に苦慮した。

３）入職３年目看護職員教育研修プログラム

平成 24 年度新卒看護職員における看護技術修得は入職時から 2 年間ほとんどの領域で向上していた。「呼吸・循環を整える技術」の領域でも看護技術修得の向上は見られていたが、項目別で低いポイントを示していた「人工呼吸器のアラーム対応ができる」の強化をはかるため今年度より「人工呼吸器の実際」を開始した。

平成 24 年度新卒看護職員「6. 呼吸・循環を整える技術」領域
項目別 12 ヵ月と 18 ヵ月のポイント比較

	項目内容	12 ヵ月	24 ヵ月
31	酸素吸入療法が適切に実施できる。	3.68	3.78
32	吸引（口腔内・鼻腔内）を実施することができる。	3.26	3.71
33	気管内吸引（挿管中および気切孔のある患者）を実施することができる。	2.66	3.29
34	指示のあった患者に吸入の準備・実施ができる。	3.73	3.80
35	正常体温からの逸脱に対し、身体の冷却あるいは保温を行い体温を調整することができる。	3.88	3.82
36	患者の状態に応じた体位ドレナージを行うことができる。	3.03	3.49
37	人工呼吸器のアラームの対応ができる。	1.23	2.32

日程	研修名	目標	講師	期間
7 月 4 日	人工呼吸器の実際	人工呼吸器の点検とアラーム対応に必要な基本的知識を修得する	集中ケア認定看護師	2 時間

人工呼吸器の使用頻度の高い部署も低い部署の看護職員からも研修内容は非常に役に立つと評価されており、「モードの意味や呼吸器の原理を教えていただき、非常にわかりやすかった」「アラームの見方など細かい資料もあり勉強になった」「アラームは患者の代弁者であるため、対応方法について理解でしておくことは重要である」などの感想が聞かれていた。

第 1 回　教育担当指導者研修プログラム

日程：平成 26 年 6 月 12 日（木）13：00～16：30
場所：　北棟 2 階検査部会議室
対象者：教育担当指導者研修に初めて参加する教育担当副看護師長 10 名

	方法	内　　容	担当者
13：00～14：00	講義	1．新人看護職員研修における教育担当者（教育担当副看護師長）の役割 1）新人看護職員研修ガイドラインについて 2）教育担当者の役割	中畑高子看護部長
14：00～15：00	講義 演習	2．到達目標の理解と設定 1）組織の理念と人材育成の考え方 2）自施設における新人看護職員研修の到達目標の設定	山下春江 教育担当副看護部長
15：00～15：10		休憩	
15：10～16：20	講義	3．教育に関する知識 1）学生の理解、教育背景 2）カリキュラム、教育方法、教育評価 3）年間教育計画の立案に必要な知識	保健学科看護学分野 教授 中尾久子教授
16：20～16：30	まとめ	アンケート	教育担当

第 2～6 回　教育担当指導者研修プログラム

日程：②7 月 8 日（火）③10 月 14 日（火）
　　⑥平成 27 年 2 月 10 日（火）　いづれも 13 時～14 時（教育 WG の前）
場所：外来棟 5 階第 2 会議室
対象者：平成 26 年度教育担当副看護師長　４６名

1）部署の教育状況と評価

時　間	方法	内　　容	担当者
②7 月 8 日（火） ③10 月 14 日（火） 13：00～14：00	演習	1）各役割の現状と課題・対策 ①新採用者 ②プリセプター・エルダーの現状と課題 ③スタッフ間の協力体制 ④教育担当者 2）プリセプターシップと PNS の現状と課題 3）新採用者の教育計画の進行状況・経過修正 4）集合と部署教育の連動	教育委員会 教育担当
⑥2 月 10 日 13：00～14：00		目標達成の評価（教育 WG　および自部署） まとめ	

2）教育担当者としてのスキルアップ

	方法	内　　容	担当者
④⑤（2 回） 1 月 13 日（火） 17：30～19：00	講義	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントトレーニングプロフェッショナル 野津　浩嗣

４．実習指導者育成 WG

1．実習指導者育成ワーキング（以下、実習指導者育成 WG とする）の概要について

今年度より教育委員会、教育指導者、教育 WG、実習指導者経験者、看護キャリアセンター等、教育に携わる機会が多い 14 名の構成員で「実習指導者育成 WG」がスタートした。

【実習指導者育成ＷＧ構成員一覧】

所属･役割		職　位	氏　名
北棟8階2病棟	ＷＧ長　教育委員会	看護師長	天尾　カオル
北棟9階2病棟	教育委員会	看護師長	松本　由香
看護キャリアセンター	教育担当	看護師長	伊藤　明美
南棟5階1病棟	教育指導者	副看護師長	徳田　淳子
南棟7階2病棟	教育指導者	副看護師長	髙浪　郁恵
北棟7階1病棟	教育ＷＧ	副看護師長	三島　真弓
南棟6階病棟	実習指導経験者	看護師	坂本　章子
南棟7階1病棟	実習指導経験者	看護師	舩越　政利
北棟3階	実習指導経験者	看護師	猿渡　嘉子
北棟7階2病棟	実習指導経験者	看護師	横山　玲
北棟8階1病棟	実習指導経験者	看護師	古川　由季子
北棟11階1病棟	実習指導経験者	看護師	柴田　有佐実
医療連携センター/ 看護キャリアセンター	教育指導者	看護師	酒井　久美子
看護キャリアセンター	教育指導者	看護師	大村　由紀美

1）目的：臨地実習現場での実習指導の質を向上させる。

2）役割：効果的に臨地実習指導ができる指導者の育成

（1）実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、実習指導体制の充実を図る。

（2）実習指導者研修会の企画・運営・評価を行い、研修プログラムの充実を図る。

（3）実習指導に伴う課題を抽出し、改善策を検討する。

3）活動内容：

年間計画（下表参照）をもとに実習指導者育成 WG 構成員で実習指導者研修会の担当を決め、研修内容の検討、司会進行や運営、参加者へのアンケート集計をもとに評価を行った。また、実習指導者会議での講義や事例検討における企画・運営、看護学生を対象とした実習指導に関するアンケート調査をもとに評価を行った。毎月１回の会議では、各担当者からの報告や実習指導者研修会や実習指導者会議での検討事項などについて意見交換を行い、年度末には実習指導要項の見直し、実習指導者研修会の参加者や看護学生のアンケート結果をもとにした次年度の計画など、実習指導者育成に実習指導者育成 WG 構成員が幅広く携わった。

【平成 26 年度　実習指導者育成ＷＧ年間活動計画】

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	11	9	13	10	8	12	10	14	12	11
実習指導者育成ＷＧ	ＷＧ活動計画立案	会議内容の検討・運営評価・研修会の運営評価			実習指導体制の課題抽出・改善点検討				研修会評価・次年度研修会企画・次年度会議企画	活動評価・指導要項見直し
日	13	25	22	開催なし	24	28	26	23	27	27
実習指導者会議	病院実習連絡会・保健学科	福岡女学院大学実習説明会	運営・実習指導の情報共有		運営・評価・講義	事例検討	病院実習連絡会・福岡女学院大学	運営・評価・事例検討	実習指導要項見直し	評価
					学生アンケート配布・分析					
日	5	30	11	7	3	開催なし	開催なし	8	30		
実習指導者研修会	研修会運営・評価						研修会運営・評価			
	研修会評価のための受講前アンケート調査・集計						第6回事例検討	第7回まとめ	研修会評価のための受講後アンケート調査・分析報告書作成	

2．実習指導者育成WGの開催

開催回数	日　時 （毎回14時-15時）	主な議題
第 1 回	平成 26 年 6 月 11 日	○継続プロジェクト、実習指導者育成ＷＧの活動、年間計画について ○平成 26 年度実習指導者研修会前後のアンケートについて ○平成 26 年度看護学生対象の実習に関するアンケートについて
第 2 回	平成 26 年 7 月 9 日	○平成 26 年度第 2 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度第 1 回･2 回実習指導者研修会報告 ○平成 26 年度実習指導者会議計画（講義、ワークショップ内容）について ○その他・平成 26 年度第 6 回実習指導者会議での事例検討の担当者について
第 3 回	平成 26 年 8 月 13 日	○平成 26 年度第 3 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度第 3 回･4 回実習指導者研修会報告 ○平成 26 年度実習指導者研修会前の受講者対象アンケートの結果報告 ○実習受け入れ大学の教員へ聞きたいこと、実習指導で困っている内容

		○平成 26 年度実習指導者会議計画（講義）の内容検討 ○平成 26 年度実習指導者研修会の研修報告書の運用について ○平成 26 年度看護学生対象の実習に関するアンケートの入力について ○その他 ・平成 26 年度第 6 回実習指導者研修会での事例検討の説明用資料について
第 4 回	平成 26 年 10 月 8 日	○平成 26 年度第 4 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度第 5 回実習指導者研修会報告 ○平成 26 年度第 1 回～第 4 回実習指導者研修会の研修時間に関するアンケート結果報告 ○平成 26 年度実習指導者会議計画（講義、事例検討のワークショップ）の内容検討 ○その他　・実習中の電子カルテの紐付け解除について
第 5 回	平成 26 年 11 月 12 日	○平成 26 年度第 5 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度実習指導者会議計画（事例検討のワークショップ 1 回目）の内容検討 ○その他 ・平成 26 年度看護学生対象の実習に関するアンケートの入力方法について ・実習指導者育成ＷＧ構成員の部署異動について ・実習中の電子カルテの紐付け解除の注意喚起について
第 6 回	平成 26 年 12 月 10 日	○平成 26 年度第 6 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度第 6 回実習指導者研修会報告 ○平成 26 年度第 7 回実習指導者研修会の計画 ○平成 26 年度実習指導者研修会後の受講者対象アンケート内容について ○その他 ・実習中の電子カルテの紐付け解除の方法について説明 ・ブロッサム開花継続プロジェクトの報告書作成について
第 7 回	平成 27 年 1 月 14 日	○平成 26 年度第 7 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度実習指導者会議計画（事例検討のワークショップ 2 回目、実習指導要項の見直し）の内容検討 ○平成 26 年度第 7 回実習指導者研修会の計画 ○ブロッサム開花継続プロジェクトの報告書作成について ○その他・平成 26 年度第 6 回実習指導者研修会での提出事例についての対応
第 8 回	平成 27 年 2 月 12 日	○平成 26 年度第 8 回実習指導者会議報告 ○平成 26 年度第 7 回実習指導者研修会報告 ○平成 27 年度実習指導者研修会計画 ○実習指導要項の見直しについて ○ブロッサム開花継続プロジェクトの報告書作成について ○その他

3．実習指導者育成プログラム

平成 26 年度実施計画・進捗状況

平成 26 年度は、新たに臨地実習指導者となる看護職員 41 名を対象に、九州大学医学研究院の教員及び人間環境学研究院の教員、佐賀大学医学部看護学科の教員と協同で実習指導者研修会を開催した。

目的：1．看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する

2．自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す

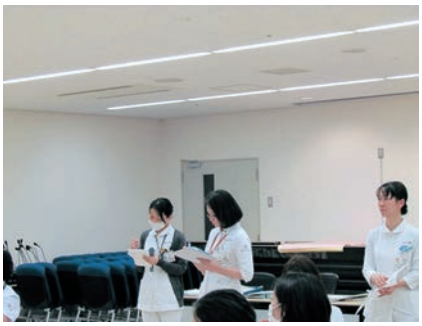
対象者：平成 26 年度新規実習指導者 41 名

【平成 26 年度実習指導者研修会スケジュール】

回数	月 日	科 目	講 師	目 標 お よ び 内 容	運営担当（実習指導者育成WG）
1	6月5日（木）	ガイダンス 実習指導者経験談	九州大学医学研究院 中尾久子教授 実習指導経験者 （実習指導者育成WG） 南7階1病棟　舩越政利 南6階2病棟　坂本章子 人事交流者 医療連携ｾﾝﾀｰ･教育担当 酒井久美子	① 実習指導者研修会の目的･目標･意義を理解する （実習指導者のモチベーションを高めるためのグループワークを行う） ② 実習指導者としてロールモデルをもち，実習指導に対する自己の考えを構築する ③保健学科への人事交流者の話から基礎教育の状況や学生指導を学ぶ	天尾
		看護教育課程 実習指導の原理	九州大学医学研究院 中尾久子教授	看護師の教育課程について，その概要を指定規則･指導要領の視点から学び，実習指導につなげる ・ 看護教育課程（指定規則，指導要領，手引きなど） ・ 教育計画とその内容	
2	6月30日（月）	教育原理	九州大学 人間環境学研究院 藤田雄飛准教授	教育とは何か、教育の意義、教育活動の特性、生涯教育や成人を対象とした教育について学ぶ。 「教えること･学ぶこと」について、基礎的な概念を学び、看護を教えるとはどういうことなのかを考えることができる。	松本
3	7月11日（金）	教育方法①	九州大学 人間環境学研究院 田上哲教授	学習の理論や形態について理解する ･学習理論と教育方法 ･様々な学習場面と教師の役割 ･学習意欲と学習の指導･支援	徳田･舩越
		教育方法②		教育の具体的実践について理解する ･教育の計画･実施･評価と人間理解 ･教育実践における学習者と教師	
4	8月7日（木）	看護過程	佐賀大学医学部 看護学科 長家智子教授	看護過程各段階における指導のポイント	髙浪･坂本
		カンファレンスの指導方法	佐賀大学医学部 看護学科 藤野成美教授	カンファレンスの意義や方法を理解する ・ 効果的な実習カンファレンス	
		青年期の心理		人間の発達と教育課程における心理的な特徴について,青年期を中心として理解する ・ 学習の理論やプロセスを心理学的側面より理解する	
5	9月3日（水）	実習指導計画･実習指導の評価	九州大学医学研究院 藤田君支教授	実習指導の進め方について理解する ･指導案の意義 ･実習指導計画、指導計画書の作成 ･看護実践場面を通じた指導･助言 ･評価方法	大村･三島
		実習指導要項の説明	教育担当看護師長 伊藤明美	九州大学病院実習指導要項の概要説明	
6	12月8日（月）	実習指導上の課題	教育担当 大村由紀美 医療連携ｾﾝﾀｰ･教育担当 酒井久美子	実習指導を実践していく上で困難な点や課題と思う事例を上げ、解決の糸口を探る ･意見交換（グループワーク）	ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ 徳田･横山 柴田
7	1月30日（木）	まとめ	教育担当 大村由紀美 医療連携ｾﾝﾀｰ･教育担当 酒井久美子	実習指導についての総括 ･意見交換（グループワーク）	ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ 髙浪･猿渡 古川

＊タイムスケジュール（13:00～16:30）　＊講義とグループワーク、スケジュールは講師により変更あり

平成 26 年度より、研修会の企画や運営に実習指導経験者である実習指導者育成ＷＧの構成員が参加した。第 1 回研修会では、ＷＧより 2 名が実習指導の体験談を話し、平成 25 年度の保健学部門への人事交流者が学生や基礎教育の現状を説明した。第 6･7 回研修会では、ＷＧより各 5 名がファシリテータとして参加し、指導困難事例への助言や、実習指導の振り返りを行った。



平成 26 年度成果

研修の評価として、平成 25 年度と同様に、1. 研修会の運営や実施体制、2. 実習指導に関する認識と知識の変化、3. 教師効力尺度について研修前後でアンケート調査し比較した。

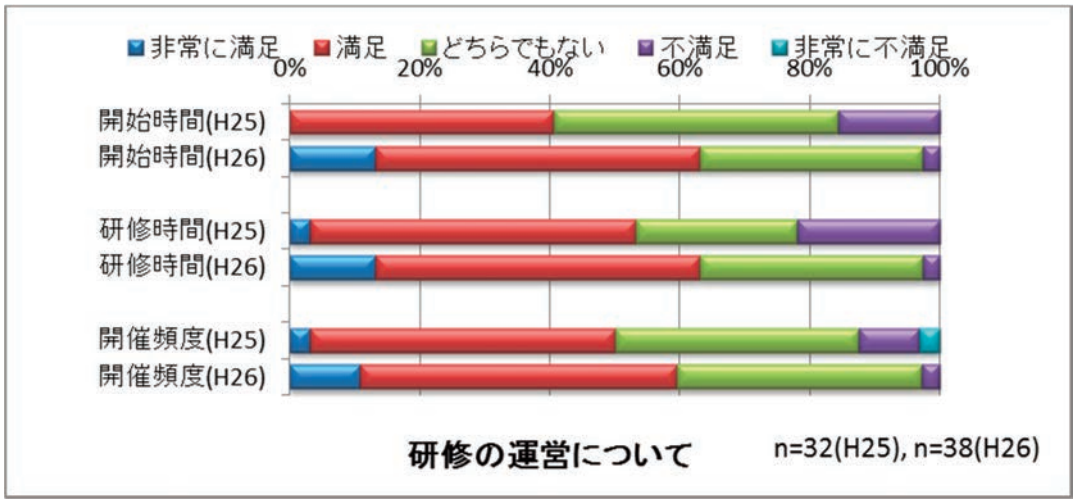
1）研修受講者 41 名の概要

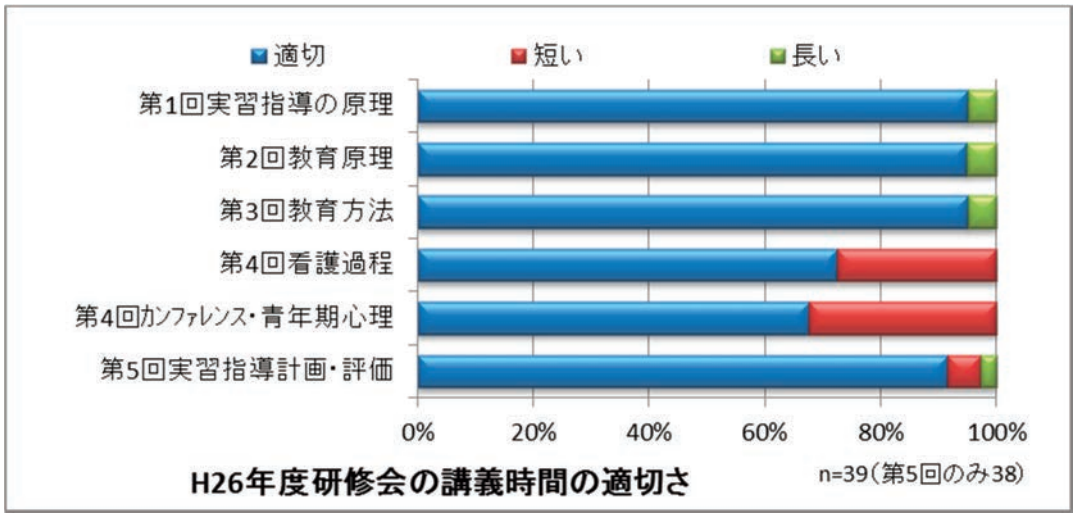
（1）看護職平均経験年数　8.5 年±2.7 年

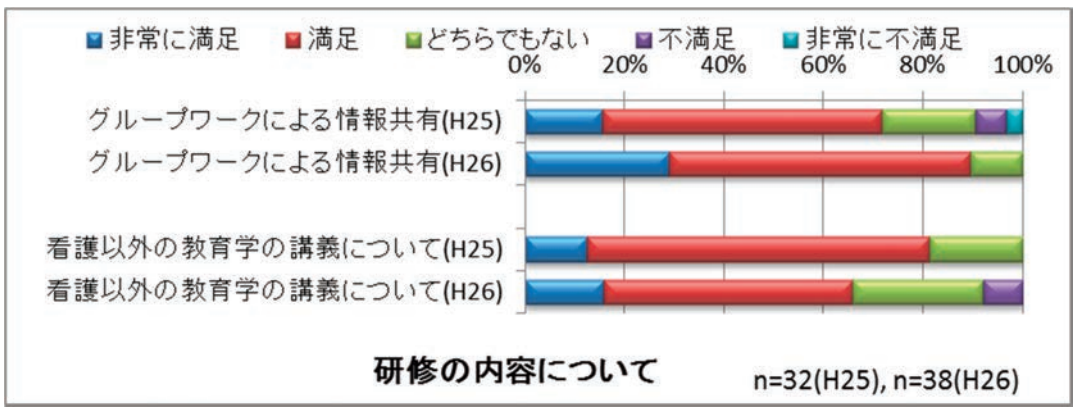
（2）実習指導者の経験　　全員 1 年目

２）研修会の運営や実施体制に関する評価

開始時間、研修時間、開催頻度について、平成 25 年度に比べ、「満足」と回答した者の割合が多かった。研修時間については 6 割程度が満足していたが、第 4 回研修会（看護過程、カンファレンス、青年期の心理）の講義時間は、「講義時間が短くもう少し聞きたかった」という意見があった。自由記述では、「グループワークが長すぎる」、「グループワークが短すぎる」という意見もあったが、グループワークによる情報共有は、約 9 割が満足しているという結果で昨年度より増加した。







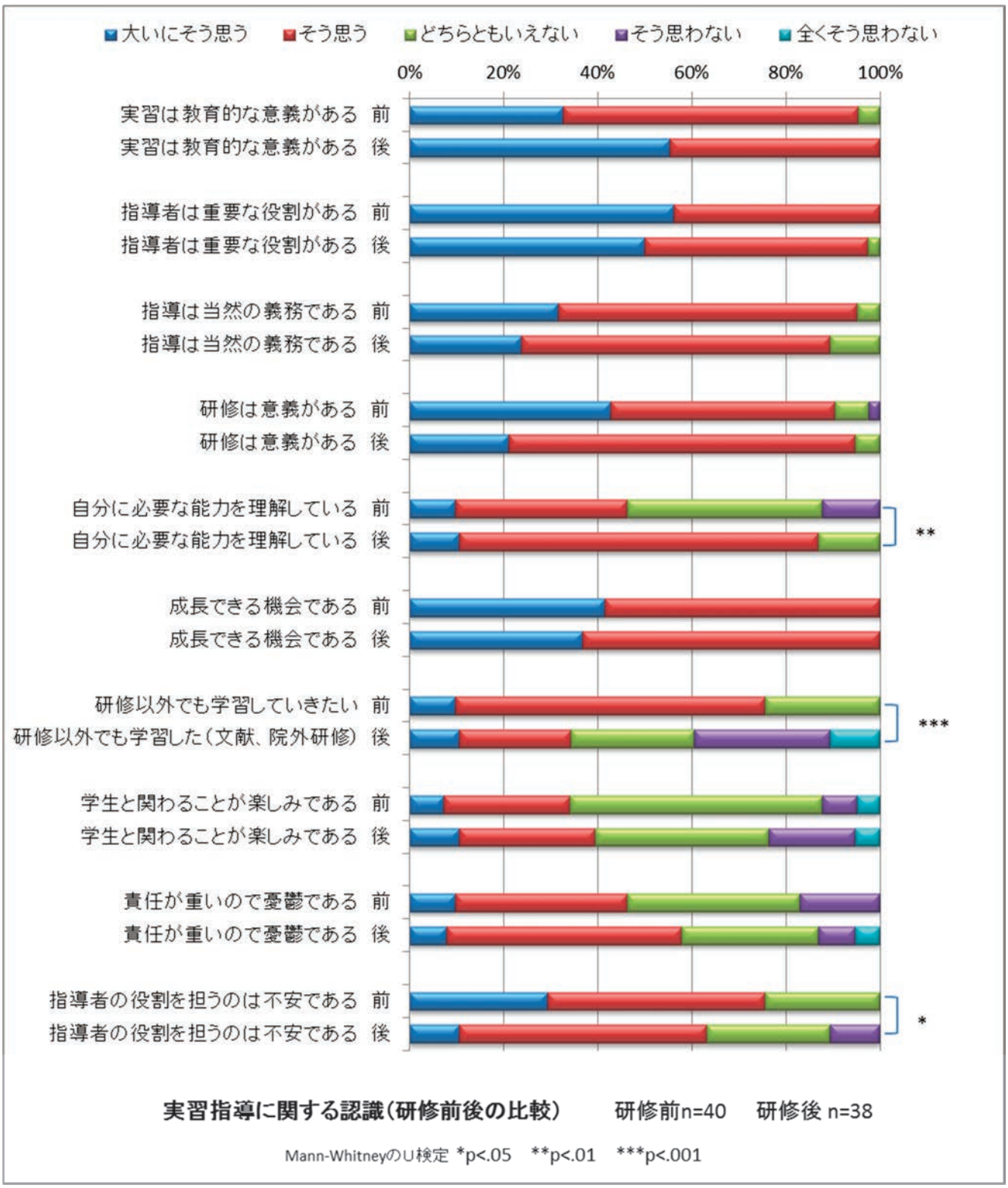
３）実習指導に関する認識と知識の変化

調査対象者：研修開始前 41 名、研修開始後 38 名

調 査 時 期 ：研修開始前（平成 26 年 5 月）、研修修了時（平成 27 年 1 月）

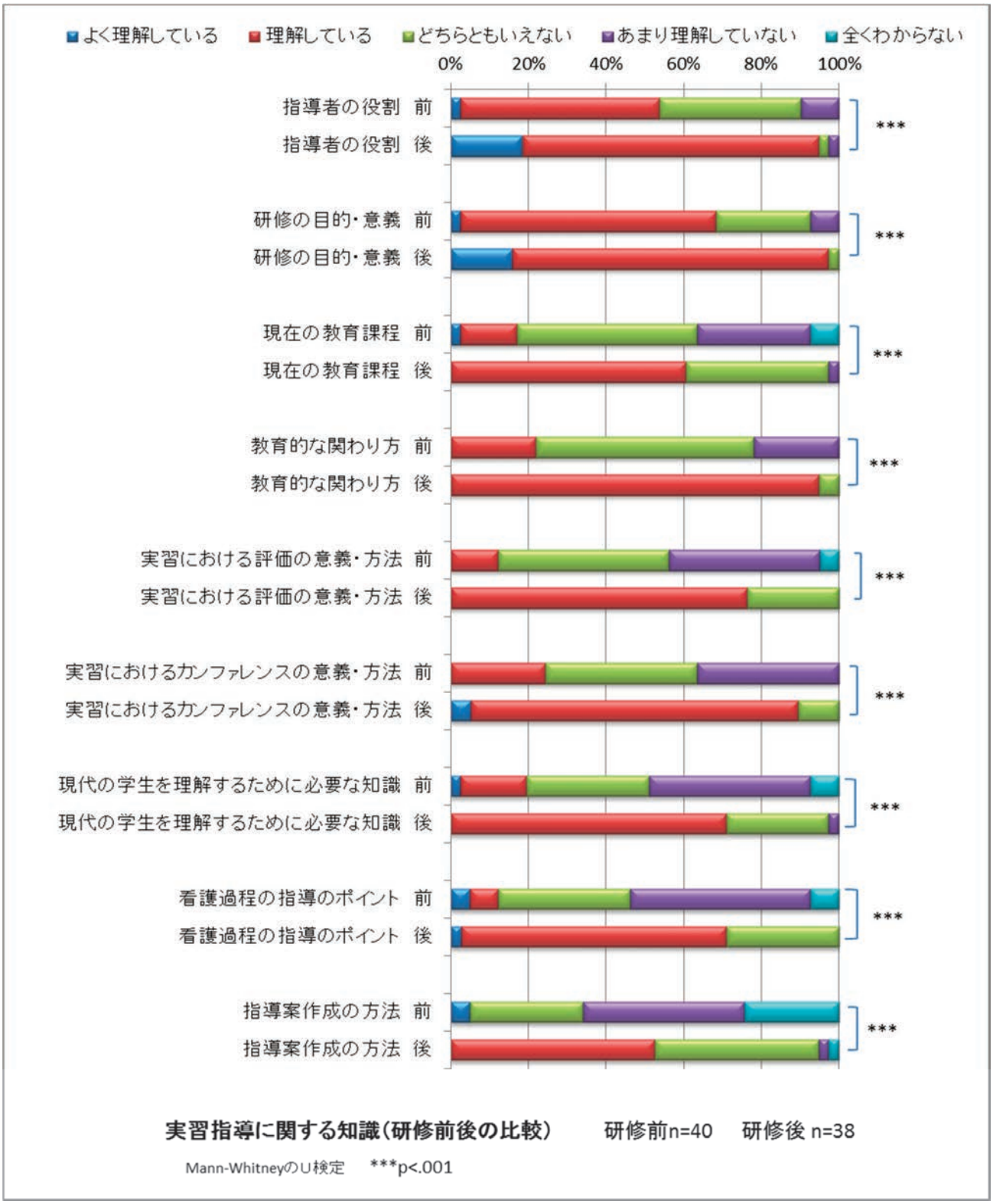
（１）実習指導に関する認識

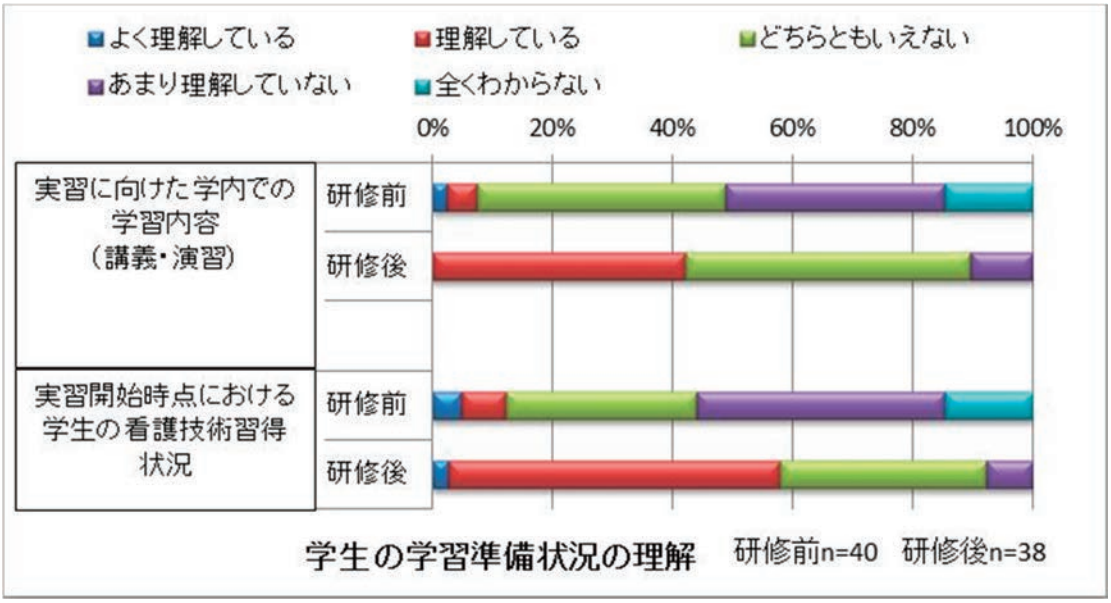
１年間の研修と実践を通して、研修会受講前に比べ受講後には「実習指導に関して必要な能力を理解している」と認識している割合は有意に増加し、「指導者の役割を担うことが不安だ」と認識している割合は有意に減少した。また、「研修以外でも学習していきたい」と思う受講者は有意に減少したことから、研修内容で十分に学習できたと捉えることもできるが、自発的な学習への動機づけは乏しかったと言える。



（２）実習指導に関する知識

１年間の研修と実践を通し、<u>全ての項目で有意に理解度が上昇し、</u>理解できている受講者の割合も平成25 年度の傾向と同様であった。





学生が学内の講義や演習でどのような学習を行っているか、実習開始時点でどのような看護技術を習得しているかという項目で、研修後には理解している受講者の割合が 40%～60%程度に増加した。学生のレディネスの把握につながったと考える。

４）臨地実習に対する教師効力尺度得点

「臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念」に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度（坪井ら、2001）」を用い、研修前後における比較を行った。実習指導に対する教師効力尺度 28 項目を 4 件法で測定し、合計したものを教師効力得点とし、さらに下位尺度因子別に比較を行った。

教師効力尺度総得点の研修前後の比較

	平均値	標準偏差	P値
【総合得点】			
研修前　n=40	75.98	9.73	p＜.001
研修後　n=38	85.13	8.88	

「教師効力」結果まとめ

研修終了時には、昨年度と同様に教師効力得点が上昇し、7 つの下位因子においても、全ての項目で有意に得点が上昇していた。

学生への具体的実習指導において、自信をもって行うことができているといえる。

教師効力尺度下位因子別にみた研修前後の比較

	平均値	標準偏差	P値
【カンファレンスを実施できる自信】			
研修前　n=40	12.5	2.5	p<.001
研修後　n=38	15.1	2.4	
【看護実践能力を活用できる自信】			
研修前　n=40	11.6	2.4	p<.001
研修後　n=38	12.8	1.5	
【学習者としての学生を尊重する自信】			
研修前　n=40	14.9	2.2	p<.05
研修後　n=38	15.6	2	
【学びを深めるために技法を活用できる自信】			
研修前　n=40	11.0	2.4	p<.05
研修後　n=38	11.8	1.3	
【実習教育の準備ができる自信】			
研修前　n=40	11.2	1.6	p<.01
研修後　n=38	12.3	1.5	
【学生の状況を判断できる自信】			
研修前　n=40	7.7	1.4	p＜.001
研修後　n=38	9.1	1.4	
【学生の学びを促進できる自信】			
研修前　n=40	7.2	1.2	p＜.001
研修後　n=38	8.5	1.5	

Mann-WhitneyのU検定

研修前後における「実習指導者の教師効力尺度」の推移

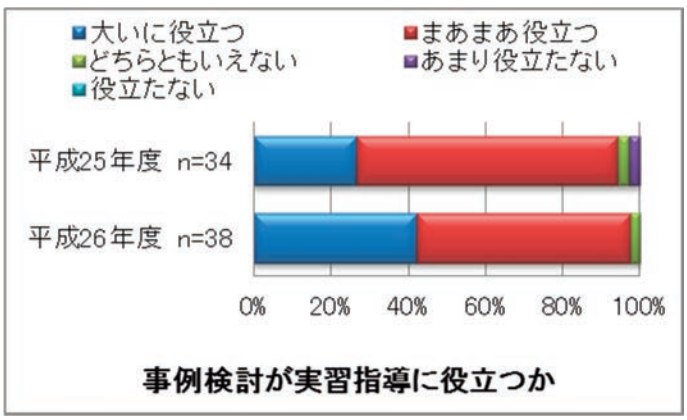
年度		N	研修前		研修後	
			平均点	± S.D.	平均点	± S.D.
2013	平成25年	36（研修後は31）	73.19	11.80	84.10	9.11
2014	平成26年	40（研修後は38）	75.98	9.73	85.13	8.88

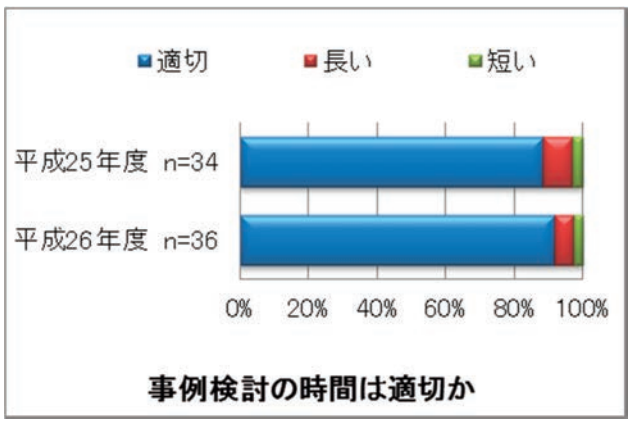
毎年研修後には教師効力尺度得点が上昇しているが、今年度は昨年度よりさらに得点が上昇しており、研修による学びの効果が確認できている。

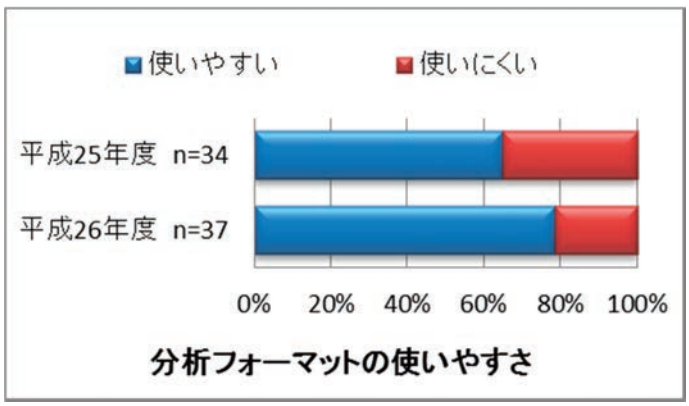
５）実習指導における困難事例の検討（第 6 回研修会）

「実習指導において多様なアプローチがあることに気付くことができる」を目的とし、実習指導を実践していく上で困難な点や課題と思う事例を上げ、多角的視点から振り返りを行った。受講者が経験した学生指導の困難事例を 2 事例挙げ、グループワークとロールプレイを取り入れた事例検討を行った。

受講者からは、実習指導に役立つとの肯定的意見が多く、他の受講者との意見交換により様々な学びにつながったという意見が多く聞かれた。ロールプレイに関しては難しかったという意見もあり、来年度は事例の選定を検討する必要がある。



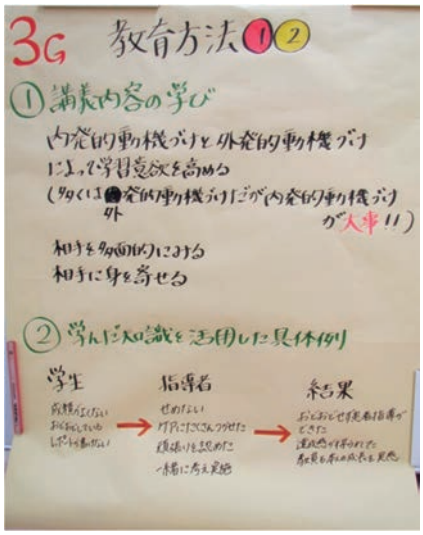


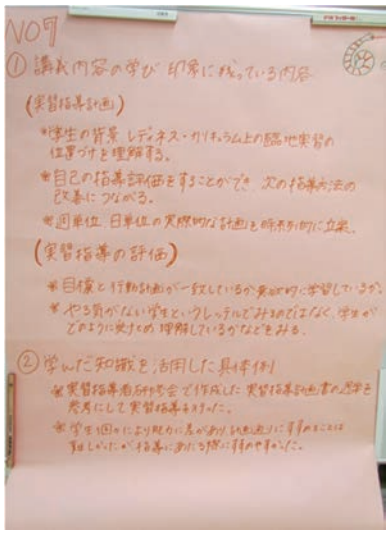


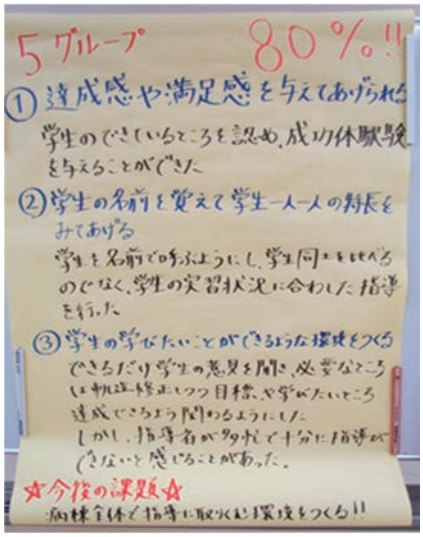
平成 26 年度　第 6 回実習指導者研修会事例検討　学びや感想【抜粋】
困った患者さんはやはりいるのだという驚きと自分がその場面にあった時にどう対応したらいいか悩むところは一緒だなという感想です。グループワークを行うことで対応のバリエーションや心構えについて見直すことができた
いろいろな学生が居るのだと考えさせられた　2 事例だけではなく他の事例も紹介などがあればいいなと思った
困った学生、場面でもしかたがないで終わらせずに原因（問題点）を挙げ、かかわりの計画をみんなで考えることで、これから似たような事例があった時はあきらめずに学生と関わっていきたいと思った
ロールプレイは学生役が Ns 役にあわせてしまうので他者（WG の方など）が学生役をしていただくほうがリアリティーがでてよいのではないかと思った
自分だけでなくグループ内の意見や指導方法も聞けて参考になった。良くありがちな事例なので参考にして学生指導していきたい
今までの自分の行動の振り返りとなったし、今後の実習指導に活かすヒントとなった。明日からでも役立てたいと思う
ロールプレイなども行うことができたので状況設定の場面で、どのような声かけができるか考えることができた
ロールプレイはやってみると答えが導きやすかった
実際に病棟で学生さんと接したあとでの研修だったので意見も多く出て、今後に活かすことができると思った
自分の病棟でも少なからず同じような指導が必要な学生がいるため、今後の指導のヒントになった
指導に困る学生はやはり意欲の低い学生が多いようであった。今後とも接していく学生 1 人ひとりの学習意欲向上につながるような働きかけをしたい
学生ができていないと決め付けるのではなく、どうしてその考えになったのか、その行動をとったのか、聞きだすことができていないと感じた　かし、言い方次第では責められているように感じ取るため、学生の考えを引き出せる言い方も工夫したいと思った
学生への対応について学ぶことができた。ロールプレイは難しい
指導者の問題点がすごく参考になった。自分の振り返りにつながったと思う　ループワークをすることで理解を深めることができた

６）実習指導者が研修で学んだ知識を活用した指導場面（第 7 回研修会）

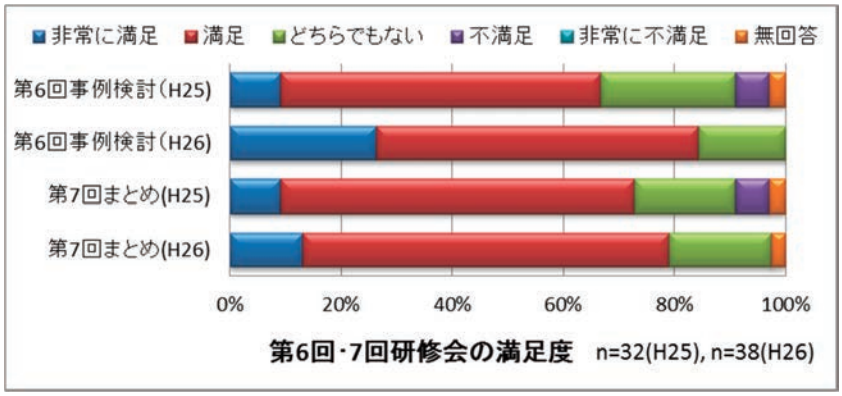
第 7 回研修では、これまでの研修で学習した理論を実習指導場面でどのように活用したか、実習指導者として成長した点と今後の課題についてグループワークを行い、1 年間の総括を行った。







平成 26 年度　第 7 回実習指導者研修会　学びや感想【抜粋】
今まで学んだ研修を振り返ることで、思った以上にできるようになったことが増えたと感じた
1 年の自分たちの活動を振り返って、足りない部分もあるが、1 年間頑張ったことをグループみんなで認め合うことができてよかった。
過去に受けた講義を振り返り、改めて今まで学んできたことの再確認ができた また、今までの自分の指導を振り返り、講義内容で活かせる点やできるようになった点を実感でき、自分の今後の指導にも実際に役立てていこうと思った
1 年間沢山のことを学んだと改めて振り返ることができた 1 年の目標の評価、反省をすることで自分の成長した点、不足している点をもう一度見つめなおすことができた
1 年間実習指導者として色々なことを学ぶことができたと思った　今後に活用したい
一年間講義で学んだことを振り返るよい機会となった 指導の経験をしたあとに振り返ることで講義と実践との結びつきが分かり、今後の指導に活かしやすいと思った 指導者としての振り返りも行い、初心にもどることができたと思う
1 年間研修に参加して、他部署の方と同じ目標をもって学ぶことができたことはとても貴重な経験だと思う 研修会で学んだことを実習指導へ活かせたらいいと思う
今年初めて実習指導者となり、これまでを振り返ってみることで看護することも難しいけれど、それを指導するということは本当に難しいと感じた
一年間学んだことの復習になった　また一年の皆の経験を聞くことができて勉強になった
振り返りをすることで指導者の役割が深まった



九州大学医学研究院の教員及び人間環境学研究院の教員、佐賀大学医学部看護学科の教員と協同で本研修会を開催し、臨地実習指導者を育成することができた。研修会を受講し、**学生の実習に向けた学習準備状況や実習指導に必要な知識や技術を学び、実習指導に活用できた人が多かった。研修修了時には、実習指導者としての自信の高まりや、実習指導に対する認識の肯定的変化に繋がった**と考える。

4．実習指導体制整備･強化

平成 26 年度実施計画・進捗状況

各部署の実習指導の代表者同士で情報共有や研鑽をし、指導者役割の資質向上を図ることを目的に、平成 26 年度実習指導者会議を開催した。実習受け入れの準備として、実習指導において困っている点を中心に大学教員との情報共有やワークショップ、事例検討を通して、実習指導者同士の情報交換を行い、指導体制や指導内容の充実を図った。また、平成 25 年度に引き続き、臨床用実習指導要項の運用及び運用後の評価を行った。

＜実習指導者会議＞

◆目　的：実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る。

◆目　標：１）学生への教育的・効果的指導のあり方を検討する。

２）実習指導者としての目標設定を行い、振り返りを行う。

３）実習指導要項の見直しを行う。

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	日		23	13	25	22		24	28	26	23	27	27
実習指導者会議	議題	開催なし	1．会議規程について 2．会議構成員について 3．会議日程について 4．25年度実習指導者会議活動のまとめについて 5．25年度学生アンケートについて 6．保健学科第8期生の卒業時の看護技術到達度について 7．25年度保健学科総括について 8．実習指導者会議活動計画について 9．実習指導者26年度学生及び研修生の受入計画について 10．実習指導者研修会スケジュールについて 11．実習指導要項の見直しについて 12．その他	九州大学保健学科 病院実習連絡会	福岡女学院看護大学 老年・慢性期・急性期実習説明会 該当部署のみ	1．実習指導に関する情報共有 「実習指導に関して教員に聞きたいこと、困っていること」 保健学科教員からの回答	開催なし			福岡女学院看護大学 病院実習連絡会 該当部署のみ		1．実習指導要項の見直し	1．1年間の評価とまとめ ・会議の目標達成と振り返り ・実習指導要項の評価 ・実習指導者の目標達成度
	学習・検討会							【講義】実習指導に役立つ内容 「看護学教育指導者研修で学んだ看護学生の状況」 【WS】 実習指導体制で工夫していること、困っていること	【WS】 事例検討 第1回		【WS】 事例検討 第2回		

平成 25 年度末の会議で、平成 26 年度の実習指導者会議で取り組みたい内容や、実習指導で困っている内容についてワークショップを行った。その結果、会議で取り組みたい内容は「実習指導に役立つ知識の修得」、「指導困難事例の検討」、「実習指導要項の見直し」、「情報共有（他部署の指導状況等）」で、困っている内容として「実習受け入れ大学により指導内容や指導方法の違いがある」、「教員との連携」、「学生への対応」等の意見があった。この結果を踏まえ、平成 26 年度の会議では、教員との情報共有も含め、実習指導体制や指導方法等の具体的な情報共有を基礎看護学実習が始まる前後の早い時期に計画し、実習期間中には事例検討のワークショップ、実習がある程度終了した時点で指導要項の見直しを行った。

成果

基礎教育を担う保健学科と臨床現場である看護部が共同で、臨床指導に関わる教育指導者や教育環境を整備することで、看護学生の看護実践能力の向上のための【実習指導体制整備･強化】を行った。その成果・効果として下記 4 つの視点で考察する。

1）実習受け入れ準備の検討
2）実習指導体制に関するワークショップ
3）実習指導が困難な事例に関するワークショップ
4）看護学生による臨地実習の評価

1）実習指受け入れ準備の検討

(1) 臨床用実習指導要項の利用促進

平成 26 年度に初めて実習指導者会議の構成員となった実習指導者は全体の 2/3 であり、新規の構成員が多かった。平成 25 年度に引き続き、臨床用実習指導要項について、実習指導者研修会、実習指導者会議でも内容を丁寧に説明し、各部署での利用促進を促した。

章	内容	章	内容
Ⅰ	九州大学病院における実習指導	Ⅶ	小児看護学実習 1 受け持たせたい患者と学習させたい処置・検査・看護技術 2 実習目標・行動目標・実習内容
Ⅱ	臨地実習における役割 1 実習指導者・スタッフ・管理者・教員の役割 2 実習時期別の教員・実習指導者・スタッフの役割		
Ⅲ	保健学科の『看護基本技術』到着目標と実習で経験出来る該当部署のマトリックス	Ⅷ	母性看護学実習 1 受け持たせたい患者と学習させたい処置・検査・看護技術 2 実習目標・行動目標・実習内容
Ⅳ	基礎看護学実習Ⅰ 1 実習目標・行動目標・実習内容		
Ⅴ	基礎看護学実習Ⅱ 1 実習目標・行動目標・実習内容	Ⅸ	精神看護学実習 1 受け持たせたい患者と学習させたい処置・検査・看護技術 2 実習目標・行動目標・実習内容
Ⅵ	成人・老年看護学実習 【急性期看護学実習】【慢性期看護学実習】 1 受け持たせたい患者と学習させたい処置・検査・看護技術 2 実習目標・行動目標・実習内容	Ⅹ	助産学実習（選択コース） 1 受け持たせたい患者と学習させたい処置・検査・看護技術 2 実習目標・行動目標・実習内容

(2) 実習指導において困っている点についての情報共有（第 4 回会議）

第 1 回の実習指導者会議において、九州大学医学部保健学科・福岡女学院看護大学の学生実習に関して「実習指導で困っていること」「教員に聞きたいこと」についてアンケートを依頼した。「困りごと・聞きたいこと」のアンケート結果を「学生の評価」「事前の情報提供」「実際の指導内容」「連絡体制」「記録」「その他」などの項目に分類し、実習指導者育成 WG でそれぞれの項目について意見をまとめた。その結果を保健学科へ伝え第 4 回の実習指導者会議において教員より回答を頂いた。福岡女学院へは、アンケート結果を情報提供として伝え、回答形式については来年度の検討事項とした。

2）実習指導体制に関するワークショップ(第５回会議)

今年度初めの実習指導者会議で会議構成員より、他部署の取り組みなどを知りたいという意見が多くあった。そこで、「他部署の実習指導体制や取り組みなどを共有・情報交換し、自部署の指導に役立てる」という目的でワークショップを開催した。

「実習指導体制に関して困っている事」「実習指導体制に関して工夫している事」についてグループで話し合い、発表、情報共有を行い、振り返りや今後の取り組みの参考の機会とした。

（1）発表内容

①困っている事

・指導者が５人いるため指導者間の引継ぎが大変である。
・指導者が少ないので負担が大きいと感じる。
・スタッフが少ないので患者を受け持ちながら指導をする場合もあり、レポートを勤務後に見なければいけないのが辛い。
・PNS に組み込まれると他の患者の情報収集やケアをするので学生を十分に指導できない。
・PNS で患者を受け持ちながら指導するとパートナーに全てを任せてしまい PNS にならない。
・学生係だと時間があると思われ、他スタッフにケアを頼まれ記録が見られない。

②工夫している事

・学生担当者の引継ぎや指導方針の統一のため、師長に依頼し少なくとも 2～3 日連続で担当できるようにしてもらっている。
・指導者間でパソコンやノートを使って引継ぎ簿を作って、指導が途切れないようにしている。
・指導者間で連絡会を頻回にしている。
・学生指導のときは、PNS を 3 人チームにしてもらっている

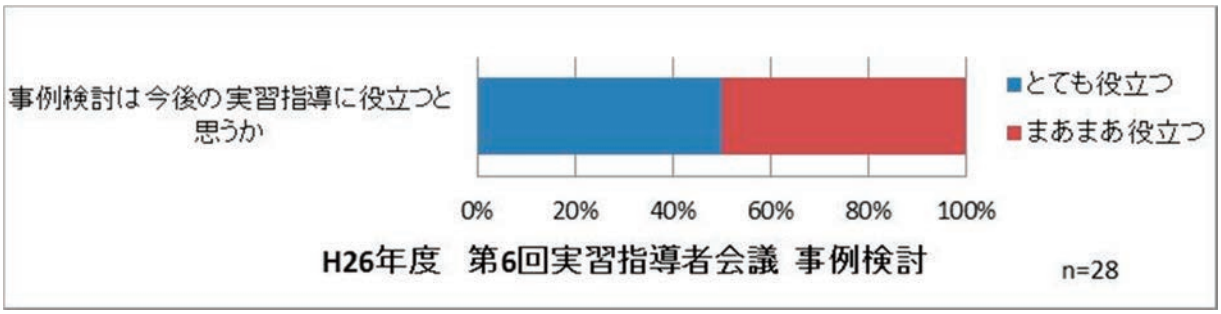
（2）教員や会議構成員からの意見

・保健学科の教員より、PNS と学生係の兼務は負担なのではないかと感じている。そのような状況の中、PNS のパートナー組を工夫したり、他の看護師に協力を呼びかけケアの機会を提供してもらっていることに感謝している。
・他のグループの工夫していることや実習要項を活用しながら、他スタッフへの実習への協力を得る工夫も継続してほしい。

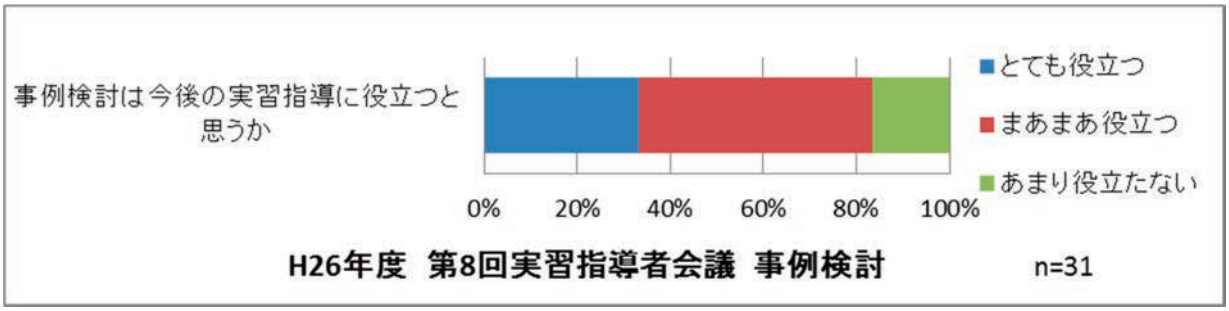
3）実習指導が困難な事例に関するワークショップ(第６回･８回会議)

「個人の体験を第三者の視点から振り返ることにより、実習指導において多様なアプローチがあることに気づくことができる」を目的に、第 6 回会議では「学生への指導が困難な場面」、第 8 回会議では、「新人の実習指導者が指導について先輩実習指導者に相談する場面」を想定した事例を用いて、ワークショップを行った。受講者からは、「多くの意見を聞き勉強になった」、「今後の指導に活かしたい」等の肯定的な意見が多かった。学生への実習指導場面のみならず、先輩実習指導者として新人実習指導者への関わりを視野に入れた事例を提示したことで、グループ内での活発な意見交換や、より実践に活用できる内容につながった。また、これまでの指導の振り返りにもなり、今後の効果的な指導方法について学ぶ機会となったと考える。

平成 26 年度第 6 回実習指導者会議　事例検討を行っての学びや感想（抜粋）
多角的な視点でみることができ、今後の実習指導においても同じ視点で考えていく必要があると思った。
他部署での事例を共有し検討することで自分の視野を広げることができた。今後の指導に活かしていきたい。
事例検討することで客観的に患者・学生・指導者の問題点を見出し、解決までの計画、目標がでる。また、他の意見を聞けるのでよかった。
ありがちな症例だったので指導時に役立つと思った。自分の学生への対応を振り返ることができた
グループワークすることで他のメンバー、グループの様々な視点、考えを知ることができた
よくある事例でみなさんの意見を聞くことで今後の指導の参考にしたい
学生・指導者の問題点などを具体的に考えることができるので今後の実習に役立てることができたと思う
実習指導者は学生の気づいたことは伝えてあげる、助言してあげることがとても大切であることが学べた
学生と一緒にベッドサイドに行くことがとても大切であることがわかった
学生に対して指導者としてどのように関わっていけばよいか学ぶことができた
事例検討することで他部署の指導者の考え方や困っていること、解決方法などを共有できたのでよかった



平成 26 年度第８回実習指導者会議　事例検討を行っての学びや感想（抜粋）
各々の立場から問題点を考えることで考えに偏りなく問題全体を捉えることができた
学生に対応で悩むことも多いので意見を出し合うことで自分自身も考える場になったと思う
様々な学生がいる中で決めつけはせず、その学生に合わせたレベルの具体的な質問や声掛けをすることが大切であると改めて感じた
学生実習で実際に経験しないことをグループで話し合えるのでいろいろなことを学ぶことができる
今回の事例は多くの場面でみられることだと思うので、学生の立場にもなって考えないといけないと思った
グループワークを行うことで多くの意見を聞くことができ学びを深めることができた
事例を通して他看護師と意見交換し、自分が気付くことができなかった意見等を聞くことができ、視野が広がる良い機会となったと思う
事例検討することでいざ自分がこのような場面になったときに参考になると思う 質問の仕方などを考えて、学生の立場に立った指導ができるようにしたい
自分も学生にどのような対応をしていることがあるか振り返ることができた そのような時にはどういった方法をとればいいかみんなの意見を聞いて少し分かったような気がする



４）看護学生による臨地実習の評価

当院で臨地実習を体験している九州大学医学部保健学科の看護学生を対象に、平成 23 年度より臨地実習に関する質問紙調査を実施している。

調査内容は実習指導を受け入れる部署の雰囲気や看護学生と実習指導者およびそれ以外の職員との関わり等に関する 13 項目について、「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」の 4 件法で評価を行った上、感想等を自由記述で記載するものである。

対象となる看護学生には、調査の目的、無記名による調査であり匿名性が確保されること、記載の内容は実習の評価とは全く関係がないこと等について実習指導者より説明を行い、記載内容が直接指導者の目に触れないよう専用の封筒に投函するという方法で各領域ごとの臨地実習最終日に調査を実施してきた。以下に、今年度の結果を示す。

【結果】

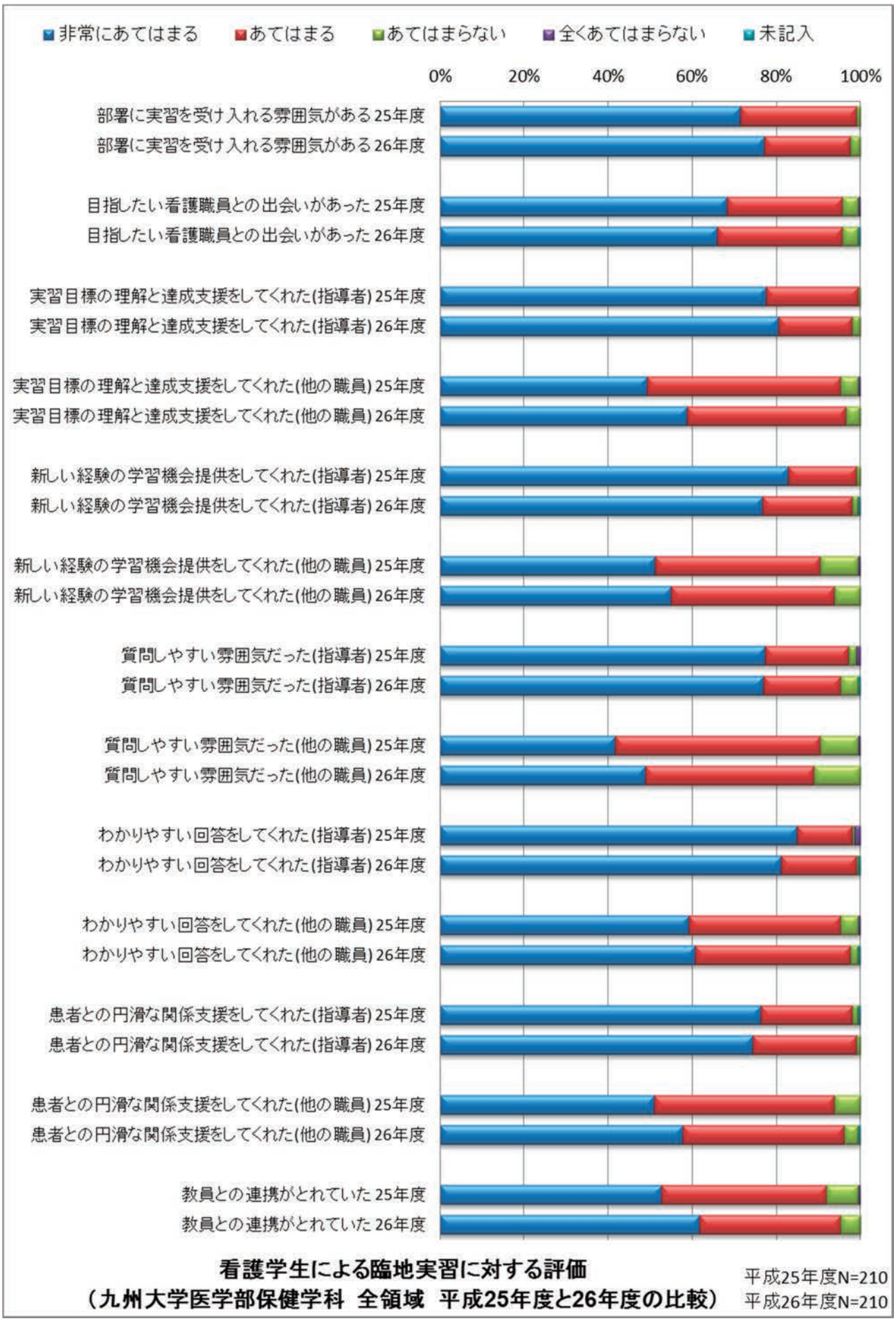
調査対象者：九州大学医学部保健学科 3 年生

精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、成人・老年看護学実習(慢性期看護学実習、急性期看護学実習）の各領域で実習する学生

調査期間：平成 26 年 10 月 20 日～平成 27 年 1 月 30 日の実習期間

回収数：210

次ページからの図に示している通り、平成 25 年度と平成 26 年度を比較すると統計学的な有意差はなく、指導者に関する項目ではほぼ全ての項目で、90%以上の学生が肯定的な評価であった。また、自由記述の意見のほとんどが、実習指導への感謝の言葉がみられた。学生の意見から、「実習指導者以外の看護職員も積極的に学生に関わっていること」、「病棟全体が学生を温かく迎え入れている環境があること」、「臨床でしか学べない経験を多くできるよう配慮していること」、「目指すべき看護師としてのロールモデルになっていること」等が伺えた。


非常にあてはまる
あてはまる
あてはまらない
全くあてはまらない
未記入
0%
20%
40%
60%
80%
100%
部署に実習を受け入れる雰囲気がある 25年度
部署に実習を受け入れる雰囲気がある 26年度
目指したい看護職員との出会いがあった 25年度
目指したい看護職員との出会いがあった 26年度
実習目標の理解と達成支援をしてくれた(指導者) 25年度
実習目標の理解と達成支援をしてくれた(指導者) 26年度
実習目標の理解と達成支援をしてくれた(他の職員) 25年度
実習目標の理解と達成支援をしてくれた(他の職員) 26年度
新しい経験の学習機会提供をしてくれた(指導者) 25年度
新しい経験の学習機会提供をしてくれた(指導者) 26年度
新しい経験の学習機会提供をしてくれた(他の職員) 25年度
新しい経験の学習機会提供をしてくれた(他の職員) 26年度
質問しやすい雰囲気だった(指導者) 25年度
質問しやすい雰囲気だった(指導者) 26年度
質問しやすい雰囲気だった(他の職員) 25年度
質問しやすい雰囲気だった(他の職員) 26年度
わかりやすい回答をしてくれた(指導者) 25年度
わかりやすい回答をしてくれた(指導者) 26年度
わかりやすい回答をしてくれた(他の職員) 25年度
わかりやすい回答をしてくれた(他の職員) 26年度
患者との円滑な関係支援をしてくれた(指導者) 25年度
患者との円滑な関係支援をしてくれた(指導者) 26年度
患者との円滑な関係支援をしてくれた(他の職員) 25年度
患者との円滑な関係支援をしてくれた(他の職員) 26年度
教員との連携がとれていた 25年度
教員との連携がとれていた 26年度
看護学生による臨地実習に対する評価
（九州大学医学部保健学科　全領域　平成25年度と26年度の比較）
平成25年度N=210
平成26年度N=210

平成 26 年度　看護学生による臨地実習についての感想･意見（九州大学医学部保健学科学生、自由記述の抜粋）
2 週間本当にお忙しい中、とても親身になった対応をしていただきありがとうございました。アドバイスや看護師さんたちの患者への対応がとても自分にとって刺激になった。勉強になった。
戸惑いがあった際には親身になって相談に乗ってくださり、自分なりにしっかり患者と関わりをもつことができた。本当にありがとうございました。
患者との関わりの中で、疑問に思ったことを解決する助言を頂き、実習する上でどう考えたらよいか学ぶことができた。本当にありがとうございました。
今回の実習では、指導者さんも他の看護師さんも、学生のためにアドバイスしてくれているということを強く感じることができました。様々なことを学ぶことができ、本当に感謝しています。ありがとうございました。
とても自主性を重視しておられ、実習を自分で組みたてる、自分からさせて頂くという力を少しずつ身に付けることができたと思います。不安な中での実習だったが、細やかに学生のことを気遣っていただき、実習しやすい雰囲気でした。ありがとうございました。
とても配慮してくださり、経過やケアだけでなく生活面にも声かけして頂いてとてもやりやすかったし頑張れました。ありがとうございました。
今までの実習の中で最も充実した実習でした。これも受け持たせていただいた患者さんやご家族の皆さん、指導者さん、看護師さんにとても感謝しています。本当にありがとうございました。
的確なアドバイスをいただけたと思います。介入の機会や看護技術の実施の機会を多く用意していただきました。今回学んだ事は次の実習に活かしたいと思います。ありがとうございました。
初めての本実習で緊張しかありませんでしたが、病棟全体の雰囲気や指導者の対応等全部が優しく、自分の目指す看護師像でした。学ぶことも多くありこれからの実習に活かしたいです。
記録でつまづいた時、患者さんの状態が理解できなかった時、お忙しい中の時間を割いていただき指導してくださったおかげで、実習がとても分かりやすく、自分で計画を立てたり状況の変化を把握できるようになった。指導者さん以外の方々も私たち実習生のことを気にかけてくださって、病棟全体がとても実習する上で最高の環境だった。評価の数字に 5 が欲しいくらいです。
報連相の大切さ、患者さんとのコミュニケーション方法、指導時の個別性、ミキシング等、沢山のことを学ぶことができました。充実した実習でした。学んだことを今後の実習に活かしていきます。
質問に丁寧に答えてくださりアドバイスを沢山してくださり、記録物もとても丁寧に隅々まで確認しコメントをくださって、とても充実した実習になりました。挨拶をする時に、他の看護師さんたちも振り向いてくださって、とても受け入れてくださっている感じがありました。2 週間ありがとうございました。
慢性期の実習では、指導者さんが熱心に教えてくださり、実りの多い実習になった。記録物も全部きちんと訂正を入れてくださり、不十分なことがあればきちんと指導してくださり、この実習で大いに成長できたと思います。職場の雰囲気もよく、こんなところで働きたいと思える環境でした。
指導者が優しく熱心にご指導してくださり、病棟実習に行くことが楽しみでした。今までの実習の中で、最も多くのケアに入らせていただけたと思う。多くの経験ができ、充実した実習でした。ありがとうございました。
実習を通して、より看護師になりたいと思えた。本当にありがとうございました。
この病棟で実習できて本当に良かった。ありがとうございました。
時に厳しく、時に優しく指導していただきました。2 週間でとても多くの学びを得ることができました。

実習指導者育成ＷＧメンバーの活動の振り返り

今年度は「看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト」として５つの WG が設置され、その中で「実習指導者育成 WG」を 14 名のメンバーで担当した。実習指導者育成ＷＧ構成員として、「看護キャリアセンター」「看護部教育委員会」「教育指導者」「教育 WG」「実習指導経験者」等、様々な教育経験を持つスタッフが加わったことで活発な意見交換ができ、特に「実習指導経験者」からは、現場の状況を反映した有意義な発言が多く聞かれた。

実際の活動に際しては、初めてのことに対する緊張や戸惑いもあったが、看護キャリアセンターが中心となり、実習指導者研修会や実習指導者会議の企画・運営・評価に携わった。研修の準備や、司会・進行などの運営、アンケートの集計などを担当することで、実習指導者の直面している問題や不安を知ることができ、臨床における現状把握に役立った。研修や会議における「企画・運営・評価」の一連の流れを知ることで、事前準備や会場設営の大変さを実感するとともに、研修や会議における時間管理の重要性を学んだ。

その他、実習指導者研修会に参加することで、「学生の置かれた現状や問題点」「教育課程」「コーチング」など多岐に渡る講義を研修生と共に聴講し、自らの自己研鑽にも繋がったと考える。

今後の展望

実習指導者育成 WG の活動を通して、実習指導における病棟の体制や病棟ごとに抱える問題も様々であることがわかった。またそれを踏まえたうえで、実習指導者を中心に、看護師長や副看護師長、その他のスタッフが一丸となって実習を支援していく環境作りも重要であることがわかった。今後もメンバーを通して現場の意見を聞くことで、研修の時間配分や、回数、内容などを検討し、より有意義なものとなるよう、一人ひとりが主体的に活動を行って行きたい。

また来年度は、病院実習指導要項の改定や電子書籍化の検討等、実習指導環境の整備や、新たに実習指導者となる看護師が存在することを念頭に置き、実習指導者の学習ニーズの把握に努め、より良い実習指導者育成を目指して行きたい。

５．教育研究推進 WG

１）教育研究推進ワーキングの概要

ブロッサム教育研究推進ワーキング（以下、教育研究推進WG）は、平成 23 年度から活動を開始し、平成24年度に臨床看護師の看護研究に関する看護実践力向上を目的に「九州大学病院看護研究コース」を設立した。平成 24 年度に基礎編を開講し、看護職員 20 名が受講した。基礎編では、看護研究の基礎的知識を修得し、15 名が平成 25 年度開講の実践編に進んだ。実践編では、受講生は、研究成果の発表を目標に、それぞれの看護研究に取り組んだ。研究コース設立後より倫理申請件数は増加し、確実に看護研究に関する実践力は向上している。

平成 26 年度から教育研究推進WGの活動は、継続プロジェクトの研究推進WGで引き続き実施することとなった。平成 26 年度は、教育研究推進WG構成員に院内からは大学院を修了した看護職員を新たに加え、院内指導者の育成も視野に入れた体制で、基礎編を開講した。

【教育研究推進ＷＧ構成員一覧】

所　属	職　位	氏　名
医学研究院保健学部門 看護学分野	教授	藤田　君支
	助　教	道面　千恵子
	助　教	金岡　麻希
病　院 看　護　部	教育担当 副看護部長 （WG長）	山下　春江
	集中治療部･救命救急センター 看護師長	永江　ゆき子
	北棟9階2病棟 副看護師長	桃坂　真由美
	看護キャリアセンター 看護師	大村　由紀美
	南棟10階 看護師	秋永　和之
	北棟6階1病棟 看護師	山本　千晴
	看護キャリアセンター 看護師	吉川　由香里
	医療連携センター・ 看護キャリアセンター 看護師	酒井　久美子

2）研究推進WGの開催

開催回数	日　時	主な議題
第 1 回	平成 26 年 6 月 26 日	○継続プロジェクト、教育研究推進WGの運営について ○平成 26 年度看護研究コース基礎編の計画 ○その他 ・平成 25 年度看護研究コース実践編修了者の研究進捗状況の報告 ・予算について
第 2 回	平成 26 年 7 月 24 日	○平成 26 年度看護研究コース基礎編受講者について ○平成 26 年度看護研究コース基礎編受講者と指導者のマッチングについて ○平成 26 年度看護研究コース基礎編年間スケジュールについて
第 3 回	平成 26 年 8 月 28 日	○平成 26 年度看護研究コース基礎編の配布資料とその内容について ○平成 26 年度看護研究コース基礎編の文献クリティーク。演習方法について ○その他 ・平成 26 年度看護研究コース基礎編成果発表会の日程について
第 4 回	平成 26 年 10 月 23 日	○平成 26 年度看護研究コース基礎編講義の報告 ○講義受講者アンケートの結果について ○平成 26 年度看護研究コース基礎編中間発表会について ○その他 ・看護研究コース設置による効果分析 ・ブロッサム開花継続プロジェクトの報告会について
第 5 回	平成 26 年 12 月 9 日	○平成 26 年度看護研究コース基礎編中間発表会について ○平成 26 年度看護研究コース基礎編成果発表会について ○修了証ホルダーについて ○平成 25 年度看護研究コース実践編修了者へのアンケート調査について ○予算について ○その他 ・ブロッサム開花継続プロジェクトの報告会について
第 6 回	平成 27 年 1 月 22 日	○平成 26 年度看護研究コース基礎編成果発表会について ○平成 25 年度看護研究コース実践編修了者の研究進捗状況の結果 ○ブロッサム開花継続プロジェクトの報告書案について ○収支報告について ○平成 27 年度看護研究コース実践編の企画について
第 7 回	平成 27 年 3 月予定	予定 ○平成 26 年度看護研究コース基礎編成果発表会の報告 ○平成 27 年度看護研究コース実践編の企画について

平成 26 年度実施計画

九州大学病院看護研究コースの目的

1）看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
2）研究的態度・科学的思考ができる能力を高める
3）看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる
4）研究成果を学会や論文等で発表することができる

基礎編

【目的】
1．看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
2．看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる

【目標】
1．研究に必要な基本的な知識を学ぶ
2．研究に必要な文献をコンピュータで検索できる
3．自分の研究に必要な文献のクリティークができる
4．研究の倫理的配慮が理解できる
5．プレゼンテーション技法を学ぶ

実践編

【目的】 看護の現象に対し研究的視点をもち、関心領域に関する研究を深め、研究成果を発表できる

【目標】
1．研究のプロセスを考え、研究計画書を作成できる
2．研究の目的に沿った研究手法が選択できる
3．研究倫理を配慮し、倫理審査の手続きができる
4．データ分析方法の選定ができる
5．データ分析ができる
6．抄録作成ができる
7．学会発表ができる

九州大学病院看護研究コース（基礎編）

平成 26 年度開講

【目的】１．看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
２．看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる

＜コース受講対象　定員 10 名＞
1）九州大学病院看護職員（クリニカルラダーⅡ認定以上）
2）基礎編終了後、実践編へ進むことを原則とする
＊受講者への研究支援は１年間を原則とする

＜講義･演習受講者　定員 10 名＞
1）九州大学病院看護職員（クリニカルラダーⅡ認定以上）
2）講義･演習のみの受講者は指導の対象とならない

今年度よりコースの講義を
コース対象者以外にも公開した

看護研究コース（基礎編）
の受講希望者を募る

看護研究に必要な知識の講義
（基礎編）受講

研修内容
看護研究とは何か
研究課題決定プロセス
研究のタイプと研究方法の決定
質問紙調査の方法と手続き
看護研究に用いられる統計処理
文献検索の方法
文献検討
研究計画書作成
研究倫理
倫理審査申請方法
学会発表に向けて（抄録作成・発表準備）

研究サポート
利用希望者

大学教員の研究
への参加希望者

教育研究推進 WG で検討

受講者の研究テーマと教員の専門分野・修士以上の学位を有する看護職員の研究領域を照合し、個別の指導体制をコーディネートする

研究テーマに沿った
指導者の紹介

関連領域の研究
テーマの紹介

各指導者から個別指導
（1回1時間×4～5回）

共同研究に参加

研究成果発表（院内）
→院外発表

九州大学病院看護研究コース（実践編）

＊平成 27 年度開講予定

＜目的＞
看護の現象に対し、研究的視点をもち、関心領域に関する研究を深め、研究成果を発表できる
＜対象＞
1．研究テーマを持っている人
2．看護研究コース（基礎編）修了者　あるいは、大学院（修士課程）修了者
　＊定員 10 名、個別指導

実践編希望者募集
↓
オリエンテーション
↓
研究テーマに適切な指導者を紹介
↓
・各指導者からの個別指導
・2～3 カ月に 1 回状況報告会（ゼミ）開催
↓
成果報告
（院内）
↓
学会発表
論文投稿

相談内容
- 研究の進め方
- 研究テーマの絞り込み
- 研究計画書
- 研究方法の選び方
- キーワードの選出
- インタビューの内容
- アンケートの内容
- アンケートの集計
- データの統計処理
- データの分析方法
- 結果のまとめ方
- 投稿論文作成
- 論文の書き方
- 学会発表のポイント

指導概要
- 研究の取り組みの流れ
- 研究計画
- 研究テーマの再検討
- 研究課題の整理
- 研究目的の再確認
- 文献検索の必要性
- キーワードの選出の仕方
- 対象者の絞り込み
- 研究倫理
- 研究データの整理・分析
- 統計処理方法の実技
- 研究の評価方法
- 結果の解釈
- 論文構成の仕方・添削
- 投稿論文へのコメント

平成 26 年度実施進捗状況

看護研究コース基礎編の応募者は 18 名であった。①看護研究の経験がない人を優先、②各部署でコース修了者が増えるようできるだけ複数部署より選定すること、③研究領域の偏りがなく、指導者とのマッチングができることの３つの視点から教育研究推進ＷＧで検討し 10 名を選定した。基礎編では主に文献検討を行うこととし、年間スケジュールやコースの目標設定を検討後、9 月より九州大学保健学部門看護学分野の教員の協力を得てコースを開講した。

【看護研究コース基礎編の目的】

1. 看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
2. 看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる

【看護研究コース基礎編の目標】

1. 研究に必要な基本的な知識を学ぶ
2. 研究に必要な文献をコンピュータで検索できる
3. 研究に必要な文献のクリティークができる
4. 研究の倫理的配慮が理解できる
5. プレゼンテーション方法を学ぶ

【年間スケジュール】

日程	スケジュール	担当	会場
9/5(金) 9 時～16 時 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 講義 1 日目	1. 看護研究の基礎 研究課題決定プロセス 研究のタイプと研究方法の決定	教育研究推進WG 保健学部門 藤田君支	総合研究棟 セミナー室 204
	2. 文献検索の方法 日本語：医中誌 Web、外国語：Pubmed を中心としたデータベースの活用	図書館司書	総合研究棟 セミナー室 201
9/16(火) 9 時～16 時 講義 2 日目 指導者紹介	3. 研究計画書作成、統計手法の紹介 研究倫理 4. 研究コース修了者からの成果発表 5. 文献クリティーク演習 連絡先確認、指導者との打ち合わせ	保健学部門 金岡麻希 道面千恵子 看護部 桃坂真由美、秋永和之、 山本千晴、大村由紀美	総合研究棟 セミナー室 105
12 月/4(木) 14 時～16 時 15 分 中間発表会	文献検討内容、進捗状況報告 司会進行・タイムキーパー（受講生）	教育研究推進WG 全体進行 看護部　山本千晴	総合研究棟 セミナー室 105
2/ 23(月) 13 時 30 分～16 時 成果発表会	研究進捗状況、コースでの学びを発表 司会進行・タイムキーパー（受講生） 修了証授与	教育研究推進WG 全体進行 看護部　永江ゆき子	総合研究棟 セミナー室 105

【平成 26 年度九州大学病院看護研究コース(基礎編)　受講者･指導者一覧】

九州大学保健学部門看護学分野の教員 9 名と病院看護部より 2 名の看護師が指導者となり、個別の研究指導を行っている。

	受講者	指導教員等	研究したいテーマ
1	野口　奈緒	仲道　由紀	低出生体重を出産した母親の心理と心理に及ぼす影響
2	堤　優律子	道面　千恵子	内服与薬業務におけるインシデントを経験した看護師の確認行動と安全意識の関連性
3	河野　友香	金岡　麻希	膵液瘻患者に対する早期経口摂取が術後栄養状態と術後在院日数に及ぼす影響
4	山中　留奈	藤田　紋佳	小児がんの痛みに対する看護師の認識と子どもと家族への看護の現状
5	野上　洋	秋永　和之＊ 大村由紀美＊	男性看護師が異性患者に対しての看護ケア場面で感じる困難とその対処
6	一ノ瀬喜美子	木下由美子	近年の家族関係の変化が青年期にがんを発症した患者の家族看護に及ぼす影響
7	原田　徳子	木村　一絵	腹膜透析患者の自己管理能力を高めるケアに関する研究
8	野田　由香利	梶原　弘平	クローン病の食事療法を継続させる要因
9	犬塚　啓二	潮　みゆき	PICU 看護師のファミリーセンタードケアに対する意識調査とその啓発に向けて
10	岡野　新	富岡　明子	臍処置と手術部位感染

＊九州大学病院看護部の看護師

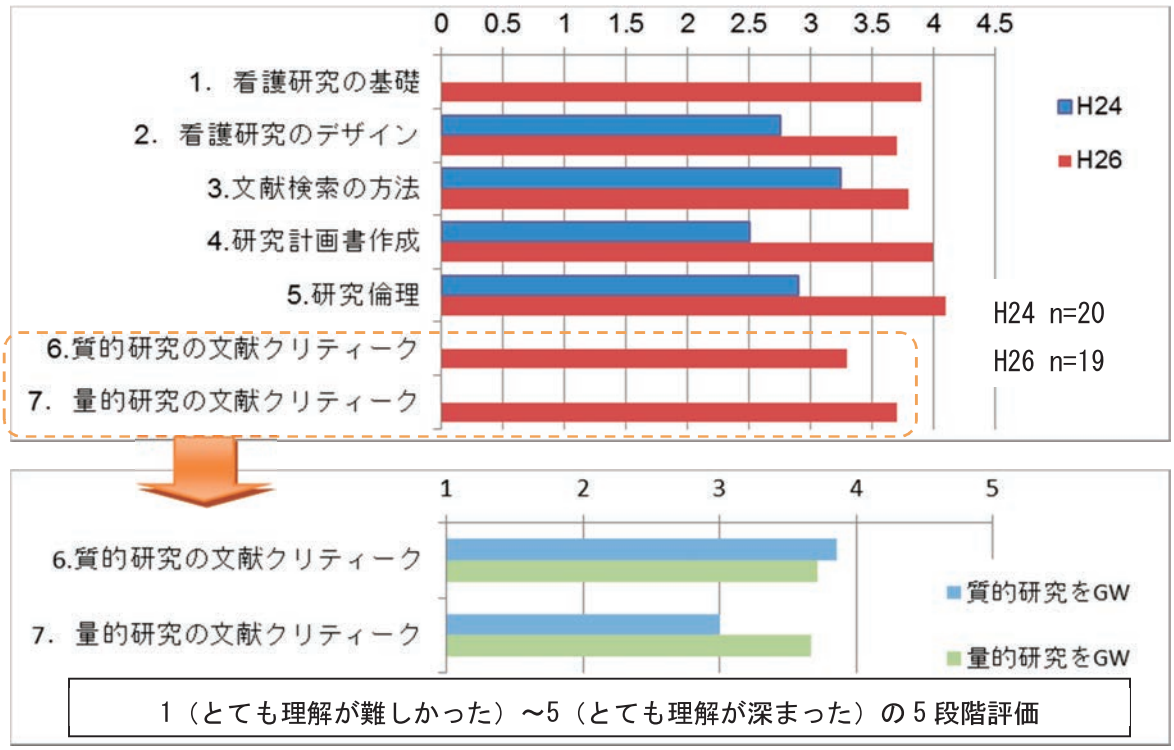
平成 26 年度成果

1）平成 26 年度九州大学病院看護研究コース(基礎編)

看護研究コース基礎編は 10 名修了し、加えて、看護研究の講義･演習は 9 名受講した。

（1）受講者の理解度　自己評価

講義とクリティーク演習について、理解度を自己評価(5 段階評価)してもらったところ、平成 24 年度の受講者よりどの項目も理解度が高かった。今年度のクリティーク演習では、新たな試みとして、グループに教育研究推進WG構成員がファシリテータとして参加し、質的研究か量的研究のどちらか一つを選択し演習をした。演習を行ったほうがクリティークの理解が深まった。



（2）２日間の講義の感想・気づき・学んだこと(抜粋)

（看護研究コース基礎編受講者）

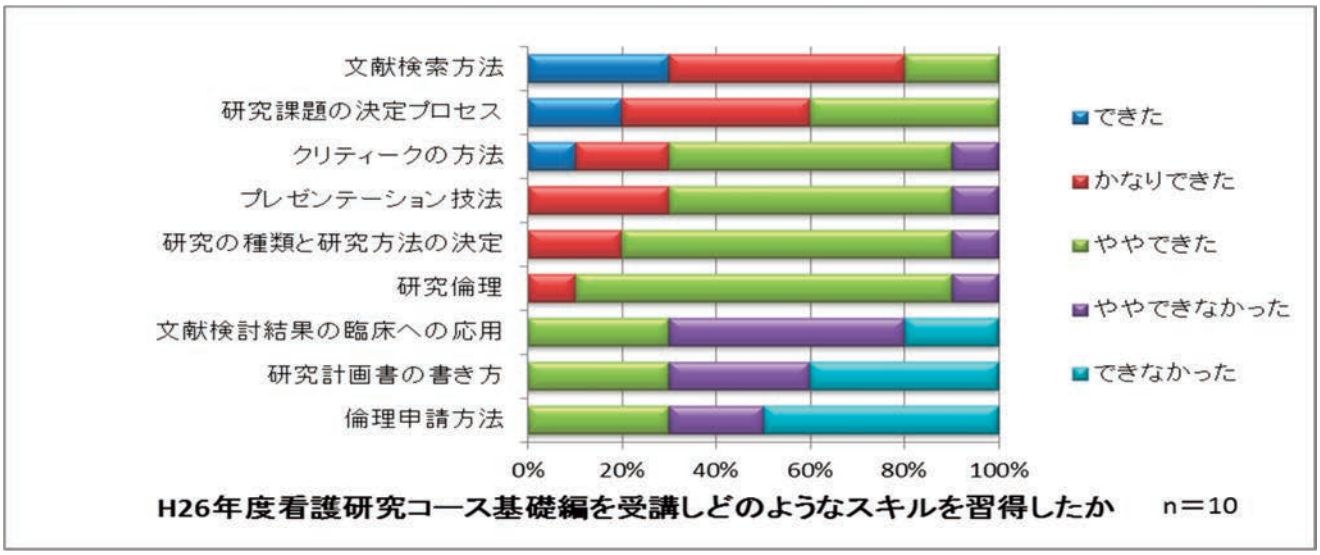
看護研究に必要な最小限の知識（基礎）を学ぶことができた。まずは色々な文献を読んで記載方法を見慣れないといけないと感じた。文献検索もなれていないので、専門の人の助言を聞きながら習得していきたい。
研究を始めるにあたって文献レビューをしっかりすることが大切だと分かった。質研究には抵抗があったが、学習するうちに内容が深く考察され科学的なものといえればとても看護にあった研究になることが分かった。
看護研究の基本的な考え方や文献クリティークなど多くのことを学ぶことが出来た。苦手意識の強い看護研究だったが興味を持つことができた。
現在まで行った研究を振り返ると計画の重要性を軽視していたと思える。研究の方法の流れが理解でき、満足した。
文献検討項目に従って批判的に読むことで自分の研究に活かすことができると感じたが、まだ根本的な知識が足りず読むのがすごく大変だった。

（講義のみ受講者）

分かりやすい講義で今までわからなかったことが学べてよかった。文献リティークはとても役にたった。今までこんなにしっかり内容について検討したことがなかったので深いところまで勉強できて良かった。
漠然として状態から少し具体的にイメージが出来るようになった。
最終日には少しは人に教えられるくらい理解でき自信がついた。実際に研究を行いさらに深めていきたい。

2）平成 26 年度九州大学病院看護研究コース（基礎編）　受講後の学び

看護研究コース基礎編の半年間で、研究の基礎を学び、実際の各自の研究テーマについて文献検討した結果を発表した。コースの受講を通して、文献検索の方法、研究課題の決定プロセスについて研究スキルの修得が高かった。また、自由記述の意見では、看護業務に文献検索した結果を活かしたり、研究的視点をもって看護実践を行う等の肯定的変化がみられた。今後、実践編に進むことで、さらに研究スキルの修得につながると思われる。



看護研究コース（基礎編）受講後の看護実践の変化【自由記述、抜粋】
業務、医療のQ＆Aが論文から検索、検討、学習ができるようになった。最新の情報を自分で検索でき、スタッフ間の情報共有に活用できる。
病棟での役割や課題を探していた中で自信になった。もし、今後研究したいことや、質問された場合、実践を活かすことができるのではないかと感じる。
業務を行う中で、色々なことに疑問をもったり、考えたりするようになった。文献を読んで分かったことを、臨床でも活かすようにしようと考えるようになった。
今までも研究発表を学会で行ってきたが、どことなく自信がなかった。それは大学 4 年で学んだ知識だけでは不足している部分と、記憶が古いという部分があったからです。基礎をしっかり学ぶことで、今後の自信がある発表が少しでもできるのではないかと考える。
病棟業務の中でも自分の考えをもったり、疑問を感じながら仕事をするようになった。何事もクリティカルな視点を持つ事を意識するようになった。
文献を読み、現代の状況等が分かり、社会背景を踏まえた看護介入を行った行くことが重要であり、そのような状況を理解すると患者のとる行動に納得ができた。
看護の現場で色々な疑問やこれは研究できるのではないかといった視点が持てるようになった。

看護研究コース（基礎編）受講後の感想【自由記述、抜粋】
研究に関して全く、無知であったと感じた。今までの研究のやり方では本当の研究とはいえないと思った。
発表会を設定することで、それを目指して研究に取り組む時期や見通しを立てることができた。
研究が少しずつ見えてきているので、自分自身うれしく、楽しみに思っている。人前でプレゼンテーション等、ほとんど経験がなかったので、少し度胸がついた。
中間、成果発表を通して、他の受講者の方の文献検討や進め方を知ることができ、違った視点で見ることができよかった。

3）平成 25 年度九州大学病院看護研究コース（実践編）受講者の研究進捗と成果

（1）九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会への倫理申請状況

	氏名	指導教員	研究テーマ	倫理審査
1	渡邊　和恵	橋口暢子	転倒・転落防止医療機器の有効性と問題点に関する検討	未申請
2	吉宗今日子	末次美子	緩和ケアを学ぶ看護師におけるコミュニケーションスキルトレーニングの効果に関する研究	承認済み
3	小川　智子	金岡麻希	成人間生体肝ドナーの術前・術後の心理的変化	承認済み
4	田中さとみ	金岡麻希	肝移植患者の術後の退院指導（食事指導）の実態調査	承認済み
5	秋永　和之	宮園真美	人工関節置換術後における患肢の腫脹とドレナージ管理に関する研究	承認済み
6	梶原由起子	原田博子	人事異動による中堅看護師の認識に関する質的研究	承認済み
7	野田　優子	宮園真美	ステロイド治療による食欲亢進を来たした患児と家族に関する看護師の認識調査	承認済み
8	神崎　祐貴	孫田千恵	炎症性腸疾患患者の睡眠および精神症状の実態調査	承認済み
9	佐藤　信二	中島充代	血液腫瘍内科に勤務する看護師が実施するうつ状態評価の実際	承認済み
10	桑田　睦子	藤田紋佳・潮みゆき	救急外来に勤務する看護師の人間関係形成促進への取り組み	承認済み
11	大塚　秀一	木下義晶	血液・体液曝露の危険性が高い部署で勤務する看護師の眼汚染防止対策とリスク認識の関係	承認済み
12	新原　亮史	梶原弘平	当施設におけるEarly onset VAP発症の現状分析	承認済み
13	松岡　美恵	野口ゆかり	手術室中堅看護師の志気・教育の現状と課題	未申請
14	原田起代枝	木下由美子	オストメイト対象のナースによるストーマケア満足度とＱＯＬ調査およびストーマ看護外来での術前患者教育によるＱＯＬへの影響に関する研究	承認済み
15	吉川由香里	道面千恵子	新人看護職員におけるｅラーニング教材の学習効果－動画閲覧型教材とシナリオシミュレーション教材を比較して－	承認済み

（2）看護研究の進捗状況

退職予定者１名が研究を中止している状況であるが、その他の受講者は研究を継続、終了していた。継続中の研究は指導教員、キャリアステーションが継続的に指導を行っていた。

		n＝15
継続中	13	
研究計画立案		1
データ収集		4
結果・考察		1
学会発表		4
論文作成中		1
論文投稿中		2
中止	1	
論文掲載・研究終了	1	

（3）看護研究成果の発表

平成 25 年度の看護研究コース実践編終了後も教員からの継続的な指導やキャリアステーションの相談窓口を利用し、研究成果の発表を行うことができている。

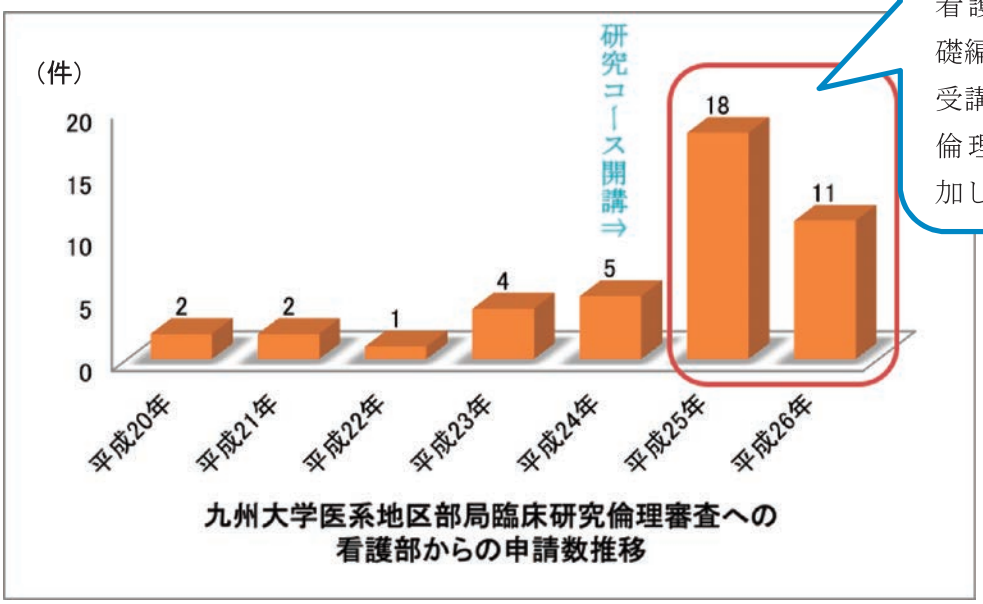
学会発表 （発表者 9 人）		**計 16 演題**
院外	**H26 日本がん看護学会学術集会**	1
	H27 日本がん看護学会学術集会	1
	H25 日本看護科学学会学術集会	1
	H26 日本看護科学学会学術集会	1
	H26 日本小児がん看護学会	1
	H25 日本移植･再生医療看護学会	1
	H26 日本移植･再生医療看護学会	2
	H26 日本運動器看護学会学術集会	2
	H26 救急医学会九州地方会	1
院内	**H25･26 院内看護研究発表会**	5
論文掲載		**計 1 演題**
	H26 インターナショナル NursinngCareResearch	1

（4）大学院への進学

看護研究コースを受講することで、看護研究が身近なものとなり大学教員から大学院の情報を得られやすい等、看護研究コースの受講がキャリア形成を考えるきっかけの一つになっている。

	n＝14
在学中	2
進学予定	2
進学考慮中	4
考えていない	6

4）九州大学病院看護研究コース開始前後の研究倫理申請状況の推移



看護研究コース基礎編開講後、コース受講者を中心に倫理申請件数が増加している。

5）九州大学病院看護研究コースに関する院外発表

看護研究コースの取り組みについて、第 34 回日本看護科学学会で示説発表した。

大学病院と大学が連携して行う看護研究能力を育成するための取り組みとサポート体制の課題

大村由紀美[1)]、末次美子[2)]、金岡麻希[2)]、酒井久美子[1)]、吉川由香里[1)]、山下春江[1)]
1）九州大学病院看護部、2）九州大学大学院医学研究院保健学部門

【研究の背景】　全国の85.7%の大学病院で、看護研究の教育プログラムを有しており、自主的な看護研究は全体の63.2%と多い。プログラム実施に、大学病院看護部と大学教員が連携している場合は多いが、教育プログラムの企画・実施に教員が参加している施設は全体の8.8%と少ない（大村他，インターナショナル Nursing Care Research，2014）
臨床看護師が自主的に取り組む看護研究のサポートとその質向上を目指し、A大学病院では看護系大学と連携して平成24年度より看護研究コース（以下、コース）基礎編・実践編を開講した。
基礎編では看護研究の基礎的知識について、教員からの集合講義とマンツーマンの指導のもと文献検討を行い、実践編ではゼミ形式の発表会を設け、各自が研究を実施した。今回、2年が経過し、取り組みの評価と課題を明らかにした。

【研究目的】　コースを受講した看護師の研究スキルの修得状況、看護実践の変化、研究進捗状況、指導体制を調査し、臨床看護研究のサポート体制の課題を検討した。

【研究方法】　無記名の自記式質問紙調査
1. 調査対象者
1）平成25年度　実践編コース受講者15人
2. 主な調査内容
1）コース受講前後：研究スキル7項目の修得状況（5件法）
2）コース受講後：看護実践への変化
3）コース受講3ヶ月後：研究進捗状況や教員からの指導状況
3. 調査期間：平成25年2月～平成26年5月
4. 分析方法
研究スキルの修得状況について、Mann-WhitneyのU検定を用いコース受講前後の比較を行った。その他のデータは単純集計、自由記述は同じ内容毎に集計
5. 倫理的配慮
対象者には、研究の趣旨、研究の任意性、秘匿性の確保等を紙面で説明し回答をもって同意を得た。

【結果】
1. 分析対象者　15人、看護師経験年数平均15.5±4.9年

2. 研究スキルの修得状況

7項目全てで、コース受講後の修得状況が有意に高かった。しかし、分析方法の選択、データ分析については、コース受講後でも修得状況は低かった。

研究スキルの修得状況（コース受講前後の比較）

3. コース受講後の看護実践への変化

【文献・研究の活用】4件
・文献、研究論文を読む機会が増えた（2件）
・先行研究の活用が可能になった
・エビデンスの背景や、わからない事はすぐ検索するようになった
【研究的視点や意識の変化】6件
・考えて仕事するようになった
・研究的視点で看護実践を行おうと思った
・日常のケアの中で、視野を広く持てるようになった
・看護上の問題に根拠をもって問題解決しようとしている
・患者が困っている事に対して積極的に話を聞き、他のスタッフはどのように対処するか聞くようになった
・他看護師より研究の質問があり、他者に刺激を与えている
【知識の修得や学びの動機付け】3件
・研究の流れは理解できた。研究について知識は少し増えた
・まだ実践に変化があったとは言えないが、必ず実践に活かせる研究にしたい
・皆の進捗状況や自分の研究の学びのきっかけになる

4. コース受講3ヶ月後の研究進捗状況

学会発表・論文作成中	4人（26.7%）
データ収集・分析中	10人（66.7%）
研究計画書作成中	1人（6.7%）

5. コース終了後の教員からの指導状況

継続指導あり	13人（86.7%）
継続指導なし	2人（13.3%）

指導を受けていない理由は教員の異動・看護業務の優先、指導を受けていない1人は、看護部の研究相談窓口を利用

【考察】　コース受講後の研究スキルの修得や実践への変化につながっており、教員からマンツーマンの指導を受け、研究プロセスを経験することが効果的であった。しかし、コース修了後も研究途中の者が多く、研究に時間を要することが予測された。教員の労力を要しているため、コース修了後の指導・サポート体制を整えることが課題である。
コースの運営に、院内の大学院修了者が参加し、コースの目標設定の見直しを行い、2年間で研究成果の発表ができるようなスケジュールの検討や、コース受講者や修了者からの相談を受けられる体制を整える必要がある。

本研究コースは、平成21年度文部科学省「看護師の人材養成システムの確立」事業に採択されたプロジェクトの一環で行った。

今後の展望

看護研究コースを受講することで、看護職員の研究スキルの修得や自身のキャリア形成につながっていた。教育研究推進ＷＧで受講者のニーズを把握しながら、今後も研究に関する講義・演習内容の企画、コース運営、評価を行っていく。

研究の終了までには 2 年以上を要している状況であり、複数の看護職員を研究指導している教員もいるため、院内からも研究指導に参加し教員の負担を軽減できるよう必要なサポート体制を検討していきたい。

Ⅲ　学習支援

Ⅲ　学習支援

1．シミュレーション・トレーニング

平成 26 年度実施計画

平成 26 年度も「自ら学ぶ看護職員を支える学習環境の整備と活用促進」の 1 つとして、専属インストラクターによるシミュレーション・トレーニングを継続的に提供する。

地域貢献の一環として、本トレーニングの公開は平成 24 年度開催時より好評を得ており、平成 26 年度も継続して、地域看護職員・看護学生を対象に公開する。

これまでの開催実績として、毎年度患者急変対応に関するトレーニングのニーズが依然として高く、特に心電図やフィジカルアセスメントにおいては、25 年度にコース改編を行ったが、1 回の研修提供時間が 1～1.5 時間で終了しない傾向はあまり変わらなかった。そのため、「F：患者急変対応」コース内容を再度精査し、1 回の提供時間が 1.5 時間以内に収まるよう<u>コース内容をさらに分けた上で提供</u>する。

・日時：月・水・金（地域対象は月 1 回）

・トレーニング内容：

【コース別項目】

A コース：採血・静脈注射

B コース：皮下注射・筋肉内注射

C コース：体位変換・寝衣交換・全身清拭・洗髪車を用いた洗髪

D コース：導尿、尿道留置カテーテル挿入

E コース：人工肛門ケア

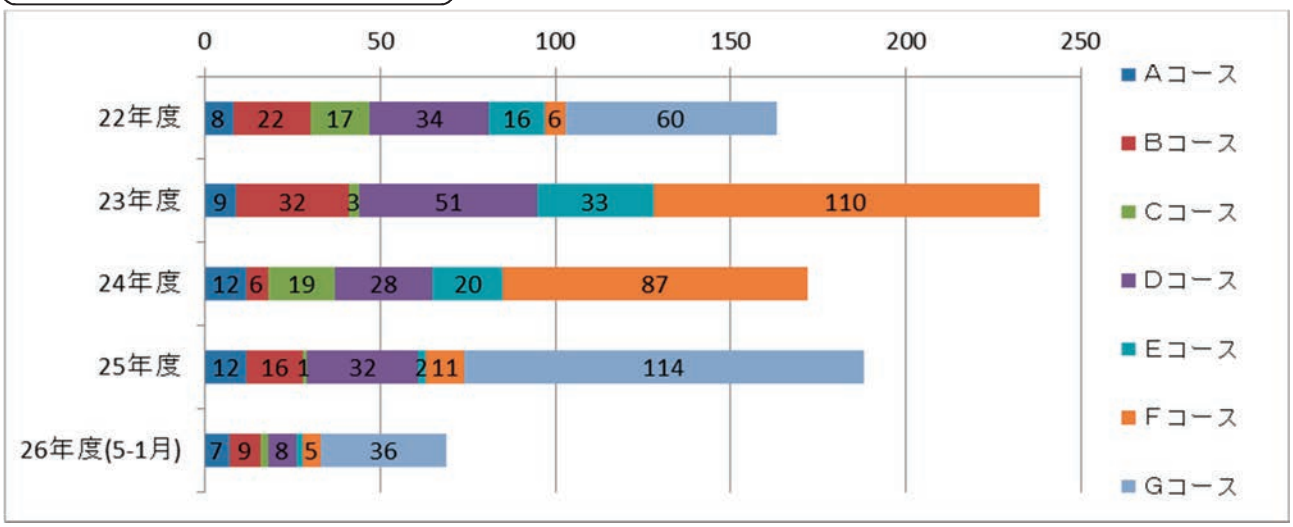
F コース：口・鼻腔・気管内吸引

G コース：患者急変対応（各項目 1.5 時間程度）

(1) 心電図・十二誘導心電図
(2) フィジカルアセスメント呼吸①
(3) フィジカルアセスメント呼吸②
(4) フィジカルアセスメント循環①
(5) フィジカルアセスメント循環②
(6) AED・心肺蘇生・挿管介助
(7) 総合

H コース：e ラーニングおよび PC ソフト関連相談

平成 26 年度実施進捗状況



※平成 22, 25, 26 年度：G コース「患者急変対応」
平成 23, 24 年度：F コース「患者急変対応」

平成 26 年度成果

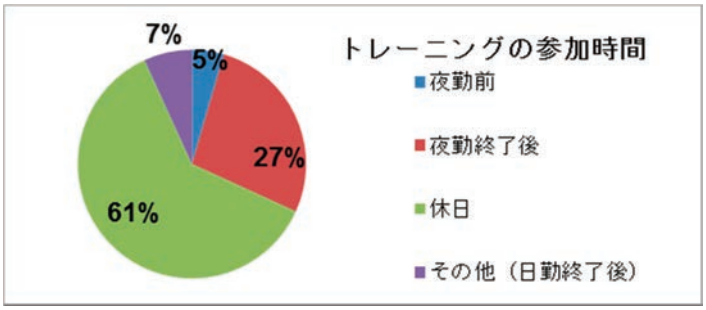
（1）院内看護職員シミュレーション・トレーニング参加状況（26 年 5 月～27 年 1 月）

【部署別参加者累計人数】【経験年数別参加者累計人数】【演習項目別参加者累計人数】

部署名	人数（人）
南棟 5 階-1	3
南棟 6 階-2	3
南棟 11 階	3
北棟 7 階-2	4
北棟 8 階-1	1
北棟 8 階-2	14
北棟 9 階-1	5
北棟 9 階-2	2
北棟 10 階-1	4
北棟 10 階-2	3
北棟 11 階-2	2
育児復帰	7
合計	51

経験年数	
1 年目	3
2 年目	29
3 年目	5
4 年目	6
5 年目	0
6 年目以降	8
計（人）	**51**

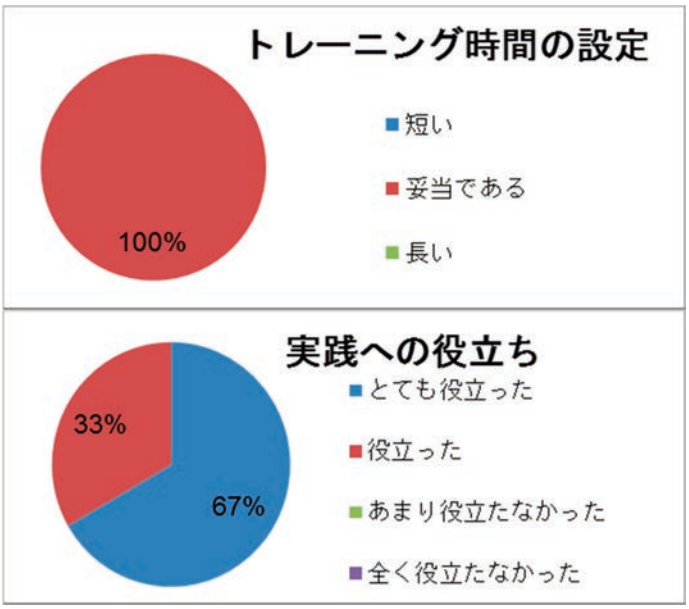
演習項目	人数（人）
採血	4
静脈注射	3
皮下注射	4
筋肉内注射	5
体位変換	1
寝衣交換	1
全身清拭	0
洗髪	0
導尿	4
尿道留置カテーテル挿入	4
ストーマケア	2
口鼻腔吸引	5
12 誘導心電図	17
心電図	5
フィジカル呼吸1	7
フィジカル呼吸2	5
フィジカル循環1	0
フィジカル循環2	0
AED・心肺蘇生	0
総合	2
計	69

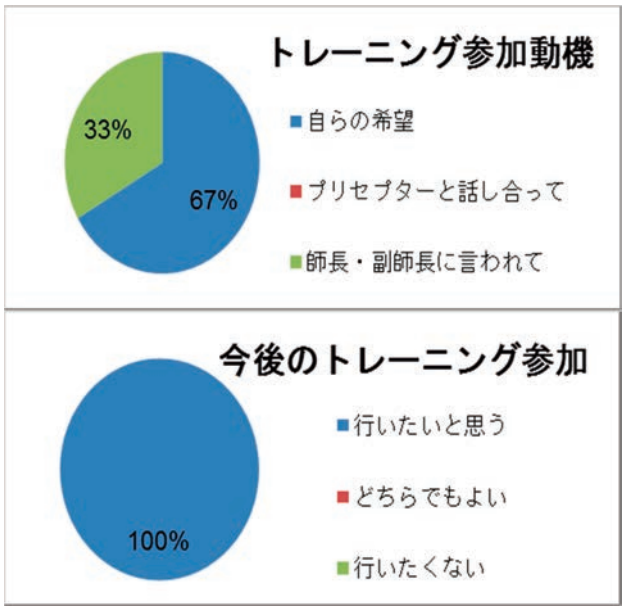


◎総トレーニング時間＝延べ 106.5 時間

（2）トレーニング参加者評価アンケート結果

※アンケートは、各年度とも初めてトレーニングに参加する参加者のみを対象とする。





≪自由記述≫

・シミュレーション・トレーニングは新人のときに受けるというイメージがありましたが、実際に受けてみるととっても勉強になり、今まで受けなかったことをもったいないと思いました。自分の未熟さも痛感しましたので、また受講したいと思います。ありがとうございました。（3 年目）

・普段病棟で見る機会が少ないものを学ぶことができ、良かった。（3 年目）

平成 26 年度（5 月から平成 27 年 1 月末日まで）のシミュレーション・トレーニング提供時間は、院内看護職員に延べ 10.5 時間、地域看護職員に 6 時間、総トレーニング提供時間は 106.5 時間となった。平成 25 年度の同時期と総トレーニング提供時間を比較すると、約 50%減少している。今年度は、トレーニング場所となっているスキルトレーニングセンターの利用可能な日が少なく、トレーニングを提供できる日時が少なかったこと、トレーニングについての広報を行う機会が少なかったこと、マンパワー不足が参加人数減少・トレーニング時間の減少の要因と思われる。

しかし、院内における今年度新規利用者は 18 名で、平成 26 年度参加者全体の約 35％を占めており、昨年度よりやや少ない状況であった。この背景には、今年度トレーニング項目を昨年度よりさらに細分化し、**1 回のトレーニング時間を短縮・効率化を図ったため**、トレーニング参加時間の延長などの不安が減り、参加しやすくなり、**繰り返し利用する職員が増えた**と考えられる。

また**参加者の経験年数構成は、看護師経験年数 2 年目が全体の約 57%を占めて**おり、昨年同様、プリセプターから離れ、独り立ちとなった 2 年目に、改めて技術や知識の向上に努める職員が多いことが伺われた。

さらに今年度の特徴として、育児復帰のためのトレーニング参加が増えてきている。長期間、職場から離れているため、復帰する際の不安は強く少しでも早く感覚を戻したいとのことで参加されている職員が多い。シミュレーション・トレーニングを受けることにより、不安が軽減したとの感想も聞かれ、キャリア支援に繋がっているのではないかと思われる。

トレーニング参加後のアンケート結果では、トレーニングの満足度は高く、高評価を得ており、看護実践力向上に役立つトレーニングであると認識されているからこそ、**継続的なトレーニング利用に繋がっている**と考えられる。

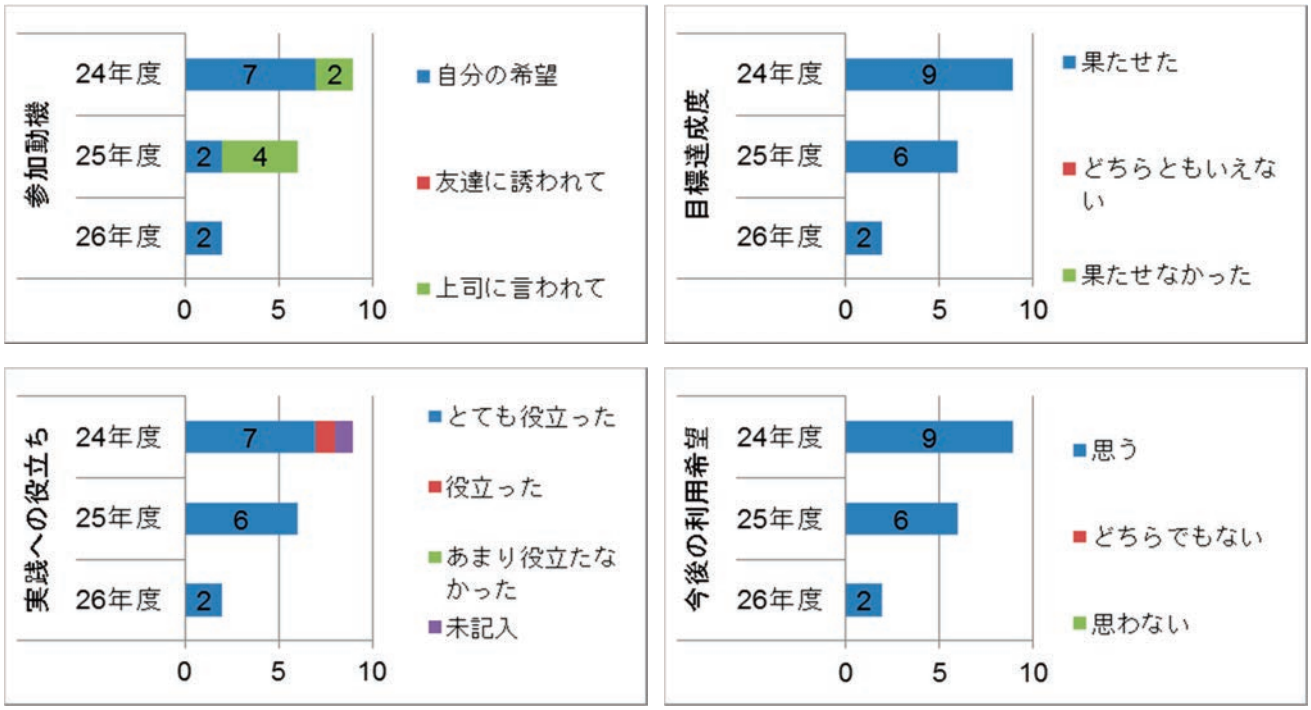
トレーニング項目に関しては、平成 26 年度も引き続き、**患者急変対応コースが最も多く、全体の約 53%を占めている**。患者急変対応コースは、看護職員が苦手とする「心電図」から始まり、「フィジカルアセスメント」の知識を得て実際に活用できる演習とプログラム項目をさらに細分化している。その結果、参加者の苦手意識を克服し、患者の急変に気づき対応できる能力を身につけることができるコースとなっているのではないかと思われる。

また、専属インストラクターは院内認定看護師（感染管理・救急看護）として、昨年同様に院内新卒看護職員教育プログラムや、外部施設新人看護職員対象の研修に指導者として参加し、**インストラクショナルスキルアップにも繋がっており、院内職員・地域職員へ統一した看護教育を実施できている。**

（3）地域看護職員シミュレーション・トレーニング参加

7/28 終日	松田病院	看護師 5 年目	1 名	患者急変対応コース	6 時間
7/28 終日	松田病院	看護師 9 年目	1 名		

（4）地域看護職員シミュレーション・トレーニング参加者評価（平成 26 年度：n=2）



地域看護職員対象のトレーニングには、今年度 2 名の参加があった。所属している施設は、24 年度から継続的に参加している施設である。参加者数自体は減少しているが、トレーニング評価は高く、実際に参加された自施設の教育担当者の評価を聞いての参加であった。よって、施設での問題点なども一緒に挙げながら、トレーニングを実施、解決に繋がるより有効なトレーニングになったのではないかと思われる。

２．e ラーニング

平成 26 年度実施計画

平成 26 年度は、以下を年度目標に掲げた。

＜目標＞

（１）院内向け e ラーニングコンテンツの整備と教材数増加

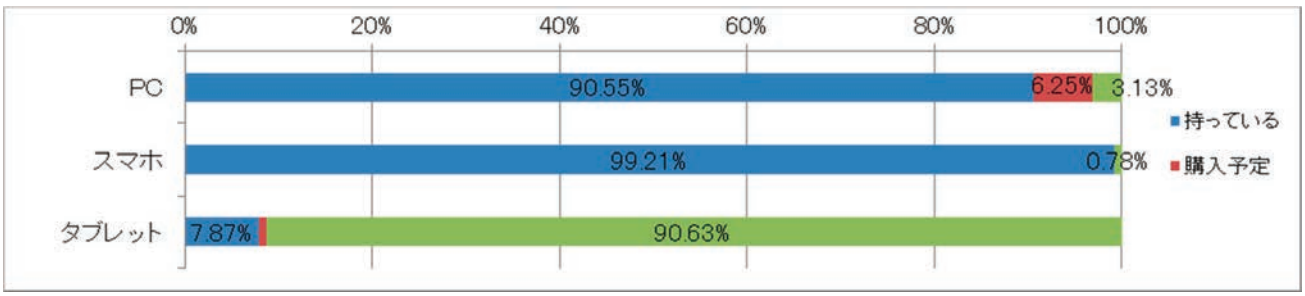
①e ラーニング教材の整備とコンテンツの 50%増加

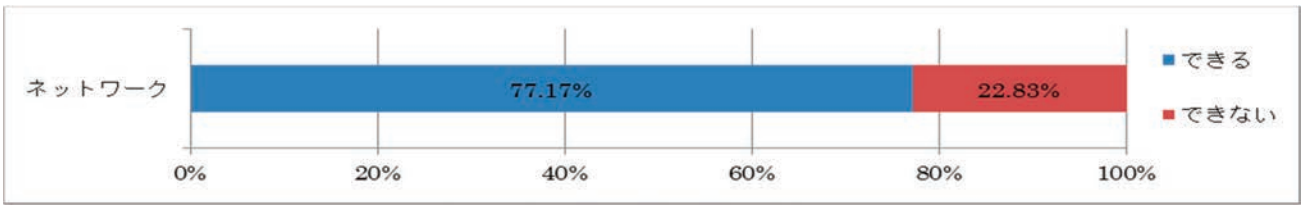
②看護手順・マニュアル等の電子書籍化

（２）地域看護職員向け「九大 Nursing e-room」の広報活動強化による登録数増加と教材の 25%増加

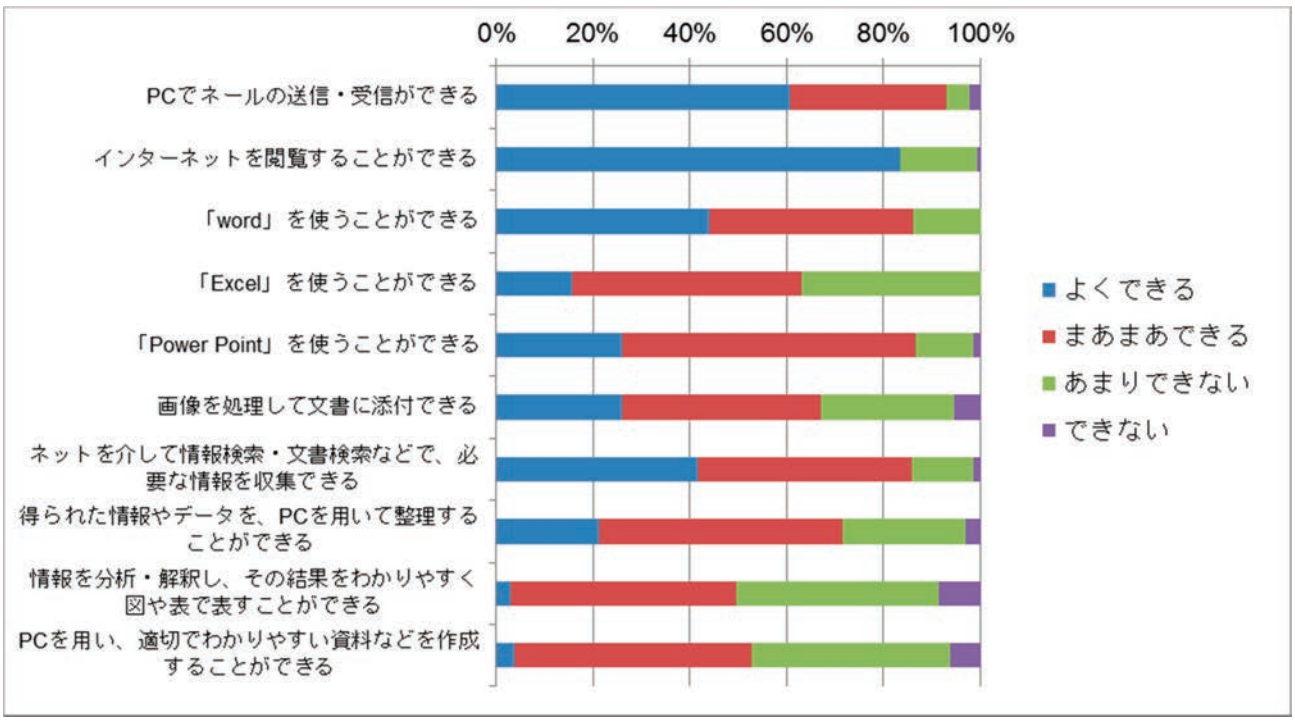
（３）集合研修での e ラーニングの活用（課題・ミニテスト、資料提供）と促進

平成 26 年度は、新人研修での事前課題に e ラーニング教材を活用し、全員が事前課題を修了し集合研修に参加できることを目的に、新人看護職員へ ICT についてと PC 操作スキルについて調査した。





看護職員 PC 操作スキル一覧まとめ



平成 26 年度実施進捗状況

（1） e ラーニングコンテンツの整備

①e ラーニング教材の整備

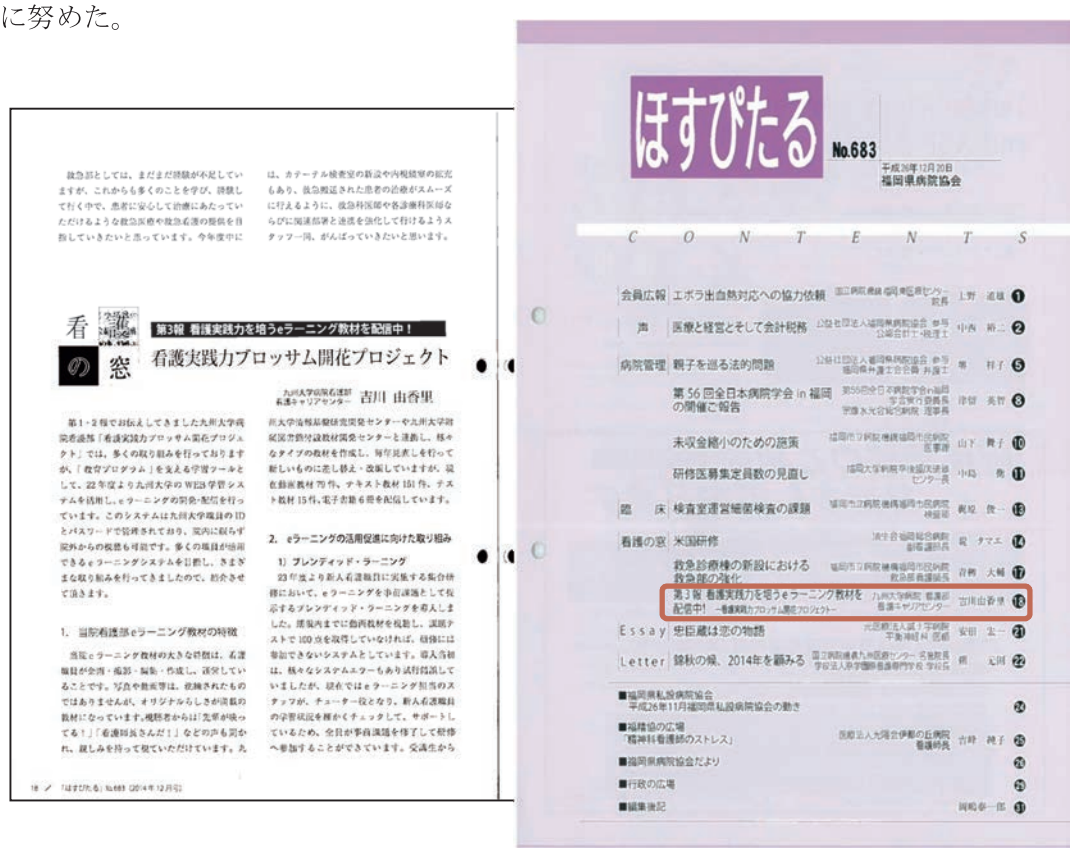
今年度は、研修での事前課題に活用する e ラーニング教材の整備を行い、新たに作成したコンテンツを加えると昨年より約 75%増加した。また、近年 ICT の発展に伴い、ICT 環境が変わりつつあり、e ラーニングは「モバイルラーニング」が主になってきている。当院でも 26 年度入職した新人看護職員 135 名中、134 名はスマートフォンを保有していたが、PC の保有率は約 90%、自宅がネット環境にある職員は約 77%であることから､インターネットにはスマートフォンからアクセスすることが多いと思われる。学習環境の充実を図るためには、モバイルラーニングを前提としたコンテンツの開発が重要であり、今年度もモバイルにも対応できるコンテンツを増加している。

②看護手順・マニュアルの電子書籍化

昨年度より教育ワーキングの副看護師長さんの協力のもと。看護手順やマニュアル等の電子書籍化に着手しており、少しずつ増えてきている。さらにいろいろな部署でも、患者オリエンテーション用の e パンフレットの相談があり、支援するなど ipad の有効活用が進んでいる。

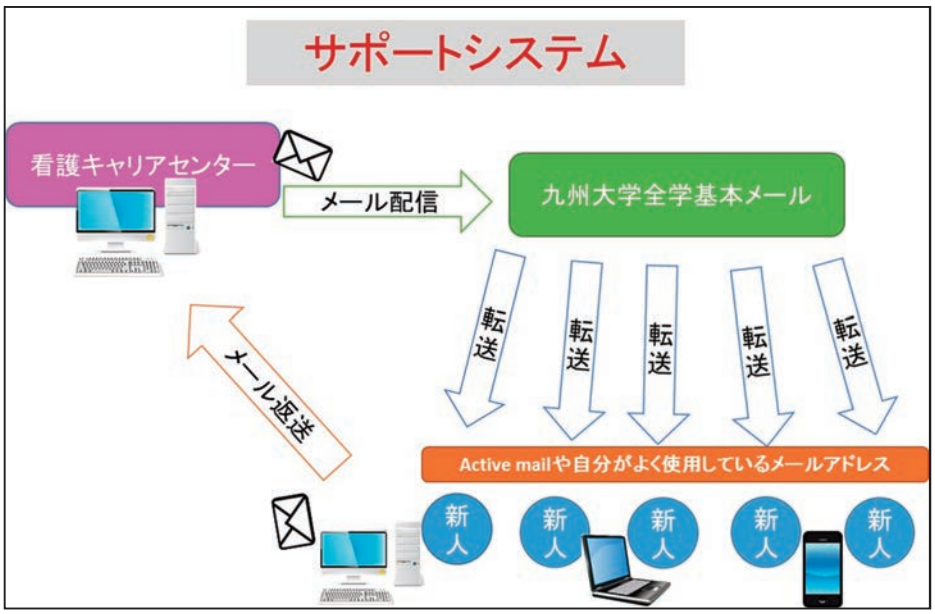
（2）地域看護職員向け「九大 Nursing e-room」

平成 24 年 12 月に公開を始めたコンテンツに今年度新たに 2 項目追加し、計 12 コンテンツを地域看護職員向けに公開した。利用は登録制であるため、事業報告会や福岡県病院協会広報誌に投稿し、広報活動に努めた。



（3）集合研修でのｅラーニングの活用（課題・ミニテスト、資料提供）

26 年度も昨年度同様、新人看護職員集合研修の事前課題や資料の提示にｅラーニングを活用するブレンディング教育を実施することとしたが、昨年度は事前課題を提示した６つの研修中、全員が課題を終了し、集合研修に参加できたのは、１研修のみで延べ 13 名が事前課題が終了できずに集合研修には参加できなかった。26 年度は昨年度より新人看護職員が 20 名ほど増えており、事前課題の未修了者が増えることが懸念された。そこで、今年度は事前課題全員終了を目指し、新人看護職員個人へｅサポートが行えるよう５月からシステムを構築し、実施している。下記に「サポートシステム」概要を示す。



このサポートシステムは、現在 e ラーニング教材を配信・管理している九州大学 WEB 学習システムの「連絡通知」機能を活用し、九州大学全学基本メールで新人看護職員全員とメールの送受信ができよう設定したものである。

●サポートシステム構築方法

1)新人全員と当センターとの連携システムの構築

(1)新人看護職員全員の SSO-KID の把握（各部署に依頼し情報収集を行う）

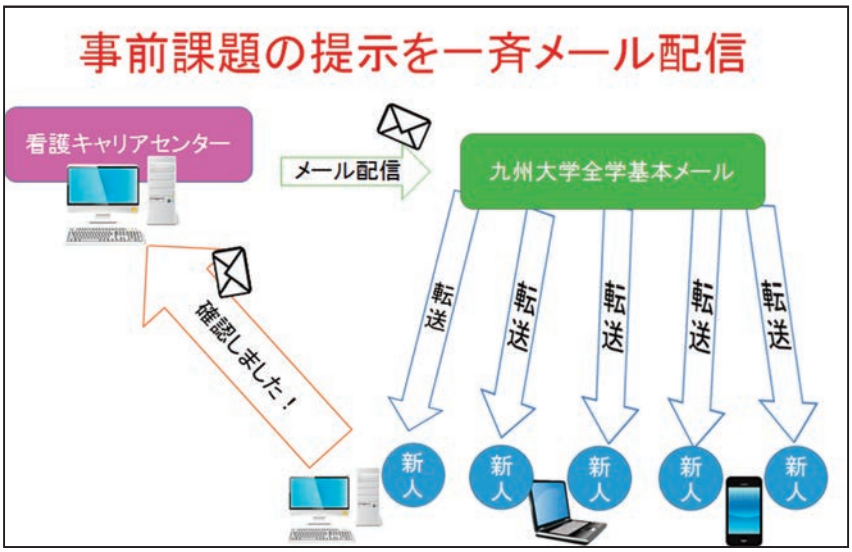
(2)SSO-KID の有効化方法、九州大学全学基本メールと Active mail の転送設定方法を説明（研修時に資料を配布し説明する）

(3)新人看護職員の転送設定済確認（試行でメールを配信し、確認メールを返信し確認する）

●事前課題の提示方法

1)メールで新人看護職員へ「事前課題のお知らせ（課題内容・課題締め切り期限など）」を配信

2)メールを確認できたら「確認メール」を返信

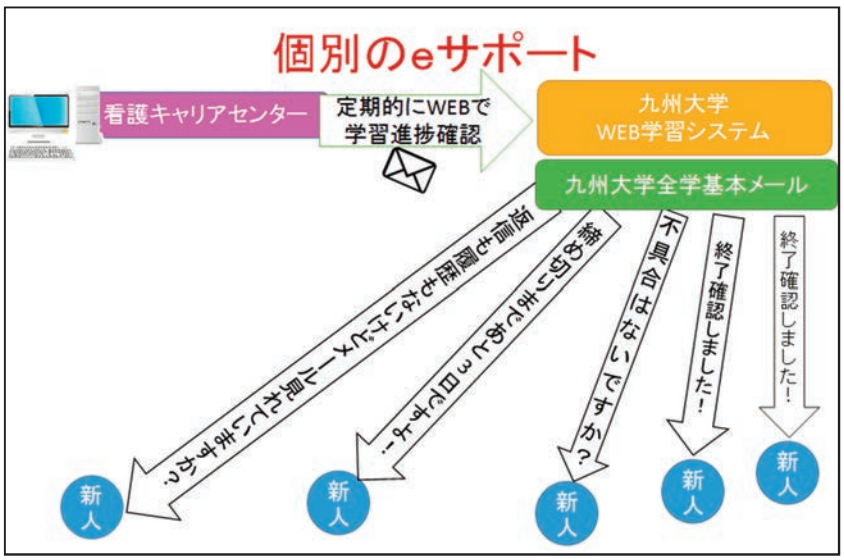


●個別の e サポート方法

1)定期的に WEB 学習システムで新人看護職員個別に事前課題進捗状況を把握

2)進捗に応じたサポートをメールで個別に実施

3)最終進捗情報を各部署の看護師長・教育副看護師長へ報告



【平成 26 年度に e ラーニング事前課題を提示した研修】

	研修名	事前課題	日程
1	フィジカルアセスメント 2 (循環管理)	①　講義資料のプリントアウト	26 年 6 月 3 日～ 30 日
2	看護実践研修 4 （導尿･膀胱留置カテーテル挿入・管理、経管栄養法)	① 導尿・膀胱留置カテーテル挿入・管理、経管栄養法に関するコンテンツ閲覧 ② 事前課題テスト	26 年 7 月 11 日 ～31 日
3	看護実践研修 5 (静脈血採血、看護必要度)	① 静脈血採血に関するコンテンツ閲覧 ② 事前課題テスト	26 年 8 月 8 日～ 28 日
4	看護実践研修 6 （CVC 挿入介助、ドレッシング交換)	① CVC 挿入介助、ドレッシング交換に関するコンテンツ閲覧 ② 事前課題テスト	26 年 10 月 17 日 ～11 月 3 日
5	フィジカルアセスメント 3 （意識レベルの確認)	① 意識レベルの確認に関するコンテンツ閲覧 ② 事前課題テスト	26 年 12 月 15 日 ～27 年 1 月 5 日
6	急変時看護	① 急変時看護に関するコンテンツ閲覧 ② 事前課題テスト	27 年 1 月 16 日 ～30 日
7	IV ナース育成研修	予定	予定

平成 26 年度成果

（1）院内向け e ラーニングコンテンツの整備と増加（平成 27 年 1 月末現在）

平成 22 年度より作成を開始した e ラーニング教材コンテンツ数は、平成 27 年 1 月時点で 327 コンテンツにのぼる。以下、作成した教材コンテンツの一覧である。

九州大学WEB学習システム対応	動画	テスト	テキスト	電子書籍	合計
新人看護職員向け教材	53	6	12	0	71
2年目看護職員向け教材	0	1	5	0	6
3年目看護職員向け教材	0	0	1	0	1
IVナース育成研修教材	6	10	0	0	16
医療機器操作強化WG教材	12	0	13	0	25
看護手順教材	0	0	65	6	71
各部署のコンテンツ	0	0	20	3	23
平成23年度実習指導要項教材	0	0	8	0	8
平成24年度実習指導要項教材	0	0	13	0	13
プロジェクト講演会教材	8	0	0	0	8
医療安全教材	0	0	13	0	13
キャリアナビゲーションシステム操作教材	5	0	13	0	18
他部署依頼作成教材	5	0	0	0	5
合計	89	17	163	9	278
Handbook 対応	16	3	30	0	49
合計	105	20	193	9	327

（2）地域看護職員向け「九大 Nursing e-room」申請者数集計

九大Nursing e-room申請者数集計（平成27年1月末）

年　月	申込人数	県内人数	県外（地域・人数）
H24.12～H26.3	41	17	宮城1, 新潟1, 東京3, 茨城1, 神奈川1, 富山1, 静岡2, 岐阜1, 京都1, 兵庫2, 島根1, 山口2, 佐賀3, 長崎1, 熊本1, 鹿児島1, 不明1
H26.4～H27.1	26	10	愛媛2,埼玉1,東京1,石川1, 長崎1,佐賀2,大阪1,札幌1, 群馬1, 新潟4,福島1
計	67	27	40

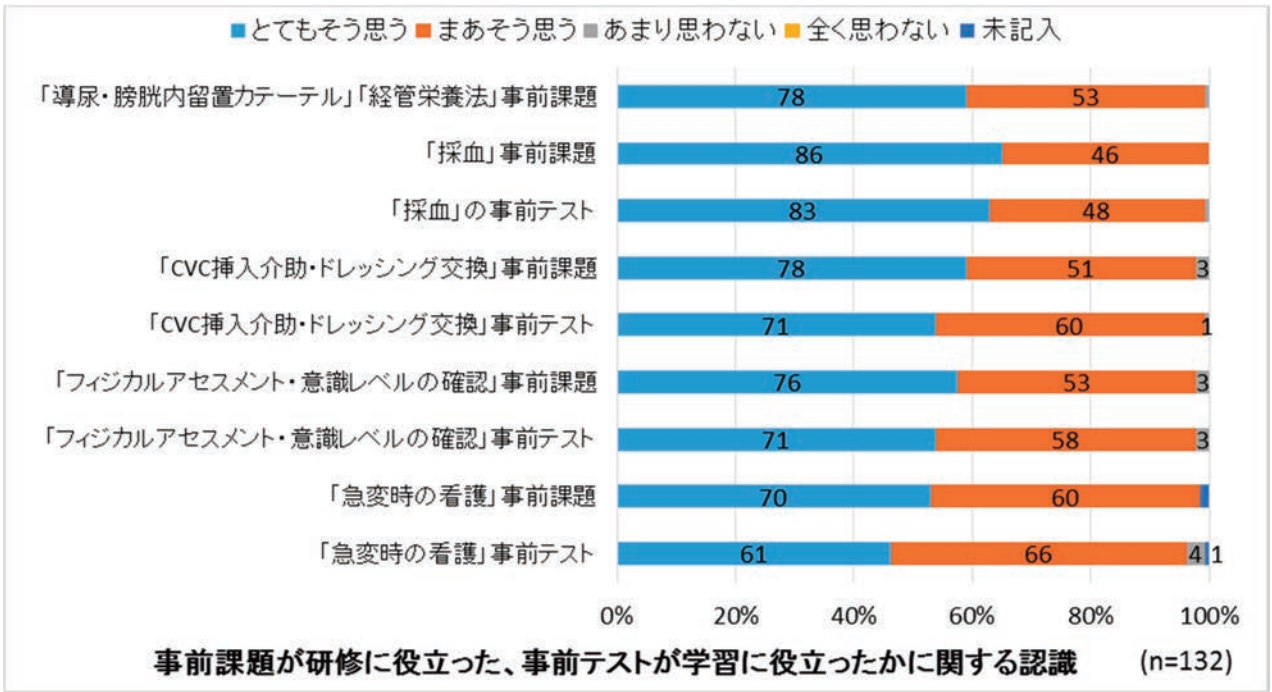
（3）集合研修でのｅラーニングの活用（課題・ミニテスト、資料提供）

今年度、新人看護職員には集合研修の事前課題としてｅラーニングを昨年度より 1 回多い、年度 6 回活用したが、事前課題が未終了のため、集合研修に参加できなかった職員は 1 名だけであった。個別にｅサポートを実施したため、学習離脱者が少なかったと思われる。これは、ｅラーニングの学習離脱者を防ぐ方策として、ｅサポート等を行うチューター・メンターの存在が重要であるとの先行研究と一致している。このシステム構築によって多くの新人看護職員が同じ教育を受け、レディネスの統一ができていると考える。また、副効果として、「全学基本メール・Active mail の有効活用」ができ、学内・院内の情報収集の機会が増えていること、「事前課題の説明・配布時間の有効化」「提示資料の印刷時間と印刷費用の削減」「新人看護職員との情報共有」が可能となった。

また、活用後の平成 27 年 2 月に新人看護職員にｅラーニングに関する認識や ICT 活用状況に関する質問紙調査を行った。「急変時の看護」研修に参加した新人看護職員 133 名中、132 名から回答を得た。

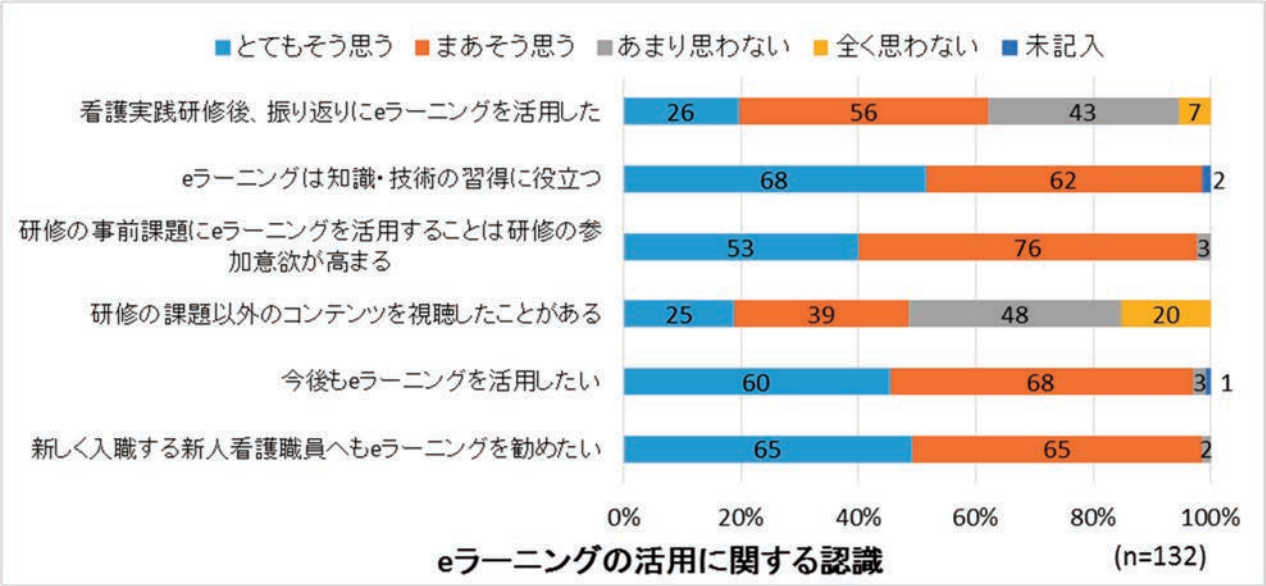
【新人看護職員のｅラーニングに対する認識】

①事前課題・事前テストの有益度に関する認識



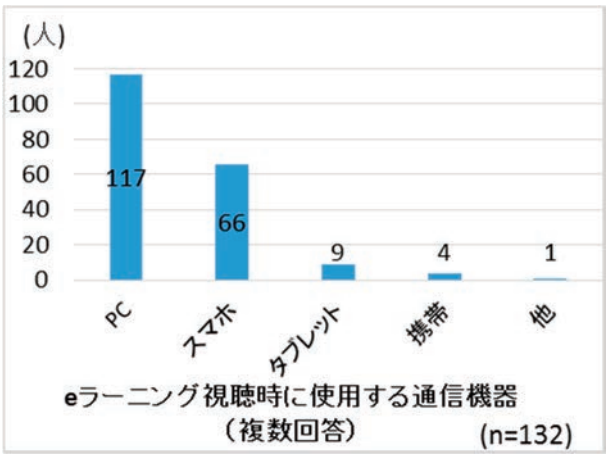
ほぼ 100%の新人看護職員が「ｅラーニングの事前課題が研修に役立った」「事前テストが学習に役立った」と評価しており昨年度の新人看護職員と同様の傾向であった。

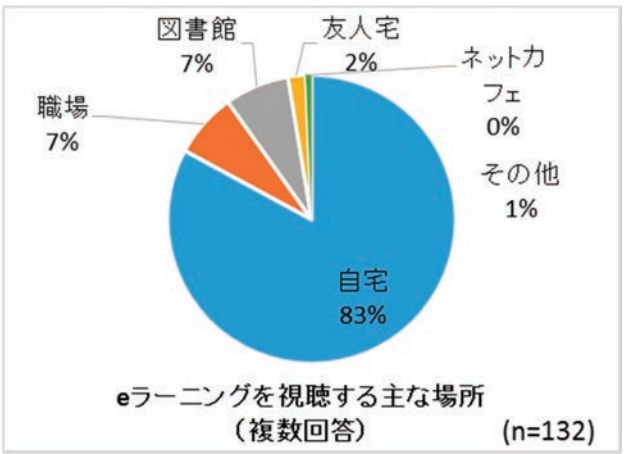
②e ラーニングの活用に関する認識



「知識・技術の習得に役立つ」「研修の参加意欲が高まる」「今後も活用したい」「後輩に勧めたい」などでは、同様にほぼ全員が「そう思う」と評価していた。振り返りへの活用や研修課題以外のコンテンツを視聴したりする職員は 50～60%程度であったが、昨年度の新人看護職員に比べ多かった。

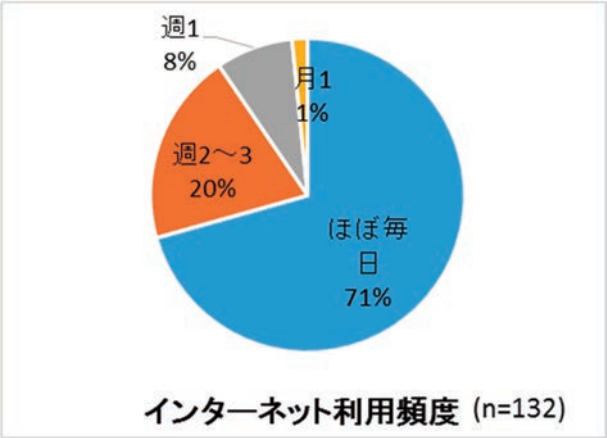
【e ラーニング視聴時に使用する機器と視聴場所】

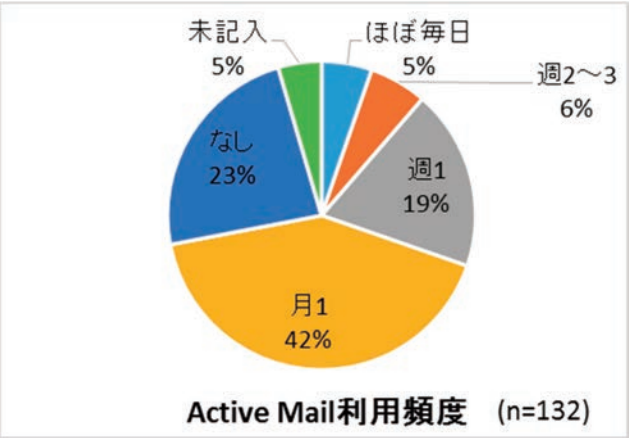




ほとんどがＰＣを使用してｅラーニングを視聴しているが、スマートフォンを使用、併用しているものも 66 名と半数近くいた。視聴する場所は自宅が 83%で最も多く、職場では 7%であった。ｅラーニング視聴は、ほとんどが院外からアクセスされている状況であった。

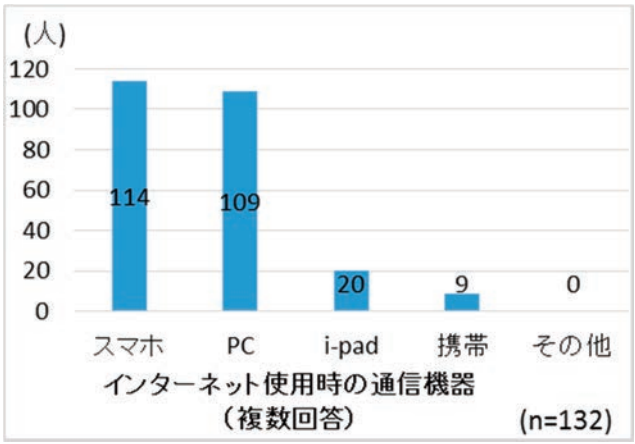
【インターネット活用状況と Active Mail 利用頻度】

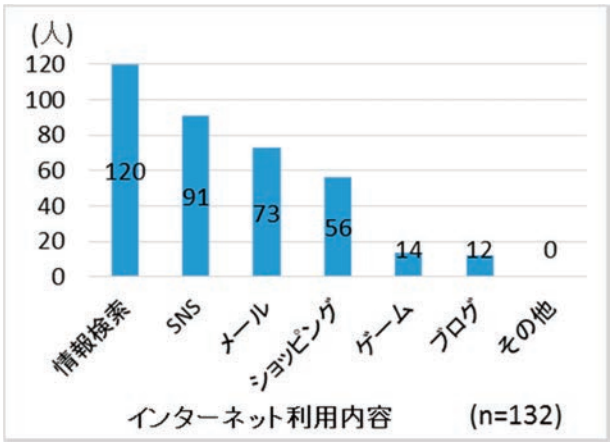




インターネットは 71%がほぼ毎日、20%が週 2～3 回利用しており、昨年度の新人看護職員より利用頻度は高かった。また、Active Mail を毎日利用している人は 5%であった。全く利用していない人は 23%であったが、昨年度の新人看護職員（全く利用していない 52%）に比べ利用する人が多く、e メールでの学習サポートを行った効果といえる。

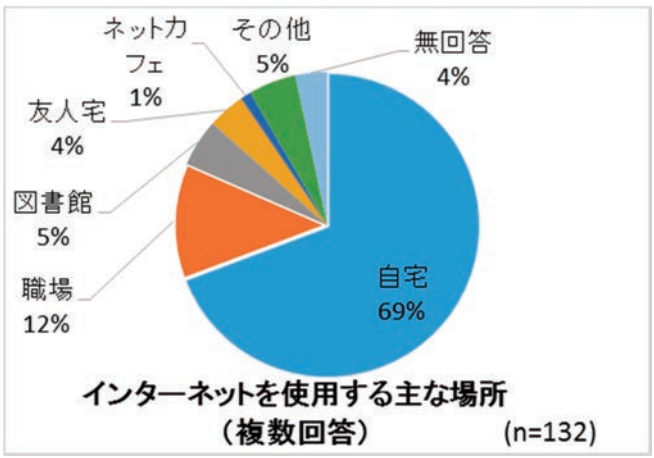
【インターネットを使用する時の通信機器と利用内容】





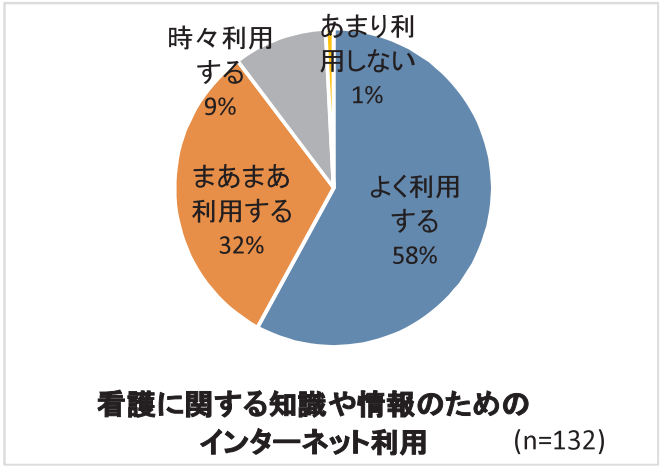
インターネットはスマートフォンやＰＣの利用が多く、複数の通信機器を使用している人が多かった。その利用内容は、情報検索、ＳＮＳ、メール、ショッピング、ゲーム、ブログの順に多かった。

【インターネットを使用する場所】



インターネットを使用するのは自宅や院外の場所が中心であった。「その他」では、通勤時等の移動時間という意見があった。

【看護に関する知識や情報のためのインターネット使用】

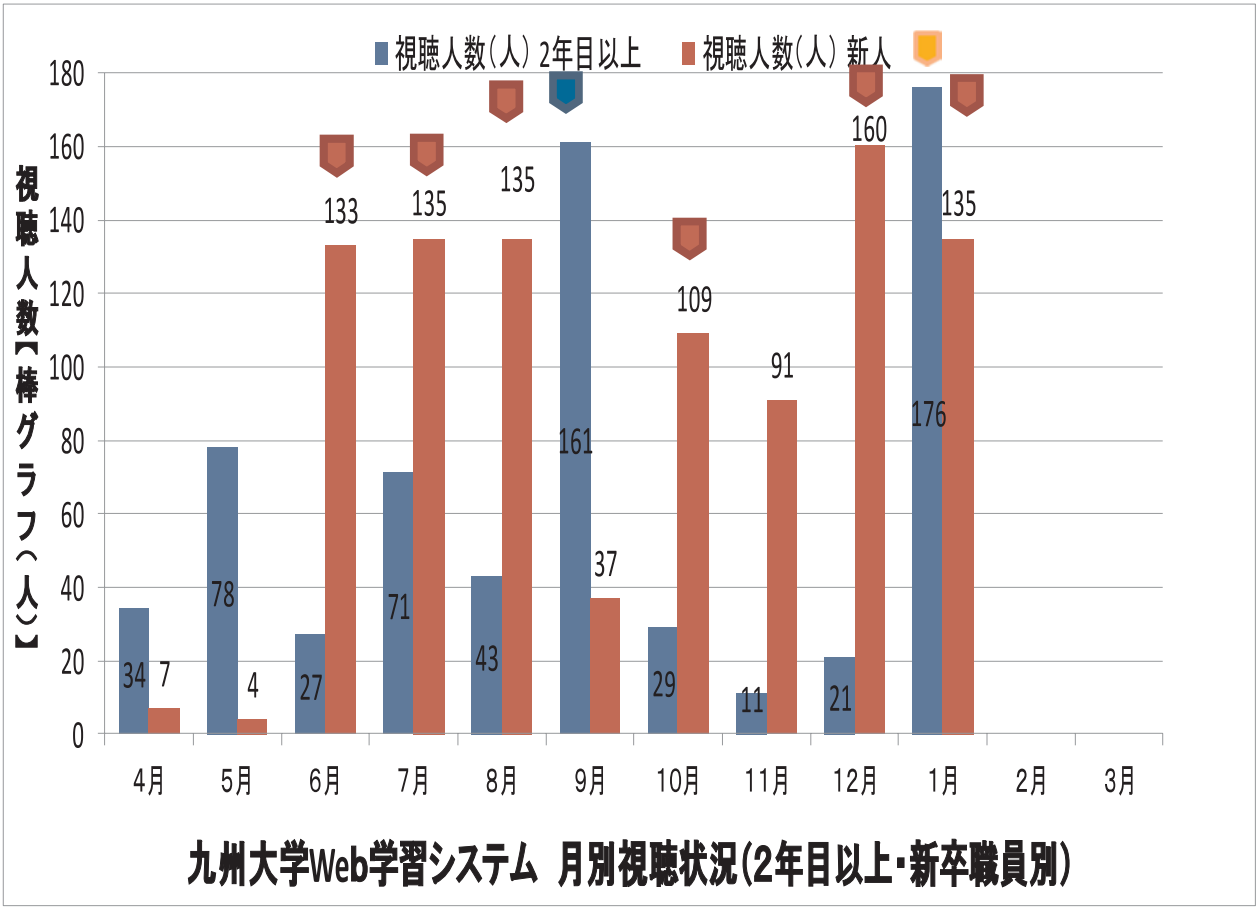


90%が看護に関する知識や情報のためにインターネットを利用していた。

内容は、疾患、病態、薬剤、術式、検査、看護手技、略語等、勤務中に分からなかった事や文献に載っていない事、時間が取れない時等に活用していた。

（4）e ラーニング年間利用状況

：静脈注射教育プログラム模擬試験公開時期
:静脈注射教育プログラム更新試験公開時期
：新卒看護職員事前課題実施時期



院内看護職員は 26 年 4 月～27 年 1 月までに累計延べ 1,597 人が e ラーニングを利用している（2 年目以上看護師：延べ 870 人、新卒看護職員：延べ 727 人）

院内での利用は、2 年目以上看護師では静脈注射教育プログラム模擬試験公開期間、新卒看護職員は事前課題実施前の利用が多くなっている。また、平成 26 年 2 月には、「急変時の看護」に関するコンテンツを更新したことを案内した結果、研修時の指導者達が事前学習に活用し、利用が増えている。

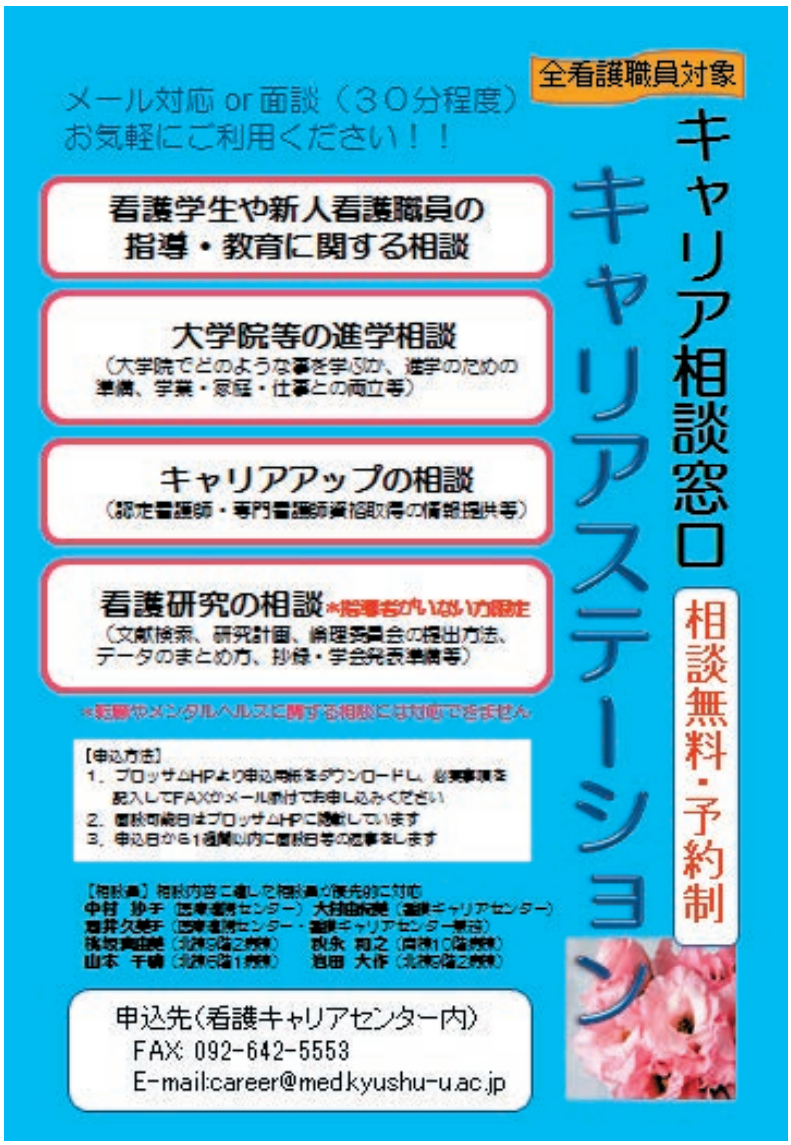
Ⅳ　キャリア支援

Ⅳ　キャリア支援

キャリアステーション

1）キャリアサポート相談窓口

平成 26 年度実施計画



ブロッサム開花プロジェクトの教育指導者養成で育成された教育指導者を中心に平成 25 年 6 月に開設されたキャリア相談窓口（キャリアステーション）を開設した。昨年度は大学院進学や看護研究相談等の継続的な相談が増加したため、今年度は、大学院修了者や専門看護師を新たに相談員に加え、看護職員の相談に広く対応できる体制作りを目指した。また、看護職員のキャリア支援に寄与できるよう病院看護職員への周知に努めた。

対応する相談内容は、昨年度と同様に、実習指導、新人看護職員の指導・教育等、研修会や事例検討だけでは不安な個々の事例や事象への相談、大学院進学やスペシャリストへのキャリアアップに必要な情報提供、臨床看護研究の相談とし、自分自身のキャリア経験を踏まえた対応をできるようにした。

平成 26 年度成果

1. キャリアステーション担当者

中村妙子（医療連携センター）　大村由紀美（看護キャリアセンター）
酒井久美子（医療連携センター、看護キャリアセンター兼務）
桃坂真由美（北棟 9 階 2 病棟）　秋永和之（南棟 10 階病棟）
山本千晴（北棟 6 階 1 病棟）　池田大作（北棟 9 階 2 病棟）

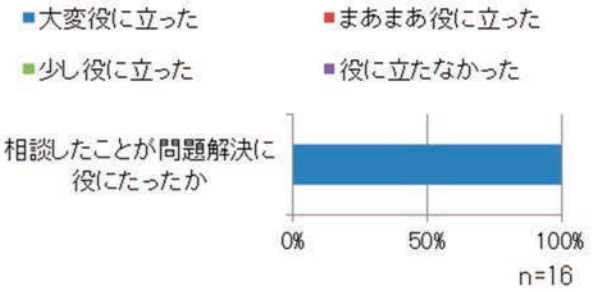
2. キャリアステーション面談実績（平成 26 年 4 月～12 月末の集計）

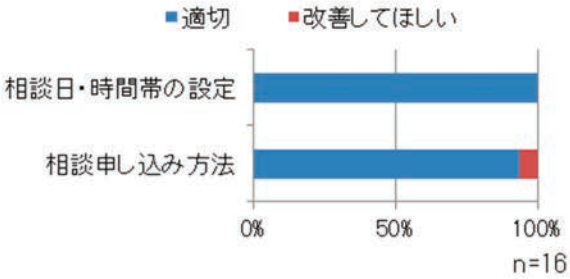
月	No	相談者数	相談者の経験年数	相談内容	面談時間	担当者
4月	1	3 人	6 年目 1 人 8 年目 2 人	【H25 年 7 月から継続、9 回目】 看護研究の学会登録用抄録の内容確認	メール	中村、酒井 大村
	2	1 人	7 年目	【新規】看護研究コース修了者からの相談、 統計ソフトＪＭＰのライセンス取得方法	メール	大村
	3	1 人	12 年目	【新規】大学院と仕事の両立について	30 分	中村
	4	1 人	8 年目	【4 月から継続、2 回目】看護研究コース修了者からの相談、データ分析方法、学会発表準備	1 時間 20 分	大村
	5	1 人	8 年目	【新規】看護研究の統計ソフト・書籍の紹介、研究計画	メール	中村、酒井 大村
	6	2 人	8 年目 2 人	【4 月から継続、3 回目】看護研究コース修了者からの相談、データ分析方法、学会発表準備	55 分	酒井
5月	7	2 人	6・8 年目	【H25 年 7 月から継続、10 回目】 看護研究の学会発表スライドの内容について	55 分	酒井、大村
	8	2 人	8 年目 2 人	【4 月から継続、4 回目】看護研究コース修了者からの相談、学会抄録の内容について	50 分	大村 （アドバイス: 酒井）
	9	2 人	7・8 年目	【4 月から継続、2 回目】 看護研究の計画立案、倫理審査申請方法	50 分	中村、大村
6月	10	2 人	8 年目 2 人	【4 月から継続、5 回目】看護研究コース修了者からの相談、学会抄録の内容について	メール	酒井、大村
	11	2 人	27・24 年目	【2 月から継続、2 回目】看護研究の計画書･調査用紙の内容、倫理審査申請方法について	1 時間 20 分	秋永、酒井 大村
	12	2 人	8 年目 2 人	【H25 年 7 月から継続、11 回目】学会発表スライド	30 分	大村
	13	2 人	27・24 年目	【2 月から継続、3 回目】 看護研究の倫理審査申請書類の内容について	メール 3 回	秋永、酒井 大村
	14	1 人	12 年目	【2 月から継続、2 回目】大学院進学準備、試験対策	40 分	秋永
7月	15	1 人	12 年目	【2 月から継続、3 回目】 看護研究修了者の相談、研究の統計解析、データ分析	60 分	秋永
	16	3 人	7･8･33 年目	【4 月から継続、3 回目】研究計画、質問紙作成	60 分	酒井、大村
	17	2 人	24・27 年目	【2 月から継続、4 回目】研究の倫理審査申請書類の内容	メール	酒井、大村
	18	3 人	6 年目 1 人 8 年目 2 人	【H25 年 7 月から継続、12 回目】学会発表スライド	40 分	大村
	19	2 人	2･3 年目	【新規】研究計画、倫理審査申請方法	60 分	秋永

月	No	相談者数	相談者の経験年数	相談内容	面談時間	担当者
8月	20	1人	18年目	【新規】看護系学会入会の推薦書の依頼方法	メール	大村
	21	3人	2･3･7年目	【7月から継続、2回目】研究計画	20分	秋永
	22	3人	7･8･30年目	【新規】研究計画、データ分析	60分	酒井、大村
	23	1人	14年目	【新規】研究計画	10分	大村
	24	1人	7年目	【7月から継続、3回目】研究計画	メール	秋永
	25	3人	3･4･12年目	【新規】学会投稿用の研究抄録	90分 メール	酒井、大村
	26	1人	7年目	【8月から継続、2回目】研究計画、質問紙の内容	30分	酒井、大村
	27	1人	24年目	【2月から継続、5回目】倫理審査の質問対策、統計	30分	秋永
	28	2人	8年目2人	【H25年7月から継続、13回目】学会発表スライド	30分	酒井
	29	1人	20年目	【新規】研究計画、倫理審査申請	45分	酒井、大村
9月	30	1人	3年目	【7月から継続、4回目】研究計画書、アンケート作成	メール	秋永
	31	4人	2･3･7･不明	【7月から継続、5回目】研究計画書、アンケート作成	40分	秋永
	32	1人	7年目	【8月から継続、2回目】研究のデータ入力方法	25分	大村
	33	1人	8年目	【8月から継続、3回目】研究のデータ分析方法	40分	大村
	34	1人	8年目	【4月から継続、6回目】研究抄録、発表スライド	60分	大村
10月	35	1人	14年目	【新規】大学院への進学について	40分	大村
	36	2人	8年目2人	【4月から継続、7回目】院内研究発表会の発表スライド内容、院外発表のポスター作成方法	30分	大村
	37	1人	6年目	【新規】大学院への進学について	30分 メール	大村
	38	5人	3･5･7年目 10年目2人	【新規】業務改善報告会のデータ分析方法について	20分	大村
	39	2人	9･10年目	【新規】研究計画、倫理審査申請方法	50分	酒井、大村
11月	40	1人	8年目	【4月から継続、8回目】 学会発表ポスターの印刷について	30分	大村
	41	1人	3年目	【新規】研究計画、倫理申請方法について	60分 メール	秋永、大村
	42	3人	2･10･11年目	【10月から継続2回目】 研究計画、倫理審査申請書類の内容について	45分	中村、酒井
	43	1人	2年目	【新規】大学院への進学について	30分	酒井、大村
12月	44	1人	2年目	【11月から継続、2回目】大学院進学について情報提供	メール	大村
	45	1人	27年目	【新規】業務改善報告会のデータ分析方法について	60分	酒井、大村
1月	46	2人	20年目2人	【8月から継続、2回目】研究計画	60分	大村
	47	2人	24･26年目	【H26年2月から継続、5回目】 データ集計方法、エクセルシートの作り方	45分	酒井、大村
	48	2人	9･11年目	【10月から継続、3回目】研究計画、質問紙の内容	60分	酒井、大村
	49	1人	2年目	【11月から継続、3回目】大学院受験について情報提供	30分	大村 （アドバイス:桃坂、山本、池田）
累計　49件			実人数42人（延べ86人）			

3. キャリアステーション新規利用者へのアンケート

キャリアステーション利用後の意見･感想（抜粋）
・メールでの質問に迅速に返答していただき、またとても丁寧な回答をしていただきとても助かった。
・抄録提出締め切りまで間に合わないと思っていたので、ここまでこれて良かった。 キャリアステーションがなかったら諦めていたと思うので、本当にありがとうございます。
・研究に必要な事や、進め方等を丁寧に教えてもらえてやることが明確になった。
・いつでも相談できるので心強い。
・研究相談できることを初めて知った。必要な人に広げたい。





4. 運営等の評価と今後の課題

今年度、様々な専門分野の大学院修士課程を修了した相談員の増員を行い、幅広い研究テーマや研究手法に対する研究相談、進学相談等に対応できるような体制作りを行った。また、4 月にキャリアステーション活動を広報するポスターを作成し、院内への掲示、病院 HP へ掲載することで看護職員への周知に努めた。

キャリアステーションの利用数は、平成 26 年度（4 月～1 月）49 件（平均 4.9 件/月）で、前年度（平均 2.3 件/月）と比較し 2 倍強の増加となっている。相談内容も進学相談、研究計画、統計方法、学会発表等と多岐にわたり、キャリアステーションでの相談を通し本年度院内看護研究発表会 6 演題、看護業務改善報告会 2 演題、学会発表 3 演題の計 11 演題の発表をサポートした。また大学院進学等につながった相談も見られるようになってきた。

キャリアステーションの利用に関するアンケート結果では多くの利用者より『役に立った』との回答を得、看護職員のキャリア支援に寄与していると考える。

今後は、相談者からのニーズを随時把握して、面談時に説明用資料として提示できるものを作成し、面談時間の短縮化、情報提供内容の統一を図って行きたい。また、相談員は部署の業務と兼任して行っているため、看護業務に支障のない範囲で、相談担当者の調整をスムーズに行って行きたい。

Ⅴ　広報活動

Ⅴ　広報活動

1．学会等での発表実績

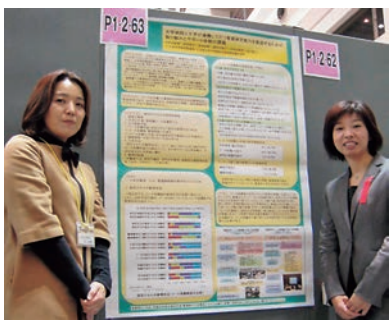
	開催日時	発表学会名 開催場所	発表形式 発表内容
1	平成 26 年 11/29（土）～ 11/30（日）	第 34 回日本看護科学学会 学術集会 名古屋国際会議場	ポスター示説： 「大学病院と大学が連携して行う看護研究能力を育成するための取り組みとサポート体制の課題」
2	平成 26 年 12/20（土）	新潟大学医歯学総合病院 新潟医療人育成センター 講演会	講演・シンポジウム：「看護実践力ブロッサム開花プロジェクト　e-learning を活用した看護実践力向上の取り組み」

2．「看護師の人材養成システムの確立」採択校との情報交換・交流

	開催日時	主催者	概要
1	平成 26 年 9/20（土）	東京医科歯科大学大学院 看護キャリアパスウェイ 教育研究センター	キックオフシンポジウム「看護×教育×シミュレーション 院内教育の可能性を切り拓く」
2	平成 26 年 12/20(土)	新潟大学医歯学総合病院	新潟医療人育成センター講演会 「看護師の人材養成システムの確立の成果と今後の発展」

3．雑誌等への論文掲載・取組み紹介

	執筆 代表者	表題	掲載誌
1	吉川由香里	第 1 報　地域を含めた静脈注射認定看護師 （ⅠⅤナース）育成中！ -看護実践力ブロッサム開花プロジェクト-	『ほすぴたる』 通巻 680 号 2014 年 9 月（p.p.15-16）
2	大村由紀美	大学病院看護師への看護研究支援の実態と 必要な支援内容	『インターナショナル Nursing Care Research』第 13 巻第 3 号 2014 年 10 月（p.p.49-59）
3	吉川由香里	新人看護教育における e-learning 教材評価の 比較研究 -インタラクティブ教材とビデオ教材を比較して-	『インターナショナル Nursing Care Research』第 13 巻第 3 号 2014 年 10 月（p.p.81-90）
4	吉川由香里	「自律した看護師を育成するための キャリア構築支援」	『看護』臨時増刊号 第 66 巻第 14 号,通巻第 880 号 2014 年 11 月（p.p.112-119）
5	吉川由香里	第 2 報　自ら学ぶシミュレーション・トレーニング 実施中！ -看護実践力ブロッサム開花プロジェクト-	『ほすぴたる』 通巻 682 号 2014 年 11 月（p.p.17-20）
6	吉川由香里	第 3 報　看護実践力を培う e ラーニング教材を 配信中！ -看護実践力ブロッサム開花プロジェクト-	『ほすぴたる』 通巻 683 号 2014 年 12 月（p.p.18-20）



４．平成 26 年度看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト報告会開催

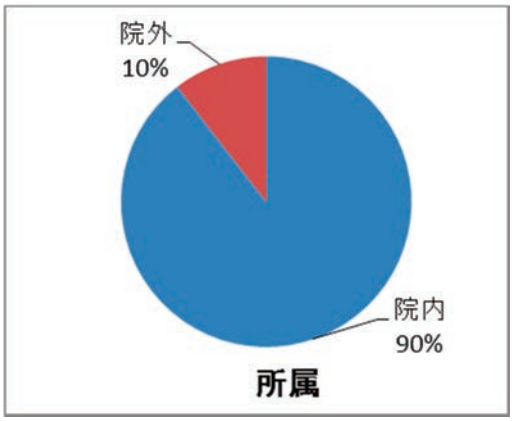
開催日時：平成 27 年 2 月 13 日（金）　17：30～19：15
開催案内送付数：福岡県内病院施設等 116 件
参加者：7 施設から 167 名

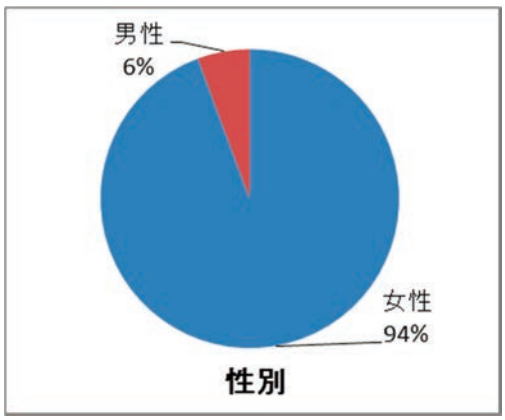
今年度は、継続プロジェクトの初年度になるため、継続プロジェクトの概要と各教育プログラムやワーキングの取り組み内容について、継続プロジェクト運営委員長より報告した。さらに、地域公開しているＩＶナースについてＩＶナース育成ワーキング長より報告した。また、平成 26 年度は、大学病院と地域との連携を目指し、在宅看護に先進的に取り組んでいる宗像医師会訪問看護ステーション所長の阿部久美子氏より、「宗像地域在宅医療ネットワークと多職種で支えるケアの実際」のテーマで特別講演をしていただいた。

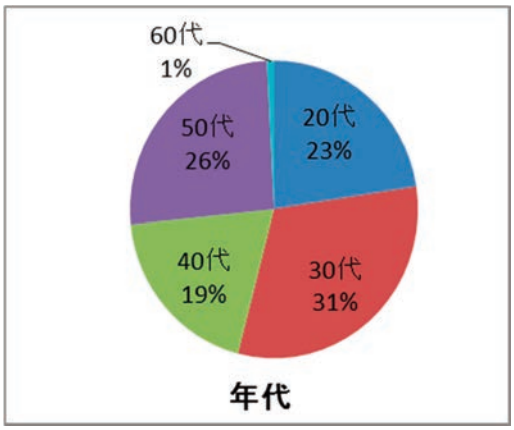
【参加者による報告会評価アンケート】

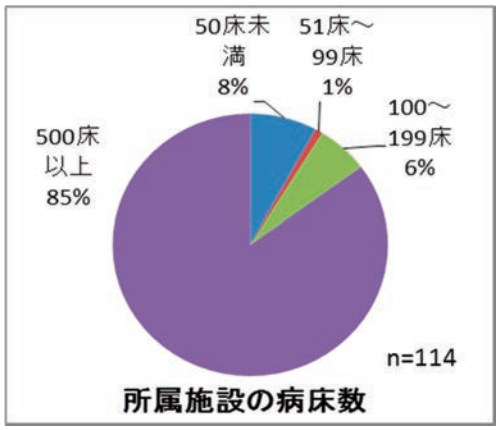
アンケート回収：124 名（回収率 74.3%）　＊図の n 数の表示がない場合は n=124

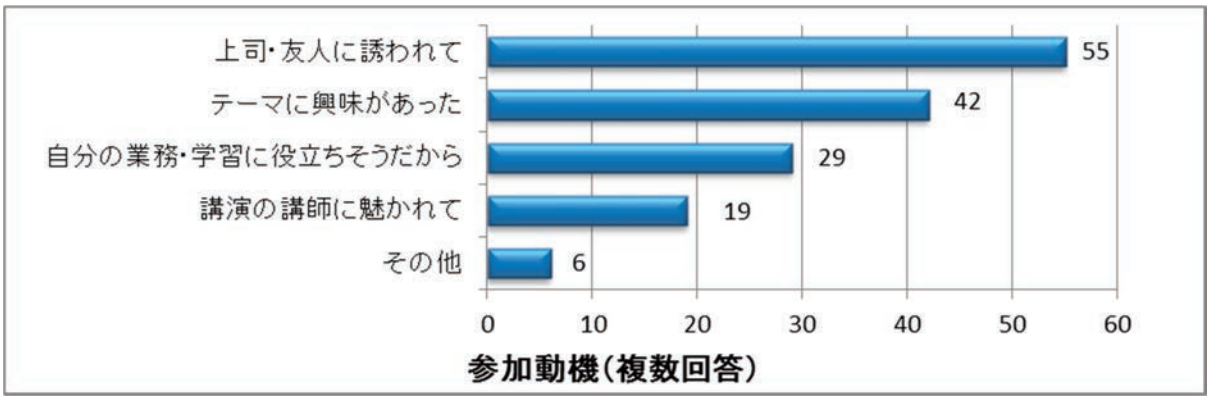
１．参加者属性

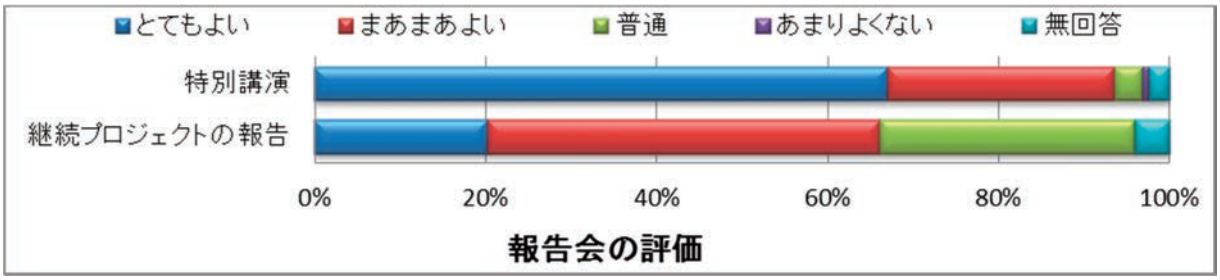


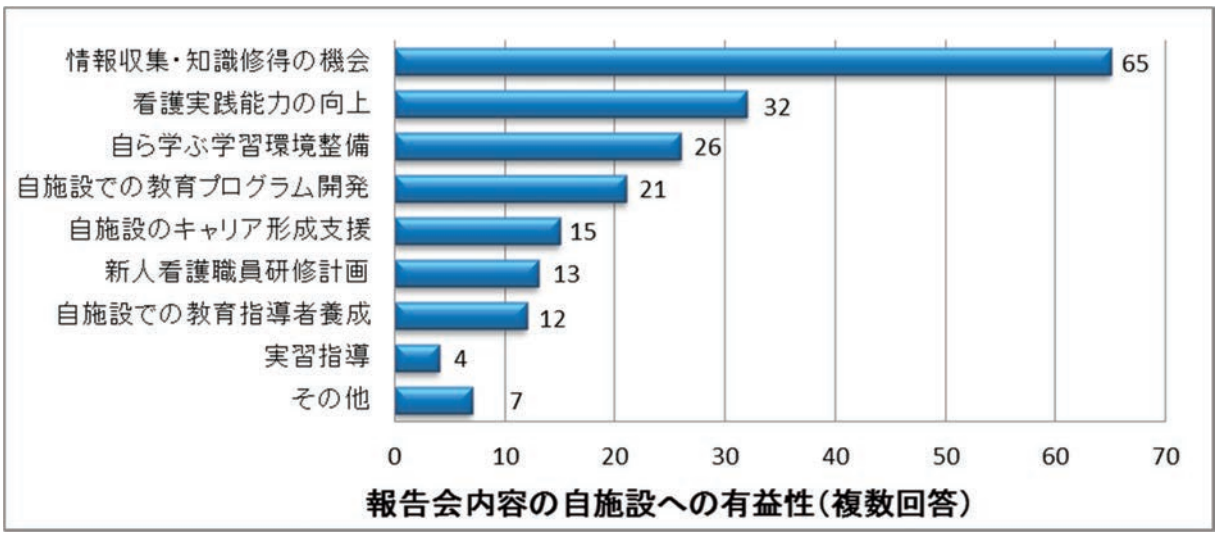












【その他の感想】

・講演内容は他スタッフへも聞いてもらいたいと思う。

・院外で行われている医療やケア・生活を知る場があるのはいいと思った。

・ブロッサム終了後もよく活動されていると思います。私たちも頑張りたいと思います。

・行っている事業に対しきちっと成果をまとめられていて、とてもわかりやすく聞きました。

平成26年度　看護実践力ブロッサム開花継続プロジェクト報告書

編集・発行
九州大学病院看護部

発 行 日
平成 27 年 3 月

印刷・製本
大同印刷株式会社

九州大学病院看護部看護キャリアセンター
TEL/FAX 092-642-5553
E-MAIL blossom_kaika_project@med.kyushu-u.ac.jp
URL http://blossom.kaika.project.med.kyushu-u.ac.jp/